

ISSN1341-9846

語学研究所論集

第20号

2015年

東京外国語大学
語学研究所

語学研究所論集

第20号

2015

論文

- 日本語の使役文における使役主体から動作主体への働きかけの表現
—従属節事態と主節の使役事態との関係— …………… 早津 恵美子 1

特集「(連用修飾的)複文」

- まえがき …………… 風間 伸次郎 15

研究ノート

- マダガスカル語の複節構文に関して …………… 箕浦 信勝 43

データ：「(連用修飾的)複文」

- ドイツ語 …………… 成田 節 63
フランス語 …………… 秋廣 尚恵 77
イタリア語 …………… 西澤 藍 91
スペイン語 …………… 高垣 敏博 103
フィンランド語 …………… 坂田 晴奈 111
ハンガリー語 …………… 大島 一 133
ロシア語 …………… 宮内 拓也, 佐山 豪太 143
中国語 …………… 加藤 晴子 153
朝鮮語 …………… 黒島 規史, 孫 ミナ 165
モンゴル語 …………… 山田 洋平 181
ダゲール語 …………… 山田 洋平 195
ナーナイ語 …………… 風間 伸次郎 205
ソロン語 …………… 風間 伸次郎 215
ニヴフ語東サハリン方言 …………… 蔡 熙鏡 225
カム・チベット語ティンドウ方言 …………… ツェジワンモ 233
ラワン語ダル方言 …………… 大西 秀幸 239
マレーシア語 ……………
野元 裕樹, アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー 253

ウルドゥー語・ヒンディー語	萬宮 健策	277
口語タミル語	小幡 千陽	287
アラビア語	松尾 愛	303
ペルシア語	吉枝 聡子	311
トルコ語	奥 真裕	321
トルクメン語	奥 真裕	333

活動記録

オープンアカデミー教養講座概要		343
定例研究会要旨		349
LUNCHEON LINGUISTICS 要旨		355
語学研究所活動報告		365
所員活動報告		373

日本語の使役文における使役主体から動作主体への働きかけの表現 —従属節事態と主節の使役事態との関係—

早津 恵美子

1. 使役文の構造の特徴

人が他者にある動作(意志動作)を行わせるという事態は、ふつう、人が他者にその動作を行なうよう働きかける(たとえば、命じたり、頼んだり、説得したり、おだてたり、叱ったり)ことによって引きおこされる。この、人が他者に働きかけること(原因的な事態)と、それによってその他者が動作を行うこと(結果的な事態)、という2つからなる複合的な事態は、次のようにいろいろな構造の文で表現することができる。

- (1) 先輩が(後輩に荷物を運ぶよう)命じた。それで後輩が荷物を運んだ。
- (2) 先輩が(後輩に)命じたので、後輩が荷物を運んだ。
- (3) 先輩の命令で、後輩が荷物を運んだ。
- (4) 後輩が先輩に命じられて、荷物を運んだ。
- (5) 先輩が後輩に荷物を運ばせた。

このうち(1)~(4)では、人から他者への働きかけのあり方が、文の中に**語彙的な手段**で(「命じる」「命令」) **具体的・明示的に**示され、そして他者の動作は原動詞「V」(運ぶ)で示されている。それに対して、(5)つまり使役文では、人が他者に何らかの働きかけを行ったことは、「(サ)セル」によって**文法的な手段で抽象的・暗示的に**示されるだけで、具体的には示されず、使役動詞「V-(サ)セル」(運ばせる)によって、他者への働きかけの存在と他者の動作とが合わさって表現されている。

そして、使役文(5)のもうひとつの特徴は、**動作を引きおこそうとした人を主語にして、2つのできごとを1つの単文で**表現していることである。それに対して、(1)では「先輩が~命じた。後輩が~運んだ。」のように2つのできごとが別の主語のもとに2つの文で表現されている。(2)では「先輩が~命じたので、後輩が~運んだ。」のように、やはり異なる主語で2つのできごとを述べつつ、それが従属節と主節に配された複文である。(3)では働きかけのほうは「先輩の命令で」というかたちで修飾成分として表され、「後輩」だけを主語にした単文である。また、(4)は、働きかけを受けたことが「先輩に命じられて」という受身で表され、動作主体である「後輩」を主語にした複文である¹。

このようにみえてくると、骨組構造(基本構造)の使役文(下の(6))は、人が他者に働きかけてその動作を引きおこすことを、働きかけの具体性は述べないまま、動作を引きおこそうとした人を主語にして1つの単文で表現できる文、というのが特徴である。佐藤(1986: 95)の次

¹ これら(1)~(5)のような文の特徴は佐藤(1986: 93-97)にも述べられている。

の説明は、使役文（使役構造の文）の重要な通達的な機能として、人の動作や変化の引きおこしを、その原因的な事態を文中に表すことなく表現できるという特徴を述べたものである。

《はたらきかけ動作》の具体的なしかたについてかたらない使役構造の文は、どんなはたらきかけをしたかということよりも、はたらきかけた結果、相手がどんなうごきをしたか、相手にどんな変化が生じたかに関心をよせ、情報上のおもきをおくはなし手、聞き手にとってはわずらわしさをさけた便利ないいかたである。

(6) 【人₁ガ 人₂ニヲ (～ヲ) V-(サ)セル】
使役主体 動作主体(=使役対象) 動作対象 使役動詞

たしかに使役文にはこのような特徴がある。しかしながら、たとえば次のような複文構造の使役文にすることによって、その従属節中に「人₂ニ v-シテ」「人₂ヲ v-シテ」という形で、佐藤(同)のいう「《はたらきかけ動作》の具体的なしかた」、すなわち、使役主体から動作主体に対してどのような働きかけがなされたかという「関与のあり方」が、当該の使役文の中に具体的に表現されることもある。(7)では〈先輩が後輩に{命じる／頼む／いいつける}〉という言語的な働きかけが、(8)では〈親が子どもを{おだてる／しかる／うながす}〉という態度的な働きかけが従属節に表されている。

(7) 先輩が後輩に{命じて／頼んで／いいつけて} 荷物を運ばせた。

(8) 親が子どもを{おだてて／しかって／うながして} 食器を洗わせた。

ここまでみてきたのは、人の意志動作を引きおこすことを表す使役文であったが、使役文には人の生理変化や心理変化の引きおこしを表すものもあり、こういった無意志的な動きは、ふつう、命じたり頼んだりという要求的な働きかけによって引きおこされるのではなく、何らかの出来事や状態が人の生理面・心理面に影響を及ぼすことによって生ずる。それで、生理変化や心理変化の引きおこしを表現する使役文では、変化の誘因・きっかけとなる出来事や状態が従属節に表されることがある。

(9) 太郎が{花子をなぐって／花子に石をなげつけて} けがをさせた。

(10) {太郎が真っ赤なスーツを着てきて／新人選手が優勝して} みんなを驚かせた。

意志動作の引きおこしの場合と異なり、(9)では「太郎」から「花子」への〈なぐる〉〈石をなげつける〉という物理的な働きかけが表され、(10)では〈太郎が真っ赤なスーツを着てくる〉〈新人選手が優勝する〉という、「みんな」に対して直接行うのではない動作や状況が表されている。

実際に使用されている使役文のうちには(7)～(10)のような複文構造の使役文も少なくない。

(11) 【人₁ガ 人₂ニヲ v-シテ (～ヲ) V-(サ)セル】

そして、上例にうかがえるように、従属節で述べられる事態の違いは使役文の種類（意志動作の引きおこし、生理変化の引きおこし、心理変化の引きおこし）と無関係ではなさそうである。本稿では、従属節動詞の語彙・文法的な性質（とくに「カテゴリーカルな意味²」およびその反映としての構文的な性質）に注目し、従属節事態と使役文の意味との関係を考えていく³。

2. 先行研究および本稿における術語

先述のように、佐藤（1986）には、使役文の表現する事態の複合性を説明するなかで複文構造の使役文の機能が述べられていて学ぶことが多い。ただ、佐藤（同）の論考全体としては、複文構造の使役文の特徴を解明しようとするものではなく、人の意志動作の引きおこしを表現する使役文の文法的な諸特徴を詳細に論じたものである。複文構造の使役文を対象にしてその性質を論じた論考はこれまでにないようである⁴。

本稿では、従属節動詞の語彙・文法的な性質に注目して従属節と主節との関係を考えていくのだが、動詞の性質については、言語学研究会編（1983）、佐藤（1986, 1990）、早津（2008）を参考にする。とくに動詞のグループについては早津（同）に準ずるところが多い。

なお本稿では「使役動詞」「原動詞」「使役文」「原動文」という術語を用いるが、それぞれ次のようなものである。

「使役動詞」：動詞に使役の接辞「-(サ)セル」のついた動詞⁵。：例「運ばせる」「疲らせる」「驚かせる」など。「V-(サ)セル」と記すことがある。

「原動詞⁶」：接辞「-(サ)セル」のつかない動詞。：例「運ぶ」「疲れる」「驚く」など。単に「動詞」ということもあるが、使役動詞との対比でとくに「原動詞」とよぶ。

²「カテゴリーカルな意味 (categorical meaning)」について積極的に論じられているのは奥田（1984）に再録されている奥田（1974, 1976, 1979, 1980-1981）である。早津（2009, 近刊）ではそれらを紹介したうえで、次のように規定している。「カテゴリーカルな意味とは、単語の語彙的な意味のうち、その単語のある文法的な性質（形態論的な性質と構文論的な性質）を規定するものとしてとりだすことのできる側面である」。本稿もそれに従っている。

³ 複文構造の使役文のうち、いわゆる「許可」や「放任」を表す文では、動作主体から使役主体への要望や動作主体側の状況が「～ノデ」節で表現されることがある。

○ 子供が留学したいというので留学させた。

○ 子供が楽しそうに遊んでいるのでそのまま遊ばせておいた。

使役主体から動作主体への働きかけではない点がいわゆる「強制・指令」の使役文とは異なる。従属節が「～ノデ」節であるこのような使役文については改めて考察する。

⁴ 早津（1998）はそれを試みたものだが、研究ノートであり十分に論じられていない。

⁵ 他動詞のうち、「（胡桃を）わる、（ケーキを）切る、こわす、曲げる、回す、あたためる、かわかす、殺す」のように、対象に働きかけることでその変化を引き起こす (cause) という語彙的な意味をもつものを「使役動詞 (causative verb)」(「語彙的使役動詞」とよぶ立場もある(鷲尾 1997, 中右・西村 1998, 松本 2000, 他)。しかし本稿では、形態論的な性質を重視し、動詞に「-(サ)セル」という接辞のついた形態をとるものを使役動詞とする。

「使役文」：使役動詞を述語とする文.

「原動文」：原動詞を述語とする文.

3. 従属節事態と使役文の意味

3.1 従属節に使役主体から動作主体への働きかけが表現されているもの

従属節中に使役主体から動作主体への働きかけが表現されているとき、その従属節の動詞は構文・意味的な性質によって大きく4つのタイプ、すなわち「A 動作の要求・誘導」「B 動作を行う立場や環境のつくりだし」「C 意識の誘導」「D 身体部位への関わり」に分けることができ、それぞれに下位類もある。以下順にみていく。

《A》類：動作の要求・誘導

他者にある動作を行うよう言葉によって要求したり、言葉や身振りなどで誘導したりすることを表す動詞がある。これらが従属節述語である場合には、主節で表現されるのは意志動作の引きおこしである。

(a-1 類)：言語による動作要求的な活動

次の「命じる、指図する、頼む」は、二格の人名詞と組みあわさり、主として言語によって人に何らかの動作を要求することを表す動詞である（早津 2008：49-50）⁷。これらを述語とする従属節中では動作主体（二格名詞）に動作を要求する積極的な働きかけが表される。

(12) かつは女中たちに命じて提灯を用意させた。（三島由紀夫『宴のあと』）

(13) 須賀に指図して膳や碗の箱を降ろさせた後、（円地文子『女坂』）

(14) 弟子の検校が誰かに頼んで師の伝記を編ませ、（谷崎潤一郎『春琴抄』）

【人ニ v[動作要求]-ヲ V-(サ)セル】

(人ニ) 命じて、命令して、指図して、いいつけて、催促して、請求して、要請して、よびかけて、訴えて、せまって、頼んで、お願いして、せがんで、談判して、勧めて、助言して、// 強要して、強いて、無理強いして、// 言って、連絡して、説いて、言い聞かせて、意見して、合図して

⁶ この「原動詞」という術語は松下（1924）を参考にしている。松下（同）は、動詞に「-(サ)セル」「-(ラ)レル」のついた「V-(サ)セル」「V-(ラ)レル」による文をそれぞれ「使動」「被動」とよび、それらの接辞のつかない「V」による文を「原動」とよんでいる。

⁷ この類の動詞は、次のような2つの構文をとりうるのが特徴である。(7)では、要求する相手が二格名詞で表され、要求する動作（V₁）が命令形などモーダルな形の動詞をとる引用節中に表される。また(4)では、要求する相手は同じく二格名詞で表され、要求する動作は動作性名詞のヲ格で表される。

(7) 【人ニ ~ V₁シロト/シナサイト/スルナト/スルヨウ/シナイヨウ/... V₂】（「部下に調査するよう命じる」）

(4) 【人ニ N[事(動作)]ヲ V】（「部下に調査を命じる」）

(a-2 類) : 動作誘導的な態度

次の「しかりつける、指揮する、うながす」は、ヲ格の人名詞と組みあわせり、人に動作を誘導する態度をとることを表す動詞である（早津 2008 : 62-63）⁸。これらを述語とする従属節中には動作主体（ヲ格名詞）に対する誘導的な態度が表される。

- (15) 親は子どもをしかりつけてでもながぐつを履かせるべきだ。（広岡守衛『男だって子育て』）
(16) 船長は四人を指揮して、……もう一端を細綱に、結ばせていた。（三島由紀夫『潮騒』）
(17) 陳氏は……島民をうながして運搬を急がせた。（畑中幸子『南太平洋の環礁にて』）

【人ヲ v[動作誘導]-シテ …… V-(サ)セル】

（人ヲ）うながして、あおって、煽動して、鼓舞して、おどして、叱って、叱りつけて、威嚇して、指揮して、督励して、諫めて、そそのかして、けしかけて、せきたてて、おだてて、くどいて、説得して、説き勧めて、駆り立てて

《B》類 : 動作を行う立場や環境のつくりだし

他者にある動作を行わせるために、それにふさわしい社会的な立場を整えたり、その動作を行うのにふさわしい場所や環境においたりすることを表す動詞がある。これらが従属節述語である場合にも、主節の使役事態は意志動作の引きおこしである。

(b-1 類) : 社会的な立場や役割のつくりだし

人のある社会的な立場におくことを表す動詞があり、ヲ格の人名詞と組みあわせるとともに、その人が帯びるあらたな役割や立場を表す名詞の二格または「～トシテ」の形とも組みあわせることがある（早津 2008 : 57-58）。これらが述語である従属節では、動作主体を、主節で表される動作を行うのにふさわしい社会的な立場におくことが表現される。

- (18) バーは母に渡すから、人を雇ってやらせるがよい、（大岡昇平『花影』）
(19) この青年をアテナイ艦隊の司令官に任命し、シチリア遠征に向かわせた。（松浪信三郎『死の思索』）
(20) 機織女まで抱えて織らせる家がなかったのは、（川端康成『雪国』）
(21) 読売の政治部としては松元を使って山本（海軍大将）に接近させておけば、……他社に知られぬルートで、いいニュースが早くつかめる。（阿川弘之『山本五十六』）

⁸ この(a-2)類の動詞は上の(a-1)類と違って(i)の構文をとれない。(j)の構文をとることはできるが、要求する相手はヲ格名詞で表され、動詞の直前にくることが多い。

【V₁シロト/シナサイト/スルナト/スルヨウ/シナイヨウ/… 人ヲ V₂】（「どうぞおすわりくださいと客を促す」）

【人ヲ (N[立場/役割]ニトシテ) v[立場創出]-シ V-(サ)セル】

(人ヲ) 雇って, (全権大使に) 任命して, 選んで, 抱えて, (秘書を) 置いて, (捕虜として) つかまえて, (助手に/として) 使って⁹

なお, 「あたえる」など事物の授与を表す動詞が, 二格の人名詞および, 資格や権利を表す名詞のヲ格と組みあわさったものも, この類に準ずるものとして働くことがある.

(22) {春琴は} 佐助に琴台と云う号を与えて門弟の稽古を全部引き継がせ, (谷崎潤一郎『春琴抄』)

【人ニ N[資格/権利]ヲ v[授与]-シ V-(サ)セル】

(人ニ) あたえて, ゆずって, わたして

(b-2 類) : 到着点での動作を見こした移動

人のある場所で動作を行わせることを目的としてその場所に移動させることを表す動詞があり, ヲ格の人名詞, 二格の場所名詞と組みあわさる (早津 2008 : 59) . これらが従属節述語であると, 目的の動作を行うのにふさわしい場所に人を移動させることが表され, 移動先で行わせる動作が主節で表される.

(23) 田中正造は,佐部彦次郎を現地に派遣して, 被害の実況を詳細に調査させた. (林竹二『田中正造の生涯』)

(24) よそ者を招いて教学を講じさせるというのは, (藤沢周平『夜の橋』)

(25) 神父は働きもののペペハウを.....タヒチに連れていき, ミッションで二カ月ほど働かせた. (畑中幸子『南太平洋の環礁にて』)

【人ヲ (N[場所]ニへ) v[移動]-シ V-(サ)セル】

[派遣型] (人ヲ) 派遣して, 遣って, つかわして, 送って, 出して

[召集型] (人ヲ) 招いて, よびつけて, よんできて, よびだして, よんで, 動員して

[同伴型] (人ヲ) 連れていって, 連れ出して, 連れてきて, ひっぱっていって

(b-3 類) : 特定の社会環境への移行

次の「いれる」はヲ格の人名詞および二格の組織名詞と組みあわさっている. この従属節は, あることを行うのにふさわしい組織に人が所属するよう働きかけることを表し, 主節ではそこに所属したり身をおいたりした状態で行わせる動作が表されている.

(26) 娘をナイロビの飛行機クラブに入れ, パイロットの免許を自費で取らせたというのが, (西江雅之『花のある遠景』)

⁹ 「使う」は, 人を統括支配してなにかをさせるという関わりの全過程をいわば総括的・抽象的に表す動詞である (早津 2008 : 58) .

- (27) {その家では} 子どもをみなよい学校に入学させて, 学問をさせておきました. (羽仁もと子『おさなごを発見せよ』)

【人ヲ N[組織]ニ v[社会的移行]-シ …… V-(サ)セル】

(人ヲ) (学校に) 入れて, (施設に) あずけて, (チームに) 加えて, 入学させて, 寄寓させて

《C》類：意識の誘導

相手の意識に影響を及ぼすような態度的な働きかけを表す動詞があり、ヲ格の人名詞と組みあわさる(早津 2008 : 61-62). それらが従属節述語であると、従属節には動作主体がその動作を行う意識をもつよう誘導する働きかけが表される. そしてこの場合も主節の使役事態は意志動作の引きおこしであることが多い.

- (28) {留学先での生活費が足りないといって} 母親をあざむき, 母親からその金を送らせては, (田宮虎彦『絵本』)
- (29) 「{君を} 慰労しておいて, もうひと働きさせる気じゃあないのかい」(中里恒子『時雨の記』)

【人ヲ v[意識誘導]-シ …… V-(サ)セル】

(人ヲ) あざむいて, だまして, ごまかして, おびやかして, 慰労して, いじめて, なだめすかして, 買収して

《D》類：身体部位への関わり

ヲ格の物名詞と組みあわさって物への物理的な働きかけや接触を表す動詞のうちには、ヲ格の人名詞や身体部位名詞と組みあわさって人に対して物理的・直接的に働きかけることを表せるものがある(早津 2008 : 74). それらが従属節述語であると、主節には、意志動作の引きおこしだけでなく、生理的な変化の引きおこしを表すものもある.

(d-1 類)：身体部位の把持

次の文の主節では、人の身体運動の引きおこしが表されている. 身体運動は意志的に行うこともでき、「選手たちに号令をかけて立ち上がらせる」「園児を叱って歩かせる」のように言語的・態度的に働きかけて身体運動を行わせる場合にはもちろん意志動作の引きおこしである. 下の例でも(30)(31)は意志動作ともいえる. しかし、(32)(33)では、相手の意志を尊重するという面が希薄になり、無意志動作の引きおこしに近づいている.

- (30) 彼の太い手が下りて来て, 襟首をつかまえて, 私を立たせた. (三島由紀夫『金閣寺』)
- (31) 直ぐ立ち上がって行こうとする女中の袖を女がとらえて, またそこに坐らせた. (川端康成『雪国』)
- (32) 中学生をそっと抱いて蒲団に横たわらせてから, (田宮虎彦『絵本』)

(33) 鬼政が……いきなり松恵の頭に掌をかけて仰向かせたとき、松恵は……恐ろしさにふるえあがり、(宮尾登美子『鬼龍院花子の生涯』)

【人(ノ身体部位)ヲ v[把持]-シテ …… V-(サ)セル】

(人(ノ身体部位)ヲ) 抱いて、抱き上げて¹⁰、かかえて、つかんで、つかまえて、とらえて、(手を) ひっぱって、(手をとって)、(手をもって)、(手)ひいて

(d-2 類)：人の身体部位への接触

次の文の主節では、使役主体からの刺激がきっかけとなって動作主体に生理変化が生じることが表されている。

(34) つかみかかってくる相手を組み伏せ、顔面をこぶしで殴りつけ、目尻の下が青くふくれるほどのけがをさせてしまった。(望月一宏『中学校は、いま』)

(35) 女がこぼんだので、鉄パイプで女の頭を打って失神させ、……(加賀乙彦『死刑囚の記録』)

【人(ノ身体部位)ヲ v[接触]-シテ …… V-(サ)セル】

(人(ノ身体部位)ヲ) なぐって、なぐりつけて、たたいて、打って、けとぼして、投げて、ひっぱって

さらに次のような文においても、相手の身体部位へのさまざまな物理的な働きかけが従属節に表され、主節にはその刺激がきっかけとなって生じる生理変化の引きおこしが表されている。動詞の語彙的意味の一般化はむずかしいが例をあげておく。

(36) {眠っている女子学生に} 水をぶっかけて目をさませしてから、(倉橋由美子『聖少女』)

(37) あるとき A君がB君に乱暴して足にけがをさせてしまった。(望月一宏『中学校は、いま』)

3.2 従属節に動作主体に向かうのではない種々の動きや変化が表現されているもの

複文構造の使役文のうち前節でみてきたものは、従属節(A類～D類)において使役主体から動作主体への何らかの働きかけが表されていた。そして主節では意志動作の引きおこし、身体運動の引きおこし、生理変化の引きおこしが表されていた。しかし、複文構造の使役文のうちには、従属節において、動作主体に向かうのではない様々な動きや状態が表され、それが誘因となって生じる心理変化の引きおこしが主節に表現されるものがある。それら様々の従属節を一括してE類とする。

¹⁰ 「抱く、抱き上げる」は、物名詞とは組み合わせりにくく、人名詞と組みあわさるのが普通である。

《E》類：動作主体に向かうのではない様々な動きや状態

次のような使役文において、従属節述語は、(38)は自動詞であり、(39)は他動詞ではあるがここでは動作主体に対する動作を表しているのではない。(40)は動詞のV-テイル形、(41)は「ある」、さらに(42)は形容詞であって、いずれも事物の状態を表している。

- (38) {彼は} 音楽の時間になると妙に荒れだして、先生を困らせた。 (望月一宏『中学生は、いま』)
- (39) 若いころは柴の束を八つも背負い出して、村の連中を驚かせたものだ。(藤沢周平『夜の橋』)
- (40) ユーカリの木の形や色は、ヨーロッパ的な柔らかさを持っていて、わたしの心をなごませてくれるようだった。 (西江雅之『花のある遠景』)
- (41) {『南無阿彌陀仏』の序段には、彼らしい} 発言が随所にあって、……現在の私をさえ興奮させる。 (寿岳文章『寿岳文章集』)
- (42) {須賀の} 動作は烈しくて由美をぎょっとさせた。 (円地文子『女坂』)

従属節事態がこのように多様であるのは、心理変化というのは、人が自身をとりまく何らかの出来事や状態から心理面で影響を受け、それらが誘因となって生じるものであって、様々な出来事や状態が誘因となりうることの反映だろう。従属節述語を一般化してまとめることは難しく、下には用例中に見られたものをあげておく。

【人物事ガ (N-ヲ) v[種々]-シ …… V-(サ)セル】

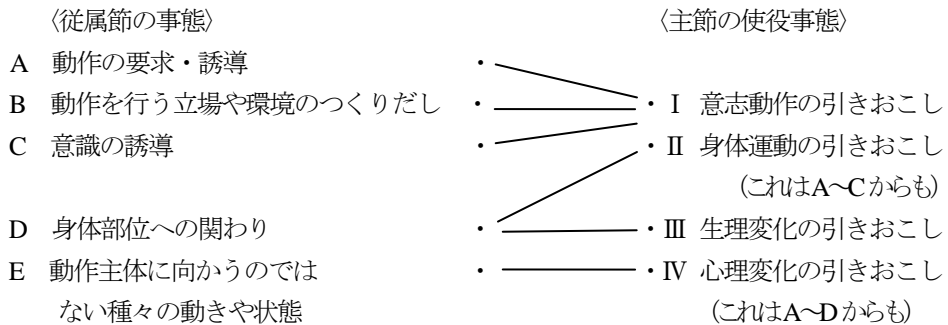
- ・ 駆けだして、変身して、あばれだして、泣き叫んで、// (事件が) 起こって、(計画が) うまくいって、(被害が) 重なって、(会場が人で) あふれて、(口論の声が) 聞えてきて、(音響が) 変化して、(雷が) 光って
- ・ (蛇を) 絞め殺して、(問題を) 起こして、(派手な服を) 着て、大声をだして
- ・ やさしい目をしていて、きらきらして、ゆったりして
- ・ (発言が、雰囲気) があって
- ・ はげしくて、多くて

さて、こういったE類でなく、A~D類が従属節であって主節に心理変化の引きおこしが表されるものとしては次のようなものがある。しかし実例は少ない。

- (43) 友達にまた宿題を手伝ってほしいと頼んで困らせた。[作例] (A類)
- (44) 前に進んでくださいと客をうながしてひどく怒らせた。[作例] (A類)
- (45) 新人を離島の支店に派遣してがっかりさせた。[作例] (B類)
- (46) お母さまを、私と直治と二人でいじめて、困らせ、(太宰治『斜陽』) (C類)
- (47) 弟を後ろからなぐって怒らせた。[作例] (D類)

4. まとめ

以上、複文構造の使役文について、従属節で表現されている事態と主節で表現されている使役事態（意志動作の引きおこし、身体運動の引きおこし、生理変化の引きおこし、心理変化の引きおこし）との関係を検討した。それらを図式的にまとめ、それぞれ簡単な例をあげると次のようになる。



- A-I 「部長が秘書に命じて コピーをとらせる」「店主が客を促して 椅子に座らせる」
- B-I 「アルバイトやとして 荷物を運ばせる」「特派員を送って 交渉にあたらせる」
- C-I 「子供をおだてて 食器を洗わせる」「母親をあざむいて 金を送らせる」
- D-II 「子供の手をひいて 歩かせる」「上半身を抱えて 起きあがらせる」
- D-III 「後輩をなぐって けがをさせる」「水をぶっかけて 目をさまさせる」
- E-IV 「太郎が突然大学をやめて みなを驚かせる」「雨が続いて 選手達を困らせた」「次々と窓ガラスを割って 先生をおこらせる」

これらの関係を使役事態の種類の方からまとめてみると、次のようにいうことができる。Iの意志動作の引きおこしは、動作主体にその動作を行う気持ちを持たせることが必要である。それは、使役主体から動作主体に対して何らかの要求や誘導を行ったり (A)、動作主体の社会的な立場や条件を整えたり (B)、動作を行う意識を刺激したり (C) することによって実現する。したがって、従属節には、使役主体から動作主体へのそういった関与が表される。IIの身体運動の引きおこしは、動作主体にその気持ちを持たせることによって引きおこすことも可能だが、動作主体の身体部位に直接的に働きかけて (D) 引きおこすことがむしろ多い。また、IIIの生理変化の引きおこしは、動作主体の身体部位に生理的な刺激を与えることによって (D) 引きおこすのが普通である。もっぱら直接的物理的に関わることになり、従属節にはそういった関与が表現される。一方、IVの心理変化は、その人を取りまく種々の状況（他者の状況、物の状況、事態の状況）がその人に影響をあたえ心理的に刺激することによって (E) 引きおこされる。したがってその状況は様々で従属節事態も多様である。

従属節事態と主節の使役事態との上のような関係は、もちろん法則的なものではなく、大きな傾向である。したがって、狭い意味での「文法的な」現象とはいえないのかもしれない。しかし本稿での考察によって、使役文に備わる重要な性質のひとつ、すなわち、原因的な事態（使役主体から動作主体への働きかけや様々な関与）と結果的な事態（動作主体の動作や変化）からなる複合的な事態を、原因的な事態を従属節中に表現しつつ使役主体を主語にして1つの文で述べることができるという性質を、実例を通して具体的に確認することができたと考える。

参考文献

- 奥田靖雄（1984）『ことばの研究・序説』，むぎ書房，（本稿では、ここに再録されている次の論文を引用した。「単語をめぐって」（1974），「言語の単位としての連語」（1976），「意味と機能」（1979），「言語の体系性」（1980-1981））
- 言語学研究会（編）（1983）『日本語文法・連語論（資料編）』，むぎ書房。
- 佐藤里美（1986）「使役構造の文—人間の人間にたいするはたらきかけを表現するばあい—」，言語学研究会（編）『ことばの科学1』pp.89-179，むぎ書房。
- 佐藤里美（1990）「使役構造の文(2)—因果関係を表現するばあい—」，言語学研究会（編）『ことばの科学4』pp.103-157，むぎ書房。
- 中右実・西村義樹（1998）『構文と事象構造』，研究社。
- 早津恵美子（1998）「【研究ノート】複文構造の使役文についてのおぼえがき」『言語研究 VIII』，pp.57-96，東京外国語大学。
- 早津恵美子（2008）「人名詞と動詞とのくみあわせ（試論）—連語のタイプとその体系」『語学研究所論集』13号，pp.43-76，東京外国語大学語学研究所。
- 早津恵美子（2009）「語彙と文法との関わり—カテゴリーカルな意味—」『政大日本研究』6号，pp.1-70，国立政治大学日本語文学系（台湾）
- 早津恵美子（近刊）「カテゴリーカルな意味—その原理と語彙指導・文法指導—」『韓国語教育論講座 第2巻』，くろしお出版。
- 松下大三郎（1924）『標準日本文法』，紀元社。
- 松本曜（2000）「「教える／教わる」などの他動詞／二重他動詞ペアの意味的性質」『日本語意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集—』pp.79-95，ひつじ書房。
- 鷲尾龍一（1997）「他動性とヴォイスの体系」鷲尾龍一・三原健一『ヴォイスとアスペクト』pp.1-106，研究社出版。（中右実編『日英語比較選書7』）

※ 筆者は、2014年11月28日に復旦大学で開催された「復旦大学日文系第一回言語学研究会」で講演の機会をいただいた。本稿は、その際の講演原稿をもとに、復旦大学外文学院の紀要『復旦大学外国语言文学論叢』への寄稿原稿としてまとめたものである。この日本語原稿は、

復旦大学の趙彦志先生が中国語に翻訳してくださり、『復旦大学外国语言文学論叢』（2015年春季号 pp.67-74）に掲載予定である。翻訳その他でお世話になった趙先生に心より御礼申し上げます。そしてこのたび、語学研究所のご理解により、本稿を『語学研究所論集』に投稿することが許されたことにも感謝申し上げます。

A Study on Complex Causative Sentences in Japanese: On the relationship between the type of causal events expressed in the subordinate clause and that of resultative events expressed in the main clause.

Emiko Hayatsu

The characteristics of syntactic structures of most Japanese causative complex sentences are as follows: the subordinate clause expresses causal events (denoted by in the following sentences) and the main clause expresses resultative events (denoted by). Such is the case in:

- Sensei-ga gakusei-ni meiji-te syukudai-wo yara-se-ta.
 teache-NOM student-DAT tell-CONT homework-ACC do-CAUS-PAST
 ‘The teacher told his students to do their homework.’
- Taroo-ga otooto-no te-wo hii-te aruka-se-ta.
 Taroo-NOM brother-POSS hand-ACC pull-CONT walk-CAUS-PAST
 ‘Taro forced his brother to walk by pulling his hand.’
- Taroo-ga byooki-ni nat-te oya-wo shinpaise-se-ta.
 Taroo-NOM ill-DAT get-CONT parents-ACC worry-CAUS-PAST
 ‘Taro’s illness made his parents worried.’

It was observed in this paper that there is a rough correlation between the types of causal events described in the subordinate clause (ex. demand for volitional action, physical contact with the causee, evocation of feeling, etc.) and the types of resultative events expressed in the main clause (ex. causation of volitional actions, physical movements, physiological changes, or psychological changes).

[テーマ企画：特集 (連用修飾的) 複文] まえがき

風間 伸次郎

1. 企画に至った経緯

『語学研究所論集』では、これまでの「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイス」「所有・存在表現」「他動性」に続き、今回は「(連用修飾的) 複文」という統一テーマを組んで、各言語における状況を報告していただくということになった。

まず、日本語による32の例文からなるアンケートを作成し、これに答えていただくことによって、各言語のデータを収集することにした。アンケートの構成や意図については、本稿稿末のアンケート本体も参照されたい。

こうして25の言語に関するデータが集まった。これは東京外国語大学にある27専攻語のうちの14言語にマダガスカル語、フィンランド語、ハンガリー語、ダグール語、ナーナイ語、ソロン語、ニブフ語、カム・チベット語、ラワン語、タミル語、トルクメン語を加えたものとなっている。

これらの言語を語族別に見ると、まずドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ペルシア語、ウルドゥー語（ヒンディー語もウルドゥー語で代表する、以下も）は印欧語族の言語である。ソロン語、ナーナイ語はツングース諸語、ダグール語、モンゴル語はモンゴル諸語、トルコ語、トルクメン語はチュルク諸語に属するが、これらは（系統ではなく）構造的な類似などの点からアルタイ諸言語としてまとめられることのある言語群である。フィンランド語、ハンガリー語はウラル語族、アラビア語はアフロ・アジア語族の言語である。タミル語はドラヴィダ語族、マレーシア語、マダガスカル語はオーストロネシア語族、ラワン語、カム・チベット語とともに、中国語は（異論もあるが）シナ・チベット語族、とされている。ニブフ語、朝鮮語、日本語は系統的に孤立した言語とされている。ただ、複数の語族のデータからなるものの、アフリカやオーストラリア、ニューギニア、カフカース、新大陸の諸言語のデータを欠いているため、本稿での以下に展開される類型論的考察はきわめて不十分なのであることは否めない。

2. 先行研究

ここでは節のつながりに関する類型論である亀井・河野・千野（編）（1996: 1105-1107）をとりあげ、若干の考察を加え、しかるのちに本特集のデータについての分析を行う。

動詞あるいは節（すなわち、動詞と名詞句、副詞句などの結びつき）のつなげ方にはいくつかの型がある。その代表的なものに、次の3つがある。一つは、verb serialization (Noonan, 1985: 55)、あるいは、serial verb construction (Schachter,

1974: 254; Li & Thompson, 1981: 594)とよばれるものである。仮に、ビー玉型動詞連続とよぶ。次は、verb chains, verb chaining, clause chaining, あるいは chaining structure (Bickerton, 訳書 1985: 123; Longacre, 1985: 238) とよばれるものである。仮に、鎖型動詞連続とよぶ。最後は、co-ranking structure (Longacre, 1985: 238)とよばれるものである。仮に団子型動詞連続と名づける。3つ型の例をあげる。例文1と2は日本語、3と4は英語、5はガーナの言語で、コンゴ・コルドファン語族に属するアカン、6は北京の中国語である。

《鎖型動詞連続》

- 1) 太郎は学校へ行って、本を読んだ。
- 2) 花子ではでかみかけられないので、不満に思っている。

《団子型動詞連続》

- 3) John went to school and (he) read a book.
- 4) Mary is unhappy as she cannot go out.

《ビー玉型動詞連続》

- 5) Kofi kɔɔe baɛ.

コフィ 行った 来た

「コフィが行って、帰って来た」(Schachter, 1974: 254)

- 6) tā tiān-tiān chàng gē xiě xìn

彼 / 彼女 日 日 歌う 歌 書く 手紙

「毎日、彼 / 彼女は歌を歌い、手紙を書く」(Li & Thompson, 1981: 595)

鎖型は日本語のほかにも、ニューギニア、エチオピア、北米、南米などの言語に、団子型は英語など西洋の言語に、ビー玉型はガーナ、ナイジェリアなど西アフリカの言語、中国語、ヴェトナム語などの東南アジアの言語や、世界各地のクリオールなどにみられる (Bickerton, 訳書 1985: 122-125 と、次の段落に引用してある文献を参照)。

これらの3つの型はすべて、動詞あるいは節をつなげる方法である。共通する点と異なる点は以下のとおりである (Li & Thompson, 1981: 594; Longacre, 1985; Noonan, 1985: 55, 77; Schachter, 1974: 254; Thompson & Longacre, 1985: 175-176)。

A) 動詞の形について 団子型とビー玉型では、動詞はすべて言い切り形を用いる。すなわち、個々の動詞が独立の文の述語として使える。ただし、ビー玉型をもつ言語のうち、中国語、ヴェトナム語などの東南アジアの言語は動詞の活用がなく、動詞の形は1つで、言い切り形と非言い切り形の区別はない。その場合、その唯一の形を使う。例は6。例文5では、個々の動詞が言い切り形をとっている。団子型の例文3と4の動詞も同様である。鎖型では文末の動詞だけが言い切り形をとり、その他の動詞(すなわち、文末動詞に先行する動詞(はすべて非言い切り形を用いる。すなわち、文末の動詞以外は、独立の文の述語にはなれない。たとえば、1の「行って」と2の「出かかけられないので」は独立の文の述語にはなれない。

B) 主語について ビー玉型では、文頭の動詞に主語があるだけで、他の動詞には主語がない。例文5の Kofi と6の tā がその主語である。鎖型でも普通、主語が1つしか出ない。例は1の「太郎」と2の「花子」である。団子型では、個々の動詞がそれぞれ主語をとることができる。しかも、個々の動詞がそれぞれに主語をとることは珍しくない。例は、3の John と he、4の Mary と she である。

C) つなげる要素 団子型では接続詞を用いる(接続詞を串に見立てて、この型を団子型とよぶことにしたのである)。鎖型では動詞の活用接辞が節のつながりを示す。ビー玉型は接続詞を用いない。また、動詞にはつながりを示す接辞もない(つながりを示す要素がないので、団子と対比して、ビー玉とよぶことにしたのである)。

(中略)

語順の面では、鎖型はSOVの型の言語によくみられる。例は日本語である。ビー玉型はSVOの型の言語によくみられる。例文6, 7, 8はすべて、SVOの語順を示している。(中略)

動詞の間のさまざまな意味の関係は、鎖型では、非言い切り動詞の接辞で表わす。たとえば、日本語では、「～て、～ので、～ながら、～なのに、～から、～ために」などである。団子型では接続詞を用いる。英語では and, but, for, because, while, although, since, so that などである。ビー玉型には接続詞がないので、同じ文が文脈などによってさまざまな意味を表わせる。(中略)

[参考文献]

Bickerton, D. (1981), *Roots of language* (Karoma, Ann Arbor; 筧寿雄(まか)訳『言語のルーツ』大修館書店, 東京, 1985)

Li, Charles N. & Sandra A. Thompson (1981), *Mandarin Chinese* (University of California Press, Berkeley)

Longacre, Robert E. (1985), "Sentences as combining of clauses", in Shopen (ed.) (1985), Vol. 2

Noonan, Michael (1985), "Complementation", in Shopen (ed.) (1985), Vol. 2

Schachter, Paul (1974), "A non-transformational account of serial verbs", *Studies in African Linguistics, Supplement 5*

Shopen, Timothy (ed.) (1985), *Language typology and syntactic description*, 3 vols. (Cambridge University Press, Cambridge)

Thompson, Sandra A. & Robert E. Longacre (1985), "Adverbial clauses", in Shopen (ed.) (1985), Vol. 2

(亀井・河野・千野編 1996: 1105-1107)

まずここには明記されていないが(原典のどこかには言及があるかもしれないが), 上記の3つの動詞連続のタイプは、語の形態論的構成を出発点とするいわゆる古典的類型論の分類と密接な関係があるものと思われる。

類型	動詞連続	言語
孤立型	ビー玉型	中国語, 東南アジア大陸部, 西アフリカの言語など
膠着型 (アルタイ型)	鎖型	日本語, 朝鮮語, アルタイ諸言語など
屈折型	団子型	印欧語族の多くの言語など

この記述では、ビー玉型とSVO言語の関連が指摘されているが、孤立型の言語がSVO語順をとりやすいことは知られている(形態的表示がないため、動詞の前後という語順の力に頼らざるを得ないという理由がある)。したがってこの関連も孤立型の言語であることに起因するものと考えたい。

次に、名称について検討する。「ビー玉型」の喩えと名称はよいと思う。鎖型はさておき、団

子型の喩えと名称はそぐわない気がする。接続詞はその前後の2者をつなぐのみで、文全体に対し「串」のような力を発揮しないからである。

動詞の形についての上記の記述は的確であるが、団子型の言語の動詞のつながりには、さらに分詞や不定詞など準動詞（非定形動詞）によるものがある。他方、ビー玉型や鎖型にもある程度は接続詞によるつながりがある。したがって、この類型は、それぞれのタイプの言語でもっとも頻度が高いやり方であり、しかも特に等位的なつながりに関するものであると限定したほうがよいように思う。

3. 総論

以下の本論では、「3. 総論」と「4. 各論」に分けて分析結果を提示することにする。

3.1. 定動詞 vs. 準動詞

上記の2. 先行研究でみたように、動詞のつなげ方には大きく分けて、①（屈折した定動詞を接続詞によってつなぐ）団子型動詞連続（co-ranking structure）と、②（副動詞などをはじめとする準動詞によって動詞をつなぎ、定動詞はもっぱら文末にのみ用いる）鎖型動詞連続（chaining structure）、③（孤立型で変化の無い動詞をそのまま並べる）ビー玉型動詞連続がある、とされている。

今回の調査の主たる目的は次の2つである。まず1つは、具体的にどのような言語がどの類型に属すのか、ということである（3.1.1. 言語別の結果）。2つ目は、どのような意味関係の動詞のつながりがどのような動詞連続によって示されやすいのか、ということである（3.1.2. 表現別の結果）。

以下に先ずその点について今回のデータを整理した結果を表に示す。表中で、F は定動詞形（finite form）によるものを示し、N は各種の準動詞形（non-finite, 副動詞のみならず分詞や不定詞、名詞化+格、などを広く含む）である（なお表には、表現ごと、および言語ごとにNの合計の数値を付した）。斜字体はその使用があまり一般的でないことを示す。他に、A は接辞（affix）、S は単文（simple sentence）、I は言いさし（insubordination）である。モンゴル語は2方言を扱っているため、方言差がある場合には//で示した。さらに説明が必要であると考えたものについては、*を付した。これについては各論に説明を記した。なお「確生」など、表中の省略表現については、3.1.2. を参照されたい。

表1：つなぎ方の整理（その1:(1)-(8)）

	同時	継起	理由	異主語	付帯	並列	理由カ	理由デ
ドイツ	F/N	F/N	F/N	F	F/N	F	F	F
フランス	N	F/N	F/N	F	F	F	F	F/N?
イタリア	F/N	F/N	F/N	F	F/N	F/N	F	F/N
スペイン	F/N	F	F/N	F	F	F/N	F	F
フィンランド	N	F	N	F	F	F	F	F
ハンガリー	N	F	F	F	N	N	F	F
ロシア	F/N	F/N	F/N	F	F	F	F	F
中国	F	F	F	F	F	F	F	F
朝鮮	N	N	N	N	N	N	N	N
日本	N	N	N	N	N	N	F	F
モンゴル	N	N	N	N	F/N	N	F/N	F/N
ダゲール	F	N	F	F	N	F	F	F
ナナイ	N	N	F	F	N	F	F	F
ソロン	N	N	N	F	N	F	F	F
ニウフ	N	N	N	N*	N	N	N	N
カム・チベット	F	F	F	F	F	F	F	F
ラワン	F	N	N	F	N	F**	F	—
マレーシア	F	F	F	F	F	F	F	F
マラガシ	F/N	F	F	F	F	F	F	F
ウルトケー	N	F/N	N	F	N	F	F	F
タミル	N	N	N	F	N	N	F	N
アラビア	F	F	F	F	F/N	F	F	F
ペルシア	F	F	F	F	F/N	F	F	F
トルコ	F/N	N	N	F	F/N	F	F	F/N
トルクメン	F/N	N	N	F	F/N	F/N	F	F
Nの合計	14.5	13.5	13.5	4	13.5	7.5	2.5	5

表2：つなぎ方の整理（その2：(9)-(17)）

	趨向	目的	恒条	確生	確発	仮条	反実1	反実2	真理
ドイツ	N	F/N	F	F	F	F	F	F	F/S
フランス	N	N	F	F	F	F	S	S	S/F
イタリア	N	N	F/S	F/N	F/N	F	F/S	F	S/N/F
スペイン	N	F/N	F/S	F	F	F	S	S	S/F
フィン	N	F	F	F	F	F	S	N	S/F
ハンガリー	N	F	S	F	F	F	F	F	S
ロシア	N/F	F	F/S	F	F	F	F/N	F/N	S/F
中国	F	F	F	F	F	F	F	F	S/F
朝鮮	N	N	N	N	N	N	N	N	N
日本	N	N*	N	N	N	N	N	N	N
モンゴル	N	N	N	N/F*	N/F*	N	I/F	I/F	N
ダグール	N*	F	F	F*	N	N	F	F	N
ナナイ	N/A	N	N	N	F	F	F	F	F
ソロン	A	F	N	N	N	N	F	F	N
ユグフ	N	N	N	N	N	N	F*	F*	S
カムチベット	N*	F	F	F	F	F	S	S	F
ラワン	N	N	S	F	F	N	N	N	N
マレーシア	F/N?	F	F	F	F	F	F	I	F
マラカシ	F	F	S	F	F	F	F	F	F
ウルドゥー	N	F	F	F	F	F	S	S	N
タミル	N	N	N	N	N	F	N	N	N
アラビア	F	F	F	F	F	F	F	S	S
ペルシア	F	F	F	F	F	F	F/S	F/N	F
トルコ	N	F	N/S	N	N	F	I	I	S/F
トルクメン	N	F	N/S	N	N	N	N	N	N
Nの合計	18.5	10	8	9	9	8	5.5	7	9.5

表3：つなぎ方の整理（その3:(18)-(24)）

	仮働	仮願	仮心	ナラ	予想	予無	相関
ドイツ	F	S	F	F	F	F	F
フランス	F	S	F	F	F	F	F
イタリア	N/F	S	F	F	F	F	F
スペイン	F	S	S	F	F	F	F
フィン	F/N	S	F	N/F	F	F	F
ハンガリー	F	S	N	N	F	F	F
ロシア	F	S/F	F	F	F	F	F
中国	F	F	F	F	F	F	S
朝鮮	N	S	N	N	N	N	S
日本	N	N	N	F	N	N	S
モンゴル	N	N/S	N	N	N	N	F
ダグール	N	N	N	N	N	N	N
ナナイ	N	N	F	F	N	F	F
ソロン	N	N	N	N	N	N	F
ニガフ	N	S	N	N	N	N	S
カムチベット	F	S	—	F	F	F	F
ラワン	N	S	N	N	N	N	—
マレーシア	F	F	F	F	F	F	F
マラカシ	F	F	F	F	F	F	S
ウルトカー	F	S	F	F	F	F	F
タミル	N	F	N/F	F	N	N	S
アラビア	F	F	F	F	F	F	F
ペルシア	F	F	F	F	F	F	F
トルコ	N	N/S	F	F	N	F	S
トルクメン	N	S	N	F	N	N	S
Nの合計	12	5	9.5	7.5	11	9	1

表4：つなぎ方の整理（その4:(25)-(32)）

	言願	言提	言放	仮逆	実逆	逆接3	マデ	マデニ	Nの計
ドイツ	I	I/S	F	F	F	F	—	—	3.5
フランス	I	I	F	F	F	F	F	F	4.5
イタリア	I	S	F/N/I	F	F/N	F	F	F	8
スペイン	I/S	F/S	F	F	F	F	—	—	2
フィン	F	S	F	F	F/N	F	F	F	5.5
ハンガリー	I	I	N	F	F	F	F	F	7
ロシア	I/F	S	F	F	F	F	F	F	3
中国	F	S	F	F	F	F	F	F	0
朝鮮	N	S	N	N	N	N	N	N	29
日本	I	I	I	N	F	F	N	N	23
モンゴル	I	S	F	F	F	F	N	N	20
ダグール	N	S	F	N	F	F	N	N	17
ナナイ	I	S	F	F	F	F	N	F	10.5
ソロン	F	S	F	F	F	F	N	N	17
ユグフ	I	S	N	N	N	N	N	N	25
カムチベット	I	S	F	F	F	F	F	F	1
ラワン	—	—	—	—	N	N	F	F	16
マレーシア	I	S	F	F	F	F	F	F	0.5
マラカシ	I	F	F	F	F	F	N	N	2.5
ウルドゥー	I	S	F	N	F	F	F	N	7.5
タミル	N	S	F	N	N	N	N	N	23.5
アラビア	I	S	F	F	F	F	F	F	0.5
ペルシア	I	S	F	F	F	F	-	-	1
トルコ	I	I*/S	F	N	N	F	N	N	13.5
トルクメン	I	N	F	N	N	N	N	N	21
Nの合計	3	1	3.5	8	7	5	11	11	

次にこの集計結果のうち、言語別の結果と表現別の結果について検討を加えることにする。

3.1.1. 言語別の結果

N, すなわち準動詞形を1点 (/、// の前後のものは0.5点)として集計した結果、諸言語の準動詞への依存度は次のような順序であることが分かった。

朝鮮語(29) > ニブフ語(25) > タミル語(23.5) > 日本語(23) > トルクメン語(21) > モンゴル語(20) > ダグール語(17) = ソロン語(17) > ラワン語(16) > トルコ語(13.5) > ナーナイ語(10.5) >
イタリア語(8) > ウルドゥー語(7.5) > ハンガリー語(7) > フィンランド語(5.5) > フランス語(4.5) > ドイツ語(3.5) > ロシア語(3) > マラガシ語(2.5) > スペイン語(2) > カム・チベット語(1) = ペルシア語(1) >
アラビア語(0.5) > マレーシア語(0.5) > 中国語(0)

上記の順位は、おおよそ動詞のつなぎ方における3つの類型を反映しているものと思われる。

すなわち、1位の朝鮮語からナーナイ語までは、SOVをはじめとするHead-finalな語順を持ち、格の数も多いdependent-markingな言語である。これは程度の差はあれ、鎖型動詞連続の言語の性格を示しているとみてよいだろう(鎖型動詞連続とSOV語順に相関関係のあることは知られている)。これらは準動詞優位の言語である。

次にイタリア語からペルシア語までは、主に団子型動詞連続の言語が占めている。ハンガリー語とフィンランド語(ともにウラル語族)、マラガシ語(オーストロネシア語族)、カム・チベット語(シナ・チベット語族)を除いて、皆印欧語族の言語であり、時制や法で屈折する定動詞を多く使用する、定動詞優位の言語である。しかし、定動詞優位ではあるものの、分詞や不定詞など若干の準動詞を備えている。ただその準動詞が使用できる範囲は、(特に鎖型動詞連続の言語に比べ)きわめて限られている。この点はアラビア語も同様である。ハンガリー語とフィンランド語はウラル語族の言語ではあるものの、ともにヨーロッパに位置し、周囲を印欧語族の言語に囲まれ、語順等をはじめ、これまで多大な影響を受けて来たことが指摘されている。他方、マラガシ語とカム・チベット語は孤立語的な性格を持っているので、次のグループに属するとみるべきかもしれない。

マレーシア語と中国語は、語形変化の少ない孤立型のタイプの言語である。マレーシア語はヴォイスなどに関する接頭辞や接尾辞を有し、動詞の語形変化を持つものの、ほとんど準動詞形を持たない。これらは典型的なビー玉型動詞連続の言語とみてよいだろう。アラビア語は、3子音を語彙的な意味を示す語根とし、内的屈折によって、ヴォイス、アスペクト、法、性、数、人称、などさまざまな文法カテゴリーを動詞に標示する言語であるが、不定詞以外、準動詞的な形式を用いないようである。ペルシア語と共に準動詞への依存度が低いことは、西アジアの地域的特徴であるのかもしれない。

筆者はしかし、3つに分かれるとみるより、まず大きく2つに分かれるものと考えたい。すなわち、鎖型と、団子型・ビー玉型の2つである。団子型・ビー玉型はともに接続詞によって節連結を行うが、and や or にあたるような接続詞は、一般に句や節をつなぐばかりではなく、語の接続にも用いられる。というより、語の接続形式が広く句や節の接続にも用いられる、と言った方が正確だろう。他方、鎖型はこうした接続のための形式を持たないことが多く、語の接続形式と、句や文の接続形式は異なっているのが一般的である。朝鮮語などでは、and にあたる形式に *ha-go* という形式があるが、これは「する」の意の動詞の副動詞形であり、むしろ動詞の副動詞形によって、名詞の並列も表わしている。つまり上記の言語とは逆の方向である。

上位の言語から、さらに検討を加える。朝鮮語とニブフ語はアルタイ諸言語とともに、いわば「アルタイ型」の類型を示す言語である。しかしこの2言語は、形容詞が動詞的な変化を示す点で、形容詞が名詞的な性格を示すアルタイ諸言語とは異なっている。形容詞が動詞的である分、動詞的なつながりの機能負担は大きくなることが予想できる。両言語は実に多様で豊富な副動詞の諸形式を有しており、1位2位を占めているのも納得がいく。

タミル語を含むインド言語領域の言語が、*conjunctive participle* というものを持ち、その他の点を含め、アルタイ諸言語と類似する(地理的にも連続する)面を示すことは、Masica (1976) 以来指摘されてきたことである。ドラヴィダ語族の言語の中でも、特に印欧語の影響の小さいとされているタミル語が今回の調査の準動詞依存に関して高い数値を示していることは注目に値する。

トルクメン語とトルコ語は共にチュルク諸語のオグズ語群に属するが、その数値はだいぶ異なっている。共に歴史的にペルシア語やアラビア語から大きな影響を受けて来たものと思われるが、トルコ語は特に近年ヨーロッパの印欧語から大きな影響を受けつつある。両者の数値の違いの原因はこうした印欧語からの影響に起因することが考えられるが、精査を必要とする。

同じように、同じウラル語族でもハンガリー語よりフィンランド語のほうが数値が低くなっているのは、フィンランド語における印欧語の影響がより大きかったことを反映しているものと考えたい。同じツングース諸語に属するソロン語とナーナイ語の数値の違いは、媒介言語(それぞれ、中国語とロシア語)の違いも関係していると思われるが、やはりナーナイ語におけるロシア語の影響の大きさと、ソロン語におけるモンゴル語の影響(副動詞を多用する、ロシア語とは逆方向への影響)を反映しているものと考えたい。

印欧語族イタリアック語派の中でも、イタリア語とフランス語とスペイン語の間に比較的大きな数値の開きがあることも興味深い。アンケート結果の説明を読んでみても、イタリア語はあきらかに分詞類の使用範囲が広い。亀井・河野・千野(編)(1996: 502-503)によれば、フランス語や英語を中心として孤立型・分析的な言語が分布することが指摘されている(西ヨーロッパ言語連合)。ただ、スペイン語のアンケート結果においてはもっぱら1つの表現のみがあがっているのに対し、イタリア語とフランス語のアンケート結果の方では複数の表現の可能性が精

査されている。結果として、/ の前後に準動詞形も記載され、これが 0.5 点となるためにスペイン語に比べイタリア語とフランス語の点数が高くなったという面もあると考えられる。

ラワン語とカム・チベット語はともにチベット・ビルマ語族の言語である。この語族の膠着語的な面と孤立語的な面をそれぞれ反映していると考えられる。ただ、特にカム・チベット語の諸形式をどう判断するかについて、筆者には十分な自信が無い。これらの言語の専門家の御意見や再検討を望む。

3.1.2. 表現別

以下が表現別の点数およびその順位である。

[9]趨向(18.5)>[1]同時(14.5)>[2]継起(13.5)=[3]理由(13.5)=[5]付帯(状況)(13.5)>[18]仮(定条件+)働(きかけ)(12)>[22]予(想を伴った条件)(11)=[31](時間的期限1)マテ(11)=[32](時間的期限2)マテニ(11)>[10]目的(10)>[17](一般的)真理(9.5)=[20]仮(定条件+)心(配)(9.5)>[12]確(定条件+)生(起)(9)=[13]確(定条件+)発(生)(9)=[23]予(想を伴わない条件)(9)>[11]恒常(的条件)(8)=[14]仮(定)条(件)(8)=[28]仮(定的な)逆(接)(8)>[6]並列(7.5)=[21]ナラ(7.5)>[16]反実(仮想)2(7)=[29]アクチュアルな逆接[実逆](7)>[15]反実(仮想)1(5.5)>[8]理由・ゲ(5)=[30]逆接3(5)=[19]仮(定条件+)願(望)(5)>[4]異主語(4)>[27]言(いさし・つき)放(し)(3.5)>[25]言(いさし・)願(望)(3)>[7]理由・カ(2.5)>[26]言(いさし・)提(案)(1)=[24]相関(構文)(1)

3.1.2.1. 趨向(移動の目的)の特異性

まず趨向(移動の目的)の特異性が明らかになった。「見に行く」とは「見るために行く」に近い意味を実現するので、「移動の目的」などと呼ばれるが、「～するために～する」という他の動詞一般における目的表現とは大きく異なり、形式も全く異なるものが用いられる(特に不定詞など)。つまりこれは目的の動作動詞と移動の動詞の一体性がきわめて強いことを示している。したがって定動詞の現れる比率が最も低くなっているのである。

3.1.2.2. 時系列に沿って行われる動作

この趨向を除くと、上位に並ぶのはもっぱら同時もしくは時系列に沿って行われる動作である。これらの表現でも、2つの動作の結びつきは比較的強く、表現自体の生起頻度も高いものと思われる。そのため、団子型動詞連続の言語でも、分詞構文をはじめとする準動詞が出現するものと考えられる。ビー玉型動詞連続の言語では、何の接続形式も必要としない、いわゆる並置(parataxis)が起り得る。[3]理由なども、経験知から前件が後件の理由になることは予想できる場合が多いだろう。実際に使用した例文は「(私は)昨日階段で転んで、ケガをしてしま

った。」であるが、「(私は) 昨日階段で転んだ, ケガをしてしまった。」のように接続形式が無くとも前件と後件の関係は予測可能であると考ええる。

3.1.2.3. 主語の異同

上記の考えに対しては, [8]理由・デ^o や [7]理由・カ^o の順位が低いことをどう説明するのか, という異論が考えられよう。[7], [8] はともに前件と後件で主語が異なっている。印欧語の分詞構文などは, 異主語となるととたんに使えなくなる。条件の例文の多くや, [4]異主語, [24]相關構文などの順位が低いのは, 何よりこの異主語という理由によるものと考えられる。

3.2. 接続法

印欧語族の諸言語をはじめとして, 広く *irrealis* の事象, より詳しくは非事実, 話者が事実性は低いと考えている事象, 未来の出来事, 目的, などに「接続法」が用いられることはよく知られている。今回の調査でも接続法を用いる言語が 10 言語あり, これは印欧語族の言語とウラル語族の言語にアラビア語が加わったものであった。

しかし, 諸言語における「接続法」は等価なものだろうか? おそらく言語によってその接続法のカバーする範囲は異なっているに違いない。

そこで今回のデータにおける接続法の使用を整理してみたのが以下の表である。ここでは従属節と主節に分けて整理し, 表現は使用の多い順に上から並べ, 言語も使用の多い順に左から並べてみた。なおフィンランド語では接続法ではなく, 条件法と呼ばれているものを対象にしている。

表 5: 従属節における接続法の使用

	ヘルニア	ウリア	ハンガリ	スペイン	アラビア	ロシア	ドイツ	ウラルドゥ	フランス	フィン	計
25)言願従		☑	☑	☑		☑	II			☑	6
10)目的従	☑			/☑	☑	☑				☑	5
15)反実1従			☑	☑		☑	II			☑	5
26)言提従	☑	/☑	☑				/II	☑			5
16)反実2従		/☑	☑			☑	II				4
20)仮+心従	☑		☑	☑	☑						4
27)言放従	☑	☑	☑					☑			4
9)趨向従	☑				☑	/☑					3
21)ナラ従		/☑	☑					☑			3
32)マデニ従		/☑			☑				☑		3

18)仮+働従				☑				☑				2
22)予条従	☑			☑								2
23)予無条従		☑					/II					2
31)ア ^レ 従					☑				☑			2
11)恒常従	☑											1
14)仮条従	☑											1
24)相関従	☑											1
28)仮定逆従	☑											1
29)実逆従									☑			1
	10	7	7	6	5	5	5	4	3	3		

表 6: 主節における接続法の使用

	ド イツ	イタリ ア	ロシ ア	ハン ガリ	アラ ビア	フィン	ペル シア	ウル ドゥ	フラン ス	スヘ ン	計
19)仮+願主		/☑	☑	☑	☑	☑	☑				6
16)反実2主	II		☑	☑		☑					4
15)反実1主	II		☑	☑							3
21)ナラ主	I	☑			☑						3
7)理由ヲ主	I						☑				2
18)仮+働主	I	☑									2
20)仮+心主	II			☑							2
22)予条主	I	/☑									2
23)予無条主	I	☑									2
24)相関主					☑		☑				2
25)言願主			☑			☑					2
27)言放主								☑			1
14)仮条主					☑						1
計	8	5	4	4	4	3	3	1	0	0	

まず言語別にみる。

ペルシア語では、特に従属節における使用が際立っており、事実/非事実に関わりなく、広く従属節に接続法を用いることが分かる。イタリア語とドイツ語は、印欧語族の言語の中ではよく接続法を保っている(ラテン語など古典語のデータがあれば、対照により確実に論証できるのだが)。中でもドイツ語はI式による主節における接続法の使用が顕著である。同じウラル

語族でもハンガリー語のほうが接続法の使用が多いのは、あるいはドイツ語やロシア語からの影響であろうか。フランス語とスペイン語では接続法が衰退していることもわかる。特に主節では全く使用しない。ウルドゥー語とアラビア語は地域的に（アラビア語は系統的にも）、他の言語群よりやや離れているが、その接続法の使用も他の言語とはやや違った傾向を示している。次に表現別にみる。

言いさし、反実仮想、目的、が上位を占めており、これが接続法の使用における中核であることが分かる。目的はやや性格が異なるが、言いさしや反実仮想は非事実やモダリティと強い関わりを持っている点で共通している。趨向の数値が高いのも、移動の目的と捉えれば納得できる。

3.3. 文末のムード(法)／モダリティ

以下の 3.3.-3.5. は十分な分析ができなかった点であるが、重要な点であるので、記して今後の課題としたい。

なお以下では、ムード(法)／モダリティについて、より広い意味で用いられている「モダリティ」という用語を用いることにする。

印欧語では特に文末のモダリティによって接続の形式が制限される。[7]理由カラ（文末は働きかけのモダリティ）「時間がないから、急いで行こう」の例文がもっとも典型的で、例えばフランス語において、分詞類による構文が使えない。その理由は次のように説明できるだろう。分詞類などは、テンスやモダリティを表示できないので、主節の述語のモダリティは文全体に及んでしまう。したがって従属節が異主語であったり、異なるモダリティを持ったりすることができなくなると考えられる。このような[7]での制限は、ラワン語、トルコ語でも指摘されている。

日本語については、理由・逆接・条件の複文において、モダリティとつなぎの形式を検討した先行研究に角田(2004)があり、そこでは5つのモダリティのレベル(I「現象描写」、II「判断」、III「働きかけ」、IV「判断の根拠」、V「発話行為の前提」)を設定している。さらにこの5つのレベルに基づき、26の言語における複文でのつなぎの論考を集成した類型論的な研究として、Tsunoda(ed.)(2013a, 2013b)がある。したがって、この問題の詳細についてはこれらの文献をまず参照されたい。

3.4. 聞き手の既知／未知・情報構造

理由説の内容に対する、聞き手の既知／未知が形式に影響すると考えられることがある（フランス語の[8]理由ノデ）。中国語では、[9]の趨向／移動の目的において、文中のどの部分が焦点になっているかによって、語順の違いが出るのが記述されている。

3.5. 孤立型言語における問題点

孤立型の言語では、(接続詞などの) 接続形式が必要か否か (つまり並置 (parataxis) が可能か否か)、節の順序の入れ替えは可能か、主要部標示か従属部標示か、といった点が問題になる。マレーシア語と中国語のデータでは、それらの可能性についても十分検討されているので、これらの点について対象を行うのも興味深い。今回それを行うだけの時間的余裕が得られなかった。今後の課題としたい。他にオーストロアジア語族のクメール語もしくはベトナム語、タイ・カダイ語族のラオ語もしくはタイ語のデータがあれば、孤立型言語における連用修飾的複文の共通性と違いを明確にすることができるかもしれない (さらに西アフリカにおける孤立型の言語のデータがあればなおよい)。したがってこれらの言語のデータが得られていないことは非常に残念である。

4. 各論

各論には気づいたことを記したが、ややメモのような浅い考察になってしまったことをお詫びしたい。

4.1. 同時動作

ソロン語において、同時副動詞にコピュラ動詞を連続させ、その後に継起副動詞を用いて同時動作を示すやり方は、モンゴル語からの影響によるものかもしれない。

4.2. 継起的動作

いわゆる物語的連鎖といわれるものだが、「～して～して～する」のように2つの副動詞が用いられる表現である。この場合に、2つの副動詞に同じものを使う言語と別のものを使う言語が観察された。これを整理しておく。

同じ：ロシア語、日本語、モンゴル語、ダグール語、トルクメン語

別：朝鮮語、ニブフ語、トルコ語

ただし、この違いは媒介言語の影響などによって生じた可能性もあることに注意しておく必要がある。

欧米の印欧語およびペルシア語、ウルドゥー語ではふつう1つしか副動詞を用いることができないようだが、ロシア語では2つの副動詞が用いられている。

4.3. 理由

ダグール語において、やりもらいの補助動詞が用いられている点が興味深い。従属節の主語(「私」)と主節の主語(「骨」)が入れ替わるために、一種の指示転換の機能を果たす形式として用いられているものだろうか。

4.4. 同主語／異主語

ニブフ語の副動詞は、ここでは両方の節に現れ、研究者によってはこれを等位-従属節 (cosubordinate) を形成するものとみている。

異主語となると、印欧語やウラル諸語、チュルク諸語、ツングース諸語、ラワン語などで準動詞は使えなくなるため、準動詞を用いる言語は格段に減る。準動詞を用いることができるのはわずかに日本語、朝鮮語、モンゴル語、さらに分析によるがニブフ語のみである。これらの言語は、どの言語も SOV 語順でなおかつ動詞に人称変化がないという点で共通している。

[10] 目的に関しては、フランス語やイタリア語で、同主語では不定詞を用いなければならぬ、という制限が見られる。他方、ドイツ語やスペイン語では従属節も可能である。

4.5. 付帯状況

これはアンケート例文作成に関する反省であるが、イタリア語の項にあるように、文脈が無いとわかりづらい文をアンケート例文に用いてしまった。

付帯状況は、ヨーロッパおよびその周辺の言語では、複文によらず、前置詞によって表現する言語が多くあることがわかった (前置詞による言語: ドイツ語, フランス語, イタリア語, スペイン語, フィンランド語, ロシア語, トルク語・トルクメン語 (形容詞的派生 (propriative))).

すなわち、これは完全な単文となるので、準動詞を用いる場合よりさらに独立性の低い事象 (もしくは一体化している事象) とみなすべきものだろう。

モンゴル語ハルハ方言の例において、形動詞が副詞的に用いられているのが興味深い。この言語では形容詞をそのままの形で副詞的に用いることができるが、これと平行した現象であると思われる。品詞分類と準動詞の機能の関連については風間 (2012) で指摘したが、上記の推測が正しければこれもその 1 例ということになるだろう。

4.6. 並列

同一の時空間に起きる動作ではないためか、準動詞を用いる言語は比較的少ない。副動詞ではなく、名詞化もしくはそれに類する準動詞化を行う言語が目立つ。

イタリア語やスペイン語、ハンガリー語では、別個に主動詞を設け、2 つの動作を共に不定詞や分詞に格下げした表現が見られた。

日本語のように副動詞を重ねた後に軽動詞で文を締めくくるというパターンはまれで、朝鮮語にも観察されない。ニブフ語とタミル語には日本語によく似た構文が観察される。モンゴル語で形動詞が用いられている点にも注目したい。

ラワン語では、叙述文標識が後件にしか現れない。動詞として分類したが、この点で若干動詞性が劣ることに注意しておく必要がある。このことはカム・チベット語の例文の多くについても問題となる。すなわち(2)-(7), (10), (12), (13)などについて、助動詞は文末の述語にしか

現れていない。カム・チベット語の F/N (定動詞か準動詞か) の判断については専門家の批判等をいただけると幸いである。

4.7. 趨向(移動の目的)

全般に不定詞が圧倒的に優勢である。

スペイン語において前置詞が異なるなど、移動動詞の場合には、他の一般動詞の目的とは異なる形態が現れる。ラワン語でも「移動の目的」専用の形式が観察される。

ダグール語では、語幹そのままの形式が現れている点に注意を惹く。カム・チベット語では、動詞が直接、与格の接辞をとっている(したがってここでの動詞は不定詞のように、名詞相当になっているとも考えられる)。

ナーナイ語やソロン語(さらに他のツングース諸語の多くでも)では、後項の移動動詞が文法化し接辞化した形式が見られることも特筆される。

アラビア語、ペルシア語では、他の多くの言語とは異なり定動詞が観察されるが、接続法である点に注意したい。

4.8. 目的

ウラル語族では目的に特別な法の形式が使われる。ハンガリー語では命令法の形式をとるといふ。トルコ語でも3人称命令の形式が現れる。

ダグール語、ソロン語では、引用と発話動詞の組み合わせを用いる。トルコ語でもやはり引用の形式が観察される。

日本語の「～(スル) ヨウニ」という形式は、「～シタヨウニ」とはならず、「*スルノダヨウニ」のように、スルとヨウニの間に他の形式を挿入することもできないので、全体で一種の副動詞(N)と判断することにした。

4.9. 恒常的条件

イタリア語、スペイン語などのように、動詞を用いずに単に「夏には」とする言語も多い。これはしたがって単文(S)となる。「夏になると」という従属節は、たしかに夏がやって来るのは当たり前のことであるので、日本語的な表現(ナル型言語)を選んでしまったのかもしれない。作成したアンケート例文に問題があったかもしれない。

4.10. 確定条件・生起、および確定条件・発見

多くの言語で、andやWhenに対応するような形式が観察される。つまりは、通常の時間的な継起的表現が用いられるということである。日本語のように、ト、タラのような「条件」形式はほとんど使われない。たしかに、どちらもすでに起きてしまった過去の出来事であるので、「条件」形を用いるのはおかしい。むしろ日本語で「条件」形式が使えることの方が特殊であ

る。日本語のこれらの「条件」形式が理由などの表現と連続していることはしばしば指摘されている。日本語のト、タラは主節に対する相対的な時間を示すのが本来の機能であって、「条件」の意味はそこから2次的に生じるものと考えるべきではないだろうか。この問題についてはまた稿を改めて論じることにしたい。

イタリア語は、他の欧州の印欧諸語とは異なり、分詞等、準動詞による表現がある。

朝鮮語は日本語のように条件表現との連続性を示さず、理由の表現との連続性を示す。モンゴル語でも典型的な条件形式は使えない。ただし(12)のハルハ方言で観察される -tAI は時間的な限界点を示すとともに、条件的な用法も併せ持っている。

日本語のように条件にも使える形式が用いられるのは、もっぱらトルコ語のみで（しかしもっとも一般的な条件形式ではない）、他にはナーナイ語の(12)で時間的条件副動詞が用いられているのみであった。ソロン語ではどちらにも条件副動詞が用いられているが、文末が過去形になっていない（媒介言語が漢語であるために生じた問題である）。

モンゴル語内部では方言差が観察された。このうちバイリン方言の形式は形動詞に2人称の付属語が連続する形式であり、興味深い（ダグール語の(12)の例文にも同様の形式が観察されるので、存外古くからある形式であるのかもしれない）。表中では、これをいちおうF（定動詞）とみなしてカウントしたが（形動詞には文末用法があるため）、非定形の動詞とみるべきかもしれない（あまり独立性が高いように感じられない）。

4.11. 仮定条件

ドイツ語では語順の変更のみで仮定条件が表わせる点が興味深い。

4.12. 反実仮想

フランス語では助動詞＋不定詞で表現しているので、複文ではなく、単文である。スペイン語における(15)も同様である。イタリア語の(14)においても単文の表現が可能である。

(16) 「あんなどころに行かなければよかった」に対応する中国語は、「あんなどころは、早くに知っていたら行かないことにしたのに」のような表現になっている。仮定が帰結の方に移動しているが、これは時系列に沿った表現にするためだろうか。

ニブフ語における反実仮想の条件節の形式は、名詞化であるので、準動詞とみても良いが、この形はそのまま主節の文末述語となり得るため、定動詞の形式として判断した。

4.13. 仮定条件＋働きかけのモダリティ

他の印欧語では、後件に働きかけのモダリティがあっても、条件表現が使用可能であるが、ロシア語では不可であるという。3.3. で取り上げた問題に関連したデータとして、興味深い。

4.14. 時間的前後関係に即していないナラ条件文

時間的前後関係に即していないナラ型の条件文は、ロシア語では一般的な条件表現によって直訳することができない。ここでもロシア語における条件表現の使用における制限が観察される。

朝鮮語とモンゴル語ハルハ方言、ダグール語、ソロン語、ニブフ語では同じような制限が働き、単純に前件の「来る」を条件形式にするだけでは表現されない。この点で日本語とは異なっている。

4.15. 予想を伴った条件文と予想を伴わない条件文

英語であれば、予想を伴った条件文と予想を伴わない条件文において、**when** と **if** のような使い分けが観察されるわけだが、他の言語ではどうだろうか。同じ形式が用いられる言語と、異なった形式が用いられる言語に整理してみた。なお、「もしかしたら」のような副詞が加えられるだけのよう場合には、同じとみなした。

- ・異なった形式を用いる言語：フランス語、イタリア語、スペイン語、フィンランド語、中国語、ナーナイ語、カム・チベット語、マラガシ語、ウルドゥー語、タミル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、トルクメン語
- ・異なった形式を用いることもできる（つまり、違いを示すこともできる）言語：ドイツ語、朝鮮語
- ・同じ形式を用いる言語：ハンガリー語、ロシア語、モンゴル語、ダグール語、ソロン語、ニブフ語、ラワン語

異なった形式を用いる言語には、団子型動詞連続を用いる印欧諸語を中心とした言語が並んでおり、同じ形式を用いる言語には、鎖型動詞連続を用いる北東アジアの言語が多く並んでいることがわかる。ただその内的関連の理由については、現時点でまだうまく説明できていない。

同じ形式を用いる言語においては、もっぱら **if** にあたる形式が使用され、**when** にあたる形式は使用されないようだ（ただしマレーシア語では使えるという）。未来の出来事でも **when** にあたる形式を使用する点で、印欧語やフィンランド語は特徴的であると言ってもよいだろう。

4.16. 相関構文

相関構文には、「誰が働かない、誰が食べない」のように疑問詞（／関係詞というべきか？）が両方の節に用いられるタイプと（下記の [疑-関-疑-関]）、「誰が働かない、そいつが食べない」のように指示詞で受けるタイプ（[疑-関-指]）、さらに「誰が働かない、食べない」のように後続する節には受ける語が無いタイプ（[疑-関- \emptyset]）がある。

相関構文を用いない場合には、日本語の「働かないものは、食べない」のように、連体節や

名詞化によるタイプ（[連体節/名詞化による単文表現]），「働かなければ，食べられない」のような条件文によるタイプ（[条件文]）が観察された．以下該当した言語を整理しておく．

- ・[疑/関-疑/関]：(中国語)，ダグール語，ソロン語
- ・[疑/関-指]：ロシア語，ナーナイ語，マレーシア語，ウルドゥー語
- ・[疑/関-∅]：ドイツ語，フランス語，イタリア語，スペイン語，フィンランド語，ハンガリー語，タミル語，アラビア語
- ・[連体節/名詞化による単文表現]：中国語，日本語，朝鮮語，ニブフ語，タミル語，ペルシア語，トルコ語，トルクメン語

- ・[条件文]：モンゴル語，ダグール語，ソロン語，カム・チベット語
- ・その他：タミル語（[名詞化-疑/関]），スペイン語（[（指+）関-∅]）

地域的には隣接した言語同士が似た表現の型を示しているように見える．疑問詞の関係詞的な力，言い換えれば文法化の度合いが関係しているようにも感じられる．これらについても今後のさらなる考察を必要とする．

4.17. 言いさし

トルコ語における勧誘の言いさしは，モーダルな接辞が付いている点に注意が必要である．

「言いさし・つき放し」の日本語の例文（「やりたいなら（自分の）好きなようにやれば」）は，実際には二重に複文になっている．したがって，F や N の判断は「やりたいなら」の部分について行った．

4.18. 仮定的逆接

仮定的逆接には，「このコップを落とせば割れない」のように条件形式が用いられる言語と，日本語の「このコップは落としても割れない」のように累加の形式（日本語ではモ）が用いられる言語，条件形式と累加の形式の両方が組み合わされて用いられる言語が観察された．

- ・条件形式を含む：ドイツ語，フランス語，スペイン語，フィンランド語（条件形式のみ，つまり条件文と同形），ハンガリー語（同じく条件形式のみ），ロシア語，ダグール語，ナーナイ語（条件形式のみ），タミル語，トルコ語，トルクメン語

- ・累加的な形式を含む：ドイツ語，フランス語，イタリア語，ロシア語，中国語，朝鮮語，日本語，モンゴル語，ダグール語，ウルドゥー語，タミル語，トルコ語，トルクメン語

タミル語では、この条件+累加のような形式が、次のアクチュアルな逆接や、次の次の逆接3でも用いられている。トルクメン語でも、やはりこの条件+累加のような形式が、次のアクチュアルな逆接で用いられており、次の次の逆接3は条件形になっている。

4.19. 逆接3

逆接3は異主語による逆接の表現である(「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった」)。これに関しては、次の2つのタイプに分けて整理してみた。

- ・[28]仮定的な逆接や[29]アクチュアルな逆接と同じ逆接の形式が使える言語：フィンランド語、ロシア語、朝鮮語、日本語、モンゴル語、マレーシア語、マラガシ語、ウルドゥー語、タミル語、アラビア語
- ・[28]仮定的な逆接や[29]アクチュアルな逆接と同じ逆接形式は使えない(少なくとも、使用されていない)言語：ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ハンガリー語、中国語、ソロン語、ニブフ語、カム・チベット語、ペルシア語、トルコ語

同主語の逆接と異主語の逆接において、異なった逆接形式を用いなければならない言語は、同主語/異主語の違いにうろさい言語であるということになる。ヨーロッパの言語が多く見られるが、必ずしもそれに限られているわけではないことがわかる。

4.20. マデ・マデニ(時間的期限1・2)

日本語では、マデとマデニでは意味が異なって来るが、[31]マデと[32]マデニにおいて同じ形式を使用できる言語も観察された。

- ・同じ(もしくは、少なくとも同じ要素が使用可能)：イタリア語、フィンランド語、ハンガリー語、朝鮮語、モンゴル語バイリン方言、ダグール語、マラガシ語、トルコ語、トルクメン語

なお、ハンガリー語とマラガシ語では、接続形式は同じでも、動詞のAspectや時制によって「マデ」ト「マデニ」の違いが明示されるようになっているようだ。

アンケートの日本語文は「あの人が来るまで、私はここで待っています。」および「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。」のような文であったが、日本語で「あの人が来ないうちは、私はここで待っています。」および「あの人が来ないうちに、食事を作っておきますよ。」というような表現形式があるように、これらの文に否定形式を用いる言語もいくつか観察された。これについても整理しておく。

- ・マデ・マデニのどちらにも否定が現れる：イタリア語, ロシア語, カム・チベット語
- ・マデの方に否定が現れる：ウルドゥー語
- ・マデニの方に否定が現れる：ニブフ語, ラワン語

[特集] (連用修飾的) 複文

《アンケートの意図とその説明》

日本語をはじめとするいわゆるアルタイ型の言語では、連用的な接続形式が発達している反面、接続詞はあまり使われない。これに対して印欧語の多くなどでは、接続詞が発達していて、定形の動詞 (finite verb) を接続詞で繋ぐことが多い反面、分詞などの準動詞 (verbal) はあまり用いられない。さらに中国語のような孤立型の言語では、接続形式も接続詞も用いずに動詞をつなげていく (いわゆる動詞連続) が、その連続に関しては意志性やアスペクト、同主語/異主語などに関する一定の制限があり、構文の型が決まっている面もある。

こうした動詞連続の諸タイプによる複文の形成のバリエーションを対照しようというのが今回のアンケートの狙いである。動詞連続の類型論について、詳しくはアンケート末の論考も参照されたい。

具体的には、同時的動作、継起的動作、並行的動作、理由、目的、条件、逆接、言いさし、などの表現を取り扱う。

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

【同時動作】非限界的なアスペクトを持つ2つの動詞が同時に行われる際の表現。日本語では同主語でのみ可能だが、他の言語ではどうだろうか？ 朝鮮語やモンゴル語では同時と継起で異なる接続形式が使い分けられるが、その境界はどこにあるだろうか？

(2) (私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

【継起的動作・物語的連鎖】これについては下記の動詞連続の類型論を参照されたい。このような文中に現れる動詞形態を medial verb とし、cosubordinate clause を設定するという考えが行われている (Foley & Van Valin (1984))。このような文の文中の動詞の形式を、定形の動詞ではなく、分詞のようないわゆる準動詞で表現できる言語はどの程度あるだろうか？ 欧米の印欧語の多くのように、定形の動詞と接続詞で表現する言語でも、たとえ少しでも準動詞が使用可能だろうか？

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

【継起:理由】Bickel(1998)は、「Haspelmath & König(1995)によって提示された証拠は、“converbs (副動詞)”に少なくとも2種類あって、両者は同じ cover term のもとに包摂されるべきではない、ということを示唆している」という。それを Bickel(1998)はヨーロッパ型 (European)、とアジア型 (Asian) と呼んでいる。アジア型とは、Haspelmath & König(1995)所収の Johanson(1995) と Tikkanen(1995)の章にもっともよく例証されているように、一つもしくは一連の従属的な動詞

の(諸)形式に、副詞的修飾と(修飾ではない)物語的連鎖の機能の両方が実現しているタイプであるという。この修飾機能が含まれているという点は、アジア型副動詞をパプア諸語に見られる **medial verbs** と分かっ点であると言う。日本語におけるテ形のように、(2)で用いられた動詞形態が(3)でも用いられるような言語はどれぐらいあるだろうか？

(4) 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。

【異主語】複文において、主語の管理は最も重要な問題である。指示転換 (switch reference) を持つような言語ではまさにこのような文で異主語の標示がなされることだろう。日本語のテ形はこの例文のように異主語を許すが、これは通言語的にはむしろまれなことかもしれない。何らかの対比が成立する主語同士や述語動詞の間でなければ成立しないものと思われる。他の言語での状況はどうだろうか？準動詞は使用可能だろうか？

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

【付帯状況】従属節の動詞が非限界動詞で、結果状態の残った状況で主節の動作行為が行われる、という表現である。従属節の示す内容は形容的なので、分詞をはじめとする準動詞は使われやすい構文なのではないかと思われる。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

【並行動作】日本語ではこのようにタリによって列挙し、軽動詞スルによって文を締めくくる表現となる。欧米の印欧語の多くでは、(2)や(3)と同じく単に定動詞を接続詞で繋げるものと思われるが、ニュアンスの差は何によって表現されることになるのだろうか？

(7) 時間がないから、急いで行こう。

【理由・カラ】文末に働きかけのモダリティがくる際には、カラの方が用いられやすいということが言われている。日本語におけるようなカラとノデの違いが観察されるような言語はあるだろうか？

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

【理由・ノデ】

(9) あの人は本を買いに行った。

【趨向/移動の目的】「～しに行く」による移動の目的を示す文である。移動の目的は、他の一般の目的節の複文とは異なった文法形式によって表現されるという通言語的傾向のあることが知られている。

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

【目的・意図】 目的にも接続法等の直接法以外の法が現れる言語がある。

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

【恒常的条件】 日本語でトが用いられる恒常的条件の表現である。日本語共通語には比較的多くの条件形式があり、いわゆるト・バ・タラ・ナラの使い分けがある。日本語のように複数の条件形式やその使い分けを持つ言語はあるだろうか？

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

【確定条件・生起】 全体が過去の文であるので、もうすでに起きたことであり、実際は条件文ではなく、異主語による一種の継起的連続である。日本語では条件形式が使えるが、他にも条件形式（もしくはそれに近い形式や何らかの準動詞）が使用可能であるような言語があるだろうか？

(13) 坂を上ると、海が見えた。

【確定条件・発見】 (12)と同様の確定条件だが、主節が「発見」の事態となっているものである。

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

【仮定条件】 もっとも default で一般的な条件文である。この文で現れる形式が他の文での形式を見る基準となる。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

【反実仮想】 反実仮想では過去と関連した形式が通言語的によく用いられるようである。接続法等、特徴的な法の形式が現れる表現でもある。

(16) あんなところに行かなければよかった。

【反実仮想・前件否定】 反実仮想で、前件の条件が否定になっているものである。

(17) 1に1を足せば、2になる。

【一般的真理】 やはり日本語では条件形式が使用可能であるが、他の言語ではどうだろうか？ 条件形式が用いられない場合には、どのような形式が現れるだろうか？

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

【仮定条件+働きかけのモダリティ】 後件に働きかけのモダリティが現れる文では、トやバは基本的に用いることはできず、もっぱらタラが用いられる。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

【仮定条件+願望】やはり後件に願望のモダリティのある条件文である。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

【心配】このタイプの文にもっばら現れる「心配法」のような動詞の形式を持つ言語もある。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

【時間的前後関係に則していないナラ条件文】ナラはト・バ・タラとは異なり、時間的前後関係が逆転していても用いられる。主題と大きな関連を持っている。このような条件形式、さらには主題と関連のある条件形式を持つ言語はどの程度存在しているだろうか？

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

【予想を伴った条件文】英語で **when** が用いられるタイプの条件文である。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

【予想を伴わない条件文】英語で **when** を用いることができず、**if** しか用いられないタイプの条件文である。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

【相関構文】「誰が働かない、誰が食べない」、もしくは「誰が働かない、その人は食べない」のような構文でこの内容を表現する言語がある程度存在すると言われており、これは相関構文と呼ばれている。いわゆる **headless relative clause** と呼ばれるような構文としても捉えられ、内容的には超時的な一般論を示すようである。

(25) もう少しお金があったらなあ。

【言いさし・願望】言いさし (**insubordination**) は近年内外での研究が進んでおり、なお注目を集めている。言いさしは何らかのモダリティ的な意味を実現することが多いという。

(26) これも食べたら？

【言いさし・提案】提案もしくは勧誘と言うべきモダリティの意味を実現している言いさしである。

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？

【言いさし・つき放し】同じ条件表現による言いさしだが、異なったモダリティの意味を実現している。

(28) このコップは落としても割れない。

【仮定的な逆接】 仮定的な逆接で、コップについての恒常的性質を問題にする表現である。

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

【アクチュアルな逆接】 主節従属節共に、すでに実現した事柄についての逆接表現である。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

【逆接3】 異主語による逆接の表現である。

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

【時間的期限[1]】

(32) あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。

【時間的期限[2]】

<参考文献>

Bickel, B. (1998) Converbs in cross-linguistic perspective [review article of Haspelmath and König, eds., *Converbs*, Berlin: Mouton de Gruyter 1995]. *Linguistic Typology* 2, 381 – 397.

Foley, W. A. & R. D. Van Valin, Jr (1984) *Functional Syntax and Universal Grammar*. Cambridge: Cambridge University Press.

Haspelmath, M. (1995) The converb as a cross-linguistically valid category. In: Haspelmath, M. & E. König (eds.) (1995).

Haspelmath, M. & E. König (eds.) (1995) *Converbs in Crosslinguistic Perspective: Structure and meaning of Adverbial Verb Forms --- adverbial Participles, Gerunds*. (Empirical Approaches to Language Typology, 13.) Berlin: Mouton de Gruyter.

Johanson, L. (1995) On Turkic converb clauses. In: Haspelmath, M. & E. König (eds.) (1995).

Masica, C. P. (1976) *Defining a Linguistic Area: South Asia*. Chicago: University of Chicago Press.

Tikkanen, B. (1995) Burushaski converbs in their South and Central Asian areal context. Haspelmath, M. & E. König (eds.) (1995).

Tsunoda, Tasaku (ed.) (2013a) *Five levels in clause linkage. vol. 1*. Ibaraki.

Tsunoda, Tasaku (ed.) (2013b) *Five levels in clause linkage. vol. 2*. Ibaraki.

亀井孝・河野六郎・千野栄一(編) (1996) 『言語学大辞典 第6巻 術語編』 (「ビー玉型動詞連続」の項) 1105-1107. 東京：三省堂.

角田三枝 (2004) 『日本語の節・文の接続とモダリティ』 東京：くろしお出版.

マダガスカル語の複節構文に関して

箕浦 信勝

1. はじめに

本稿は、本論集本号向けに風間伸次郎が作成したアンケートに基づいて書く。アンケートの詳細は、風間(2015)に詳しい。マダガスカル語には、動詞が他の節に付加語句的に掛かるときに用いられる形式は無い。言い換えると、連用的な様々な形式や、一部の言語の記述で用いられる用語、副動詞・分詞と呼ばれうるような形式は無い。その代わりに用いられるのは、まずは動詞の定形であり、必要があれば接続詞が用いられるであろう。または、動詞から派生した名詞のうち、状況態名詞(動詞の状況態現在形に接頭辞 *f-* を添加したもの)を使って、それを付加語句にするなんらかの手法を施して使うのであろうと考えられる。

2. マダガスカル語のデータの吟味

2.1. 風間(2015)から

以下にマダガスカル語のデータを見ていく。データは、首都圏方言¹の母語話者である豊田ライブ氏から、2015年3月に東京都内で聞き取り調査をして集めた。豊田は、風間(2015)の各例文を元にその場で作文した。

- (1) a. *m-am-aky gazety foana izy eo*
 AV.PRS-VM²-読む 新聞 いつも 彼(女)は そこで
am-p-i-sakafo-ana
 ACC-NMLZ-VM-食事する-CV
 「彼(女)はいつも食事の場で新聞を読む」
- b. *m-am-aky gazety foana izy rehefa m-i-sakafo*
 AV.PRS-VM-読む 新聞 いつも 彼(女)は のとき AV.PRS-VM-食事する
 「彼(女)は食事をするとになるといつも新聞を読む」

¹ 首都圏方言とは、マダガスカル語標準語となった、マダガスカル中央高地のメリナ族の方言を概ね指す。尚、細かく指摘を下された査読者のお1方には謝意を表す。

² 結合価標識(VM)は、*an-i-*のように交替する場合には、前者が能動、後者が中動のような対立をなすが、交替をなさない場合、*i-*でも中動的でない他動詞であることもあり、共時的には常に素直に結合価ないしボイスをはっきりと表わすものではなく仄めかす程度のものである。

これは、風間(2015)³が「同時動作」の例文としてあげた和文「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる」が元になっている。その結果として、状況態名詞⁴を使った(1a)と定形動詞を接続詞で導いた(1b)が得られた。

- (1') c. sady m-i-sakafo izy no m-am-aky
 その上 AV.PRS-VM-食事する 彼(女)は NMLZ AV.PRS-VM-読む
 gazety foana
 新聞 いつも
 「彼(女)はいつも新聞を読み、そして食事をする」
- d. m-am-aky gazety foana izy sady/no
 AV.PRS-VM-読む 新聞 いつも 彼(女)は その上/NMLZ
 m-i-sakafo
 AV.PRS-VM-食事する
 「彼(女)はいつも新聞を読み、そして食事をする」

豊田はさらに、(1b)のバリエントとして、(1'c, d)を挙げた。no は、後続する節を名詞化(準体詞化)するものである。no の異動、さらには sady の異動、「食事する」と「読む」のどちらを先に言うかで、(1b, 1'c, d)の各例文が得られる。

- (2) n-ody t-amin-ny folo aho omaly (dia)
 AV.PST-帰る PST-OBL-DEF 10 私は 昨日 (そして)
 n-i-jery haino⁵ aman-jery kely (avy eo) dia
 AV.PST-VM-見る 聞くこと OBL-見ること ちょっと (から そこ) そして

³ 本稿が参考としたのは、厳密に言えば、本論集本号内の風間論文(2015)ではなく、本学語学研究所の所員メーリングリストで回された無署名のアンケートであるが、内容的にはその全体が風間(2015)に入れられていると考えて、便宜上、風間(2015)を参照するようにしている。)

⁴ misakafo (食事する) の状況態名詞は fisakafoana である。この状況態名詞は食堂という場所の他、食事をする様々な状況を表わしうる。場所指示詞(ここでは eo)プラス場所名詞句で、「どこどこで」を表現することができる。場所名詞は、引用形式と同じもの(例えば Madagasikara マダガスカルなどの地名)、対格接頭辞 an-を付けるもの、斜格前置詞 amin を伴うものの3種がある(森山 2003)。ここでは、対格接頭辞 an-が付いて、an-+fisakafoana → am-pisakafoana と音韻論的变化を被っている。

⁵ テレビを、豊田氏は古い言い方 haino aman-jery (見ることに伴う聞くこと) と訳したが、これは現在ではフランス語の télévision あるいは télé ということが多いと思われる。それをマダガスカル語化した televizionina もある (39)。

n-a-tory

AV.PST-VM-寝る

「私は昨日 10 時に家に帰って、少しテレビを見て(から)寝た」

(2)は、風間(2015)が「継起的動作・物語的連鎖」として挙げた和文「(私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て(から)、寝ました」が元になっている。dia (そして) で、3つの節が繋がれている。「から」、「それから」のニュアンスを入れるには、avy eo (それから) を挿入すればいいとのことであった。ただ、dia が2回出てくると、豊田氏は違和感を覚え、1つ目の dia は消して、そこには正書法上、カンマを置いてもいいと言っていた。

- (3) n-i-anjera t-eo⁶ amin-ny tohatra aho omaly
 AV.PST-VM-転ぶ PST-そこで OBL-DEF 階段 私は 昨日
 ka n-a-ratra
 そして AV.PST-VM-怪我する
 「私は昨日階段で転んで、怪我をしてしまった」

(3)は、風間(2015)が、「継起:理由」として挙げた例文が元になっている。(2)とは違って、継起・理由的なニュアンスを伴う接続詞 ka (そして) が用いられている。

- (4) n-an-deha n-i-asa any⁷ am-p-i-asa-na
 AV.PST-VM-行く AV.PST-VM-働く あそこで ACC-NMLZ-VM-働く-CV
 i Dada ary n-an-deha n-i-anatra any⁸
 DEF 父 さらに AV.PST-VM-行く AV.PST-VM-学ぶ あそこで
 amin-ny oniversite indray i zoky androany
 OBL-DEF 大学 再び DEF 兄/姉 今日
 「今日も父は会社に言って、兄/姉は大学に行った」

⁶ teo amin'ny tohatra (階段で) は、脚注 1 にも挙げられていたのと同様な場所指示詞プラス場所名詞句の構造である。ここでは、場所指示詞が過去時制の標識 t-を伴っている。また場所名詞句は、斜格前置詞 amin を伴っている。

⁷ any am-piasana (仕事場で) は、脚注 1, 4 で挙げたものと同様の場所指示詞プラス場所名詞句の構造である。am-piasana は、an- (対格) プラス状況態名詞 fiasana (仕事場) が音韻論的变化を被ったものである。fiasana は miasa (働く) の状況態名詞である。

⁸ any amin'ny oniversite も、脚注 1, 4, 5 で挙げたものと同様の指示詞プラス場所名詞の構造である。oniversite を場所名詞句にするためには、斜格前置詞 amin が用いられている。

(4)は、風間(2015)が「異主語」の例として挙げた和文「今日も父は会社に言って、兄は大学に行った」が元になっている。接続詞 *ary* で、独立的に用いる 2 節が接続されているが、これらの 2 節は、後節に出てくる *indray ~ androany* (今日も) を共有しているようだ。もしその共有があるとすれば、これら 2 語が後節に置かれていることに注意されたい。

- (5) *lasa* *n-an-deha* *n-an-ao* *satroka*
 去った AV.PST-VM-行く AV.PST-VM-する⁹ 帽子
iny *olona* *iny*¹⁰ *androany*
 あの 人 あの 今日
 「あの人は今日帽子を被って行ってしまった」

(5)は、風間(2015)が「付帯状況」の例としてあげた例文「(あの人は) 今日帽子を被ってあるいていた」が元になっている。「歩いてきた」が、「行ってしまった」になっているが、問題となっている部分には関係が無いと思われる。*lasa*¹¹ (去った) は、「てしまった」のようなニュアンスを出していると豊田は説明している。ここで気に留めてほしいのは、*lasa nandeha* (行ってしまった) と *nanao* (装着した) はどちらも定形であり、さらには、接続詞などを介在せずに並べられているということである。

- (6) *isaky* *ny* *tsy* *m-i-asa* *aho* *dia*
 度に DEF NEG AV.PRS-VM-働く 私は と
m-am-aky *boky* *na* *m-i-jery* *haino*
 AV.PRS-VM-読む 本 か AV.PRS-VM-見る 聞くこと
aman-jery *foana.*
 OBL-見ること いつも
 「私は休みの日にはいつも本を読むか、テレビを見るかしている」

⁹ *manao* (過去: *nanao*) は、汎用的な「する」を意味する動詞であるが、身に付けるものを「付ける」という意味にも使われる。

¹⁰ 名詞句(*olona*)に指示詞(*iny*)を添える場合、名詞句全体を 2 つの指示詞で囲むというのがマダガスカル標準文語の規範である。

¹¹ *lasa* は、マダガスカル語伝統文法で語根受動態と呼ばれるものであり (森山 2003)、本稿の用語に合わせれば語根目的語態とも呼べるものである。語根が接辞無しで使われ、1 項動詞のときには S 項を主題主語とし、2 項動詞ときには、P 項を主題主語、A 項を属格のエンクリティックとして採る。両者は和訳では大幅に変わり、*lasa* (去った) に対し、*lasa-ko* (-*ko* は 1 人称単数属格エンクリティック) は「私は持ち去った・取り去った」の意になる。また、グロスで「去った」と書いているように、語根目的語態の動詞は、完了的なアスペクトがデフォルトである。

(6)は、風間(2015)が「並行動作」の例として挙げた和文「(私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています」が元になっている。

- (7) andao haingana¹²fa tsy m-isy fotoana
 HRT 急いで から NEG AV.PRS-ある 時間
 「時間がないから、急いで行こう」

(7)は、風間(2015)が「理由・カラ」の例として挙げた和文「時間がないから、急いで行こう」が元になっている。マダガスカル語には理由を導く接続詞がいくつかあるが、ここではその中で一番弱めなニュアンスを持つ fa が用いられている。

- (8) a. n-a-rary an-doha aho omaly ka n-a-tory
 AV.PST-VM-痛む ACC-頭 私は 昨日 ので AV.PST-VM-眠る
 「私は昨日頭痛がしたので、寝ていました」
 b. n-a-rary ny loha-ko omaly ka n-a-tory
 AV.PST-VM-痛む DEF 頭-私の 昨日 ので AV.PST-VM-眠る
 「私は昨日頭が痛かったので、寝ていました」

(8)は、風間(2015)が、「理由・ノデ」の例として挙げた和文「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました」が元になっている。「いつもより早く寝ました」が「寝ていました」に変わっているが、例としては問題無いと思われる。ここでは接続詞 ka が用いられている。なお、(7)の fa は「帰結 fa 理由」の順序で、(8)の ka は「理由 ka 帰結」の順序になっていることに注意されたい。

- (9) lasa n-i-vidy boky iny olona iny
 行った AV.PST-VM-買う 本 あの 人 あの
 「あの人は本を買いに行った」

(9)は、風間(2015)が「趨向／移動の目的」「～しに行く」による移動の目的を示す文として挙げた「あの人は本を買いに行った」が元になっている。lasa (行った) とその目的 nividy

¹² andao は共時的には「一緒に～しよう」的な意味を持った不変化語で、動詞に後続されることが多いが、ここでは、副詞 haingana (早く) と一緒に用いられて「早くしよう・行こう」的な意味になっている。

(買った)はどちらも定形であり、接続詞もなく、「目的節」が従属的な節であることを示す標識も無い。

- (9') n-i-janona t-ao an-trano aho mba
 AV.PST-VM-留まる PST-そこに ACC-家 私は ために
 h-ah-afah-an-dRasoa m-i-voaka
 FUT-CAUS-自由だ-CV¹³-ラスア AV.PRS-VM-外出する
 「ラスアが外出できるように、私は家に留まった(直訳:ラスアを外出させるように、私は家に留まった)」

(9')は、角田太作(1991 [2009])が、「語順」の章で、「主語が違う目的節と主節」について書いていたことを思い出して、豊田に作文してもらったものである。目的節は mba に導かれた未来形動詞によって表現されている。前節の主語は aho (私は) であるが、後節の述語動詞は, mahafaka (自由にする, manafaka とも)の関係態(hahafahan(a))の形になっており、動作主ラスアはそこに属格で統語的複合をされている。よって、後節の主題主語はラスアではない。動詞が状況態になっていることからすると、前節全体が、後節の主語になっている(状況を可能ならしめるように)のだと考えられる。いずれにせよ、別々の人が主語である二節を繋いだ目的節構文にはなっていない。もしかすると、それはマダガスカル語には難しいのかも知れない。目的節構文ではなく、異主語の2節が等位接続されたものは(4)に見た。

- (10) no-voha-i-ny ny varavarankely mba
 PST-開ける-OV-彼が DEF 窓 ために
 h-i-jer-e-ny tsara ny avy ivelany
 FUT-VM-見る-CV-彼が 良い DEF から 外
 「彼(女)が外がよく見えるように、窓は(彼(女)が)開けた」

(10)は、風間(2015)が「目的・意図」を表わすものとして挙げた和文「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた」が元になっている。元の和文からすると、主節と目的節が同じ主題主語を立ててよさそうなものである。しかし、マダガスカル語の例(10)はそうなって

¹³ CV 状況態(circumstantial voice)とは、動作者、目的語以外の、あらゆる斜格項的なもの、付加語句的なものを主題主語に据える動詞形式である。これは、斜格項や付加語句を目的語に昇格させる適用態(applicative voice)に似ているが、違いは、目的語ではなく主題主語に昇格させるところである。この文では、mba より前の前節全体が、mba 以下の後節の「前提条件」という斜格的・付加語句的な意味を持った主題主語として働いている。

いない。主節の動詞は目的語態¹⁴になっており、主題主語は被動者である「窓」である。目的節の動詞は、状態態になっており、やはり、主題主語は、ny avy ivelany（外から来るもの）になっている。

- (11) avy foana ny orana rehefa fahavaratra aty
 来る いつも DEF 雨 のとき 夏 ここ
 「ここでは夏はいつも雨が降る」

(11)は、風間(2015)が「恒常的条件」を得るために挙げた和文「ここでは夏になると、よく雨が降ります」が元になっている。マダガスカル語の例文(11)で、条件節の方には、動詞的な述語は無い。

- (11') rehefa fahavaratra aty dia avy foana ny orana
 のとき 夏 ここ は 来る いつも DEF 雨
 「ここでは夏はいつも雨が降る」

(11)と、主節と条件節の前後を逆にすると、(11')が得られる。その場合、先行する条件節の後に、dia が置かれる。

- (12) a. n-iditra ny rivotra m-an-gatsiaka raha vao
 AV.PST-入る DEF 風 AV.PRS-VM-冷たい とき 途端
 no-voha-ina ny varavarankely
 PST-開ける-OV DEF 窓
 「窓が開いた途端、冷たい風邪が入ってきた」
 b. n-iditra ny rivotra m-an-gatsiaka raha vao
 AV.PST-入る DEF 風 AV.PRS-VM-冷たい とき 途端
 no-voha-i-ko ny varavarankely
 PST-開ける-OV-私が DEF 窓
 「私が窓が開けた途端、冷たい風邪が入ってきた」

(12)は、風間(2015)が「確定条件・生起」の例として挙げた和文「窓をあけると、冷たい風が入ってきた」が元になっている。(12a, b)のどちらでも、主節は動作者態、条件節は目

¹⁴ 目的語態は、フランス語の文法用語などの影響を受けた伝統文法では受動態と記述されている(森山 2003)。

的語態になっている。目的語態動詞は、属格動作者が標示されないと(12a), 「開いた」と訳されるものとなり, 属格動作者が標示されると(12b), 「私が開けた」と訳されるものとなる。

- (13) a. raha vao taf-akatra ny lalana dia
 とき 途端 CMPL-登る DEF 道 と
 n-aha-tazana ny ranomasina
 AV.PST-CAUS-見える DEF 海
 「道を登りきった途端, 海が見えた」
- b. raha vao taf-aka-ko ny lalana dia
 とき 途端 CMPL-登る-私が DEF 道 と
 n-aha-tazana ny ranomasina aho
 AV.PST-CAUS-見える DEF 海 私は
 「私が道を登りきった途端, 私には海が見えた」

(13)は, 風間(2015)が, 「確定条件・発見」の例として挙げた和文「坂を上ぼると, 海がみえた」が元になっている。「私」を言わないこともできるが(13a), 表現することもできる(13b).

- (14) raha avy ny orana rahampitso dia
 もし 来る DEF 雨 明日 たら
 tsy h-an-deha any aho
 NEG AV.FUT-VM-行く あそこ 私は
 「もし明日雨が降ったら, 私はそこに行かない」

(14)は, 風間(2015)が, 「仮定条件」の例として挙げた和文「明日雨が降ったら, 私はそこに行かない」が元になっている。raha と dia で, 仮定条件を表現している。

- (15) tahak'izay aho n-i-foha haingan-kaingana¹⁵
 良かったなあ 私は AV.PST-VM-起きる 早い-REDUP
 「私はもうちょっと早く起きれば良かったなあ」

¹⁵ haingana (早い/早く)の重複形 haingan-kaingana には「ちょっと」のニュアンスが付加されている。

(15)は、風間(2015)が「反実仮想」の例として挙げている和文「もっと早く起きればよかったなあ」が元になっている。風間(2015)がいうように、(接続法こそ無いが)マダガスカル語では過去形の動詞が用いられている。

- (16) tahak'izay aho tsy n-an-deha t-any
 良かったなあ 私は NEG AV.PST-VM-行く PST-あそこに
 amin-ny iny toerana iny
 OBL-DEF あの 場所 あの
 「あの場所に行かなければよかったなあ」

(16)は、風間(2015)が「反実仮想・前件否定」の例として挙げている和文「あんなところに行かなければよかったなあ」が元になっている。やはり、(15)と同様に、過去形の動詞が用いられている。

- (17) raha ampi-ana iray ny isa iray
 もし 不足-OV 1 DEF 数 1
 dia m-an-ome roa
 と AV.PRS-VM-与える 2
 「1に1を足すと2になる」

(17)は、風間(2015)が「一般的真理」の例として挙げている「1に1をたせば、2になる」が元になっている。条件を表わす raha ~ dia が用いられている。

- (18) m-i-antso-a ahy raha vao/rehefa tonga
 AV.PRS-VM-呼ぶ-IMP 私を たらすぐに/もし 着く
 eny amin-ny gara ianao
 あそこ OBL-DEF 駅 あなたは
 「あなたは駅に着いたら私に電話してください」

(18)は、風間(2015)が「仮定条件+働きかけのモダリティ」の例として挙げている和文「駅に着いたら電話をしてください」が元になっている。 raha vao (たら すぐに), rehefa (もし) などが使える。

- (19) rehefa tonga ny Paka dia
 もし 来る DEF 復活祭 たら

te-h-an-deha any an-Tsimbazaza isika
DES-AV.FUT-VM-行く あそこ ACC-ツインバザザ 私たち
「復活祭が来たら、私たち一緒にツインバザザ動物園に行きたいなあ」

(19)は、風間(2015)が「仮定条件+願望」の例として挙げた和文「日曜日になったら、みんな公園に行きたいなあ」を適宜改変したものである。包含1人称複数の願望が使われている。

(20) m-aha-sosotra/m-aha-n-dreraka raha avy ny
AV.PRS-CAUS-嫌だ/AV.PRS-CAUS-?-疲れる¹⁶ もし 来る DEF
orana rahampitso
雨 明日
「明日雨が降ったら嫌だ/うんざりだ」

(20)は、風間(2015)が「心配」の例として挙げた和文「明日雨が降ったら困るなあ」が元になっている。風間(2015)の言うような心配法のような文法範疇は無いが、述語動詞は形容詞的な心理述語の使役形で、その使役者には、条件節が当たっている。人でないものが使役述語の主語になっているどころか、条件節が使役述語の主語になっているという構文が使われているのが面白いかも知れない。

(21) m-i-antso-a aloha, azafady, raha ho avy
AV.PRS-VM-呼ぶ-IMP 先に どうぞ もし FUT 来る
aty an-trano ianao
ここに ACC-家 あなたは
「もしあなたがうちに来るのなら、前もって電話をくださるようお願いします」

(21)は、風間が「時間的前後関係に則していないナラ条件文」として挙げている和文「家に来るなら、電話をしてから来てください」が元になっている。マダガスカル語で raha 節が後置されているのは、これしか言えないのか、それとも、dia を後ろに伴って前置することができるのかは定かではない。

¹⁶ mahandreraka の n-の正体はよくわからない。maha-は形容詞的な語の前に付いて、使役(形容詞で表わされる状態を引き起こす)的な動詞を形成するが、通常 n-は挟まらない。n-は名詞語根動詞を繋ぎ合わせるリンカーと同じ音形を持っているが、それが何故ここに現われているのかは不明である。

- (22) rehefa m-an-eno ny lakolosy dia laza-o
 もし AV.PRS-VM-鳴る DEF ベル たら 言う-OV.IMP
 ahy azafady
 私を どうぞ
 「もしベルになったら私に教えてください」

(22)は、風間(2015)が「予想を伴った条件文」として挙げている「(もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら、教えてください」が元になっている。raha/rehefa 節が主節(帰結節)の前に置かれる場合には間に dia が置かれ(22, 23), 主節の後ろに置かれる場合には dia あるいはそれに代わるものを必要としない(21)。

- (23) raha m-an-eno ny lakolosy dia laza-o
 もし AV.PRS-VM-鳴る DEF ベル たら 言う-OV.IMP
 ahy azafady
 私を どうぞ
 「もしベルになったら私に教えてください」

(23)は、風間(2015)が「予想を伴わない条件文」として挙げている「(もしかしたらベルが鳴るかも知れないので) 鳴ったら、教えてください」が元になっている。マダガスカル語では、(22)では rehefa, (23)では raha と微妙な使い分けをしている。

- (24) tsy m-a-hazo m-i-hinana izay¹⁷
 NEG AV.PRS-VM-ていい AV.PRS-VM-食べる 者
 tsy m-i-asa
 NEG AV.PRS-VM-働く
 「働かないものは食べてはいけない」

(24)は、風間(2015)が「相關構文」として挙げている和文「働かざるもの食うべからず」が元になっている。izay は関係節を受ける主要部名詞が無いときに用いられる。

- (25) raha mbola/mba m-an-am-bola kely moa
 もし もっと/もっと AV.PRS-VM-持つ-お金 少し だったら

¹⁷ マダガスカル語の関係節は、通常、関係詞的なものを使わずに、主要部名詞に後続するが、主要部名詞が無いときには、izay を用いる。

た.

- (29) lafo ity paoma ity nefa tsy mamy
 高い この りんご この しかし NEG 甘い
 akory na dia kely aza
 どう か と 少し するな
 「このりんごは高かったのにちっとも甘くない」

(29)は、風間(2015)が、「アクチュアルな逆接」として挙げている和文「このりんごは高かったのに、ちっとも甘くない」が元になっている。マダガスカル語でも素直に、逆接の接続詞 *nefa* で繋がれている。*akory na dia kely aza* という語群が「ちっとも」辺りの意味を担っているらしいが、その部分部分を見ても、全体の意味はわからなさそうだ。しかし *na ~ aza* は(28)からすると、「~ても/~でも」あたりの意味を担っているのかもしれない。

- (30) t-any an-trano-ny aho kanefa/nefa tsy
 PST-そこに ACC-家-彼(女)の 私は しかし/しかし NEG
 t-ao izy
 PST-そこに 彼(女)は
 「私は彼(女)の家に行ったけれども、彼(女)はそこにいなかった。」

(30)は、風間(2015)が、「逆接3」と呼ぶ異主語による逆接の表現の例であり、和文「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった」が元になっている。単純に逆接の接続詞 *kanefa/nefa* で2節が繋がれている。

- (31) m-i-andry eto aho mandra-p-aha-tonga-n-iny
 AV.PST-VM-待つ ここで 私は まで-NMLZ-CAUS-着く-CV-あの
 olona iny
 人 あの
 「あの人が来るまで、私はここで待っています」

(31)は、風間(2015)が、「時間的制限(1)」と呼ぶ「~するまで」を含む文で、和文「あの人が来るまで、私はここで待っています」が元になっている。この「~するまで」は、マダガスカル語では、*mandraka* プラス動詞の状況態名詞形で表現される。*mandraka* と、状況態名詞形 *fahatongana(-iny)* は音韻論的規則によって *mandra-pahatongan'iny* となる。

- (32) h-an-ao sakafo aho mandra-p-aha-tonga-n-iny
 AV.FUT-VM-作る 食事 私は まで-NMLZ-CAUS-着く-CV-あの
 olona iny
 人 あの

(32)は、風間(2015)が、「時間的制限(2)」と呼ぶ「～するまでに」を含む文で、和文「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ」が元になっている。「～するまで(に)」は、(31, 32)で同様に表現されている。しかし主節の動詞は、(31)では現在形、(32)では未来形になっている。その違いが、日本語での「～まで」と「～までに」に対応しているかどうかは、もっと多くの例を集めてみないとわからない。

2.2. そのほかの例

「構文の種類」的には重複や偏りもあるとは思われるが、マダガスカル・アンタナナリブ¹⁸市で、M^{me} Raobelina Nivo Haingo Holy Tiana Eva からマダガスカル手話に関して集められた文をフィールドノートからピックアップして、東京で豊田ライブ氏に、本稿のスコープに該当すると思われる文をマダガスカル語で作文してもらったものを以下に挙げる。

- (33) lasa any am-p-i-anar-ana Rakoto dia
 行った あそこに ACC-NMLZ-VM-学ぶ-CV ラクト て
 n-am-aky boky
 AV.PST-VM-読む 本
 「ラクトは学校に行って、本を読んだ」

(33)は単純な「～して、～した」という文である。dia で接続されている。前後の節は、それぞれ主節として機能できるものである。ただ、主語 Rakoto が共有されているので、後節の末尾に来るはずの Rakoto は省略されているし、また standard average European 言語のように代名詞で必ず言わなければならないということも無い。接続詞 dia で繋がれているのは2.1節の(2)と同じである。

- (34) tsy afa-po Rasoafa/satria tsy afaka
 NEG 自由だ-心 ラシアは で/なぜなら NEG 自由だ

¹⁸ Antananarivo の仮名書きは、マダガスカル語の o が/u/ [u]の綴り字であるので、ヴを使う人はアンタナナリヴと書き、それを使わない人はアンタナナリブと書く。出版物やネット上でよく見られるアンタナナリボは、綴り字の日本語ローマ字読みである。

m-i-voaka

AV.PRS-VM-外出する

「自由に外出することができないので、ラスアは不満だ」

(34)に用いられている *fa* は機能的に未分化なところがある接続詞で、様々な意味で使われる。ここでは後続する理由節の先頭に置かれている。*satria* は「なぜなら」を意味する接続詞である。ここでもやはり、前後の節はそれぞれ主節として機能できるものである。しかし、主語 *Raso*a が共有されているので、後節の末尾に来るはずの *Raso*a は省略されている。2.1.節では理由を *fa*, *ka* で表現するもの(7, 8)を見たが、ここでは *satria* の例(34)をみた。

- (35) *tsy* *m-i-asa* *ny* *hozatra* *raha* *m-i-taingina*
 NEG AV.PRS-VM-働く DEF 筋肉 もし AV.PRS-VM-乗る
aotomobilina *foana*
 自動車 いつも
 「自動車にいつも乗っていると、筋肉が動かない(運動不足になる)」

(35)では、条件節「もし～」が *raha* で導かれている。仮定条件は、2.1.で *raha* 条件節が先行する(13)を見た。ここでは、*raha* 条件節が後行している。

- (36) *m-i-menomenona* *foana* *i* *Mama* *hoe*
 AV.PRS-VM-不満を言う いつも DEF ママ COMP
diov-y *ity* *trano* *m-a-loto* *ity*
 綺麗にする-OV.IMP この 部屋 AV.PRS-VM-汚い この
 『「この汚い部屋を綺麗にしてください」とお母さんはいつも怒っています』

(36)は、補文標識 *hoe* を持った構文である。補文は明らかに従属節と考えられるが、*hoe* 以下は、そのまま命令文として使える節である。英文法的に言うと「直接話法」的である。

- (37) *m-an-drivotra* *ny* *andro* *ka*
 AV.PRS-VM-風吹く DEF 日 ので
a-taov-y *m-a-tevina* *ny*
 OV-する-IMP AV.PRS-VM-厚い DEF

akanjo-n-jaza¹⁹/akanjo-n-ity zaza ity
 服-LNK-赤ちゃん/服-LNK-この 赤ちゃん この
 「風が吹いているので、(この) 赤ちゃんの服を厚くしなさい」

(37)は ka の前に理由節が来ている例である。

(37') a-taov-y m-a-tevina ny akanjo-n-jaza
 OV-する-IMP AV.PRS-VM-厚い DEF 服-LNK-赤ちゃん
 rehefa m-an-drivotra ny andro
 もし AV.PRS-VM-風吹く DEF 日
 「もし風が吹いているのなら、赤ちゃんの服を厚くしなさい」

(37')では、(37)の理由節の代わりに条件節にしており、その条件節はこの例では、主節に後置している。

(38) a. aza m-an-ome azy fa
 NEGIMP AV.PRS-VM-与える 彼(女) から
 m-an-arararaotra izy
 AV.PRS-VM-利用する 彼(女)は
 「彼(女)は(あなたを)利用するから、彼(女)には与えるな」
 b. m-an-arararaotra izy fa
 AV.PRS-VM-利用する 彼(女)は から
 aza m-an-ome azy
 NEGIMP AV.PRS-VM-与える 彼(女)
 「彼(女)は(あなたを)利用するから、彼(女)には与えるな」

(38a, b)では、理由節と否定命令節の前後が入れ替わっているが、同じ接続詞 fa で繋がれている。接続詞 fa はどちらの構造でも使えるほどに、機能の軽いものようである。

(39) m-i-ova-ova ny taleha-n-ny
 AV.PRS-VM-替わる-REDUP 定 長-LNK-DEF

¹⁹ リンカー(LNK) -n-は、後続名詞が先行名詞を意味的に修飾する関係にあるときにも用いられる。 akanjo-n-jaza は akanjo 服, -n-リンカー, jaza 赤ちゃんで、赤ちゃんの服の意味になる。

m-am-boly				zana-tsaonjo
AV.PRS-VM-植える				子供-タロイモ
「もしタロイモの種芋を植えるのなら、穴が沢山要る」				
b. m-ila	lavaka	maro-maros		rehefa
AV.PRS-要る	穴	沢山-REDUP		の時
m-am-boly				zana-tsaonjo
AV.PRS-VM-植える				子供-タロイモ
「タロイモの種芋を植えるとき、穴が沢山要る」				

(43a, b)では、条件節と時間節が対照されている。

- (44) tsy mety ny f-i-zara-(a)-nao²⁰ zavatra
 NEG 適切だ DEF NMLZ-CV-分ける-CV-あなたの もの
 satria lasa m-i-alona ny sasany
 なぜなら 去る AV.PRS-VM-羨む DEF 幾人か
 「あなたのものの分け方は不適切だ。なぜなら何人かは他人を羨みながら去るから」

(44)では、後ろの理由節が *satria* に導かれている。

3. おわりに

以上に見てきた例文を分類して以下にまとめる。

接続詞による等位接続は、同時動作(1'c, d), 継起的動作(2, 33), 理由(3, 8, 37, 38a, 38b, 39), 異主語(4), 並行動作(6), 接続詞を伴う逆接(28, 30)があった。

従属節が先行するものは、条件節(11', 17, 19, 22, 23), 時間節(13)があった。 *raha/rehefa* に導かれる従属節が先行するこれらの例では、後続する主節との間に *dia* が置かれている。

従属節が後行するものは、同時動作(1b), 理由節(7, 34, 44), 目的節(9', 10, 40, 41), 条件節(11, 18, 20, 21, 26, 27, 35, 37', 43a), 仮定的な逆接(28), 補文(36), 否定目的節(42), 時間節(43a)があった。

従属節の主要部動詞の代わりに主要部となる状況態名詞を使っていたものには、同時動作(1a), 時間的制限(31, 32)があった。

接続表現が無いものは、付帯状況(5), 目的節(9), 反実仮想(15, 16), 相関構文(24), があった。

²⁰ *fizaranao* では、*ra* の音節に力点が置かれることからも状況態標識-a(n)があることがわかるが「表層の」綴りには現われない。

言いさしは、願望(25)があった。

条件節が先行するものは、条件節の末尾に *dia* を伴うものがほとんどである。条件節が後行ものには、*dia* は用いられない。とすると、これは、マダガスカル語のもっと単純の文において、*dia* を用いて対比的焦点語句を文頭へと動かす操作と同じ原理によって変形されているのであろう。

アンケート（風間 2015）の範囲をはみだしていたものは、補文(36)、*fa* 理由節の前後入れ替え可能性(38)、*raha* 条件節(43a)と *rehefa* 時間節(43b)の対照などであった。

Fugier (1999)は、複節構文に関して、従属(subordination)、動詞連続(sériation)、等位接続(coordination)を挙げている。しかし、Fugier (1999)も *fa* によって導かれる節を従属節としてあつかっているが、*fa* 理由節が前後入れ替え可能であったりすることから(38)、実は、等位接続と、従位接続も連続したものであり、截然ときれない連続部分があるのかもしれないということが疑われる。このあたりは、今後さらなる検討が必要である。

略語 ACC (accusative 対格), AGNM (agent nominalization 動作主名詞化), AV (actor voice 動作者態), CAUS (causative 使役), CMPL (completive 完結), COMP (complementizer 補文標識), CV (circumstantial voice 状況態), DEF (definite 定), DES (desiderative 願望), FUT (future 未来), HRT (hortative 勧誘), IMP (imperative 命令), LNK (linker リンカー), NEG (negative 否定), NMLZ (nominalizer 名詞化子), OBL (oblique 斜格), PRS (present 現在), PST (past 過去), REDUP (reduplication 重複), OV (object voice 目的語態), VM (valency marker 結合価標識).

参考文献

欧文

Fugier, Huguette. 1999. *Syntaxe Malgache*. Louvain-la-Neuve: Peeters.

和文

角田太作. 1991 [2009]. 『世界の言語と日本語』. くろしお出版.

森山工. 2003. 『マダガスカル語テキスト』. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

ドイツ語

成田 節

特集「(連用修飾的) 複文」のアンケートに沿って、ドイツ語の例文を挙げながら簡単な説明を付ける。¹

(1) 彼はいつも新聞を読みながら朝ご飯を食べる。

a. ²*Er frühstückt immer Zeitung lesend.*

he_{nom.} breakfasts_{pres.} always newspaper_{acc.} reading_{pres-part.}²

【同時動作】は原則として現在分詞で表すことができるが、表現される事柄によって容認度は異なるようだ。lesen「読む」の現在分詞 lesend を使い「新聞を読みながら」を表すことは文法的には可能だが、aのような表現はあまり用いられないという。インフォーマントによると、「朝ごはんを食べる」に対して「新聞を読む」は現在分詞で表せるほど付随的と見なしにくいとのことだ。むしろbのように「新聞を読む」を主文にし、「朝食を食べる間に」を従属文で表すか、cのように「朝食の際に」の意味の前置詞句で表すという。

b. *Er liest immer Zeitung, während er frühstückt.*

he_{nom.} reads_{pres.} always newspaper_{acc.} while he_{nom.} breakfasts_{pres.} 彼はいつも新聞を読む、彼が朝食を食べる間。³

c. *Beim Frühstück liest er immer Zeitung.*

at-the breakfast reads_{pres.} he_{nom.} always newspaper_{acc.} 朝食の際に彼はいつも新聞を読む。

逆に「読みながら新聞を読む」なら「新聞を読む」に対して「読みながら」が十分に付随的と見なせるのでdは問題ないとされた。

d. *Er liest kauend Zeitung.*

¹ 例文の容認度判定に際して、本学のディアナ・バイヤー=タグチ特任講師の協力を得ることができた。例文の容認度は当然インフォーマントによっても異なる場合があると考えられるので、本稿では適宜インターネットなどの事例で補った。また、匿名の査読者から多くの有益な示唆を得られ、よりアンケートの趣旨に沿った例文を挙げることもできたと思う。

² 本稿ではグロスに以下の略号を使う。acc.対格, dat.与格, inf.不定形, nom.主格, past.過去形, past-part.過去分詞, perf-aux.完了の助動詞, pres.現在形, pres-part.現在分詞, refl.再帰代名詞, subj-I.接続法第1式(接続法現在), subj-II.接続法第2式(接続法過去)。なお定動詞の人称と数は主語(本稿の例文では主格 nom は全て主語)と一致するので, 3.sg. (3人称単数)などの標示は省略した。

³ アンケートの例文に変更を加えた場合、グロスに続けてドイツ語の例文の逐語訳風和訳を添える。

he_{nom} reads_{pres} chewing_{pres-part} newspaper_{acc}. 彼は噛みながら新聞を読む。

また、「歌いながら階段を下りる」や「微笑みながら挨拶をする」ならば現在分詞で問題ないという。「階段を下りる」「挨拶する」にたいして「～ながら」が十分付随的と見なせるからだろう。

e. *Sie kam singend die Treppe herunter.*

she_{nom} came_{past} singing_{pres-part} the stairs_{acc} down 彼女は歌いながら階段を下りる。

f. *Er grüßt lächelnd die Gäste.*

he_{nom} greets_{pres} smiling_{pres-part} the guests_{acc}. 彼は微笑みながら客に挨拶をする。

なお辞書には *Zeitung lesend* と並んで *zeitunglesend* という書記法も挙げられている。インターネットで検索すると *Bill Gates liegt zeitunglesend am Strand*. 「ビル・ゲイツは新聞を読みながら浜辺で横になっている。」といった事例がヒットした。ドイツ語で同時進行動作を表すのに現在分詞が容認されるかどうかは、主文の述語動詞が表す動作・行為とのバランスに左右されるようだ。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

a. *Um 10 Uhr nach Hause gekommen, sah ich gestern ein bisschen fern und ging dann ins Bett.*

at 10 o'clock to house (=home) come_{past-part} saw_{past} I_{nom} yesterday a bit far (sah ... fern =watched television) and went_{past} then into-the bed 10時に帰宅し、私は昨日少しテレビを見た、そしてそれからベッドに入った。

b. *Ich kam gestern um 10 Uhr nach Hause, sah ein bisschen fern und ging dann ins Bett.*

I_{nom} came_{past} yesterday at 10 o'clock to house saw_{past} a bit far and went_{past} then into-the bed 私は昨日 10時に帰宅した、少しテレビを見た、そしてそれからベッドに入った。

c. *Ich bin gestern um 10 Uhr nach Hause gekommen, habe ein bisschen ferngesehen und bin dann ins Bett gegangen.*

I_{nom} am_{perf-aux-pres} yesterday at 10 o'clock to house come_{past-part} have_{perf-aux-pres} a bit far-seen_{past-part} and am_{perf-aux-pres} then into-the bed gone_{past-part} 私は昨日 10時に帰宅した、少しテレビを見た、そしてそれからベッドに入った。

【継起的動作・物語的連鎖】(2)の「10時に家に帰って」は原則として a のように過去分詞を使って表すことができる。ただしインフォーマントは個人的には b のように主文を並列するほうが自然に感じられるとのことである (なお *sah ... fern* は分離動詞 *fernsehen* 「テレビを見る」の過去形)。この場合、2 文目以降は主語が省略される。「テレビを見た、寝た」という過去の事柄は原則として b のように過去形でも、c のように現在完了形 (*bin ... gekommen, habe ... ferngesehen, bin ... gegangen*) でも表せる。(以下の例文ではどちらか一方のみを挙げる。)

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

a. *Auf der Treppe gestürzt, habe ich mich gestern verletzt.*

on the stairs tumbled_{past-part} have_{perf-aux-pres} I_{nom} myself_{refl-acc} yesterday injured_{past-part} 階段で転んで、私は昨日ケガをした。

b. *Ich bin gestern auf der Treppe gestürzt und habe mich dabei verletzt.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday on the stairs tumbled_{past-part.} and have_{perf-aux.pres.} myself_{refl.acc.} then injured_{past-part.} 私は昨日階段で転んだ, そしてその際にケガをした.

【継起：理由】(3)の「階段で転んで」も(2)と同様, aのように原則として過去分詞を使って表すことができるが, インフォーマント個人としてはbのように主文を並列する方が自然に感じられるとのことであった. また, 英語のso thatに対応するso dassでcのように因果関係を明示することもできるが, インフォーマントによると書き言葉的に感じられるとのことだった.

c. *Ich bin gestern auf der Treppe gestürzt, so dass ich mich dabei verletzt habe.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday on the stairs tumbled_{past-part.} so that I_{nom.} myself_{refl.acc.} then injured_{past-part.} have_{perf-aux.pres.} 私は昨日階段で転んだ, その結果私はその際にケガをした.

(4) 今日父は会社に行って, 兄は大学に行った.

a. *Auch heute fuhr mein Vater in die Firma und mein Bruder fuhr zur Uni.*

also today went_{past} my father_{nom.} into-the firm and my brother_{nom.} went_{past} to-the university 今日父は会社に行った, そして兄は大学に行った.

【異主語】主語が異なる場合は, 上の(2)や(3)とは異なり「父は会社に行って」を過去分詞などの非定形動詞で表すことはできない. aのように主文を並列するのが自然な表現となる. なおこの場合, 同じ動詞を繰り返すと冗長に感じられるので, 2回目の動詞を省略するbの方が自然に感じられるとのことである.

b. *Auch heute fuhr mein Vater in die Firma und mein Bruder φ zur Uni.*

also today went_{past} my father_{nom.} into-the firm and my brother_{nom.} to-the university 今日父は会社に行った, そして兄は大学に.

またcのように, 対比を表す従属の接続詞währendを使うこともできる. いずれにしても定形動詞を2つ使う必要がある.

c. *Auch heute fuhr mein Vater in die Firma, während mein Bruder zur Uni fuhr.*

also today went_{past} my father_{nom.} into-the firm while my brother_{nom.} to-the university went_{past} 今日父は会社に行った, 一方兄は大学に行った.

(5) (あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた.

a. *[?]Er ging heute einen Hut tragend vorüber.*

he_{nom.} went_{past} today a hat_{acc.} wearing_{pres-part.} past 彼は今日帽子をかぶって通り過ぎた.

【付帯状況】「帽子をかぶって」は, aのように現在分詞tragendを用いて表すことは文法的には可能だが, 普通はbのように前置詞句mit einem Hut auf dem Kopf「頭上に帽子を伴って」で表すか, あるいはcのように「帽子をかぶっていた」を主文にする方が自然だとのことだった.

b. *Er ging mit einem Hut auf dem Kopf vorüber.*

he_{nom} went_{past} with a hat on the head past 彼は帽子を被って (<頭に帽子を持って) 通り過ぎた.

c. *Er trug einen Hut, als er an mir vorüberlief.*

he_{nom} wore_{past} a hat_{acc} as he_{nom} past-went_{past} 彼は帽子をかぶっていた, 私の側を通ったとき.

(1)でも触れたが, ドイツ語で同時進行動作や付帯状況を表す現在分詞が容認されるかどうかは, 主文の述語動詞が表す動作・行為とのバランスに左右されるようだ.

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています.

a. *Wenn ich Zeit habe, lese ich oder sehe ich fern.*

when I_{nom} time_{acc} have_{pres} read_{pres} I_{nom} or see_{pres} I_{nom} far (sehe ... fern=watch television) 私に時間があるとき, 私は (本を) 読む, あるいはテレビを見る.

【並行動作】「本を読んだり, テレビを見たりする」は「本を読む oder (または) テレビを見る」で表現できる. この表現で「本を読む」と「テレビを見る」以外の行為も排除されるわけではないとのこと. 日本語学習者向けの辞書である Langenscheidts Lernwörterbuch Japanisch には「昨日は, 映画を見たり買い物をしたりしました.」という日本語表現に対する例文として *Gestern bin ich im Kino gewesen, habe eingekauft usw.* (…映画に行った, 買い物をした, などなど) が挙げられているが, 同じ形式の b はむしろ不自然だと判断された.

b. [?]*Wenn ich Zeit habe, lese ich, sehe ich fern usw.*

when I_{nom} time_{acc} have_{pres} read_{pres} I_{nom} see_{pres} I_{nom} far etc. 私に時間があるとき, 私は (本を) 読む, テレビを見る, などなど.

(7) 時間が5分しかないから, 急いで行こう.

a. *Beeilen wir uns, weil wir nur noch 5 Minuten haben.*

hurry_{subj-I} we_{nom} ourselves_{refl-acc} because we_{nom} only just 5 minutes_{acc} have_{pres} 急ごう, 時間がもう5分しかないから.

b. *Beeilen wir uns, denn wir haben nur noch 5 Minuten.*

hurry_{subj-I} we_{nom} ourselves_{refl-acc} for we_{nom} have_{pres} only just 5 minutes_{acc} 急ごう, と言うのは, 時間がもう5分しかないから.

【理由・カラ】理由を表すには, 従属接続詞 *weil* や *da*, あるいは並列接続詞 *denn* などが用いられうる. 特に *weil* と *denn* の意味・用法の相違について, 関口 (¹⁵1977:325ff.) などに詳しい説明が見られ, おおよそ『発言内容』に関する因由ならば *weil*, 『発言』そのものに関する因由ならば *denn* とまとめられるが, インフォーマントによれば, 例(7)に関しては *weil* を使う aの方が自然に感じられるとのことであった. また, *Beeilen wir uns* 「急ごう」には *mal lieber* 「ちょっと~の方が良い」などを添える方が自然になるとのことだった. いずれにしても, *weil* と *denn* の違いは, 日本語の「から」と「ので」の違い (日本語記述文法研究会編 2008: 122ff.) に対応するようなものではなさそうだ.

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. *Ich bin gestern früher als sonst ins Bett gegangen, weil ich Kopfschmerzen hatte.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday earlier than usual into-the bed gone_{past-part.} because I_{nom.} headaches_{acc.} had_{past.} 私は昨日いつもより早くベッドに入った、私は頭が痛かったから。

b. *Ich bin gestern früher als sonst ins Bett gegangen, denn ich hatte Kopfschmerzen.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday earlier than usual into-the bed gone_{past-part.} for I_{nom.} had_{past.} headaches_{acc.} 私は昨日いつもより早くベッドに入った、と言うのは、私は頭が痛かったから。

【理由・ノデ】(7)と同様に *weil* も *denn* も用いられる。a の従属文は *Weil ich Kopfschmerzen hatte, bin ich gestern früher als sonst ins Bett gegangen.* のように前置することもできる。

c. *Da ich Kopfschmerzen hatte, bin ich gestern früher als sonst ins Bett gegangen.*

as I_{nom.} headaches_{acc.} had_{past.} am_{perf-aux.pres.} I_{nom.} yesterday earlier than usual into-the bed gone_{past-part.} 私は頭が痛かったので、私は昨日いつもより早くベッドに入った。

従属接続詞 *da* は、*weil* ほど因由関係を強調せず、どちらかと言えば聞き手に既知の事柄を因由として挙げる。そのこととも関係し、*da* を用いた従属文は前置されることが多い。

(9) あの人は本を買いに行った。

a. *Er fuhr in die Stadt, um Bücher zu kaufen.*

he_{nom.} went_{past.} into the town in-order books_{acc.} to buy_{inf.} 彼は町に行った、本を買うために。

b. *Er fuhr in die Stadt Bücher kaufen.*

he_{nom.} went_{past.} into the town books_{acc.} buy_{inf.} 彼は本を買いに町に行った。

c. [?]*Er fuhr Bücher kaufen.*

he_{nom.} went_{past.} books_{acc.} buy_{inf.} 彼は本を買いに行った。

d. *Mama fährt meistens am späten Vormittag einkaufen.*

mamma_{nom.} goes_{pres.} mostly in-the late morning shop_{inf.} お母さんはたいてい午前遅く買物に行く。

e. *Er fuhr in die Stadt zum Bücherkaufen.*

he_{nom.} went_{past.} into the town for-the books-buy 彼は町に本購入のために行った。

【移動の目的】最も無標の形式は、英語の *in order to* 不定詞句に相当する a の *um+zu* 不定詞句である。他に、移動動詞（ここでは *fahren* 「(乗り物で) 行く」）に目的の行為を表す動詞 *kaufen* を不定形で添える（目的語 *Bücher* も伴う）形式 b もある。通常は移動動詞には方向表示が必要なので、c は不自然と見なされる。ただし、「買い物に行く」のように習慣的な行為は方向表示を伴わない d のような表現も可能となる。さらに、e のように「本を」と「買う」をまとめてひとつの名詞に転じ、目的を表す *zu* と共に前置詞句の形で「本を買いに」を表現することもできる。

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

a. *Er machte das Fenster auf, um besser hinausblicken zu können.*

he_{nom} made_{past} the window_{acc} up in-order better out-look to be-able_{inf} 彼は窓を開けた, より良く外を見ること
ができるように。

b. *Er machte das Fenster auf, damit er besser hinausblicken konnte.*

he_{nom} made_{past} the window_{acc} up so-that he_{nom} better out-look could_{past} 彼は窓を開けた, 彼がより良く外を見
ることができるように。

【目的・意図】を表現するには, (9)の a と同じ **um+zu** 不定詞や, 従属接続詞 **damit** などが用い
られる。ただし, **um+zu** 不定詞句は主文の主語と **zu** 不定詞の意味上の主語が同一の場合しか
用いられない。なお, **machte ... auf** は分離動詞 **aufmachen** 「開ける」の過去形。

(11) ここでは夏になると, よく雨が降ります。

a. *Wenn es Sommer ist, regnet es hier viel.*

when it summer_{nom} is_{pres} rains_{pres} it_{nom} here much 夏であるなら, ここでたくさん雨が降る。

b. *Wenn es Sommer wird, regnet es hier viel.*

when it summer_{nom} gets_{pres} rains_{pres} it_{nom} here much 夏になるなら, ここでたくさん雨が降る。

【恒常的条件】条件「(～する) と」は基本的には従属接続詞 **wenn** で表せる。「(夏に) なる」
は **sein** 「～である」と **werden** 「～になる」が可能である。**sein** を使った a は「夏である間ここ
では雨がよく降る」という長期間に亘る叙述になるのに対して, **werden** を使った b は「夏にな
る頃ここでは雨がよく降る」という短期間 (数日間) に限った叙述になり, そのような文脈の
支えが必要な分だけ b は自然さが落ちるようだ。なおインフォーマントによると, **wenn** を使う
従属文よりは c のように前置詞句 **im Sommer** 「夏に (は)」を使う方が自然に感じるとのこと
である。

c. *Im Sommer regnet es hier viel.*

in-the summer rains_{pres} it_{nom} here much 夏にここでたくさん雨が降る。

(12) 窓を開けると, 冷たい風が入って来た。

a. **Wenn ich das Fenster aufmachte, kam ein kalter Wind herein.*

when I_{nom} the window_{acc} up-made_{past} (=opened) came_{past} a cold wind_{nom} in 私が窓を開けると, 冷たい風が入っ
て来た。

b. *Als ich das Fenster aufmachte, kam ein kalter Wind herein.*

when I_{nom} the window_{acc} up-made_{past} came_{past} a cold wind_{nom} in 私が窓を開けたとき, 冷たい風が入って来た。

【確定条件・生起】この事態は条件と帰結ではなく, 継起的連続と見なされ, 「(～する) と」
という **wenn** による条件形式は不自然になる。同時性を表す従属接続詞 **als** 「(～した) とき」を
用い, 動詞も過去を表す時制になる。もっとも「(～する) ときはいつも…だった」という文脈

でなら、過去の事態を表す場合でも *wenn* が使用可能になる。

c. *Wenn ich nach Hause kam, war niemand da.*

when I_{nom} to house (=home) came_{past} was_{past} nobody_{nom} there 私が家に帰ったとき (はいつも), だれもいなかった。

(13) 丘を上ると, 海が見えた。

a. **Wenn ich den Hügel hinaufkam, konnte ich das Meer sehen.*

when I_{nom} the hill_{acc} up-came_{past} could_{past} I_{nom} the sea_{acc} see_{inf} 私が丘を上ったら, 私は海を見ることができた。

b. *Als ich den Hügel hinaufkam, konnte ich das Meer sehen.*

when I_{nom} the hill_{acc} up-came_{past} could_{past} I_{nom} the sea_{acc} see_{inf} 私が丘を上ったとき, 私は海を見ることができた。

【確定条件・発見】これも(12)と同様に *wenn* による条件形式は不自然で, *als* 「(～した) とき」を用い, 動詞も過去を表す時制になる。

(14) 明日雨が降ったら, 私はそこに行かない。

a. *Wenn es morgen regnet, gehe ich nicht dorthin.*

if it_{nom} tomorrow rains_{pres} go_{pres} I_{nom} not there もし明日雨が降るなら, 私はそこに行かない。

b. *Regnet es morgen, [dann] gehe ich nicht dorthin.*

rains_{pres} it_{nom} tomorrow [then] go_{pres} I_{nom} not there 明日雨が降るなら, 私はそこに行かない。

【仮定条件】*wenn* を使い, 定形動詞は直説法現在形になる。*wenn* を使わずに定形動詞を前置して *regnet es morgen* とすることでも, 「～たら」という条件を表すことができる。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

a. *Ich wünschte, ich wäre etwas früher aufgestanden!*

I_{nom} wished_{subj-II} I_{nom} were_{perf-aux-subj-II} a-little earlier get-up_{past-part} 私は願うのだが, 私がもう少し早く起きたことを。

b. *Ich wollte, ich wäre etwas früher aufgestanden!*

I_{nom} wanted_{subj-II} I_{nom} were_{perf-aux-subj-II} a-little earlier get-up_{past-part} 私は望むのだが, 私がもう少し早く起きたことを。

【反実仮想】「～すればよかったなあ」は「私は願う・望む」を母型文とし, 「私が～した(ことを)」を埋め込み文として表すことができる。a と b は逐語訳すれば「私は願う・望むのだが, 私が少し早く起きたことを」となる。「願う・望む」の *wünschte/wollte* は接続法第2式とされるが (Duden Grammatik 2009: 521, 小学館独話大辞典 *wollen* の IIa)②, 形は過去形と同じである。

「私が～した」は完了形を使い完了の助動詞 ((15)では *sein*) を接続法第2式にする。なお, 反実仮想は従属接続詞 *wenn* を伴う条件文の形でも表せるが, これは(25)で取り上げる。

(16) あんなところに行かなければよかった。

a. *Ich wünschte, ich wäre nicht dorthin gegangen!*

I_{nom.} wished_{subj-II} I_{nom.} were_{perf-aux.subj-II} not there gone_{past-part.} 私は願うのだが、私がそこに行かなかったことを。

b. *Ich wollte, ich wäre nicht dorthin gegangen!*

I_{nom.} wanted_{subj-II} I_{nom.} were_{perf-aux.subj-II} a-little earlier get-up_{past-part.} 私は望むのだが、私がそこに行かなかったことを。

【反実仮想・前件否定】これも(15)と同様の形式で表せる。前件が肯定か否定かは関与しない。

(17) 1に1を足せば、2になる。【一般的真理】

a. *Wenn man eins und eins addiert, bekommt man zwei.*

if one_{nom.} one and one adds_{pres.} gets_{pres.} one two 1に1を足せば、人は2を得る。

b. *Eins und eins ist/sind/macht zwei.*

one and one is_{pres/are-pres./makes-pres.} two 1と1は2だ/2になる。

c. *Eins plus eins ist/sind zwei.*

one plus one is_{pres/are-pres.} two 1足す1は2だ。

【一般的真理】も条件と帰結の組み合わせで表すことができる。インフォーマントによると aのような表現も全く自然だとのことだった。他に「1足す1は2だ/になる」に当たる bやcのような表現も可能である。

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

a. *Rufen Sie mich bitte an, wenn Sie am Bahnhof angekommen sind.*

ring_{subj.} you_{nom.} me_{acc.} please up if you_{nom.} at-the station arrived_{past-part.} are_{perf-aux-pres.} 私に電話をしてください、あなたが駅に着いたら。

【仮定条件+働きかけのモダリティ】主文に働きかけのモダリティが含まれていても、仮定条件は接続詞 *wenn* による従属文で表せる。なお、文頭の *rufen* は接続法第1式で、要求を表す用法。また *rufen ... an* は *anrufen* という分離動詞で「電話をする」という意味。なお、仮定条件は前置することもできる。

b. *Wenn Sie am Bahnhof angekommen sind, rufen Sie mich bitte an.*

if you_{nom.} at-the station arrived_{past-part.} are_{perf-aux-pres.} ring_{subj.} you_{nom.} me_{acc.} please up あなたが駅に着いたら、私に電話をしてください。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

a. *Ich möchte mit euch zusammen in den Park gehen, wenn der Sonntag kommt.*

I_{nom.} would-like-to with you together into the park go_{inf.} if the Sunday comes_{pres.} 私は君たちと一緒に公園に行きたい、日曜日が来るなら。

b. *Am kommenden Sonntag möchte ich mit euch zusammen in den Park gehen.*

an-the coming Sunday would-like-to I_{nom.} with you together into the park go_{inf.} 来たる日曜日に私は君たちと一緒に公園に行きたい。

【仮定条件+願望】「日曜日が来る」ことは確実なので、*wenn* を使う仮定条件の a は不自然で、b の *am kommenden Sonntag* 「来たる日曜日に」といった前置詞句で仮定条件の代わりとするのが自然だとのこと。ただし「仮定条件+願望」という組み合わせ一般が不可能ということではなく、主文が願望を表す場合でも、「仮定条件」が適切であれば c のように自然な文となる。

c. *Ich möchte mit euch zusammen in den Park gehen, wenn das Wetter morgen schön ist.*

I_{nom.} would-like-to with you together into the park go_{inf.} if the wether_{nom.} tomorrow fine is_{pres.} 私は君たちと一緒に公園に行きたい、天気が明日良いなら。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

a. *Wenn es morgen regnet, habe/hätte ich ein Problem.*

if it_{nom.} tomorow rains_{pres.} have_{pres.}/had_{subj-II.} I_{nom.} a problem_{acc.} 明日雨が降るなら、私は困る/困るだろうなあ。

【心配】「雨が降ったら」を条件文、「困るなあ（やっかいだ<問題を持つ）」を帰結文の形で表す。条件文の動詞は直説法現在形 (*regnet*)、帰結文の動詞は直説法現在形 (*habe*) または接続法第 2 式 (*hätte*) になる。なお、条件文を後置することもできる。

b. *Ich habe/hätte ein Problem, wenn es morgen regnet.*

I_{nom.} have_{pres.}/had_{subj-II.} a problem_{acc.} if it_{nom.} tomorow rains_{pres.} 私は困る/困るだろうなあ、明日雨が降るなら。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

a. *Wenn Sie uns besuchen, rufen Sie uns bitte vorher an.*

if you_{nom.} us_{acc.} visit_{pres.} call_{subj-I.} you_{nom.} us_{acc.} please before up あなたが私たちを訪問するなら、私たちに事前に電話をしてください

【時間的前後関係に則していないナラ条件文】a は「うちに来るなら、事前に電話をしてください」ということなので、「うちに来る」は「電話をする」より後に起こることになる。このように帰結より前に起こることを表す条件「～なら」も *wenn* 条件文で表すことができる。

なお、「主題と関連のある条件形式」としては、次の b のような *wenn* の用法を挙げることができる。「ドイツ人が『今夜』と言ったら、それは…」は「ドイツ人の言う『今夜』は」と同じことで、主題提示と見なすことができる。

b. *Wenn der Deutsche „heute nacht“ sagt, so meint er damit nicht die kommende, sondern die vergangene Nacht.* (関口¹⁵1977:85)

if German_{nom.} “today night” says_{pres.} so means_{pres.} he_{nom.} with-it not the coming, but the bygone night_{acc.} ドイツ人

が「今夜」と言うのは、これから来る夜ではなく、過ぎ去った夜のことである。

特に話し言葉では、Diesem Kerl, dem werde ich nie mehr etwas ausleihen!「あの野郎には、あいつには二度とものを貸してやらないぞ！」のように、主文の定動詞 *werde* の前（前域：*dem*）のさらに前（前前域：*diesem Kerl*）で主題を提示することがあるが（Duden Grammatik⁸2009: 885），*b* でも主文の定動詞 *meint* の前（前域）に *so* 「それなら」があり，*wenn* で始まる条件文は前前域に現れていることになる。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

a. *Sagen Sie es mir bitte, wenn es klingelt.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please if it_{nom}-rings_{pres} 私にそれを教えてください、ベルが鳴ったら。

b. **Sagen Sie es mir bitte, falls es klingelt.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please in-case it_{nom}-rings_{pres} 私にそれを教えてください、もしもベルが鳴ったら。

【予想を伴った条件文】は従属接続詞 *wenn* を用いて表すことができる。なお、条件文の動詞 *klingelt* は直説法現在形である。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

a. *Sagen Sie es mir bitte, wenn es klingelt.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please if it_{nom}-rings_{pres} 私にそれを教えてください、ベルが鳴ったら。

b. *Sagen Sie es mir bitte, falls es klingelt/klingen sollte.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please in-case it_{nom}-rings_{pres}/ring_{inf}-should_{subj-II} 私にそれを教えてください、もしもベルが鳴ったら鳴るようなことがあれば。

【予想を伴わない条件文】にも *a* のように *wenn* を用いることはできるが、*b* のように従属接続詞 *falls* を用いると「予想外」という意味が明示できる。さらに話法の助動詞 *sollte* (*sollen* の接続法 2 式) を添えることで「万が一」という意味を強調することもできる。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

a. *Wer nicht arbeitet, soll auch nicht essen.*

whoever_{nom}-not works_{pres}-should_{pres}-too not eat_{inf} 働かない者は、食べるべきでもない。

【関連構文】Dal (1966: 200f.)によると、*wer* は本来、疑問代名詞「誰が？」と不定代名詞「誰かが」を兼ねていて、後者を用いた *so wer so ...* 「...する (*so ...* は関係文) そのような誰か (*so wer*)」から発達した表現だということだが、ドイツ語の授業で *wer* はまず最初に疑問代名詞として導入しているので、「誰が働かないの？」から「誰が働かないの？その人は...」を経て「働かない人は...」に転じた表現だと説明することもできる。

(25) もう少しお金があったらなあ。

Wenn ich doch/nur etwas mehr Geld hätte!

if I_{nom.} (particle)/only a-little more money_{acc.} had_{subj-II.} もし私にもう少し多くの金があ(りさえす) れば。

【言いさし・願望】 従属接続詞 *wenn* を伴う条件文の形で、述語動詞を接続法第2式 (*hätte*) にして表現できる。通常は *doch* 「やっぱり」や *nur* 「さえ」などを伴う。

(26) これも食べたら？

a. *Wenn du das hier auch mal probierst.*

if you_{nom.} this_{acc.} here too (particle) taste_{pres.} 君はこれもちよっと試したら。

b. *Wenn du das hier auch mal probieren würdest.*

if you_{nom.} this_{acc.} here too (particle) taste_{inf.} would_{subj-II.} 君はこれもちよっと試してみたら。

c. *Probier das hier auch mal!*

taste_{imper.} this here too (particle) これもちよっと試しなよ。

d. *Magst du das hier auch mal probieren?*

want-to_{pres.} you_{nom.} this here too (particle) taste_{inf.} 君はこれもちよっと試してみたい？

【言いさし・提案】 従属接続詞 *wenn* を伴う条件文の形で表現できる。定動詞は a では直説法現在形, b では接続法第2式となっている。この他にcのような命令文, あるいはdのような疑問文の形で表すこともできる。

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

a. *Du magst tun, was du willst.*

you_{nom.} may_{pres.} do_{inf.} what you want_{pres.} 君はすればよい, 君がしたいことを。

【言いさし・つき放し】 「つき放し」のニュアンスはaのように助動詞 *mögen* で表すことができる。(25)や(26)のように *wenn* を用いた条件文の言いさしでは「つき放し」のニュアンスを表すことはできない。なおbのように、助動詞 *mögen* が文頭に置かれることもある。

b. *Mag er nur gehen!* 彼が行くというなら行かしてやれ。(小学館独和大辞典)

may_{pres.} he_{nom.} only go_{inf.}

他にcの *tun und lassen können* 「することも止すこともできる」のような慣用的な表現もある。

c. *Du kannst tun und lassen, was du willst.*

you_{nom.} can_{pres.} do_{inf.} and stop_{inf.} what you want_{pres.} 君はすることも止すこともできる, 君がしたいことを。

(28) このコップは落としても割れない。

Dieses Glas zerbricht nicht, auch wenn es auf den Boden fällt.

this glass_{nom.} breaks_{pres.} not even if it_{nom.} on the floor falls_{pres.} このグラスは割れない, それが床に落ちてても。

【仮定的な逆接】 (28) のような「～しても」は *auch wenn* で始まる従属文で表せる。動詞はどちらも直説法現在形である。

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

a. *Diese Äpfel schmecken gar nicht süß, obwohl sie sehr teuer waren.*

these apples_{nom.} taste_{pres.} at-all not sweet although they_{nom.} very expensive were_{past.} これらのりんごは全然甘い味がしない、それらはとても高かったにもかかわらず。

b. *Diese Äpfel waren sehr teuer, aber sie schmecken gar nicht süß.*

these apples_{nom.} were_{past.} very expensive but they_{nom.} taste_{pres.} at-all not sweet これらのりんごはとても高かった、けれどそれらは全然甘い味がしない。

【アクチュアルな逆接】前件の「～したのに」は a のように *obwohl* で始まる従属文で表すことができる。または、b のように後件の前に並列接続詞 *aber* 「けれど」を置いて逆接関係を表すこともできる。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

a. **Obwohl ich zu ihm ging, war er nicht da.*

although I_{nom.} to him went_{past.} was_{past.} he_{nom.} not ther 私は彼の家に行ったけれど、彼はいなかった。

b. *Als ich zu ihm ging, war er nicht da.*

when I_{nom.} to him went_{past.} was_{past.} he_{nom.} not ther 私が彼の家に行ったとき、彼はいなかった。

c. *Ich ging zu ihm, aber er war nicht da.*

I_{nom.} went_{past.} to him but he_{nom.} was_{past.} not ther 私は彼の家に行った、しかし彼はいなかった。

【逆接 3】逆接は一般的に(29)a のように *obwohl* で始まる従属文で表すことができるが、「私が彼の家に行く」ことと「彼が家にいない」ことは必ずしも相反する事柄ではないので、(30)a のように従属接続詞 *obwohl* 「～にもかかわらず」を使って表すことはできない。「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」という事態は、b のように従属接続詞 *als* 「～したとき」を用いるか、c のように並列接続詞 *aber* 「しかし」を用いて表す。ただし、例えば「私は彼に頼んだ」と「彼は荷物を持って行かなかった」のように相反する二つの事柄の逆接ならば d のように従属接続詞 *obwohl* を用いることができる。

d. *Er hat das Paket nicht mitgenommen, obwohl ich ihn darum gebeten hatte.*

he_{nom.} has_{perf-aux.pres.} the packet not taken_{past-part.} although I_{nom.} him_{acc.} for-it asked_{past-part.} had_{perf-aux.past.} 彼は荷物を持って行かなかった、私は彼にそれを頼んだにもかかわらず。

参考文献

関口存男 (1977) 『独作文教程』 三修社

日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代日本語文法 第 11 部 複文』 くろしお出版。

Dal, Ingerid (1966) *Kurze deutsche Syntax. Auf historischer Grundlage.* Tübingen: Niemeyer.

Duden (2009) Die Grammatik. Mannheim/Wien/Zürich: Dudenverlag

(連用修飾的) 複文
—フランス語について—

秋廣 尚恵

1. はじめに

フランス語の連用修飾的な複文のアンケートについて、以下に、回答・コメントをまとめる。アンケートの回答にあたっては、筆者が日本語からフランス語の直訳を作成したものをフランス人2名¹に翻訳として適当か否かを確認してもらった。また、他の表現可能性があれば、指摘してもらった。

2. アンケート結果

2.1. 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。(同時動作)

同一主語による同時動作を表す場合、フランス語ではジェロンディフが用いられる。ジェロンディフとは、動詞の現在分詞に *en* が前置されたもので、主節に対し、「(同) 時」「方法」「理由」「条件」「譲歩」などの様々な意味を表す状況補語句を構成することが出来るものである。以下の例において、*en lisant le journal* はジェロンディフであり、主節の動詞 *prendre son repas* と「同時」に行われる動作を表している。

1. Il prend son repas toujours en lisant le journal.

彼 取る 彼の 食事 いつも 読む (ジェロンディフ) 定冠詞 新聞

彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

ジェロンディフの主語は主節の主語と一致してはいないという文法的制約がある。従って、主語が異なる場合には、必然的に、ジェロンディフを用いなくて、*quand* (…ときに) や *pendant que* (…間に) などを伴う時を表す従属節を用いて表現しなくてはならない。

2. La police l'a arrêté quand il passait la frontière.

定冠詞 警察 彼を 逮捕する (複合過去) トキ 彼が 通る (半過去) 定冠詞 国境

警察は彼が国境を通ろうとしたときに彼を逮捕した。

¹ インフォーマントとして、エクス・マルセイユ大学のフランス語教授法修士課程2年生、および言語学科自動言語処理専攻の博士課程3年生に在籍するフランス人学生2名に協力をお願いした。この2名は日本語科修士課程を修了しており、日仏翻訳のチェックをするのに十分な日本語力も備えている。

また、ジェロンディフの複合的完了形を用いることによって、主節動詞の前に継起する事態を表すこともできる。以下はコーヒー一杯で何時間でも居座ることができた昔のカフェの習慣を説明する文である。ここでは、ジェロンディフの完了形 *ayant commandé* を用いることによって、主節の動詞が表す動作 *pouviez rester à la même table du matin au soir* 「朝から晩まで同じテーブルにいる」に時間的に先立つ動作 *avoir commandé un café* 「コーヒーを注文した」を表している。

3. *Vous pouviez rester à la même table du matin au soir en ayant juste commandé un café*².

あなたは 出来る (半過去) 残る (原形) ニ 同じ テーブル カラ 朝 マデ 晩 ただ 注文する

(ジェロンディフ完了形) 不定冠詞男性単数 コーヒー

コーヒーを一杯注文しさえすれば、朝から晩まで同じテーブルに居座ることが出来たものだった。

ジェロンディフに関して注意しなければならないのは、主節に対する従属性が強い形式であり、状況補語的な意味(「時」、「理由」、「条件」、「譲歩」)を持つということである。従って、3の例についても、単に、2つの動詞が表わす動作の「継起性」を表しているというだけではなく、主節動詞が表わす事態「何時間でもいられる」に従属する事態としての「条件」(「コーヒーを注文したら」)を表していると解釈される。実際、このジェロンディフは「条件」を表す接続詞 *si* を伴う状況補語節に書き換えること (*si vous avez commandé un café*) が可能である。

2.2. (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました. (継起的動作・物語的連鎖)

フランス語において、継起的動作を表す場合に、よく用いられるのは独立節を列挙する方法、もしくは等位接続詞 *et* など で連結させる方法である。また、これには時制の選択も関係している。とりわけ過去時制であった場合、文学的テキストでは単純過去形、それ以外のレジスターでは複合過去形³が使用される傾向がある。

4. *Hier soir, je suis rentré chez moi à 10 heures, j'ai regardé un peu la télé et je suis allé me coucher.*

昨日 夜、私は 帰る (複合過去形) 私の家に ニ 10 時、私は 見る (複合過去形) 少し 定冠詞 テレビ ソシテ 私は 行く (複合過去形) 寝る (原型)

² フランス語の文学作品のコーパス [frantext \(www.frantext.fr\)](http://www.frantext.fr) から引用。

³ 文学的テキストの中では、半過去形が継起的動作の列挙に用いられることもあるが、そのような場合には「語りの半過去 (*imparfait de narration*)」と呼ばれる文体的な特殊な効果が表れる。

私は、昨日、10時に家に帰って、少しテレビを見てから、寝ました。

また、最初の動作を表す動詞を先ほど述べたジェロンディフに変えることも可能であるが、インフォーマントによれば、このように書き換えた場合には、「10時に家に帰るなり、少しテレビを見て、寝てしまった」という意味に解釈されるという。このような解釈が可能な背景には、ジェロンディフの主節との結びつきの強さがうかがわれる。

5. Hier soir, en rentrant chez moi à 10 heures, j'ai regardé un peu la télé, je suis allé me coucher.

昨日 夜 帰る (ジェロンディフ) ニ 私の家 ニ 10時, 私は 見る (複合過去) 少し 定冠詞 テレビ,
私は 行く (複合過去) 寝る

昨日は10時に家に帰るなり、テレビを少し見て、寝てしまった。

2.3. (私は) 昨日階段で転んで、怪我をしてしまった。(継起・理由)

「継起・理由」を表す場合に、独立節を単に並列の形式で列挙、もしくは等位接続詞によって結び付けてもいいし (6)、理由を表す接続詞 *parce que* を使用し従属節の形で連結させてもいいし (7)、ジェロンディフにしてもいい (8)。連用修飾句、連用修飾節の主節への統語的な従属性という点で言えば、(6) < (7) < (8) ということになるだろう。つまり、ここでは、従属性の低いほうが「継起性」の意味をより強く表し、従属性の高い方が、「理由」の意味をより強く表すという傾向が観察されるように思われる。

6. Hier je suis tombé dans les escaliers, (et) je me suis blessé.

昨日 私は 転ぶ (複合過去) で 定冠詞 階段 等位接続詞 私は けがをする (複合過去)
私は昨日階段で転んで、怪我をってしまった。

7. Je me suis blessé parce que je suis tombé dans les escaliers.

私は 怪我をする (複合過去) カラ 転ぶ (複合過去) デ 定冠詞 階段
私は昨日階段で転んで、怪我をってしまった。

8. Je me suis blessé en tombant dans les escaliers.

私は 怪我をする (複合過去) 転ぶ (ジェロンディフ) デ 定冠詞 階段
私は昨日階段で転んで、怪我をってしまった。

2.4. 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。(異主語)

先ほども指摘したように、ジェロンディフは異主語の場合には使用することができないので、2つの独立節を並列するか (9)、従属節により接続する (10)。10において、使用さ

れる従属接続詞には, *quand* (…ときに), *pendant que* (…間に), *alors que* (…一方で), *tandis que* (…一方で) などがある.

9. *Aujourd'hui aussi, mon père est allé au travail, (et) mon grand frère, à l'université.*

今日 も, 私の 父 行く (複合過去), (ソシテ) 私の 大きい 兄弟, ニ 大学
今日も父は会社に行つて, 兄は大学に (行つた) ⁴.

10. *Aujourd'hui aussi, mon père est allé au travail alors que mon grand frère est allé à l'université.*

今日 も 私の 父 行く (複合過去) ガ, 私の 大きい 兄弟 行く (複合過去) ニ 大学
今日も父は会社に行つて, 兄は大学に行つた.

2.5. (あの人は) 今日 は 帽子 を かぶつて 歩いて いた. (付帯状況)

付帯状況で, 主語の服装や持ち物, 体の一部などに関わるものは, それらを表す名詞句に連体修飾語 (形容詞句や前置詞句) を, 両者を関係づける動詞 (多くの場合はコンピュータ動詞あるいはそれに準ずる動詞) を介さず, 直接並置して表現する二次的叙述構文 (結果構文) が用いられる. ジェロンディフは使われない.

11. *Aujourd'hui, il marchait avec un chapeau sur la tête.*

今日, 彼は 歩く (半過去) ト 帽子 の 上に 定冠詞単数女性 頭
今日, 彼は帽子をかぶつて歩いて いた.

12. *Le bébé marche les bras en l'air.*

定冠詞単数男性 赤ちゃん 歩く (現在) 定冠詞複数男性 ニ 空気に
赤ちゃんは両手を上にあげて歩く.

2.6. (私は) 休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています. (並列)

並列の構文では, 単独に独立節を並置する場合もあるが, 並列構文のマーカーとなる副詞 (*tantôt...tantôt...ある時は...ある時は...*) もよく使用される.

13. *Les jours de congés, tantôt je lis, tantôt je regarde la télé.*

定冠詞複数男性 日 の 休み, …タリ 私は 読む, …タリ 私は 見る 定冠詞単数女性 テレビ
休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています.

⁴ 仏訳では, *est allé* (行つた) は繰り返しになるので, 省略する方がよい.

2.7. 時間がないから、急いで行こう。(理由・カラ)

理由節を導く従属節については、*car* 節、*comme* 節、*parce que* 節、*puisque* 節の4つがあるが、それらのいずれもが、文末にモダリティを持った発話に対し、その発話を行った根拠を述べる、あるいは正当化をするという発話行為を行う用法を持つことが可能である。もちろん、これら4つのそれぞれのニュアンスや用法には違いがあるが、その違いについては、ここでは紙面の都合上論じない。また、平叙文以外のモダリティを伴う主節には、ジェロンディフは結び付くことが出来ない。

14. Dépêchons-nous, car nous avons peu de temps !

急ごう、カラ 私たちは 持つ わずか ノ 時間
時間がないから、急いで行こう。

15. Comme nous avons peu de temps, dépêchons-nous !

カラ 私たちは 持つ わずか ノ 時間、急ごう！
時間がないから、急いで行こう。

16. Dépêchons-nous, parce que nous avons peu de temps !

急ごう、カラ 私たちは 持つ わずか の 時間！
時間がないから、急いで行こう！

17. Puisque nous avons peu de temps, dépêchons-nous !

カラ 私たちは 持つ わずか の 時間、急ごう！
時間がないから、急いで行こう！

2.8. 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。(理由・ノデ)

伝統的研究、規範文法書などでは、2つの「命題」⁵を結び付け、客観的に主節と従属節の間に成り立つ因果関係を述べるのは、*parce que* 節が持つ本来の機能であると言われてきた。実際、インフォーマントによれば、*parce que* を使った場合には、話者の価値判断や態度を含まない、ニュートラルで、客観的な因果関係を表している印象を受けるといふ。また、このような *parce que* 節はジェロンディフ (*en ayant des maux de tête*) や前置詞句 (*à cause de maux de tête*) などにより書き換えが可能である。

⁵ 統語論レベルで定義される補語節のこと。「命題 (proposition)」の表すものは事実的な意味内容である。談話の単位としての「発話 (énoncé)」及び「発話行為 (énonciation)」から区別して考える。

18. Hier, je me suis couché plus tôt que d'habitude, parce que j'avais des maux de tête.

昨日、私は 寝る (複合過去) もっと 早く ヨリ いつも、カラ 私は 持つ (半過去) 不定冠詞 痛み ノ 頭
昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

また、2.7.に見たように、実際には「発話」を結び付けることができる *parce que* 節というものも存在する。2.7.タイプの *parce que* 節は、辞書や規範文法書などでは、非規範的な例、話し言葉に特有の機能拡張された *parce que* 節の例として扱われている。

しかし、実際には話し言葉に観察される *parce que* 節の8割近くが2.7タイプである。記述文法的な観点から見ると、現代フランス語における *parce que* 節は、2.7. タイプも2.8. タイプも両方カバーすることができる非常に多機能的な、ある意味オールマイティ的な理由節のマーカールになっていると言える。

また、*puisque* については、2つの「命題」を結び付けるのではなく、むしろ、2つの「発話」ないしは「発話行為」を結び付ける機能があり、主節を表す「発話」や「発話行為」に対する、正当化や、根拠の表明を行うものであると言われている。実際、インフォーマントによれば、*puisque* を使用した場合には、*parce que* を使用した時には現れなかった、話者の主観的な判断や態度といったニュアンスが感じられるという。日本語にあえて訳すならば、「頭が痛かったんだから (仕方ない. 当然だ)」といった意味になるだろう。

19. Hier, puisque j'avais des maux de tête, je me suis couché plus tôt que d'habitude.

昨日、カラ 私は 持つ (半過去) 不定冠詞 痛み ノ 頭、私は 寝る (複合過去) もっと 早く ヨリ
いつも
昨日は頭が痛かったから、いつもより早く寝てしまった。

また、*car* については、因果関係を表すという点では、*parce que* や *puisque* と同じであるが、*parce que* や *puisque* が従属接続詞であるのに対し、*car* は、*et* (そして)、*mais* (しかし) と同様の等位接続詞であるという点で異なる。*Car* は本来、独立した節を導く機能を持っている。Ducrot (1983) によれば、*car* が談話内に導入するのは、発話者が発話時点において行う「発話行為」なのであって、「命題」ではないという。

20. Hier, je me suis couché plus tôt que d'habitude, car j'avais des maux de tête.

昨日、私は 寝る (複合過去) もっと 早く ヨリ いつも、ナゼナラ 私は 持つ (半過去) 不定冠詞
痛み ノ 頭
昨日、いつもより早く寝た。というのも、頭が痛かったんです。

Car は疑問文や感嘆文などの平叙文以外のモダリティや発話遂行的なマーカ―が表れる独立節を導くことが可能である。Puisque 節の内部にはそうしたマーカ―は表れにくい。Puisque が既に発せられた発話を談話に(再)導入しているに過ぎないのに対し、car は、発話時点において発話者が生成する発話行為そのものを導入することが出来る点で大きく機能が異なる。また、Car はレジスターという点でいえば、フォーマルな書き言葉、あるいはフォーマルな話し言葉にもっぱら観察される接続詞であることも指摘しておきたい。話し言葉、とりわけインフォーマルな日常会話では、car が表れることはほとんどない。その代わりに、用いられるのが、先ほど述べた 2.7 タイプの *parce que* なのである。話し言葉において、car は *parce que* によって取って代われつつあると言われている。もちろん car が話し言葉から完全に駆逐されてしまったわけではなく、話し言葉で、丁寧で格式ばったスタイルを表示する一つ的手段として、car は使用され続けているのである。

最後に、comme 節であるが、基本的に主節の前に表れにくい *parce que* 節の代わりに、主節の前に理由節を置く手段として、一般に用いられるのが、comme 節である。

21. Hier, comme j'avais des maux de têtes, je me suis couché plus tôt que d'habitude.

昨日、ノデ 私は 持つ(半過去) 不定冠詞 痛み の 頭、私は 寝る(複合過去) もっと 早く いつも
昨日は、頭が痛かったので、いつもより早く寝てしまった。

2.9. あの人は本を買いに行った。(趣向/移動の目的)

移動の目的を表す構文は、移動動詞 *aller* (行く)、*venir* (来る) の後に不定詞句を続けることが普通である。

22. Il est allé acheter des livres.

彼は 行く(複合過去) 買う 不定冠詞 本
彼は本を買いに行った。

以上の例において、目的句を *pour* (…ために) という前置詞によって導入することもできそうであるが、インフォーマントによれば、*il est allé pour acheter des livres* は不自然であるという。その場合には、移動動詞 *aller* を *sortir* にする。*Il est sorti pour acheter des livres*。このように、不定詞句に *pour* を入れるか入れないかは、個々の動詞が取りうる構文的特徴による。

2.10. (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。(目的・意図)

フランス語において、目的・意図を示す従属節は接続法を取るが、この例の場合には、主節の主語と従属節の主語が一致してしまうので、前置詞句を用いなくてはならない。

23. Il a ouvert la fenêtre pour bien voir l'extérieur.

彼は 開ける (複合過去) 定冠詞 窓 タメニ よく 見える (原形) 定冠詞 外
彼は外がよく見えるように窓を開けた。

24. Il a ouvert la fenêtre pour que sa femme puisse voir l'extérieur.

彼 開ける (複合過去) タメニ (接続詞) 彼の妻 できる (接続法) 見える (原形) 定冠詞 外
彼は外がよく見えるように窓を開けた。

2.11. ここでは夏になるとよく雨が降ります。(恒常的条件)

恒常的条件を表す場合には条件節ではなく、時を表す副詞節 *quand* を用いるのが普通である。

25. Il pleut beaucoup ici, quand commence l'été.

非人称主語 雨が降る たくさん ここでは、時 始まる 定冠詞 夏
ここでは、夏になるとよく雨が降る。

2.12. 窓を開けると、冷たい風が入って来た。(確定条件・生起)

確定条件・生起についても、通常は時や理由を表す副詞節を用いる。

26. Quand on a ouvert la fenêtre, le vent froid est entré.

時 不定主語 開ける (複合過去) 定冠詞 窓, 定冠詞 風 冷たい 入る (複合過去)
窓を開けると、冷たい風が入って来た。

27. Comme il a beaucoup travaillé, il a réussi son examen.

ノデ 彼 たくさん 勉強する (複合過去), 彼は 成功する (複合過去) 彼の 試験
彼はたくさん勉強したので、試験に合格した。

2.13. 坂を上ると、海が見えた。(確定条件・発見)

確定条件で、事態の発見を主節にとる場合にも、時を表す副詞節によって表す。

28. Quand on monte la pente, on voit la mer.

時 不定主語 上る (現在形) 定冠詞 坂, 不定主語 見える 定冠詞 海
坂を上がると、海が見えた。

2.14. 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。(仮定条件)

仮定条件は、si 節を用いる。この場合、未来についてのごく一般的な仮定条件であるので、直説法現在形を用いる。

29. S'il pleut demain, je n'irai pas là-bas.

モシ 非人称 雨が降る (直説法現在) 明日, 私は 否定 行く (未来形) 否定 そこに
明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

2.15. もっと早く起きればよかったなあ。(反実仮想)

実現しなかった過去の事態について述べる場合には、条件法過去形を用いる。またこの場合には、すべきことをしなかったことに対する後悔を表している。このような場合には、devoir (…するべきだ) の条件法過去形を用いるのが常である。

30. J'aurais dû me lever plus tôt.

私は しなくてはならない (条件法過去) 起きる (原形) もっと 早く
もっと早く起きればよかったなあ。

2.16. あんなどころに行かなければよかった。(反実仮想・前件否定)

過去に起こったことについて「するべきではなかった」という後悔を表す場合には、devoir 条件法過去形の否定形を用いる。

31. Je n'aurais pas dû aller à un tel endroit.

私は するべきだ (条件法過去・否定) 二 不定冠詞 あんな 場所
あんなところに行かなければよかった。

2.17. 1に1を足せば、2になる。(一般的真理)

論理学や数学などで問題になるような、いわゆる論理的仮定条件については、si を使うが、このような簡単な四則計算については、si を使わないで述べることが多い。

32. Si on ajoute 1 à 1, cela donne 2.

モシ 不定主語 足す 1 二 1, それは 与える (になる) 2
1に1を足せば、2になる。

33. 1 et 1, cela fait 2.

1と1, それは する (になる) 2

1 と 1 を足すと 2 になる。

ちなみに、インフォーマントによれば、 $1+1=2$ という数式を読む場合には、

34. 1 plus 1 égale 2

1 プラス 1 イコール 2

1 プラス 1 イコール 2

と読むが、これは、あくまで数式に対応した「読み方」であるので、読み方を文字化したものを見ると奇異に感じるという。

2.18. 駅に着いたら電話をしてください。(仮定条件+働きかけのモダリティ)

フランス語では、働きかけのモダリティがある場合にもそうでない場合にも、仮定条件を表す *si* 節を用いることができる。ただし、このような文については、仮定条件を用いては表現しない。モダリティの問題というよりは、「仮定条件」そのものが持つ意味的な制約による。フランス語では、このような例は「駅に着いた時点で電話をする」という事態を表現すると捉え、むしろ、「時」の条件節を用いる。

35. Appelez-moi, quand vous arrivez à la gare.

電話する (命令形) 私に、トキ あなたが 到着する 二 定冠詞 駅

駅に着いたら電話をしてください。

2.19. 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。(仮定条件+願望)

「日曜日になったら」を仮定条件節にすることはまれで不自然であるので、ここでは仮定条件節にせず、*dimanche* としておく。だが、一般に、仮定条件節は、願望のモダリティを持った主節と共起することが出来る (例えば、36 に *S'il faisait beau* 「もし天気がよかったら」という仮定条件節を付けることは全く問題がない)。

36. J'aimerais aller au parc avec tout le monde dimanche.

私は したい (条件法現在) 行く (原形) 二 公園 と みんな 日曜日

日曜日になったら、みんなと公園に行きたいなあ。

2.20. 明日雨が降ったら困るなあ。(心配)

「心配」を表すのに特化した形式は存在しない。様々な表現が可能であると思われるがここでは、きわめて直訳的に以下のフランス語の例を挙げておく。

37. Je serais embêté, s'il pleuvait demain.

私は 困らせる (受動態・条件法現在), モシ 非人称 雨が降る (半過去) 明日
明日雨が降ったら困るなあ.

2.21. 家に来るなら, 電話をしてから来てください. (時間的前後関係に則していないナラ条件文)

このような場合には, si 節を用いるのが普通である.

38. Si vous venez chez moi, appelez-moi à l'avance.

モシ あなたが 来る 私のうちに, 電話する (命令) 私に 二 前もって
家に来るなら, 前もって電話をして下さい.

日本語では, 「家に来るなら, 電話をしてから来て下さい」は自然な文であるが, これをフランス語に直訳したもの *Si vous venez chez moi, appelez-moi et (ensuite) venez* は非常に不自然な文であるとインフォーマントたちは指摘する.

2.22. [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら, 教えてください. (予想を伴った条件文)

このような場合には, 時の副詞節として表現をする.

39. Quand la cloche sonne, prévenez-moi.

トキ 定冠詞 ベル 鳴る, 教える (命令形) 私に
ベルが鳴ったら, 教えてください.

2.23. [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら, 教えてください. (予想を伴わない条件文)

このような場合には si 節を用いて表す.

40. Si la cloche sonne, prévenez-moi

モシ 定冠詞 ベル 鳴る, 教える (命令形) 私に
もしベルが鳴ったら, 教えてください.

2.24. 働かざるもの食うべからず. / 働かない者は, 食べるべきではない. (相関関係)

一般的には, 41 のように表現するが, ことわざなどの特殊な文体では 42 のように関係節の先行詞がない表現もある.

41. *Ceux qui ne travaillent pas ne doivent pas manger.*

不定の人 関係詞 働く (現在形・否定) しなくてはならない (現在形・否定) 食べる
働かないものは食べてはならない.

42. *Qui ne travaille pas ne mange pas.*

関係詞 働く (現在形・否定) 食べる (現在形・否定)
働かざるもの食うべからず.

2.25. もう少しお金があったらなあ. (願望・言い差し)

いわゆる日本語学で用いられる「言い差し」という概念はフランス語では存在しないが、類似した現象として、フランス語学では、*subordonnée orpheline* (主節がない孤兒的な従属節のこと) と呼ばれる現象がある。脱従属節化した多くの従属節に関しては、本来従属節の持つ意味の「漂白化」が進んでいるものが観察されるが、特定のモダリティ的な意味(「願望」や「勧誘」など)の「憑依」にまでプロセスが進んでいるのは、おそらく *si* 節だけではないだろうか。

43. *Si j'avais encore plus d'argent!*

モン 私は 持つ (半過去) さらに もっと ノ お金
もっとお金があったらなあ!

2.26. これも食べたら? (勧誘・言い差し)

Si 節の *subordonnée orpheline* の例である。動詞は半過去形で、主節を伴わず独立して現れ、「勧誘」を表す。

44. *Si vous preniez ça aussi ?*

モン あなたは 取る (半過去) それ も
これも食べたらどうですか.

2.27. やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば? (つきはなし)

「つきはなし」を表すような *subordonnée orpheline* は見つからなかった。必ず命令形で表される主節を伴う。

45. *Si tu veux le faire, fais le comme tu veux.*

モン 君が 欲する それ する, する (命令) それ ノヨウニ 君が 欲する
そうしたいなら、好きなようにしろ.

2.28. このコップは落としても割れない. (仮定的な逆接)

仮定的な逆接は, *même si*, もしくは *si* によって表すことが出来る.

46. Ce verre ne casse pas même s'il tombe par terre⁶.

この グラスは 壊れる (否定) テモ それが おちる 地面に
このコップは落ちてても割れない.

2.29. このリンゴは高かったのに, ちっとも甘くない. (アクチュアルな仮定)

「*bien que*+接続法」を用いる.

47. Cette pomme n'est pas sucrée, bien qu'elle coûte très cher.

このリンゴ である (否定) 甘い, ノニ それ かかる とても 高い
このリンゴは高いのにもかかわらず 甘くない.

2.30. 彼の家に行ってみたけれども, 彼はいなかった. (異主語の逆接)

異主語であるかどうかはさておき, このような場合には, 独立節を逆接の等位接続詞 *mais* によって結び付ける方がよい. その理由は, 「彼の家に行った」という事態と「彼がいなかった」という事態は必ずしも命題の客観的事実内容の逆接ではないからであると考えられる. 「彼の家に行った」ということは「彼がいるだろうと思っていた」ことを含意している. その語用論的推論によって支えられて「彼はいなかった」を逆接によって結び付ける. このような語用論的推論をも含む逆接は, 独立節の結びつきによるしか表現できないであろう.

48. Je suis allé chez lui, mais il n'était pas là.

私は 行く (複合過去) 家に 彼, シカシ 彼は いる (否定) そこに
私は彼の家に行ったが, 彼はいなかった.

2.31. あの人があるまで, 私はここで待っています. (時間的制限)

ある時点までずっと継続する事態を表す場合には, *jusqu'à ce que* を用いる. 接続法を用いる.

⁶ Ce verre ne casse pas même si on le fait tomber. (このコップは (不定主語が) 落としても割れない) というように異主語の主節と従属節を結び付けても構わない.

49. J'attends ici jusqu'à ce qu'il vienne.

私は 待つ ここで マデ 彼が 来る (接続法)

私は 彼がここに来るまで待っています.

2.32. あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。(時間的制限)

ある時点の前に完了する動作を示す場合には、「avant que + 接続法」を用いる.

50. Je préparerai le repas avant qu'il vienne.

私は 支度する 定冠詞 食事 ノマエニ 彼が 来る (接続法)

私はあの人がある前に食事を作っておきます.

3. おわりに

以上がアンケートの回答である。「節 (proposition / clause)」という言語形式によって表される単位には、3つのステータスがある。すなわち、「命題」「発話」「発話行為」である。接続詞 (もしくはコネクター) が結び付けている2つの要素が、どのステータスを持ったものであるかに応じて、接続詞 (コネクター) の機能やそれぞれの守備範囲なども変わってくるという点はフランス語にもよく観察されることが分かった。しかし、それぞれの節がどのステータスを持つのかを判断することは実は非常に困難である。モダリティを示す形式 (疑問文・命令文など) や発話行為的なマーカーがはっきり表れている場合にはそのような問題はあまりないものの、そうした形式が明示されていない場合、とりわけ、語用論的推論やその推論から導かれるニュアンスしか手がかりがない場合には、日本人には区別が難しく、インフォーマントの直感的説明にアンケートを頼らざるを得ない。どこまで客観的な基準によって、3つのステータスを見分けるか、それを見分けるための制約をあまりだせるかという点を今後の研究の課題としたい。

接続法の使用については、フランス語は基本的に語彙的・統語的制約により、ある程度接続法を用いなくてはならない形式が決まりきっている部分が多い。ただし、そうした制約がなく、直説法と接続法の両方が可能である場合には文脈的な意味や発話者の表現意図もそれぞれの選択に影響を加えることになる。

「言い差し」に比較しうる現象として、*subordonnée orpheline* を挙げたが、その中でも脱従属節化が進み、凝結表現として慣用化している条件節の例が観察された。このような現象は、昨今、フランス語学でも多くの研究者の注目を集めている。今後の研究成果が期待される分野である。

〈特集「(連用修飾的) 複文」〉

イタリア語

西澤 藍

今回のアンケートの狙いは「動詞連続の諸タイプによる複文の形成のバリエーションを対照」するとのことなので、イタリア語において定形の動詞を接続詞で繋いだ文やジェルンディオや過去分詞といった動詞の不定形を用いた文など、できるだけ様々なタイプの文を提示するよう努めた（とはいえあらゆる可能性を網羅したものではないことは予めお断りしておく）。

なお、今回のアンケート回答にあたっては2名のイタリア語話者の協力を得た。2名とも大学で日本語を専攻する留学生である。時間の都合上、1名にはアンケートの日本語を執筆者が伊訳したものを訂正してもらい、場合によってはさらなる指摘をもらった（ここでは便宜上Aの話者としておく）。そしてもう1名には日本語の文を見て伊訳してもらうという形をとった（Bの話者とする）。どれがそれぞれの話者から得られた文かは伊文の後に括弧でAかBかで示してある。(31)と(32)に関しては諸事情によりBの回答のみとなっている。

伊文には簡単に語の意味や文法範疇などを記したが、動詞に関しては断りが無い限り直説法である。略号は、現=現在形、未=未来形、条=条件法、接=接続法、命=命令法、受=受動、1=1人称、2=2人称、3=3人称、単=単数、複=複数、接=接続詞、副=副詞、代=代名詞、定冠=定冠詞、不定冠=不定冠詞、部分冠=部分冠詞、前=前置詞、疑=疑問詞

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. Lui mangia sempre mentre legge il giornale. (A,B)

彼は 食べる (現3単) 副「いつも」 接「～する間」 読む (現3単) 定冠 新聞

b. Lui mangia sempre leggendo il giornale. (A,B)

彼は 食べる (現3単) 副「いつも」 読む (ジェルンディオ) 定冠 新聞

接続詞 *mentre* 「～している間」を用いた文と同時性を表すジェルンディオを用いた文の両方が可能である。意味に大きな違いはないが、接続詞を用いた形のほうがよく用いられるとのことだった。

(2) (私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

a. Ieri sono tornato a casa alle 10, ho guardato un po' la TV

昨日 帰る (近過去1単) 家に 10時に 見る (近過去1単) 少し 定冠 テレビ

e poi sono andato a letto. (A)

接「そして」 接「それから」 行く (近過去1単) ベッドに

b. Ieri dopo essere tornato a casa alle 10, ho guardato un po' la TV

昨日 接「～した後」 帰る (不定詞複合) 家に 10時に 見る (G(過去1単) 少し 定冠 テレビ
e poi sono andato a letto. (A)

接「そして」 接「それから」 行く (G(過去1単) ベットに

c. Ieri sono tornato a casa alle 10 e dopo aver guardato un po' di tv

昨日 帰る (G(過去1単) 家に 10時に 接「そして」 接「～した後」 見る (不定詞複合) 少し 前「～の」 テレビ
mi sono addormentato. (B)

眠りにつく (G(過去1単)

(2a)は「～して、～して、それから～した」と、3つの文をすべて等位接続詞でつないでいる。その際、英語と同様に最後のもの以外は省略される。(2b)と(2c)はどちらも dopo+不定詞複合形を用いて「～した後...」を表現したもので、どこにこの形が用いられているかの違いはあるものの、基本的には同じ構造である。

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

a. Ieri sono caduto dalle scale e mi sono fatto male. (A,B)

昨日 転ぶ (G(過去1単) 階段から 接「そして」 怪我をする (G(過去1単)

b. Ieri cadendo dalle scale mi sono fatto male. (A,B)

昨日 転ぶ (ジェルンディオ) 階段から 怪我をする (G(過去1単)

(3a)は原因・結果を等位接続詞で繋いだもの。(3b)はジェルンディオが用いられておりここでは原因・理由の用法である。

(4) 今日父は会社に行き、兄は大学に行った。

a. Anche oggi mio padre è andato in ufficio mentre mio fratello è andato

～も 今日 私の 父 行く (G(過去3単) オフィスに 接「その一方で」 私の 兄 (弟) 行く (G(過去3単)
all'università. (A)

大学に

b. Anche oggi mio papà è andato al lavoro e mio fratello in università. (B)

～も 今日 私の パパ 行く (G(過去3単) 仕事に 接「そして」 私の 兄 (弟) 大学に

(4a), (4b)は用いられている接続詞は異なるものの、基本の構造は同じである。(4b)の場合には andare 「行く」という同一の動詞の繰り返しを避けて二つ目は省略されている。

この場合にはジェルンディオなどを使用することはできない。

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた.

a. Oggi lui camminava con il cappello (in testa) .(A)

今日 彼は 歩く (半過去3単) 前「〜と」 定冠 帽子 頭に

b. Oggi lui camminava portando un cappello. (A,B)

今日 彼は 歩く (半過去3単) 持つ (ジェルンディオ) 不定冠 帽子

(5a)は「帽子をかぶって」というのを前置詞 con 「〜とともに」を使って表したもので、(5b)は様態を表すジェルンディオを用いたものであるが、どちらの場合にも「帽子をかぶって」という部分に特別に強調が置かれるようだ。またいずれも文脈がないと理解しづらいとの指摘も受けた。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています.

a. Nei giorni di vacanza, di solito leggo oppure guardo

前「〜において」+定冠 日 前「〜の」 休み たいてい 読む (現1単) 接「または」 見る (現1単)

la TV. (A)

定冠 テレビ

b. Nei giorni di vacanza, di solito leggo e guardo

前「〜において」+定冠 日 前「〜の」 休み たいてい 読む (現1単) 接「そして」 見る (現1単)

la TV. (B)

定冠 テレビ

c. I giorni di vacanza di solito li trascorro leggendo

定冠 日 前「〜の」 休み たいてい 代「それらを」 過ごす (現1単) 読む (ジェルンディオ)

e guardando la TV. (B)

接「そして」 見る (ジェルンディオ) 定冠 テレビ

(6a), (6b)ともに等位接続詞を用いて二つの定形動詞を繋いでいる。(6c)はやや複雑な構造で、直接目的語をテーマとして文頭に置きたいいわゆる左方転位構文である。そしてどのように休みの日を過ごすかが様態としてジェルンディオで表されている。だが二つの不定形の動詞が、等位接続詞で繋がれている点は前2つと共通している。

(7) 時間がないから、急いで行こう.

a. Sbrighiamoci perché non abbiamo tempo. (A)

急ぐ (命1複) 接「なぜなら」 否定 持つ (現1複) 時間

b. Non c'è tempo, quindi sbrighiamoci e andiamo. (B)

否定 ある (現3単) 時間 接「それゆえ」 急ぐ (命1複) 接「そして」 行く (命1複)

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. Siccome ieri avevo mal di testa, sono andato a letto più presto

接「～なので」 昨日 持つ (半過去1単) 頭痛 行く (近過去1単) ベットに もっと 早く
del solito. (A)

いつもより

b. Ieri sono andato a dormire prima del solito perché avevo

昨日 行く (近過去1単) 前「～に」 眠る (不定詞) 前に いつもより 接「なぜなら」 持つ (半過去1単)
mal di testa. (B)

頭痛

c. Ieri avendo avuto mal di testa, sono andato a letto più presto del solito. (A,B)

昨日 持つ (ジェルンディオ複合) 頭痛 行く (近過去1単) ベットに もっと 早く いつもより

(8a), (8b)は接続詞の違いにより主節が先に来るか従属節が先に来るかが異なる以外には大きな違いは見られない。(8c)ではジェルンディオの複合形が用いられ、原因・理由を表すとともに、複合形であることによって主節の内容よりも時間的に前であることがはっきりと分かる。Bの話者によると単純形のジェルンディオを用いることも可能。

(9) あの人は本を買いに行った。

Lui è andato a comprare dei libri. (A,B)

彼は 行く (近過去3単) 前「～に」 買う (不定詞) 部分冠 本

Andare 「行く」 + 前置詞 a + 不定詞で「～しに行く」。

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

Ha aperto la finestra per (poter) guardare meglio fuori. (A,B)

開ける (近過去3単) 定冠 窓 前「～するために」 ～できる (不定詞) 見る (不定詞) よりよく 外

目的の部分 **perché** 「～するために」などの接続詞を用いて従属節として表すことも理論的には可能である。その場合、従属節中では動詞は接続法が用いられる。ただしこの例のように主節の主語と従属節の主語が同じ場合には普通用いられない。

(参考) Ho aperto la finestra perché lui potesse guardare meglio fuori.

開ける (近過去1単) 接「～するために」 彼 ～できる (条件過去3単)

私は彼が外を良く見られるように窓を開けた (=彼のために私が窓を開けた)。

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

a. Quando è estate, qui piove spesso. (A)

接「～するとき」 ～である (現3単) 夏 ここで 雨が降る (現3単) よく

b. Qui quando arriva l'estate piove spesso. (B)

ここで 接「～するとき」 着く (現3単) 定冠 夏 雨が降る (現3単) よく

c. In estate qui piove spesso. (A)

前「～において」 夏 ここで 雨が降る (現3単) よく

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

a. Quando ha aperto la finestra, è entrata dell'aria fredda. (A)

接「～するとき」 開ける (近過去3単) 定冠 窓 入る (近過去3単) 部分冠 空気 冷たい

b. Aperta la finestra, è entrato un vento gelido. (B)

開ける (過去分詞) 定冠 窓 入る (近過去3単) 不定冠 風 冷たい

c. Aprendo la finestra, è entrato un vento gelido. (B)

開ける (ジェルンディオ) 定冠 窓 入る (近過去3単) 不定冠 風 冷たい

(13) 坂を上ると、海が見えた。

a. Dopo aver fatto la salita, ho visto il mare. (A)

接「～した後」 する (不定詞複合) 定冠 坂を上ること 見る (近過去1単) 定冠 海

b. Percorsa la salita, si è visto il mare. (B)

通る (過去分詞) 定冠 坂を上ること 見る (受・近過去3単) 定冠 海

c. Percorrendo la salita, si è visto il mare. (B)

通る (ジェルンディオ) 定冠 坂を上ること 見る (受・近過去) 定冠 海

(12b)(13b)のように過去分詞を用いた場合と(12c)(13c)のようにジェルンディオを用いた場合では意味がやや異なる。前者では主節の動詞が表す出来事より前に動作が完了しており、「窓を開ける」→「風が吹き込む」というような動作の時間的な前後関係がある。それに対し後者ではまさに「窓を開ける」という動作が行われている瞬間に風が吹き込んできたという同時性が含有されている。

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

Se domani pioverà, io non ci andrò. (A,B)

接「もし」 明日 雨が降る (未3単) 私は 否定 代「そこに」 行く (未1単)

実現可能性の高い条件文においては条件節、帰結節ともに直説法の時制が用いられる。その際

には様々な時制の組み合わせがあり得る。例えば条件節と帰結節が〈現在形+現在形〉, 〈現在形+未来形〉, 〈未来形+未来形〉の他, 文脈に応じて〈近過去+現在形〉, 〈近過去+未来〉, 〈近過去+近過去〉なども可能である。また現在形を使う場合と未来形を使う場合に関してだが, どちらの場合もこれから起こり得る未来の事柄についての仮定であり, 意味としては大きな差はない。(22)に関しても同様である。

ちなみに実現可能性の低い仮定あるいは非現実的な仮定に基づく条件文では一般に, 条件節で接続法半過去, 帰結節では条件法現在が用いられる。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

a. Sarebbe stato meglio se mi fossi alzato prima. (A,B)

～である(条過去3単) よりよく 接「もし」 起きる(接大過去1単) 早く

b. Se solo mi fossi svegliato prima. (B)

接「もし」 副「〜だけ」 目が覚める(接大過去1単) 前に

c. Svegliandomi prima sarebbe stato meglio. (B)

目が覚める(ジェルンディオ) 前に ～である(条過去3単) よりよく

(16) あんなところに行かなければよかった。

Sarebbe stato meglio se non ci fossi andato. (A,B)

～である(条過去3単) よりよく 接「もし」 否定 代「そこに」 行く(接大過去1単)

過去の事実に反する仮定に基づく条件文では条件節で接続法大過去, 帰結節で条件法過去となる。(15c)では条件節の部分にジェルンディオが用いられ, 仮定を表している。

なお,(15a)および(16)のどちらの場合も Sarebbe stato meglio se...の se の代わりに名詞節を導く che を置くことも可能である。イタリア語話者に確認したところ, che を用いた場合でも意味的に大きな差は感じられないとのことだった。

(17) 1に1を足せば, 2になる。

a. Uno più uno fa due. (A)

1 + 1 作る(現3単) 2

b. Aggiungendo 1 a 1, fa 2. (B)

加える(ジェルンディオ) 1 前「〜に」 1 作る(現3単) 2

c. Se aggiungo 1 a 1, fa 2. (B)

接「もし」 加える(現1単) 1 前「〜に」 1 作る(現3単) 2

d. Quando aggiungo 1 a 1, fa 2. (B)

接「〜するとき」 加える(現1単) 1 前「〜に」 1 作る(現3単) 2

(17c), (17d)ではこれらの文を答えてくれた話者によると、強調あるいは皮肉といったニュアンスが加わるとのことだった。1 + 1 = 2というのは一般的真理であるので、わざわざ「もし」という仮定条件を言うからには何か特別な理由が必要になってくるというのが理由だと思われる。

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

a. Quando arriva in stazione, mi chiami per favore. (B)

接「～するとき」 着く (現3単) 駅に 私を 呼ぶ (接現3単) お願いします

b. Una volta arrivato alla stazione, mi chiami. (A)

一度 着く (過去分詞単) 駅に 私を 呼ぶ (接現3単)

イタリア語には2人称に親称(tu)と敬称(Lei)があり、ここでは敬称が用いられている。敬称の場合は動詞は3人称単数に活用する。また命令の場合、独自の形態はなく、接続法現在3人称単数と同形になる。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

a. Domenica andremmo al parco insieme. (A)

日曜日 行く (条現1複) 公園に 一緒に

b. Domenica vorrei che andassimo al parco insieme. (A)

日曜日 望む (条現1単) ～ということを 行く (接現1複) 公園に 一緒に

c. Domenica, vorrei andare tutti insieme al parco. (B)

日曜日 望む (条現1単) 行く (不定詞) みんな 一緒に 公園に

「日曜日になったら」という部分は条件としては扱われず、単に「日曜日には」という時を示す表現に置き換えられている。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

a. Se domani piove, sarà un bel problema. (B)

接「もし」 明日 雨が降る (現3単) ～である (未3単) 不定冠 美しい 問題

b. Come facciamo se domani piove? (A)

疑「どのように」 する (現1複) 接「もし」 明日 雨が降る (現3単)

(20a)は直訳に近く、(20b)はやや意識となっている。(20a)の bel(<bello)は原義は「美しい」だが、ここでは強調を示す語として「大変な」といった意味で使われている。(20b)は直訳すると「もし明日雨が降ったら(私たちは)どうしよう?(どうしようもない)」となり、反語的な意味に

なっている。そのことはイントネーションからも判断できる。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

a. Se viene da me, per favore mi telefoni prima. (A)

接「もし」 来る (現3単) ～(人)のところへ 私 お問い合わせ 私に 電話する (接現3単) 前に

b. Nel caso in cui venga da me, per favore mi

前「～において」+定冠 場合 関係代名詞 来る (接現3単) ～(人)のところに 私 お問い合わせ 私に

telefoni prima.(A,B)

電話する (接現3単) 前に

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

a. Quando il campanello suona, me lo dica. (A)

接「～するとき」 定冠 ベル 鳴る (現3単) 私に それを 言う (接現3単)

b. Quando la campana suonerà, fammelo sapere. (B)

接「～するとき」 定冠 鐘 鳴る (未3単) ～させる (命2単) +私に+それを 知る (不定詞)

c. (una volta) suonata, fammelo sapere. (B)

一度 鳴る (過去分詞) ～させる (命2単) +私に+それを 知る (不定詞)

d. Quando sarà suonata, fammelo sapere. (B)

接「～するとき」 鳴る (先立未来3単) ～させる (命2単) +私に+それを 知る (不定詞)

英語の when と同様, quando 「～するとき」が用いられている。条件節内での動詞の時制については(14)を参照。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

Se il campanello suonasse, me lo dica. (A,B)

接「もし」 定冠 ベル 鳴る (接半過去3単) 私に それを 言う (接現3単)

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

a. Chi non lavora non dovrebbe mangiare. (A,B)

代「～する人」 否定 働く (現3単) 否定 ～するべきである (条現3単) 食べる (不定詞)

b. Chi non lavora, non mangia. (B)

代「～する人」 否定 働く (現3単) 否定 食べる (現3単)

(25) もう少しお金があったらなあ。

Se solo avessi più soldi! (A,B)

接「もし」 副「〜だけ」 持つ (接半過去1単) もっと お金

条件文の条件節のみが明示され、帰結文は暗にほのめかされているのみである。日本語のいいさしの表現に近いと思われる。

(26) これも食べたら？

a. Vuoi provare anche questo? (A)

〜したい (現2単) 試す (不定詞) 〜も これ

b. Mangia / Prova anche questo! (A,B)

食べる (命2単) 試す (命2単) 〜も これ

c. Perché non mangi anche questo? (B)

疑「なぜ」 否定 食べる (現2単) 〜も これ

d. Se mangiassi anche questo? (B)

接「もし」 食べる (接半過去2単) 〜も これ

(26c)は直訳すると「なぜ (君は) これも食べないのか？」だが、perché non 〜で「〜したらどう？」という意味になり、何かを勧めるときに使われる表現である。

いいさしという点では(26d)がもっともそれに近いが、実際には「文法的には正しく文脈によっては言えるかもしれないが、食べ物を勧める場面でこのような文は聞いたことがない」との指摘を受けた。

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

a. Se facessi a modo tuo? (A,B)

接「もし」 する (接半過去2単) やり方で 君の

b. Se facessi come ti pare? (A)

接「もし」 する (接半過去2単) 接「〜のように」 君に 〜と思われる (現3単)

c. Se volessi farlo, perché non farlo a modo tuo? (B)

接「もし」 〜したい (接半過去2単) する (不定詞) +代「それを」 疑「なぜ」 否定 する (不定詞) +代「それを」

a modo tuo? (B)

やり方で 君の

d. Volendo farlo, perché non farlo a modo tuo? (B)

〜したい (ジェルンディオ) する (不定詞) +代「それを」 疑「なぜ」 否定 する (不定詞) +代「それを」

a modo tuo? (B)

やり方で 君の

(27a)および(27b)は直訳すると、「もし君の好きなようにやったら？」というような意味になり(26d)と同様、いいさしという点では原文に近いがあまり自然な文ではないとのことだった。

(28) このコップは落としても割れない。

Questo bicchiere, anche se cade, non si rompe. (A,B)

この グラス 接「～したとしても」 落ちる(現3単) 否定 壊れる(現3単)

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

a. Questa mela, anche se era molto costosa, non è

この リンゴ 接「～に関わらず」 ～である(半過去3単) とても 高い 否定 ～である(現3単)

per niente dolce. (A)

全く 甘い

b. Questa mela, pur costando cara, non è

この リンゴ 接「～に関わらず」 費用がかかる(ジェルンディオ) 高い 否定 ～である(現3単)

per nulla buona. (B)

全く おいしい

(29b)で用いられているジェルンディオはpurなどを伴い、譲歩の意を示す。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

a. Sono andato a casa sua ma non c'era. (A)

行く(丘過去1単) 家に 彼の 接「しかし」 否定 いる(半過去3単)

b. Ho provato ad andare a vedere a casa sua, ma lui non

試す(丘過去1単) 前a 行く(不定詞) 前「～に」 見る(不定詞) 家に 彼の 接「しかし」 彼は 否定

c'era. (B)

いる(半過去3単)

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

Finché non sarà arrivato, aspetterò qui. (B)

接「～するまで」 否定 着く(前末3単) 待つ(末3単) ここで

(32) あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。

a. Prima che arivi, cucino. (B)

接「～する前に」 着く(接現3単) 料理する(現1単)

b. Entro il suo arrivo, finisco di cucinare. (B)

前「～以内に」 定冠 彼/彼女の 到着 ～し終える(現1単) 料理する(不定詞)

c. Finché sarà arrivato, cucinerò. (B)

接「～するまで」 着く(前未3単) 料理する(未1単)

d. Finché non sarà arrivato, cucinerò. (B)

接「～するまで」 否定 着く(前未3単) 料理する(未1単)

参考文献

Salvi, G., Vanelli, L. 2004. “*Nuova grammatica italiana*”, Bologna, il Mulino.

Renzi, L., Salvi, G., Cardinaletti, A. 1988. “*Grande Grammatica Italiana di Consultazione, vol.2*”, Bologna, il Mulino.

スペイン語

高垣 敏博

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. Él siempre come mientras lee el periódico.

He always eats while he reads the newspaper

b. Él siempre come leyendo el periódico.

He always eats reading the newspaper

(a)接続詞(同時動作を表す *mientras* = *while*) + 定形動詞 *lee* (読む: 習慣)でもよいし, (b) *leer* の現在分詞(*leyendo*)を用いて動詞を修飾する表現も可能である。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って, 少しテレビを見て (から), 寝ました。

Ayer volví a casa a las diez, vi la televisión un rato y me acosté.

Yesterday I came back home at ten, watched TV for a while and went to bed.

継起的な動作は, 定形動詞の並列で表現するのが一般的。3つの文のどれかが主節であると判断できないかぎり, ほかの2文を準動詞形によって修飾するのはむずかしいだろう。

(3) (私は) 昨日階段で転んで, ケガをしてしまった。

a. Ayer me caí por la escalera y me hice daño (me lastimé)¹

Yesterday I fell down the stairs and hurt myself.

b. Como me caí en la escalera ayer, me hice daño.

As I fell down the stairs, I hurt myself.

c. Caído en la escalera ayer, me hice daño.

Fallen down the stairs, I hurt myself.

(a)定形動詞の2文を継起させる。また, (b)理由の接続詞(*como*)により定形動詞の2文を継的に用いる, あるいは(c)のように転ぶ(*caerse*)という自動詞を過去分詞=準動詞形にして主節を修飾する3つの方法が可能であろう。

(4) 今日父は会社に行って, 兄は大学に行った。

Hoy como siempre mi padre fue a la oficina, y mi hermano (fue) a la universidad.

Today as usual my father went to the office and my brother (went) to the university

¹ 例文のチェックはスペイン出身の Arturo Varón 氏にお願いした。

ともに定形動詞の2文継続の形でしか表現できないであろう。動詞は過去(fue)でも現在完了(ha ido)でもよい。

(5) (あの人は)今日は帽子をかぶって歩いていた。

(Él) andaba hoy con el sombrero puesto.

(He) was walking today with the hat put (on)

<前置詞 con (=with) + 帽子+かぶる (ponerse) の過去分詞>で「帽子がかぶられている」という結果状態を付帯的に表現している。「かぶって」は非限界的にとらえられるかもしれないが、スペイン語の「かぶっている」は ponerse = "put on" のような限界動詞を過去分詞にすることによって結果状態が持続することを表す。

(6) (私は)休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

a. En las vacaciones leo libros y veo la televisión.

On holidays I read books and watch TV.

b. Siempre (yo) paso los días de descanso leyendo libros y viendo la televisión.

Always I pass holidays reading books and watching TV.

(a)のように定形動詞を接続詞でつなげるのが普通であるが、(b)のように「休日を過ごす」という主動詞を設けるなら、ともに準動詞として平行して主動詞を修飾させることも可能である。

(7) 時間がないから、急いで行こう。

Como no tenemos tiempo, démonos prisa.

As we have no time, let's hurry.

スペイン語ではカラとノデの違いは認めにくい。理由の接続詞(como = as)と定形動詞の組み合わせになるだろう。

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

Como me dolía mucho la cabeza ayer, me acosté más temprano (que de costumbre).

As I had a bad headache yesterday, I went to bed earlier (than usual)

ノデの場合も同じように理由の接続詞 como + 定形動詞が適切であろう。

(8) あの人は本を買いに行った。

(Él) fue (ha ido) a comprar libros.

He went (has gone) to buy books

「～しに行く」は<ir a +動詞>の組み合わせになる。目的を表す前置詞は一般的に

para であるので、<動詞+ para+ 不定詞>となるべきところである。実際「話すために電話する」であれば *llamar para hablar* となる。しかし、たしかに移動動詞との組み合わせでは基本的に方向を表すと考えられる a をとることがわかる。例) *venir a* +不定詞「～しに来る」、*salir a* +不定詞「～しに出かける」、*volver a* +不定詞「～しにもどる、再び～する」、*acudir a* +不定詞「～しにかけつける」。その一方で *sentarse a* +不定詞「座って～する」というような組み合わせもあり、さらに調べてみる必要がある。

(9) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

(Él) abrió la ventana para ver bien fuera (el exterior).

He opened the window to see well outside

Él abrió la ventana para que se viera bien el exterior.

He opened the window so that the outside could be seen well

目的部分を節にすると「外部がよりよく見られるべく」という副詞節になり、節内の動詞は接続法をとる。目的節内の命題（外部がよく見えること）は開けるまでは未実現の内容であるため不確実性の接続法をとると一般的に説明される。

(10) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

Aquí cuando llega el verano llueve mucho.

Here when the summer comes, (it) rains much

Aquí en verano llueve mucho.

Here in summer (it) rains much

このような条件文は、スペイン語では本来の条件文にはなりにくいだろう。「夏が到来すると＝したとき」のように時間関係にもちこむのが一般的ではなかろうか。この点、つぎの(11)と差が認められない。

(11) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

Cuando abrí la ventana, entró aire frío.

When I opened the window, cold air entered

この場合は典型的に時間の関係で表現するだろう。

(12) 坂を上ると、海が見えた。

Cuando subí la cuesta, pude ver el mar.

When I went up the slope, I could see the sea.

(13) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

Si llueve mañana, no voy allí.

If it rains tomorrow, I do not go there.

典型的な条件文となる。スペイン語では接続詞 **si = if** を用いる。

(14) もっと早く起きればよかったなあ。

¡Ojalá me hubiera levantado más temprano!

I wish I had got up earlier

反実仮想であるとともに、スペイン語では祈願文の一種に分類される「～であれかし」には<Ojala +接続法過去ないしは接続法過去完了>の表現を用いる。接続法過去は現在の事実に反する内容、接続法過去完了は過去の事実に反する内容を仮想する。(14)は過去時にすでに起こったことに対する反実仮想であるため接続法過去完了 (hubiera+過去分詞) が用いられている。

(15) あんなどころに行かなければよかった。

No debía (debería) haber ido allí (a tal sitio).

I should not have gone there (to such place).

<「～すべき」の助動詞 **deber** を未完了過去ないしは過去未来 (おおよそ英語の **should** に相当) + 「行く」の不定詞の完了形>で”**should not have gone**”に似た過去に成立した事態への義務を表す。「～しなければ、よかった」と前件、後件に分けると不自然なスペイン語になるだろう。

(17) 1 に 1 を足せば、2 になる。

Uno y uno son dos.

One and one is two

一般的な真理はやはり直説法現在で表す。日常的なレベルで、例えば、親が子供に教えているような場面ではつぎのように条件文で説明することもあるだろう。

Si sumas uno a uno, tienes dos.

If you add one to one, you have two

またスペイン語の慣用的な言い方としてつぎのようなものがある。

Uno más uno, dos.

One plus one, two

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

Cuando llegues a la estación, llámame.

When you get to the station, call me.

働きかけがあっても、ときの接続詞 **cuando** を使って時間関係にもち込むのが一般的。ただし、話している時点より後で起こるため、従属節の内容は不確実になると考え、接続法(**llegues**)を用いる。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

Querriamos ir juntos al parque el domingo.

We would like to go together to the park on Sunday

Me gustaría ir al parque con todos el domingo.

I would like to go to the park with everybody on Sunday

「行きたいなあ」は種々表現が可能であろうが、ここでは過去未来形(**querriamos = we would like to...**)を用いて「できることなら」の感じを出している。問題は、「日曜日になったら」を節にする表現がスペイン語にはなじまないということである。名詞句による簡略形の「日曜日に」(**el domingo**)を用いざるをえないだろう。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

¡Ojalá no llueva mañana!

I wish it does not rain tomorrow

すでに(14)で見た **¡Ojalá...!** を用いるのが一番近い表現になるだろう。さもないならば、「雨が降ったとしたら、困ったことになるだろう」と、仮定+帰結の2文構成になってしまうだろう。それではコンパクトな「心配法的」ニュアンスが損なわれてしまうことになる。

ただ、**¡Ojalá...!** を用いるが、(14)のように動詞が接続法過去（ないしは過去完了）ではなく、接続法現在になる。接続法現在は、同じ祈願文であっても反実仮想ではなく、困難ではあるが、実現可能な願望を表す。「明日天気になあれ」に相当する意味である。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

Si vienes a casa, llámame antes (de antemano).

If you come to (my) house, call me beforehand

スペイン語ではこのタイプも *si* の条件文になる。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

Quando suene el timbre, avísame.

When the bell rings, let me know

英語の **when** 同様、時間の接続詞 **cuando** が用いられる。発話時点より後で起こる事態について述べているので、不確実性を含むため動詞 **sonar** 「鳴る」の接続法形 **suene** が用いられる。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

Si suena el timbre, avísame.

If the bell rings, let me know

これも英語同様 *si* の副詞節にする。この場合は **cuando** のように接続法ではなく直説法の **suena** にする。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

Quien no trabaja, no come.

Who does not work, does not eat

Los que no trabajan, no comen.

Those who do not work, do not eat

スペイン語でも先行詞を内包する関係代名詞 (**quien** ないしは **los que**) を用いて、現在時制で超時的な一般論をつくる。

(25) もう少しお金があったらなあ。

Si tuviera un poquito más de dinero.

If I had a little bit of money

¡Ojalá tuviera un poquito más de dinero!

I wish I had a little bit of money

(26) これも食べたら？

¿Qué tal si comes esto también?

What if you eat this too?

¿Por qué no comes esto también?

Why don't you eat this too?

(27) やりたいなら（自分の）好きなようにやれば？

Si quieres, puedes hacerlo como quieras.

If you want, you can do it as you like

(28) このコップは落としても割れない.

Este vaso, aunque se caiga, no se rompe.

This glass, although it falls, it doesn't break

Este vaso, si se cae, no se rompe.

This glass, if it falls, it doesn't break

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない.

Esta manzana era cara, pero no es dulce.

This apple was expensive, but it is not sweet

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった.

Fui a verle a su casa, pero no estaba.

I went to his house to see him, but he was not (there)

譲歩の接続詞 **aunque** を使うと不適切になる.

?**Aunque fui a su casa a verle, no estaba.**

Although I went to his house to see him, he was not (there)

フィンランド語

坂田 晴奈

0. フィンランド語の概要

本稿では、フィンランド語の連用修飾に関して、コンサルタントから得た例文を分析する。その前段階として、本節ではフィンランド語について概要を示す。概要は、Hakulinen 他(2004), Karlsson(1999), 松村(1992), 荻島(1992)を基にまとめる。なお、本稿で扱うフィンランド語は、首都ヘルシンキを中心に話されている共通語である。

0.1. 系統と類型

フィンランド語はウラル語族、フィン・ウゴル語派、バルト・フィン諸語に属する膠着語である。基本語順はSVOで、修飾部先行型である。前置詞・後置詞ともに使用されるが、後置詞の方が数が多い。

0.2. 表記

本稿での表記は、全て正書法に基づく。フィンランド語の正書法はIPAの表記とほぼ同じであるが、aは[a], äは[æ], öは[ø], nkは[ŋ]の発音である。形態のみ示す際、後述する母音調和により接辞等に異形態が存在する場合、aまたはäならばA, oまたはöならばO, uまたはyならばUと表記する。

0.3. 音声・音韻

フィンランド語の母音音素は、a, e, i, o, u, y, ä, öの8つである。母音調和があり、前母音のä, ö, yと後母音のa, o, uは同一形態素内に共起しえない。残りの中立母音と言われるi, eはどちらの母音とも共起できる。全ての母音に長短の区別がある。

子音は、p, (b), t, d, k, (g), m, n, ŋ, (f), s, (š), h, l, r, v, jである。()内の音声は外来語のみに見られる音素である。ŋは短音の場合、後続するkと共にnkと表記され、長音の場合は後続するgと共にngと表記される。p, (b), t, k, (g), m, n, ŋ, s, l, rには、長短の区別がある。

0.4. 形態

0.4.1. 名詞

名詞の格は15種類である。

表1 一般名詞の格変化 (talo「家」を例として)

格の名称	単数形	複数形	意味
主格 (nominative)	talo	talo-t	「家(が)」
属格 (genitive)	talo-n	talo-j-en	「家の」
分格 (partitive)	talo-a	talo-j-a	「家(を)」
対格 (accusative)	talo-n	talo-t	「家を」
様格 (essive)	talo-na	talo-i-na	「家として」
変格 (translative)	talo-ksi	talo-i-ksi	「家になる」
内格 (inessive)	talo-ssa	talo-i-ssa	「家の中で」
出格 (elative)	talo-sta	talo-i-sta	「家の中から」
入格 (illative)	talo-on	talo-i-hin	「家の中へ」
接格 (adessive)	talo-lla	talo-i-lla	「家(の表面)で」
奪格 (ablativ)	talo-lta	talo-i-lta	「家(の表面)から」
向格 (allative)	talo-lle	talo-i-lle	「家(の表面)へ」
欠格 (abessive)	talo-tta	talo-i-tta	「家なしで」
共格 (comitative)	talo-i-ne		「家とともに」
具格 (instructive)	talo-i-n		「家によって」

(Hakulinen 他(2004): 108) を基に筆者作成)

共格と具格は、単複共通の形態である。対格固有の形式は、人称代名詞と疑問代名詞 *kuka*「誰」にのみ現れる。それ以外の語の場合、単数形ならば属格と同形で、複数形ならば主格と同形である。対格と分格は主に直接目的語に付属する格であり、以下のような使い分けがある。

- ①肯定文における直接目的語ならば対格、否定文における直接目的語ならば分格
- ②行為（現象）が完結（完了）していれば対格、完結（完了）していなければ分格
- ③行為（現象）が、直接目的語の表す対象の全体に及ぶものであれば対格、そうでなければ分格

0.4.2. 動詞

0.4.2.1. 定形動詞

動詞は人称（単数、複数の1～3人称の他に受動形という不定人称形がある）、時制（現在、過去、現在完了、過去完了）、法（直説法、条件法、可能法、命令法）によって語形変化する。4つの時制が区別されるのは直説法のみで、他の法では現在と過去の区別がされるのみである。動詞は、語幹（過去標識）-（法標識）-人称接辞のように活用するが、直説法以外の法におい

ては過去標識はつかず，動詞 olla 「ある，いる」を用いて分析的に表される．以下の表 2 と表 3 で，puhua 「話す」を例に，動詞の活用パターンをまとめる．直説法以外の法については現在形のみ示す．

表 2 動詞の活用（人称と時制）

	現在	過去	現在完了	過去完了
1 人称単数	puhu-n	puhu-i-n	ole-n puhu-nut	ol-i-n puhu-nut
2 人称単数	puhu-t	puhu-i-t	ole-t puhu-nut	ol-i-t puhu-nut
3 人称単数	puhu-u	puhu-i	on puhu-nut	ol-i puhu-nut
1 人称複数	puhu-mme	puhu-i-mme	ole-mme puhu-neet	ol-i-mme puhu-neet
2 人称複数	puhu-tte	puhu-i-tte	ole-tte puhu-neet	ol-i-tte puhu-neet
3 人称複数	puhu-vat	puhu-i-vat	ovat puhu-neet	ol-i-vat puhu-neet
受動形	puhu-ta-an	puhu-tt-i-in	on puhu-ttu	ol-i puhu-ttu

(松村 (1992: 677) を基に筆者作成)

表 3 動詞の活用（法）

	条件法	可能法	命令法
1 人称単数	puhu-isi-n	puhu-ne-n	φ
2 人称単数	puhu-isi-t	puhu-ne-t	puhu
3 人称単数	puhu-isi	puhu-ne-e	puhu-koon
1 人称複数	puhu-isi-mme	puhu-ne-mme	puhu-kaa-mme
2 人称複数	puhu-isi-tte	puhu-ne-tte	puhu-kaa
3 人称複数	puhu-isi-vat	puhu-ne-vat	puhu-koot
受動形	puhu-tta-isi-in	puhu-tta-ne-en	puhu-tta-koon

(松村 (1992: 677) を基に筆者作成)

フィンランド語には，否定を表す否定動詞という形式が人称活用する．肯定文において主動詞に付属していた人称接辞は否定動詞につき，主動詞は人称接辞を欠いた形式になる．

- 1) E-n puhu japani-a.
 NEG.V-1SG speak:PR Japanese-PAR
 「私は日本語を話さない。」

(作例)

過去形や完了形が否定文に含まれる場合、主動詞は NUT 分詞（過去分詞）の形になる。完了形の場合は、助動詞の olla 「ある、いる」も分詞形になる。以下の 2)は過去形、3)は現在完了形の否定文である。

- 2) Olli ei käyttä-nyt tietokone-tta.
 Olli.NOM NEG.V.3SG use-NUTP computer-PAR
 「Olli はコンピュータを使わなかった。」

(作例)

- 3) Olli ei ol-lut käyttä-nyt tietokone-tta.
 Olli.NOM NEG.V.3SG be-NUTP use-NUTP computer-PAR
 「Olli はコンピュータを使ったことがない。」

(作例)

0.4.2.2. 非定形動詞

フィンランド語には、10 種の不定詞と 5 種の分詞がある。不定詞の標識自体は 3 種であるが、その標識に格接辞が後続するので、形式としては 10 種の不定詞があると、先行研究ではみなされている。以下に、puhua 「話す」を例に、不定詞と分詞の一覧を示す。

表 4 不定詞一覧

形式	具体例	基本的な意味	
A 不定詞 (第 1 不定詞)	基本形	puhua	「話す (こと)」
	変格形	puhuakseen	「話すために」
E 不定詞 (第 2 不定詞)	内格形	puhuessa	「話す時」
	具格形	puhuen	「話しながら」
MA 不定詞 (第 3 不定詞)	内格形	puhumassa	「話している」
	出格形	puhumasta	「話す (ことについて etc.)」
	入格形	puhumaan	「話す (ことに対して etc.)」
	接格形	puhumalla	「話すことで」
	欠格形	puhumatta	「話さずに」
	具格形	puhuman	「話すはずである」

表5 分詞一覧

形式	具体例
VA 分詞 (能動現在分詞)	puhuva
NUT 分詞 (能動過去分詞)	puhunut
TAVA 分詞 (受動現在分詞)	puhuttava
TU 分詞 (受動過去分詞)	puhuttu
動作主分詞	puhuma

0.4.2.2.1. 不定詞

不定詞は大きく分けると A 不定詞 (第 1 不定詞), E 不定詞 (第 2 不定詞), MA 不定詞 (第 3 不定詞) の 3 形式である。古い先行研究では第 1, 第 2, 第 3 のように呼ばれていたが, 現在は形態による名称が主流になっている。本節では, 今回の調査結果に関わる A 不定詞基本形, A 不定詞変格形, E 不定詞内格形, E 不定詞具格形, MA 不定詞内格形, MA 不定詞入格形について概観する。

A 不定詞の標識である -A には, 動詞のタイプによって -dA, -tA, -lA, -rA, -nA といった異形態がある。

A 不定詞基本形は, 辞書の見出しとなる形式である。A 不定詞基本形には様々な用法があるが, 英語の to 不定詞に当たる機能を果たすことが多い。

- 4) Ol-i virhe muutta-a maa-lle.
 be-PST.3SG fault:NOM move-AINF country-ALL
 「田舎に移ったのは間違いだった。」

(Hakulinen 他(2004: 491))

- 5) Korti-t ovat helppo-j-a käsitel-lä.
 card-PL be:PR.3PL easy-PL-PAR treat-AINF
 「カードは扱うのが簡単だ。」

(Hakulinen 他(2004: 491))

A 不定詞変格形は主語の人称に一致した所有接辞が必ず付く。A 不定詞変格形は目的を表す構文としての用法が最も多いが, 副詞的要素として機能することもある。

- 6) Ihminen syö elä-ä-kse-en.
 human:NOM eat:PR.3SG live-AINF-TRA-POSS.3

「人間は生きるために食べる。」

(Karlsson(1999: 184))

- 7) Tode-n sano-a-kse-ni e-n oikein pidä si-itä.
truth-GEN say-AINF-TRA-POSS.1SG NEG.V-1SG right like:PR it-ELA
「実を言うと、私はそれがとても嫌いだ。」

(Hakulinen 他(2004:491))

E 不定詞の形態は -e である。

E 不定詞内格形は、時を表す時相構文という構造において用いられる。属格名詞や人称接辞により主語を標示する場合がある。

- 8) Aja-e-ssa-si sinu-n pitä-ä ol-la varovainen.
drive-EINF-INE-POSS.2SG PRO.2SG-GEN must:PR-3SG be-AINF careful
「あなたは運転する時、注意しなければいけない。」

(Karlsson(1999: 187))

E 不定詞具格形は様態を表すが、格式ばった表現に用いられることが多く、E 不定詞内格形より頻度は低い。

- 9) Lapsi tul-i itki-e-n koti-in.
child:NOM come-PST.3SG cry-EINF-INS home-ILL
「子供が泣きながら家に帰ってきた。」

(Karlsson(1999: 188))

MA 不定詞の標識は -mA である。MA 不定詞には人称接辞が付かない。

MA 不定詞内格形は、定形動詞に従属した形式として用いられることが多い。

- 10) Pistäydy-i-n katso-ma-ssa posti-a.
drop.in-PST-1SG look-MAINF-INE post-PAR
「私は郵便を見に立ち寄った。」

(Hakulinen(2004: 491))

MA 不定詞入格形も定形動詞に従属することが多いが、形容詞に後続する場合もある。

- 11) Tul-kaa syö-mä-än iltapala-a.
 come-IMP.2PL eat-MAINF-ILL supper-PAR
 「夕食を食べに来てください。」

(Hakulinen(2004: 492))

- 12) Ole-t-ko valmis lähte-mä-än mukaan?
 be:PR-2SG-QP readyleave-MAINF-ILL together
 「君は一緒に出かける準備ができたか。」

(Hakulinen(2004: 492))

0.4.2.2.2. 分詞

分詞は、0.4.2.2.の表5に示した通り、VA分詞（能動現在分詞）、NUT分詞（能動過去分詞）、TAVA分詞（受動現在分詞）、TU分詞（受動過去分詞）、動作主分詞の5種である。（ ）内の名称は、あくまで通言語的な名称で、フィンランド語学で主に用いられるのは標識による名称である。今回の調査で現れた分詞は、NUT分詞、TU分詞、動作主分詞である。NUT分詞は、先述したように動詞の完了形として用いられることが多い。形容詞的な用法もあるが、今回の調査では形容詞的用法の例が得られなかったため、詳しい説明は割愛する。本節ではTU分詞と動作主分詞についてのみ概観する。

TU分詞は、受動態の完了形に用いられるのが最も多い用法だが、分格接辞を伴うことがある。この時、TU分詞が形成する構文は「～した後」という時に関する構文として機能する。さらに、TU分詞の分格形には所有接辞が後続することがある。

- 13) Jo-i-n kahvi-a soite-ttu-a-ni Liisa-lle.
 drink-PST-1SG coffee-PAR call-TUP-PAR-POSS.1SG Liisa-ALL
 「私は Liisa に電話をした後コーヒーを飲んだ。」

(作例)

動作主分詞は、形容詞と同様に名詞を修飾する。動作主分詞は書き言葉でしか使われない。動作主分詞を用いた節は、joka, mikä（英語の who, which に相当）などで始まる関係節に相当するものである。ほとんどの場合これらの節は前置修飾要素となり、動作主は属格名詞あるいは人稱接辞で表される。

- 14) Sinu-n täyty-y täyttä-ä kerran teke-mä-si lupaus.
 PRO.2SG-GEN must:PR-3SG fill-AINF once make-AP-POSS.2SG promise:NOM
 「(君は) 一度した約束は守らなければならない。」

(荻島(1992: 139))

1. コンサルタント情報

コンサルタントは以下の1名である。

氏名: Sinikka Kurosawa (シニッカ・黒澤)
性別: 女性
生年月日: 1964年8月21日
出身地: フィンランド・ピュフター (Finland, Pyhtää)
母語: フィンランド語ヘルシンキ方言
備考: 日本に20年以上在住 (配偶者は日本人)

媒介言語は基本的に日本語である。例文を提示していただく際は、日本語文を示しながらその文が表す状況を説明して調査した。媒介言語の影響が全くないとは言えないが、日本語のみ提示するよりは影響が少ないと考える。

2. 連用修飾的複文に関する調査結果

この節では調査の結果を示す。グロスに関しては Hakulinen 他(2004)の術語を参考にした。

グロス中のフィンランド語の英語訳はインターネット上の辞書 "EUdict" (<http://eudict.com/>) のフィンランド語・英語辞書を参照した。例文中で重要な要素には下線を引いて示す。

2.1. 同時動作

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. Hän syö aina ruoka-a luki-e-ssa-an
PRO.3SG.NOM eat:PR.3SG always food-PAR read-EINF-INE-POSS.3SG
sanomalehte-ä.
newspaper-PAR

b. Hän syö aina ruoka-a luki-e-n sanomalehte-ä.
PRO.3SG.NOM eat:PR.3SG always food-PAR read-EINF-INS newspaper-PAR

(1a)はコンサルタントが提示した文、(1b)は筆者が提示した文である。

非限界的なアスペクトを持つ2つの動詞が同時に行われる場合、フィンランド語ではE不定詞が用いられる。(1a)はE不定詞内格形で、「～する時」を意味する時相構文を形成する。(1b)はE不定詞具格形で、「～ながら」のような様態を表す。意味から考えると、(1b)のみが適切に思われたが、コンサルタントによれば、(1a)の不定詞でも「読みながら」という意味が表せるという。(1a)と(1b)にどのような違いがあるか尋ねたが、「ニュアンスは違うように思うがどう違

うかわからない」ということであった。

(1a)の E 不定詞内格形には主語を表す所有接辞がつくことが可能である。(1)における主節と不定詞節の主語は同じであるが、以下のように、異主語の場合でも表現が可能である。

(1a') 彼が新聞を読んでいる時、私はご飯を食べていた。

Sö-i-n	ruoka-a	<u>häne-n</u>	<u>luki-e-ssa-an</u>	sanomalehte-ä.
eat-PST-1SG	food-PAR	PRO.3SG-GEN	read-EINF-INE-POSS.3SG	newspaper-PAR

2.2. 継起的動作・物語的連鎖

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

Eilen	<u>palas-i-n</u>	koti-in	klo	10,	<u>katso-i-n</u>
yesterday	return-PST-1SG	home-ILL	clock 10	watch-PST-1SG	
vähän	TV:-tä ¹	<u>ja men-i-n</u>	nukku-ma-an.		
a.little	TV-PAR	and go-PST-1SG	sleep-MAINF-ILL		

日本語における「～して、～して、～した」のように、動作が複数連続して起こる場合、準動詞のような非定形動詞を使うことはできず、定形動詞を連続させ、接続詞でつなぐという形を取る。欧米の多くの印欧語によくある構文である。

2.3. 継起：理由

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

- a. Eilen kaatu-e-ssa-ni porta-i-ssa minu-un sattu-i.
 yesterday fall-EINF-INE-POSS.1SG step-PL-INE PRO.1SG-ILL happen-PST.3SG
- b. Eilen kaatu-e-ssa-ni porta-i-ssa loukkas-i-n
 yesterday fall-EINF-INE-POSS.1SG step-PL-INE hurt-PST-1SG
 itse-ä-ni.
 oneself-PAR-POSS.1SG

(3a)と(3b)は、「ケガをする」という表現に差があるだけで、「転んで」という動作を表すのはともに E 不定詞内格形である。これは(1)で見られた不定詞である。直訳すると「私は階段で転んだ時にケガをした」という、時相構文と同様の解釈になるが、理由を表す時にも E 不定詞内格形を用いるという。

¹ TV の直後にあるコロンは、頭字語と格接辞が連続する場合に表記されるものである。これは正書法にしたがっている。

2.4. 異主語

- (4) 今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。

Tänään-kin isä-ni men-i tö-i-hin, ja
today-PC father:NOM-POSS.1SG go-PST.3SG work-PL-ILL and
velje-ni men-i yliopisto-on.
brother:NOM-POSS.1SG go-PST.3SG university-ILL

異主語の動作に切り替わる時は、(2)と同様、定形動詞の後に接続詞が現れる。日本語のテ形のような特別な形式は存在しない。

2.5. 付帯状況

- (5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

Tänään hän kävel-i hattu pää-ssä.
today PRO.3SG.NOM walk-PST.3SG hat:NOM head-INE

結果状態の残った状況で別の動作行為が行われる場合、E 不定詞具格形が用いられることもある。ただし、(5)のように「帽子をかぶる」という場合は、英語の“a hat on the head”のように、名詞のみで表現する。本稿の趣旨からはそれるが、フィンランド語では“a hat in the head”のような言い回しをするのが、英語とも異なっていて特徴的である。

2.6. 並行動作

- (6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

Lue-n vapaapäivä-nä aina kirjo-j-a tai katso-n TV:-tä.
read:PR-1SG holiday-ESS always book-PL-PAR or watch:PR-1SG TV-PAR

日本語では「タリ」によって列挙される行為は、フィンランド語の場合は定形動詞と接続詞で表される。(2)の時系列における動作では接続詞ja「そして」が用いられるが、(6)の場合はtai「または」という接続詞が用いられる。

2.7. 理由・カラ

- (7) 時間がないから、急いで行こう。

Mei-llä ei ole aika-a, joten men-nä-än nopeasti.
PRO.1PL-ADE NEG.3SG be:PR time-PAR thus go-PASS-3SG quickly

日本語における、理由を表す「カラ」に相当するフィンランド語は、接続詞 joten「だから」である。日本語には「カラ」と「ノデ」の違いが見られるが、フィンランド語においてはそのような違いは見られない。

2.8. 理由・ノデ

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

Eilen	minu-lla	ol-i	päänsärky-ä,	<u>joten</u>	men-i-n
yesterday	PRO.1SG-ADE	be-PST.3SG	headache-PAR	thus	go-PST-1SG
nukku-ma-an	tavallis-ta	aikaisemmin.			
sleep-MAINF-ILL	ordinary-PAR	earlier			

2.7 で述べたように、日本語における「カラ」と「ノデ」のような違いはない。

2.9. 趨向／移動の目的

(9) あの人は本を買いに行った。

Hän	men-i	<u>osta-ma-an</u>	kirja-n.
PRO.3SG.NOM	go-PST.3SG	buy-MAINF-ILL	book-ACC

「～しに行く」という移動の目的を表す場合は、MA 不定詞入格形を用いる。上記の文における「行く」という動詞 *meni* (原形は *mennä*) など、多くの動詞については、後に続く移動の目的は MA 不定詞入格形で表されるが、以下のように、「一時的に訪れる」というニュアンスを持つ *käydä* が主動詞である場合、移動の目的は MA 不定詞内格形になる。これは、*käydä* が取る項の格形が内格と決まっているからである。

(9') あの人は本を買いに行ってきた。

Hän	käv-i	<u>osta-ma-ssa</u>	kirja-n.
PRO.3SG.NOM	go-PST.3SG	buy-MAINF-INE	book-ACC

なお、「～しに行く」という表現において、たとえその行為が実現していない段階であっても、仮定的表現に用いられる条件法は使えない。

2.10. 目的・意図

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

a.	Hän	avas-i	ikkuna-n	<u>niin, että vo-isi</u>	<u>näh-dä</u>
	PRO.3SG.NOM	open-PST.3SG	window-ACC	so that can-COND.3SG	see-AINF
	paremmin	ulos.			
	better	out			

b.	Hän	avas-i	ikkuna-n,	<u>että näk-isi</u>	paremmin	ulos.
	PRO.3SG.NOM	open-PST.3SG	window-ACC	that see-COND.3SG	better	out

目的を表す場合、動詞は条件法で現れる。これは、「外が良く見える」という状態がまだ実現していないからである。フィンランド語の条件法は、英語の条件法とほぼ同様の用法を持ち、反実仮想なども表す。(10a)の *niin että* は英語の *so that* にあたる表現である。*niin* は“*Vai niin!*”, “*Niinkö?*”など、「あら、そうなの!」という驚きの意味を込めた相槌としても用いられる。(10b)のように *niin* がない場合もあるが、ニュアンスの違いは特にはないという。

2.11. 恒常的条件

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

Kun	kesä	tule-e,	niin	täällä	sata-a	usein	vettä.
when	summer:NOM	come:PR-3SG	so	here	rain:PR-3SG	often	water:PAR

恒常的条件を表す場合、「～の時」という意味の *kun* を用いた節が現れる。以降の(12), (13)においても *kun* 節が用いられる。つまり、恒常的条件と確定条件は同じ構造で表される。

2.12. 確定条件・生起

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

Kun	avas-i-n	ikkuna-n,	kylmä	tuuli	tul-i
when	open-PST-1SG	window-ACC	cold	wind :NOM	come-PST.3SG

sisään.
in

2.13. 確定条件・発見

(13) 坂を上ると、海が見えた。

Kun	nous-i	ylämäke-ä,	niin	näk-i	mere-lle.
when	rise-PST.3SG	uphill-PAR	so	see-PST.3SG	sea-ALL

(11), (12)と同様に *kun* 節が用いられるが、発見を表す(13)には(10)でも現れた *niin* が用いられている。

2.14. 仮定条件

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

Jos	huomenna	sata-a	vettä,	en	mene sinne.
if	tomorrow	rain:PR-3SG	water:PAR	NEG.1SG	go:PR there

仮定条件には、英語の *if* にあたる *jos* を用いた節が現れる。確定条件を表す *kun* 節とは明ら

かに用法の違いが見られる。

2.15. 反実仮想

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

Ol-isi-n-pa	herän-nyt	aikaisemmin.
be-COND-1SG-PC	wake.up-NUTP	earlier

反実仮想の場合、条件法過去形²が用いられる。最初のコピュラ動詞 *olisinpa* には、*-pa* という小詞がついている。これは、日本語の「ヨ」、「ネ」、「ナ」などの終助詞に相当する機能を持ち、この例では後悔の念を表している。

2.16. 反実仮想・前件否定

(16) あんなどころに行かなければよかった。

Sellaise-en	paikka-an	ei	ol-isi	kannatta-nut	men-nä.
such-ILL	place-ILL	NEG.3SG	be-COND	be.profitable-NUTP	go-AINF

(15)と同じく、前件否定の反実仮想においても条件法過去形が用いられる。ここで助動詞のように使われている動詞 *kannattaa* は、「～する価値がある」という意味を持つ。よって直訳すると「あんなどころに行く価値はなかつただろう」となる。

2.17. 一般的真理

(17) 1に1を足せば、2になる。

a.	Yksi	plus	yksi	on	kaksi.	
	one:NOM	plus	one:NOM	be:PR.3SG	two:NOM	
b.	Kun	yhte-en	lisä-ä	yhde-n,	niin saa	kaksi.
	when	one-ILL	add:PR-3SG	one-ACC	so get:PR.3SG	two:NOM

日本語では「バ」という条件形式が用いられる場合、フィンランド語では(17a)のように数式のような表現になるか、(17b)のように直説法が用いられる。

2.18. 仮定条件+働きかけのモダリティ

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

a.	Soita	<u>kun</u>	ole-t	saapu-nut	asema-lle.
	call:IMP.2SG	when be:PR-2SG	arrive-NUTP	station-ALL	

² 概要で示した通り、条件法過去形は助動詞 *olla* 「ある、いる」と *NUT* 分詞で分析的に表される。

- b. Soita saavu-ttu-a-si asema-lle.
 call:IMP.2SG arrive-TUP-PAR-POSS.2SG station-ALL

仮定条件であっても、「駅に着いたら」のような、実現可能性が高い場合には直説法が用いられる。(18b)のように、TU 分詞の分格形が用いられることもある³。(18a)との使用頻度やニュアンスの差は特にないという。

2.19. 仮定条件+願望

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

Sunnuntai-na halua-isi-n men-nä yhdessä puisto-on.
 Sunday-ESS want-COND-1SG go-AINF together park-ILL

願望を表す場合は「望む」という意味を持つ動詞 *haluta* (原形) が助動詞として用いられる。さらに、*haluta* が条件法になると、丁寧あるいは婉曲的なニュアンスを帯びる。

2.20. 心配

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

Jos huomenna sata-a vettä, on kurja-a.
 if tomorrow rain:PR-3SG water:PAR be:PR.3SG terrible-PAR

心配を表す特別な形式はなく、(14)のように英語の *if* 節にあたる表現を用いる。「雨が降る」という動詞は直説法である。

2.21. 時間的前後関係に則していないナラ条件文

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

- a. Jos tule-t koti-i-ni, tule sitten kun soita-t.
 if come:PR-2SG home-ILL-POSS.1SG come:IMP.2SG then when call:PR-2SG
- b. Jos tule-t koti-i-ni, niin soita ennen kuin
 if come:PR-2SG home-ILL-POSS.1SG so call:IMP.2SG before as
 tule-t.
 come:PR-2SG
- c. Jos tule-t koti-i-ni, tule soite-ttu-a-si.
 if come:PR-2SG home-ILL-POSS.1SG come:IMP.2SG call-TUP-PAR-POSS.2SG

³ TU 分詞については、0.4.2.2.2.を参照されたい。

「電話をしてから来てください」の部分それぞれの文で直訳すると、(21a)は「電話をした後に来てください」、(21b)は「来る前に電話をしてください」、(21c)は「電話をした後に来てください」となる。(21a)は時を表す *sitten kun* 「～した後」という表現、(21b)は *ennen kuin* 「～する前」という表現で、いずれも非常に頻度が高い熟語である。(21c)は(18b)と同じく TU 分詞(受動過去分詞)の分格形が現れている。3つの文におけるニュアンスの違いはほとんどないという。

2.22. 予想を伴った条件文

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

Ilmoita kun se soi.
 tell:IMP.2SG when it:NOM ring:PR.3SG

「ベルが鳴る」ことがほぼ確実であると想定されている場合、英語で *when* が用いられるように、フィンランド語でも時を表す *kun* 節が用いられる。

2.23. 予想を伴わない条件文

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

Ilmoita jos se soi.
 tell:IMP.2SG if it:NOM ring:PR.3SG

「ベルが鳴る」ことがもしあれば、というニュアンスを与える場合、英語で *if* が用いられるように、フィンランド語でも *if* に相当する *jos* を冠した節が用いられる。

2.24. 相関構文

(24) 働かざるもの食うべからず。 / 働かない者は、食べるべきではない。

- a. Joka ei työ-tä tee, se-n ei syö-mä-n-kään
 REL:NOM NEG.3SG work-PAR do:PR it-GEN NEG.3SG eat-AP-ACC-PC
 pidä.
 hold:PR
- b. Joka ei työ-tä tee, se-n ei tule _____ syö-dä.
 REL:NOM NEG.3SG work-PAR do:PR it-GEN NEG.3SG come:PR eat-AINF

「～すると…だ」のように、従属節と主節に相関のある構文は、英語では関係詞 *what* などを用いて表される。フィンランド語においても、同様の構造が見られた。

「働かない者」に相当するのは冒頭にある関係詞 *joka* を用いた節で、英語の *which* や *who* を用いた節に似た用法を持つ。フィンランド語では、人物・事物の別に関わらず *joka* が用いられ

る。(24a)は「食べる」という動作が動作主分詞になっている。この動作主分詞は格接辞を伴って名詞的な働きをすることもあり、この場合は対格形で「食べるためのものを」という意味になる。

(24b)は「来る」という意味の動詞 *tulla* が助動詞として用いられ、「食べる」に相当する A 不定詞基本形の *syödä* が後続している。この場合は「食べる必要がない」という意味である。いずれの文においても、人物を表す指示代名詞 *se* が属格形になっている。

2.25. 言いさし・願望

(25) もう少しお金があったらなあ。

Ol-isi	hyvä,	jos	ol-isi	vähän	enemmän	raha-a.
be-COND.3SG	good	if	be-COND.3SG	a.little	more	money-PAR

願望のニュアンスを含む言いさしの場合、主節も従属節も条件法が用いられる。非実現性を含意している。(25)は主語を明示していない場合で、主語を明示するならば以下ようになる。主語がある場合は、所有文という構造になる。所有文は、「所有者-接格+olla「ある、いる」+被所有者-主格」という、英語などにはない構造である。

(25') (私に) もう少しお金があったらなあ。

Ol-isi	hyvä,	jos	minu-lla	ol-isi	vähän	enemmän
be-COND.3SG	good	if	PRO.1SG-ADE	be-COND.3SG	a.little	more
	raha-a.					
	money-PAR					

2.26. 言いさし・提案

(26) これも食べたら？

- a. Syö-t-kö tämä-n-kin?
eat:PR-2SG-QP this-ACC-PC
- b. Syö tämä-kin.
eat:IMP.2SG this:NOM-PC

(26a)は直説法現在形で、単に質問する形式である。(26b)は命令形で、(26a)より強い勧めを表す。(26b)において、直接目的語が主格になるのはフィンランド語の命令文の特徴である。

2.27. 言いさし・つき放し

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

Jos halua-t teh-dä, niin tee se niin kuin halua-t.
 if want:PR-2SG do-AINF so do:IMP:2SG it:NOM so as want:PR-2SG

「突き放し」のニュアンスを表す特別な形式は存在しない。日本語では「やれば？」のように疑問形になっているが、フィンランド語では命令形が用いられる。

2.28. 仮定的な逆接

(28) このコップは落としても割れない。

- a. Tämä lasi ei mene rikki jos se-n pudotta-a.
 this:NOM glass:NOM NEG.3SG go:PRbroken if it-ACC let.fall:PR-3SG
- b. Vaikka tämä-n lasi-n pudotta-a, se ei mene rikki.
 although this-ACC glass-ACC let.fall:PR-3SG it:NOM NEG.3SG go:PRbroken

(28a)では英語の if にあたる jos が用いられている。この文のみ提示すると「このコップを落としたら割れない＝落とさなければ割れる」という解釈も可能であるが、特に違和感を感じる文ではなく、元の日本語の意味で解釈されるという。(28b)では逆接を表す接続詞 vaikka が冒頭に現れている。語順の違いはあるが、ニュアンスの違いは特にならない。

2.29. アクチュアルな逆接

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

- a. Tämä omena ol-i kallis mutta se ei
 this:NOM apple:NOM be-PST.3SG expensive but it:NOM NEG.3SG
 ole makea-a lainkaan.
 be:PR sweet-PAR at.all
- b. Tämä omena ei ole makea-a lainkaan, vaikka se
 this:NOM apple:NOM NEG.3SG be:PR sweet-PAR at.all although it:NOM
 ol-i kallis.
 be-PST.3SG expensive
- c. Vaikka tämä omena ol-i kallis, se ei
 although this:NOM apple:NOM be-PST.3SG expensive it:NOM NEG.3SG
 ole ollenkaan makea.
 be:PR at.all sweet

d.	Tämä	omena	ei	ole	makea-a	lainkaan,
	this:NOM	apple:NOM	NEG.3SG	be:PR	sweet-PAR	at.all
	<u>ol-la-kse-en</u>		kallis.			
	be-AINF-TRA-POSS.3SG		expensive			

(29a)は逆接を表す接続詞 *mutta* が用いられるという最も単純な構造である。(29b)は逆接を表す節が後半にあり、接続詞 *vaikka* が現れている。(29c)は(29b)と節の順序が逆になっているだけである。(29d)以外の3つの文は、定形動詞のみが現れているが、(29d)はA不定詞変格形が現れている。このA不定詞変格形は、本来目的などを表すのに用いられるが、逆説的な内容を表す場合でも用いられる。4つの文には使用頻度やニュアンスの差はほとんどないという。

2.30. 逆接3

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

Käv-i-n	häne-n	kotona-an,	<u>mutta</u>	hän	ei
visit-PST-1SG	PRO.3SG-GEN	home:INE-POSS.3SG	but	PRO.3SG:NOM	NEG.3SG
ol-lut	kotona.				
be-NUTP	home:INE				

異主語の逆接の場合でも、定形動詞が用いられる。A不定詞変格形はコピュラ動詞 *olla* においては現れうるが、*olla* 以外の動詞がA不定詞変格形として現れることはないようである。

2.31. 時間的期限[1]

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

a.	Odota-n	täällä	<u>ennen kuin</u>	hän	tule-e.
	wait:PR-1SG	here	before as	PRO.3SG:NOM	come:PR-3SG
b.	Odota-n	täällä	<u>kunnes</u>	hän	tule-e.
	wait:PR-1SG	here	until	PRO.3SG:NOM	come:PR-3SG

(31a)では「～する前に」という意味の *ennen kuin* が用いられているが、(31b)では「～まで」という意味の *kunnes* が用いられている。ニュアンスには特に差がないという。文中の主語が同じである場合も、同様の構造を取ることができる。

2.32. 時間的期限[2]

(32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

Tee-n	ruoa-n	<u>ennen</u>	<u>kuin</u>	hän	tule-e.
do:PR-1SG	food-ACC	before	as	PRO.3SG:NOM	come:PR-3SG

これまでの例にもあった **ennen kuin** 「～する前に」 が用いられる。なお、文中の主語が同じである場合も、同様の構造を取ることができる。

略号一覧

グロスに関しては基本的に Hakulinen 他(2004)の術語とその日本語訳に従う（日本語訳は筆者による）。日本語における（ ）内の表記はその他の文献等での呼称である。

	英語	フィンランド語	日本語
-			形態素境界
./:			形態素内の意味境界
1	1 st person	1. persoona	1 人称
2	2 nd person	2. persoona	2 人称
3	3 rd person	3. persoona	3 人称
ACC	accusative	akkusatiivi	対格
ADE	adessive	adessiivi	接格
AINF	A-infinitive	A-infinitiivi	A 不定詞（第 1 不定詞）
ALL	allative	allatiivi 向格	
AP	agent participle	agenttipartiisiippi	動作主分詞
COND	conditional	konditionaali	条件法
EINF	E-infinitive	E-infinitiivi	E 不定詞（第 2 不定詞）
ESS	essive	essiivi	様格
GEN	genitive	genetiivi	属格
ILL	illative	illatiivi	入格
IMP	imperative	imperatiivi	命令
INE	inessive	inessiivi	内格
MAINF	MA-infinitive	MA-infinitiivi	MA 不定詞（第 3 不定詞）
NEG	negative	negatiivi	否定
NOM	nominative	nominatiivi	主格
NUTP	NUT-participle	NUT-partisiippi	NUT 分詞（能動過去分詞）
PAR	partitive	partitiivi	分格
PASS	passive	passiivi	受動
PC	particle	partikkeli 小詞[疑問小詞以外]	
PL	plural	monikko	複数
POSS	possesive	possessiivi	所有接辞
PR	present	preesens	現在
PRO	pronoun	pronomini	代名詞
QP	question particle	kysymyspartikkeli	疑問小辞
REL	relative	relatiivi	関係詞
SG	singular	yksikkö	単数
TRA	translative	translatiivi	変格
TUP	TU-participle	TU-partisiippi	TU 分詞（受動過去分詞）

参考文献

- Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen, Irja Alho (2004)
Iso suomen kielioppi. Helsinki: Suomalaisen Kirjallisuuden Seura.
- Karlsson, Fred (1999) *Finnish: an essential grammar*. London: Routledge.
- 松村一登 (1992) 「フィンランド語」(亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典第3巻 世界言語編』: 673-688) 東京:三省堂.
- 荻島崇 (1992) 『基礎フィンランド語文法』 東京:大学書林.

参考資料

EUdict <http://eudict.com/>

(連用修飾的) 複文：ハンガリー語¹

大島 一

1. コンサルタント情報

ハンガリー語対応例文の作例は大島が、それをハンガリー語話者コンサルタントに確認した上で記載した。以下、コンサルタントの情報である。

氏名：BILIK Éva (ビリク・エーヴァ)²

性別：女性

生年月日：1971年3月13日

出身地：ハンガリー，ブダペスト (Hungary, Budapest)

母語：ハンガリー語ブダペスト方言

2. 調査結果

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

《副動詞》 olvasva 「読みながら」

Mindig újság-ot olvas-va esz-ik.

いつも 新聞-ACC 読む-CVB 食べる-3SG.INDEF³

「(彼は) いつも新聞を読みながら食事する」

¹ ハンガリー語は中央ヨーロッパのハンガリーおよび周辺国で話されている言語（ウラル語族フィン・ウゴル語派に属する）であり，話者数は約1,500万人である。その言語的特徴は膠着語，後置詞言語であり，豊富な動詞活用を持つ。特に，他動詞における対格目的語が定まったものかそうでないかにより活用が変わる不定／定活用（例文グロスでは INDEF/DEF）はハンガリー語の大きな特徴の一つである。

² ハンガリー語は日本語と同じく，「姓・名」の順番で表記する。

³ グロスに使用する略号は基本的に Leipzig Grossing Rules

(<https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/LGR08.02.05.pdf>) に従った。その中に記載のないものは以下。ALL: allative 「向格」, ILL: illative 「入格」, PCVB: perfective converb 「完了副動詞」, SUP: superlative 「上格」, SUB: sublative 「着格」

ハンガリー語の副動詞 *-va/-ve*⁴は動詞（他動詞・自動詞とも）の語幹に付加することで「～しながら」という意味で主動詞との同時性を表現する。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

《定形動詞》 *hazajöttem* 「帰宅した」、*tévét néztem* 「テレビを見た」

<i>Tegnap</i>	<i>10-kor</i>	<i>jö-tt-em</i>	<i>haza</i> ⁵ ,	<i>kicsit</i>	<i>tévé-t</i>
昨日	10時に	来る-PST-1SG	家へ	少し	テレビ-ACC
<i>néz-t-em,</i>	<i>aztán</i>	<i>le-feküd-t-em.</i>			
見る-PST-1SG.INDEF	その後で	下へ横になる-PST-1SG			

「(私は) 昨日 10 時帰宅して、少しテレビを見て、その後で床についた」

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。⁶

⁴ ハンガリー語文法では「副詞分詞 (*határozói igenév*)」という。なお、ハンガリー語は母音調和という現象のため、それぞれの母音のグループ（後舌母音 (u, o, a) / 前舌母音 (i, e) / 円唇母音 (ü, ö)）に応じた異形態を持つ。この副動詞において、後舌母音系には *-va* が、前舌および円唇母音系には *-ve* が付くことを意味する。

⁵ *haza* 「家へ」は動詞接頭辞として、辞書見出しでは *haza-jon* 「家へ来る (= 帰宅する)」として動詞の前に置かれる。ハンガリー語の語順規則では動詞の直前の位置にフォーカス要素が置かれるため（この例では *10-kor* 「10 時に」）、動詞接頭辞は動詞直前に留まることが出来ず、このように動詞から分離し、動詞の後ろに移動させられる。

⁶ (1) で用いられた副動詞形式が (2) および (3) でも用いられるかどうかを見るため、*-ván/-vén* 「～して (から)」という完了副動詞（現在では古風とされ、書きことばのみに使用される。Kenesei, et al. (1998: 320-321) を参照。）を使ったものもコンサルタントに確認した：

(i=(2')) *Tegnap 10-kor hazajövén, kicsit tévét nézvén, lefeküdtem.*

(ii=(3')) *Tegnap leesvén a lépcsőn megsérültem.*

コンサルタントによれば、副動詞の意味である同時性「～しながら」がこれにも感じられるとすることで、例えば、(i) は「少しテレビを見つつ、うとうと眠りにおちた」、(ii) は「転びつつ怪我をした」という意味になってしまうとのことであった。先行研究 (Kenesei, et al. (1998: 320)) でも言及されているとおり、本来完了副動詞である *-ván/-vén* 「～してから」であることから、上記 (i)(ii) のようなものも過去には許容されたことと思われる。以下の (iii) を参照。しかし、現在では、(iv) のように通常の副動詞 *-va/-ve* の同義語のように使われる（すなわち、文体的な問題である）。

(iii)	<i>Az</i>	<i>élet-nek</i>	<i>e</i>	<i>pillanat-á-hoz</i>	<i>érkez-vén,</i>	<i>gondol-j-unk..</i>
	the	人生-DAT	the	瞬間-POSS.3SG-ALL	到着する-PCVB	考える-IMP-1PL

《定形動詞》 *leestem a lépcsőn* 「階段から落ちた (転んだ)」

Tegnap le-es-t-em a lépcső-n és meg-sérül-t-em.
 昨日 下へ落ちる-PST-1SG the 階段-SUP そして 完了-怪我をする-PST-1SG
 「(私は) 昨日階段から落ちて、そして怪我をしてしまった」

(4) 今日も父は会社に行き、兄は大学に行った。

《定形動詞》 *dolgozni ment* 「働きに行く」、*egyetemre (ment)* 「大学へ (行く)」

Az apá-m ma is dolgoz-ni men-t,
 the 父-POSS.1SG 今日 ~も 働く-INF 行く-PST.3SG
a báty-ám pedig egyetem-re.
 the 兄-POSS.1SG 一方 大学-SUB
 「私の父は今日も働きに行き、私の兄は一方で大学に (行った)」

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

《副動詞》 *kalapot viselve* 「帽子をかぶりながら」

Ma kalap-ot visel-ve jár-t.
 今日 帽子-ACC 身に付ける-CVB 通う-PST.3SG
 「(あの人は/彼 (女) は) 今日は帽子をかぶって歩いていた」

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

《習慣表現に伴う不定詞》 *olvasni és tévét nézni szoktam* 「読書したりテレビをよく見る」

Szűnnap-ok-on olvas-ni és tévé-t néz-ni szok-t-am.
 休みの日-PL-SUP 読む-INF そして テレビ-ACC 見る-INF 習慣である-PST-1SG
 「(私は) 休みの日はよく読書したり、テレビを見たりしています」

(7) 時間がないから、急いで行こう。

《順接接続詞》 *úgyhogy* 「だから」

「人生のその瞬間に至ってから、(私たちは) 考えましょう」
 (iv) *Ez-t mond-t-a nek-em az asztalfő-n ül-vén.*
 この-ACC 言う-PST-DEF.3SG DAT-1SG the 机の角-SUP 座る-PCVB
 「彼 (女) は机の角に座りながら私にこう言った」

(Kenesei, et al, 1998: 320-321)

Nincs időnk, úgyhogy sies-s-iink!
 ない 時間-POSS.1PL だから 急ぐ-IMP.1PL
 「(私たちの) 時間がない, だから急ぎましょう！」

(8) 昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました.

《順接接続詞》 *úgyhogy* 「だから」

Tegnap fáj-t a fej-em, úgyhogy korábban
 昨日 痛む-PST.3SG the 頭-POSS.1SG だから より早く
men-t-em ágy-ba mint mindig.
 行く-PST.1SG ベッド-ILL ~のように いつも
 「昨日は (私の) 頭が痛かった, だからいつもより早く (私は) 床につきました」

(9) あの人は本を買いに行った.

《不定詞》 *könyvet venni ment* 「本を買いに行く」

Ő men-t könyv-et ven-ni.
 彼 行く-PST.3SG 本-ACC 買う-INF
 「彼は本を買いに行った」

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた.

《命令法=接続用法》 *hogy jobban kilásson* 「よく見えるように (見えるために)」

Ki-nyit-ott-a az ablak-ot, hogy jobban
 外へ開ける-PST.3SG.DEF the 窓-ACC that より良く
ki-lás-s-on.
 外へ見える-IMP.3SG.INDEF
 「(彼は) 良く外が見えるように, 窓を開けた」

ハンガリー語では, 従属節が「~するために」「~するように」といった目的や待望される行為の必要性を表す場合, すなわち, 接続法を表す場合, その従属節の動詞は命令法⁷となる.

(11) ここでは夏になると, よく雨が降ります.

⁷ 命令法では動詞接頭辞が動詞から分離することが原則だが, 接続用法では動詞から分離しないという特徴を持つ. この例 (10)のとおり, *ki-lásson* であり, *lásson ki* とはならない.

《時の表現》 nyáron 「夏に」 ※文頭トピック化で「夏といえば」

Nyár-on itt sokat es-ik az eső.

夏-SUP ここに たくさん 降る-3SG the 雨

「夏はここではたくさん雨が降ります」

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

《時の表現》 amikor kinyitottam az ablakot 「窓を開けた時」

Amikor ki-nyit-ott-am az ablak-ot, hideg szél

～の時 外へ開ける-PST-1SG.DEF the 窓-ACC 冷たい 風

fúj-t be.

吹く-PST.3SG 中へ(動詞接頭辞 be-fúj 「吹き込む」)

「(私が) 窓を開けた時、冷たい風が吹き込んできた」

(13) 坂を上ると、海が見えた。

《定形動詞》 felment a lejtőn 「坂を上った」

Fel-men-t a lejtő-n és lát-t-a a

上へ行く-PST.3SG the 坂-SUP そして 見える-PST-3SG.DEF the

tenger-t.

海-ACC

「(彼(女)が) 坂を上って、そして海が見えた」

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

《仮定表現》 ha esik holnap az eső 「もし明日雨が降るなら」

Ha es-ik holnap az eső, nem megy-ek oda.

もし 降る-3SG 明日 the 雨 NEG 行く-1SG そこへ

「もし明日雨が降るなら、(私は) そこへ行かない」

このとおり、直説法でも ha 「もし」を使うことで仮定表現を表すことができる。なお、この直説法での《仮定表現》と比べ、以下の例で出てくる《仮定法現在／過去》では描写される出来事の実現可能性が低い。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

《仮定法過去》 jobb lett volna 「よかったなあ」、ha korábban feltem volna fel 「もし早く起きたら」

Jobb le-tt volna, ha korábban kel-t-em
 より良い なる-PST.3SG COND もし より早く 起きる-PST-1SG

volna fel.
 COND 上へ (動詞接頭辞. *fel-kel*「起床する」)

「もし (私は) 早く起きたら, 良かったのになあ」

仮定法過去は [直説法動詞過去形 + *volna*] という形式で表される. *volna* はコピュラ動詞 *van* 「ある」の仮定法 3 人称単数形⁸であるが, 仮定法過去における主語の人称と数は動詞過去形が担うことから (例 (15) では *keltem* 「私は起きた」), *volna* は機能語のような位置づけである。

(16) あんなどころに行かなければよかった。

《仮定法過去》 *jobb lett volna* 「よかった」, *ha nem mentem volna* 「もし行かなかったら」

Jobb le-tt volna, ha nem mentem volna
 より良い なる-PST.3SG COND もし NEG 行く-PST-1SG

⁸ *volna* に加えて, コピュラ動詞 *van* の仮定法 3 人称単数形にはもうひとつ *lenne* がある. こちらは本来 *lesz* 「なる」の仮定法 3 人称単数形で, 例 (20) にあるとおり, 仮定法現在で使用される. 仮定法現在では両者ともほぼ同じ意味・用法で使われるが, 厳密には *volna* は現在に, *lenne* は未来に言及すると言われる. 以下の例では, 従属節 (*ha* 「もし」 ~) が現在に言及する *volnék* (1 人称単数), 主節は未来の出来事に対して *lennék* (1 人称単数) が使われている.

(i) *Ha nem vol-n-ék beteg, ott len-n-ék holnap*
 もし NEG COP-COND-1SG 病気な そこに なる-COND-1SG 明日
az előadás-on.
 the 講演-SUP

「もし私が病気でないならば, 明日はその講演にいるでしょう (実際にはいま病気なので明日の講演には行けない可能性が高い)」

しかし, 現代ハンガリー語では *lenne* も現在について言及できるため, その違いは殆ど見られない。

(ii) a. „*Ha én felnőt vol-n-ék*”
 もし 私 大人 COP-COND-1SG
 『もしわたしがおとなだったら』 (Janikovsky Éva の小説)
 b. „*Szeret-n-ém, ha vadalmafa len-n-ék!*”
 好きである-COND-1SG.DEF もし 野生のリンゴの木 なる-COND-1SG
 『もし野生のリンゴの木であれば, そうありがたい』 (József Attila の詩)

しかし, 例 (15), (16) で示される《仮定法過去》の用法で使用されるものは必ず *volna* が使われる (*lenne* ではない)。

volna ar-ra a hely-re.
 COND あの-SUB the 場所-SUB

「もし (私は) あの場所へ行かなかったら, 良かったのになあ」

叙述文 (A は B である) における仮定法過去は *lett* (*lesz* 「なる」 の過去形 3 人称単数形) の後に *volna* を置くことで表す⁹。

(17) 1 に 1 を足せば, 2 になる.

《直説法, 叙述表現》 *egy meg egy, az kettő.* 「1 足す 1, それは 2」

Egy meg egy, az kettő.
 1 と 1 それは 2

「1 足す 1, それは 2」

(18) 駅に着いたら電話をしてください.

《仮定表現》 *ha megérkezik a pályaudvára,* 「もし (あなたが) 駅に到着するなら」

Ha meg-érkez-ik a pályaudvar-ra,
 もし 完了-到着する-3SG¹⁰ the ターミナル駅-SUB
hív-j-on fel.

呼ぶ-IMP-3SG.INDEF 上へ (動詞接頭辞: *fel-hív* 「電話する」)

「もし (あなたが) 駅に到着するなら, 電話してください」

(19) 日曜日になったら, みんなで公園に行きたいなあ.

《時の表現》 *vasárnap* 「日曜日に」 ※文頭トピック化で「日曜といえば」

Vasárnap mindenki-vel együtt a park-ba szeret-n-ék
 日曜日に みんな-INS 一緒に the 公園-ILL 好きである-COND-1SG
men-ni.
 行く-INF

「日曜日はみんなで一緒に公園へ (私は) 行きたいなあ」

⁹ *van* の過去 3 人称単数形の *volt* を使って, “*volt volna*” とは言うことは現在では一般的ではない (過去には存在したもので古風な感じがするという)。

¹⁰ 「あなた (*ön*)」や「あなたがた (*önök*)」, すなわち, 敬称 2 人称は, ハンガリー語の動詞活用では 3 人称として扱われる。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

《仮定法現在》 *nem lenne jó* 「良くないだろう」, *ha holnap esne az eső* 「もし明日雨が降れば」

<i>Nem</i>	<i>len-n-e</i>	<i>jó,</i>	<i>ha</i>	<i>holnap</i>	<i>es-n-e</i>
NEG	なる-COND-3SG	良い	もし	明日	降る-COND-3SG
<i>az</i>	<i>eső.</i>				
the	雨				

「もし明日雨が降れば、良くないだろう」

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

《仮定法現在》 *ha jönne hozzám* 「もし私のところ (=家) に来るなら」 ※*előtte* 「その前に」

<i>Ha</i>	<i>jön-n-e</i>	<i>hozzá-m,</i>	<i>előtt-e</i>
もし	来る-COND-3SG	～のところへ1SG	～の前に3SG
<i>hív-j-on</i>	<i>fel.</i>		

呼ぶ-IMP-3SG.INDEF 上へ (動詞接頭辞 *fel-hív* 「電話する」)

「もし (あなたは) 私のところへ来るなら、その前に電話してください」

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

《仮定表現》 *ha csengetnek* 「もし鳴れば」

<i>(Mindjárt csenget-nek.)</i>	<i>Ha</i>	<i>csenget-nek,</i>	<i>szól-j-on.</i>
すぐに 鳴る-3PL	もし	鳴る-3PL	言う-IMP-3SG.INDEF

「(すぐに (電話が) 鳴る) もし (電話が) 鳴れば、(あなたは) 言ってください」

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

《仮定表現》 *ha csengetnek* 「もし鳴れば」

<i>(Talán csenget-nek.)</i>	<i>Ha</i>	<i>csenget-nek,</i>	<i>szól-j-on.</i>
たぶん 鳴る-3PL	もし	鳴る-3PL	言う-IMP-3SG.INDEF

「(たぶん (電話が) 鳴る) もし (電話が) 鳴れば、(あなたは) 言ってください」

(24) 働かざるもの食うべからず。 / 働かない者は、食べるべきではない。

《関係代名詞》「働かないものは、食べるべきではない」

<i>Aki</i>	<i>nem</i>	<i>dolgoz-ik,</i>	<i>ne</i>	<i>is</i>	<i>e-gy-ék.</i>
REL	NEG	働く-3SG	NEG	～も	食べる-IMP-3SG.INDEF

「働かない者は、食べるべきではない」

(25) もう少しお金があったらなあ。

《希求法》 *bárcsak* + 仮定法 「～であればなあ！」

<i>Bárcsak</i>	<i>még</i>	<i>több</i>	<i>pénz-em</i>	<i>len-n-e!</i>
～であればなあ	まだ	より多く	お金-POSS.1SG	なる-COND-3SG

「(私に) もっと多くのお金があればなあ！」

(26) これも食べたら？

《仮定法現在》 *megennéd* 「食べてしまえば」

<i>Meg-en-n-éd</i>	<i>még</i>	<i>ez-t</i>	<i>is?</i>
完了-食べる-COND-2SG.DEF	まだ	これ-ACC	～も

「もっとこれも食べてしまえば？」

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？

《命令法》 *úgy csináld* 「君が～するようににやさい」

<i>Ha</i>	<i>szeret-n-éd</i>	<i>csinál-ni, úgy</i>	<i>csinál-d,</i>
もし	好きである-COND-2SG.DEF	する-INF あのように	する-IMP.2SG.DEF

<i>ahogy te akar-od.</i>
～のように 君が 欲する-2SG.DEF

「もし (それが) したいのであれば、君が欲するように、(それを) しまさい」

(28) このコップは落としても割れない。

《仮定表現》 *ha leesik* 「もし落ちてても」

<i>Ez az</i>	<i>ívég,</i>	<i>ha</i>	<i>le-es-ik,</i>	<i>sem</i>	<i>tör-ik</i>
この the	コップ	もし	下へ落ちる-3SG	NEG	壊れる-3SG

össze.

一緒に (動詞接頭辞. *össze-török* 「割れる」)

「このコップは、もし落ちてても、割れない」

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

《対比》 *ez az alma drága volt, pedig...* 「このリンゴは高かったが、一方で～」

<i>Ez</i>	<i>az</i>	<i>alma</i>	<i>drága</i>	<i>vol-t,</i>	<i>pedig</i>	<i>még</i>
この	the	りんご	高い	COP-PST.3SG	一方	まだ
<i>nem</i>	<i>is</i>	<i>édes.</i>				
NEG	～も	甘い				

「このリンゴは高かったが、一方でちっとも甘くない」

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

《逆接》 *elementem hozzá, de*… 「(私は) 彼のところへ出かけたが、しかし～」

<i>El-men-t-em</i>	<i>hozz-á,</i>	<i>de</i>	<i>nem</i>	<i>vol-t</i>
離れて行く-PST.1SG	～のところへ3SG	しかし	NEG	COP-PST.3SG
<i>otthon.</i>				
うちに				

「(私は) 彼のところへ出かけたが、しかし (彼は) うちにいなかった」

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

《期限》 *(addig)～, amíg*… 「…するまで、～する」

<i>Itt</i>	<i>vár-ok,</i>	<i>amíg</i>	<i>jön.</i>
ここに	待つ-1SG.INDEF	～するまで	来る.3SG

「(彼が) 来るまで、(私は) ここで待っています」

(32) あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。

《期限》 *(addig)～, amíg*… 「…するまで、～する」

<i>Meg-főz-ök,</i>	<i>amíg</i>	<i>jön.</i>
完了-料理する-1SG-INDEF	～するまで	来る.3SG

「(彼が) 来るまで、(私は) 料理を作っておきます」

参考文献

Kenesei, István, Robert M. Vago, and Anna Fenyvesi. (1998) *Hungarian: Descriptive Grammars*, Routledge.

ロシア語の連用修飾的複文

宮内拓也, 佐山豪太

1. はじめに

ロシア語学において「複文(сложные предложения)」とは、「重文(сложносочинённые предложения / compound sentences)」といわゆる「複文(сложноподчинённые предложения / complex sentences)」を共に含む(АН СССР 1980: II: 462). 本稿も「重文」といわゆる「複文」の区別はせず、共に「複文」として扱う。

以下、2節にてアンケートに沿った形でロシア語の例文を提示して解説を加える¹。なお、本稿における例文番号はすべてアンケートの番号と同一である。アンケートにて回答を求められた例文以外にも、必要に応じて補足的な例文を加えてある。その際は同一の例文番号のもと、より小さな項目(a, b, c...)によって示しており、補足した例文である旨は注において示してある。

2. アンケートへの回答

- (1) a. Обычно он обедает, читая газету.
usually he has-dinner read-IPFV.GER. newspaper²
b. Обычно он читает газету и обедает.
usually he reads-IPFV. newspaper and has-dinner-IPFV.
「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。」

ロシア語において、非限界的なアスペクトを持つ2つの動詞が同時に行われる際、(1a)のように副動詞現在³を用いて表す(АН СССР 1960: 521, АН СССР 1980: I: 672, Wade 2011: 390-391). (1b)のように、不完了体の定形動詞を接続詞 *и* で繋ぐことも可能であるが、この場合は同時動作(「～しながら」)のニュアンスはあまり出なくなるようである。

¹ アンケートのロシア語訳は、すべてロシア語母語話者の確認を経ている。

² グロス議論に関わるもののみ付す。文法情報の略記は以下の通り: SG.=単数, PL.=複数, M.=男性, F.=女性, N.=中性, NOM.=主格, ACC.=対格, GEN.=生格(属格), DAT.=与格, INS.=造格(具格), LOC.=前置格(所格), AN.=有生, INA.=無生, 1ST.=1人称, 2ND.=2人称, 3RD.=3人称, PFV.=完了体(完了相), IPFV.=不完了体(不完了相), IMP.=命令法, SUBJ.=假定法, GER.=副動詞, PART.=助詞。

³ 副動詞とは分詞の一つで、副詞的な働きをするものである。副動詞現在(不完了体副動詞)は不完了体の動詞から形成される。

- (2) a. Вчера, вернувшись домой в 10 часов и немного посмотрев телевизор, я лёг спать.
 yesterday return-PFV.GER. home in 10 hours and a-little watch-PFV.GER.
 TV I went-to-bed-PFV.
- b. Вчера я вернулся домой в 10 часов, немного посмотрел телевизор и лёг спать.
 yesterday I returned-PFV. home in 10 hours a-little watched-PFV. TV
 and went-to-bed-PFV.
- 「私は昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見てから、寝ました。」

継起的な動作についても、(1)と同様に副動詞を用いて表現される場合(АН СССР 1980: I: 672)と接続詞を用いて表現される場合がある。(2a)では副動詞過去⁴が用いられ、(2b)では完了体の定形動詞が接続詞*и*によって繋がれている。

- (3) a. Вчера я упал с лестницы и ушибся.
 yesterday I fell-PFV. off stair and was-injured-PFV.
- b. Вчера, упав с лестницы, я ушибся.
 yesterday fall-PFV.GER. off stair I was-injured-PFV.
- 「(私は)昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。」

理由を表す継起的動作についても、(1)、(2)と同様に副動詞と接続詞の両方で表すことが可能である。(3a)は接続詞*и*で定形動詞が繋がれており、(3b)は副動詞過去が用いられている。

- (4) Сегодня опять отец пошёл на работу, а брат – в университет.
 today again father went to work and brother to university
- 「今日も父は会社に行き、兄は大学に行った。」

副動詞は主節と従属節の主語が一致する場合に用いられ(АН СССР 1980: I: 672)、言い換えれば、主語が異なる場合は使用できない。なお、(4)では対比を表す接続詞*а*が用いられている。前半の節 *Сегодня опять отец пошёл на работу* と後半の節 *брат – в университет* の述語動詞は同一のものが想定されるため、後半の節では省略されている。

- (5) Он ходил в шапке.
 he walked in hat
- 「(あの人は)今日は帽子をかぶって歩いていた。」

⁴ 副動詞過去(完了体副動詞)は完了体の動詞から形成される。

(5)では、前置詞句 *в шанке* によって付帯的状況が表現されている。

- (6) В выходные я либо читаю книги, либо смотрю телевизор.
 in day-off I or read-IPFV. books or watch-IPFV. TV
 「(私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」

並行して行われる動作は定型の動詞を接続詞でつなぐことで表現される。接続詞 *либо* は相関的に用いられている。(2)では接続詞 *и* が用いられていたが、(6)ではそれと異なる接続詞を用いることで、並行動作のニュアンスを表現している。

- (7) a. Так как у нас мало времени, давай поспешим.
 since at us little time let's hurry
 b. У нас нет времени, поэтому давай поспешим.
 at us not time so let's hurry
 「時間がないから、急いで行こう。」

理由を表す際は(7a)のように合成接続詞(составные союзы / compound conjunctions)の *так как* が用いられる。(7b)のように結果を表す副詞 *поэтому* を用いても同内容が表現可能である。

- (8) a. Так как вчера у меня болела голова, я лёг спать раньше, чем обычно.
 since yesterday at me ached head I went-to-bed earlier than usual
 b. Вчера у меня болела голова, и я лёг спать раньше, чем обычно.
 yesterday at me ached head and I went-to-bed earlier than usual
 「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。」

(7a)と同様に、(8a)でも合成接続詞 *так как* によって理由を表している。この意味の場合には、(8b)のように接続詞 *и* を用いることもできる。

- (9) a. Он пошёл купить книгу.
 he went to-buy book
 b. ??Он пошёл, чтобы купить книгу.
 he went that-SUBJ. to-buy book
 「あの人は本を買いに行った。」

с. Он пошёл в магазин, чтобы купить книгу.⁵
he went to shop that-SUBJ. to-buy book
「あの人は本を買いにお店へ行った。」

移動の目的は運動の動詞⁶(глаголы движения / verbs of motion)やそれに接頭辞をつけて派生させた動詞の後に不定詞を続けることで表現される。(9a)では、上記のように不定詞で移動の目的が表されている。(9b)のように目的を表す接続詞 *чтобы* を用いることもできるが、(9a)に比べるとかなり容認度が落ちるようである。しかし、(9c)のように行き先 *в магазин* を示せば、目的を表す接続詞 *чтобы* を用いた文は十分に容認される。接続詞 *чтобы* を用いた表現では、動作主体が主節と同一の場合は *чтобы* 節内では主語が示されず、動詞は不定詞となる。

(10) Он открыл окно, чтобы была хорошо видна улица.
he opened window that-SUBJ. was well visible street
「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。」

ロシア語においては、目的を表す *чтобы* 節内では仮定法が用いられる⁷。ロシア語の仮定法は動詞の過去時制と仮定法を明示する標識によって表される(АН СССР 1960: 501)。(10)では接続詞 *чтобы* が仮定法の標識となっており、動詞は過去時制 *была* になっている。

(11) а. Когда приходит лето, здесь часто бывает дождь.
when comes summer here often happen rain
б. Здесь летом часто бывает дождь.
here in-summer often happen rain
「ここでは夏になると、よく雨が降ります。」

恒常的条件は(11a)のように接続詞 *когда* によって表される。また、(11b)のように副詞 *летом* で表現することもできる。

⁵ (9c)はアンケートにはない、追加の例文である。

⁶ ロシア語において、運動の動詞は特殊なカテゴリーを形成している。ロシア語の動詞の大多数は不完了体と完了体のペアを形成するが、運動の動詞は全て不完了体であり、ペアを組む完了体動詞が存在しない。また、運動の動詞は様々な接頭辞を添加することで、付加的な意味を持つ動詞を体系的に派生させることができる。ただし、接頭辞をつけて派生させた動詞は、運動の動詞のカテゴリーには属さず、不完了体と完了体のペアを形成する。

⁷ ただし、先にも述べたが、(9c)のように *чтобы* 節内の動作主体が主節と同一の場合は、*чтобы* 節内では主語が現れず、動詞は不定詞になる。

- (12) Я открыл окно, и из него подул холодный ветер.
 I opened window and from it blew cold wind
 「窓を開けると、冷たい風が入って来た。」

もうすでに起きたことを表す確定条件は(12)のように接続詞 *и* によって表現される。

- (13) a. Я поднялся на склон и увидел море.
 I went-up-PFV. slope and saw-PFV. sea
 b. Поднявшись на склон, я увидел море.
 go-up-PFV.GER. slope I saw-PFV. sea
 「坂を上ると、海が見えた。」

(13a)のように、主節が「発見」の事態となっている確定条件も(12)と同様に接続詞 *и* によって表現される。この場合は(13b)のように副動詞過去の使用も容認される。

- (14) Если завтра будет дождь, я не пойду туда.
 If tomorrow will-be rain I not will-go there
 「明日雨が降ったら、私はそこに行かない。」

仮定条件は(14)で示すように接続詞 *если* を用いて表現される。

- (15) a. Если бы я встал пораньше...
 If PART.-SUBJ. I got-up earlier
 b. Было бы хорошо, если бы я встал пораньше.
 was PART.-SUBJ. good if PART.-SUBJ. I got-up earlier
 「もっと早く起きればよかったなあ。」

反実仮想を表す際は、仮定法が用いられる。先にも述べたように、ロシア語において仮定法は動詞の過去時制と仮定法を明示する標識によって表現される(АН СССР 1960: 501)。(15a, b)ともに助詞の *бы* が仮定法の標識となっており、動詞は過去時制になっている。(15a)は条件節のみで成立しており、(15b)は帰結節まで現れている。

- (16) a. Если бы я только не пошёл в это место...
 If PART.-SUBJ. I only not went to this place
 b. Было бы хорошо, если бы я не пошёл в это место.
 was PART.-SUBJ. good if PART.-SUBJ. I not went to this place
 「あんなところに行かなければよかった。」

前件が否定されても反実仮想を表す際は、(15)同様に仮定法が用いられる。(16a)は条件節のみで成立しており、(16b)は帰結節まで現れている。

- (17) a. Один плюс один будет два.
one plus one will-be two
b. Если добавить один к одному, то будет два.
if to-add one to one then will-be two
「1に1を足せば、2になる。」

一般的真理については、ロシア語においては(17a)のように単文で表すことも可能であるが、(17b)のように、条件形式も用いることができる。

- (18) a. Когда вы придёте на станцию, позвоните мне.
when you come to station call-IMP. me
b. *Если вы придёте на станцию, позвоните мне.
if you come to station call-IMP. me
「駅に着いたら電話をしてください。」

後件に働きかけのモダリティが現れる文では、(18a)のように接続詞 *когда* を用いて表す。(18b)のように接続詞 *если* を用いると非文となる。

- (19) a. Когда придёт воскресенье, я хотел бы пойти в парк со всеми.
when comes Sunday I wanted PART-SUBJ. to-go to park with all
b. В воскресенье я хотел бы пойти в парк со всеми.
on Sunday I wanted PART-SUBJ. to-go to park with all
「日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。」

(18a)と同様、後件に願望のモダリティのある条件文は(19a)で示すように接続詞 *когда* で表すことができる。しかし、この場合は(19b)のように単文で表す方が自然であるようである。

- (20) Будет неприятно, если завтра пойдёт дождь.
will-be unpleasant if tomorrow rains
「明日雨が降ったら困るなあ。」

心配を表す文においても(20)で示すように、単純な条件文が用いられる。

- (21) a. *Если вы придёте ко мне, позвоните.
 if you come to me call-IMP.
 b. Если вы соберётесь прийти ко мне, позвоните.
 if you intend to-come to me call-IMP.
 「家に来るなら，電話をしてから来てください。」

時間的前後関係に則していない条件文では，(21a)のように単純な条件文では表せず，(21b)のように *собраться* (> *соберётся*) を用いなくてはならない。*собраться* を用いることで時間的前後関係に整合性を持たせている。

- (22) Когда будет звонок, скажите мне.
 when will-be bell tell-IMP. me
 「(もうすぐベルが鳴るので)鳴ったら，教えてください。」

予想を伴う条件文では，接続詞 *если* ではなく，接続詞 *когда* が用いられる。

- (23) Если будет звонок, скажите мне.
 if will-be bell tell-IMP. me
 「(もしかしたらベルが鳴るかもしれないので)もし鳴ったら，教えてください。」

一方で，予想を伴わない条件文では接続詞 *когда* ではなく，接続詞 *если* が用いられる。

- (24) a. Кто не работает, тот не ест.
 who not works that not eats
 「働かざる者食うべからず。」(ことわざ)
 b. Тот, кто не работает, не должен есть.
 that who not works not must to-eat
 「働かない者は，食べるべきではない。」
 c. Тот, кто не знает об этом, не должен участвовать.⁸
 that who not knows about this not must to-participate
 「これについて知らない者は参加すべきでない。」

(24a)は「誰が働かない，その人は食べない」という疑問詞-代名詞の相関構文の形式をとっている。(24b)のように関係代名詞を用いた通常の文も一応容認可能であるとのことである。ことわざとは関係のない文であれば，(24b)と同様の形式である(24c)は全く問題なく容認される。

⁸ (24c)はアンケートにはない，追加の例文である。

- (25) a. Если бы у меня были деньги...
 if PART.-SUBJ. at me were money
 b. Было бы лучше, если бы было побольше денег.
 was PART.-SUBJ. better if PART.-SUBJ. was more money-GEN.
 「もう少しお金があったらなあ。」

願望を表す言いさしは、(25a)のように仮定法の条件節のみを示すことで表される。(25b)のように条件節、帰結節を共に示す仮定法の文でも同内容が表現できる。

- (26) Попробуйте и это.
 try-IMP. too this
 「これも食べたら？」

(26)で示すように、提案もしくは勧誘を表す場合は、(25a)とは異なり単純な命令法を用いた形となっている。

- (27) Сделай, как хочешь.
 do-IMP. as want-2ND.
 「やりたいなら（自分の）好きなようにやれば？」

(27)は(26)と異なったモダリティの意味を表しているが、同じように命令法を用いて表現されている。

- (28) Этот стакан не разобьётся, даже если он упадёт.
 this glass not breaks even if it falls
 「このコップは落としても割れない。」

仮定的な逆接は、単純に接続詞 *если* を用いるのではなく、助詞の *даже* を用いて *даже если* という形で表される。

- (29) a. Это яблоко дорогое, но совсем не сладкое.
 this apple expensive but not-at-all sweet
 b. Несмотря на то, что это яблоко дорогое, оно совсем не сладкое.
 although this apple expensive it not-at-all sweet
 「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。」

すでに実現した事柄についての逆接は、(29a)のように接続詞 *но* を用いて表現される。(29b)のように *несмотря на то, что* という合成接続詞を用いることもできる。

- (30) Я пришёл к нему домой, но его не было.
I went to him home but he-GEN. not was
「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」

異主語による逆接でも(29a)と同様に接続詞 *но* を用いることができる⁹。

- (30) a. Я буду ждать, когда он придёт.
I will wait-IPFV. when he comes
b. Я буду ждать, пока он не придёт.
I will wait-IPFV. until he comes
「あの人が来るまで、私はここで待っています。」

時間的な到達点を表す場合は、(30a)のように接続詞 *когда* を用いて表現される。(30b)のように接続詞 *пока* を用いることもできる。その場合は接続詞 *пока* の後に *не* が使われる。この *не* は否定辞ではなく、合成接続詞の 1 部であるとされる(АН СССР 1980: I: 716, Шведова 2007: 681)。

- (31) Я приготовлю обед до того, как он придёт.
I prepare-IPFV. lunch before he comes
「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。」

時間的期限を表す場合は合成接続詞 *до того, как* などが用いられる。

参考文献

- АН СССР. 1960. *Грамматика русского языка*, т. I, Москва: Издательство Академии наук СССР.
АН СССР. 1980. *Русская Грамматика*, тт. I-II, Москва: Наука.
Шведова, Наталия Ю. 2007. *Толковый словарь русского языка: с включением сведений о происхождении слов*, Москва: Азбуковник.
Wade, Terence. 2011. *A Comprehensive Russian Grammar*, 3rd ed., revised and updated, Oxford: Blackwell.

⁹ 正確にいえば、(30)の後半の節 *но его не было* には(主格)主語は存在しない。しかし、前半の主語がある節 *Я пришёл к нему домой* と後半の主語がない節の接続も 1 種の異主語の節の接続であると思われる。

中国語

加藤 晴子

中国語における「(連用修飾的) 複文」について、アンケート¹⁾に従い、見ていく。

孤立型の言語である中国語では、接続形式も接続詞も用いずに動詞句を連続させて行くことで、(連用修飾的) 複文を構成するが²⁾、あわせて接続詞や副詞も使われる。

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

他 总是 一边 看 报 一边 吃 饭。

彼 いつも ながら 読む 新聞 (ながら) 食べる ご飯

【同時動作】“一边～一边…”は、“老师一边弹琴，小朋友们一边唱。(先生はピアノを弾き，子供は歌を歌う．張 2006:92³⁾)”のように主語が異なる場合でも可能であり，“许多大学生都是一边上學，一边打工。(多くの大学生は勉強しながら，アルバイトをしている。(同上))”のように，動作の時間と場所が厳密には異なる場合でも可能である。

また，実際には継起動作であっても，同時性を強調するような場合には，“刘小芳一边挂书包，一边在摆好饭的餐桌旁坐下。(劉小芳はかばんを掛けるとすぐ，食事がすっかり並んだ食卓に座った．豊嶋 2008:68)”のように，“一边～一边…”の形式を使うことができる。

「ながら」はもう1つの形式，“～着…”でも表されうるが，両者の間には，別々の動作の同時進行か一体化した付帯状況か(三宅 2005)，対等な並列関係か副次的運動+主要な運動か(張 2006)，同時並行動作か内包動作か(豊嶋 2008)といった違いが見られるという⁴⁾。前後を入れ替えた“他总是一边吃饭一边看报。”も可。

¹⁾ アンケートへの回答は，本学博士後期課程在籍の陳婉さんにお願ひし，また，本学外国人研究員である揚州大学の孫楊さんにもご協力いただいた。ここに感謝の意を表す。ただし，本稿の内容に誤りがあれば，それは筆者の責任に帰するものである。

²⁾ 孤立型の言語である中国語では，動詞が形態変化を持たないため，動詞の終止形を文終止の記しとすることができず，例えば大河内 1997:108 が「たとえ主語が替わっても，逗号(読点“，”：引用者注)で長くずるずるつながる文が多い」と述べるように，単文と複文の境界は明確でなく，文そのものを定義することも難しい。

³⁾ 引用例の日本語訳は，引用元に拠る。

⁴⁾ 張 2006 が挙げる主語の異なる例や，“一边学习一边就忘了。(聞く端から忘れる．豊嶋 2008:58)”，またこの後の(5)のように，“一边～一边…” “～着…” が常に「ながら」に対応するのでないことは，言うまでもない。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

我 昨天 晚上 10 点 回 到 家，看 了 一 会 儿 电 视，就 上 床 睡 觉 了。

私 昨 日 夜 10 时 归 来 家 看 电 视 (完了) しばらく テレビ (接続) 就 上 床 寝 る (実現)⁵

【継起的動作・物語的連鎖】完了を表す“了”が、1つめの節にはなく、2つめの節では動詞の直後、目的語の前に現れ、3つめの節に接続の働きを持つ副詞“就”⁶が置かれていることが、3つの事態に繋がりを付けていると考えられる。一方で、テレビを見る時間が長く寝るのが遅かったと意識される場合は、“就”に替えて“才”を使う。

“就”を含む前件と“了”を含む後件とを入れ替えることはできない。“*就上床睡觉了，看了一会儿电视。”は容認されがたい⁷。この後の(18)(22)(23)も同様である⁸。また、前件に“了”を含まず、替りに“[一]”や“[要是]”を含む(11)(12)(13)，(15)(16)(20)(25)も同様である。

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

我 昨天 在 楼梯上 摔 了 一 交，受 伤 了。

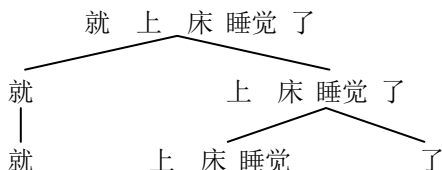
私 昨 日 在 楼 梯 上 转 倒 (完了) 1 回⁹ 负 伤 的 (実現)

⁵ 中国語文法では“了”を、動詞に直接後接する“了1”と、文末(または節末)につく“了2”とに分け、動詞に後接する“了1”を動作の〈完了〉を表すもの、文末の“了2”を、ある事態が〈実現〉する、新たな状態に〈変化〉する、という意味を表すものとする。

⁶ 中国語では、接続詞以外に、“就，才，也，再”など一部の副詞も文接続の働きを担う。

⁷ 家に帰ってから何をしたらか詮索する質問に対して答えるような場合には、成立する可能性がある、とのコメントがあった。ただし、この時の“就”は「ただそうしただけ」という意味を表し、接続の働きはないものと考えられる。

⁸ (2)の3つめの節や(20)(25)などに、一見“…就…了”であるように見える箇所が散見されるが、いずれも1つの節内に両者が含まれたものである。“…了…就”の“了”が“了1”であるのとは異なり、“…就…了”の“了”は“了2”で、以下に示すように、“就”とは異なる階層にある。



⁹ もともとは“摔交”で「転ぶ」という意味の動詞だが、後半部分を助数詞的に使ったものである。

【継起：理由】(2)【継起的動作・物語的連鎖】と同じく前件の動詞の直後に“了”が現れるが、後件に“就”はない。「転ぶ」と「ケガをする」の関連性の強さによるのだろうか。後件に“就”を含んではいないが、前後を入れ替えた“*我昨天受伤了，在楼梯上摔了一交。”は容認されがたい¹⁰。この後の(17)(19)も同様である。

(4) 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行つた。

今天 也 和 往常 一样，我 爸爸 去 公司，我 哥哥 去 大学。

今日 も と 通常 同 じ 私 父 行 去 会 社 私 兄 行 去 大 学

【異主語】中国語の動詞句連続は、異主語であっても構わない。前後を入れ替えた“今天也和往常一样，我哥哥去大学，我爸爸去公司。”も可。

(5) (あの人は) 今日帽子をかぶつて歩いていた。

那个人 今天 戴 着 帽子 走 在 路上。

あ の 人 今日 かぶる 〈持続〉 帽子 歩く で 道路上

【付帯状況】(1)【同時動作】でも示した“～着…”の形式で表す。“着”は、動作や状態の持続を表す。また、“走在路上”の“在”は、動作の行われる場所を示すと同時に動作の進行も表す。前後を入れ替えた“*那个人今天走在路上戴着帽子。”は容認されない。

(6) 私は休みの日はいつも音楽を聴いたり、テレビを見たりしています。¹¹

休息日 我 总是 听听 音乐、看看 电视 什么的。¹²

休日 私 いつも 聴く 音楽 見る テレビ など

【並行動作】“什么的”は、「そのたぐいのもの」といった意味を表し、名詞句連続の後にも動詞句連続の後にも使うことができる。中国語では、動詞を繰り返した、いわゆる「重ね型」にすると、動作量が少量であるというニュアンスを持ち、そこから、気軽さを表すようになる。重ね型を列挙すると、それらの動作を気楽なつもりで少しずつ行うというニ

¹⁰ “因为(なぜならば)”を加え“我昨天受伤了，因为在楼梯上摔了一交。”とすれば理由を述べるものとして容認され得る、とのコメントがあった。(7)(8)もそうだが【理由】を述べる複文は前後の入れ替えの容認度が比較的高いようである。ただその場合、【理由】を表す接続詞は省略しにくくなる。

¹¹ (6)はもとのアンケートでは「(私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」であったが、たまたま同じ動詞になってしまうので、改変した。

¹² 中国語で“、(顿号)”は“，(逗号)”とは区別され、並列を表す。

ュアンスになる。前後を入れ替えた“休息日我总是看看电视、听听音乐什么的。”も可。

(7) 時間がないから、急いで行こう。

没 时间 了， 快 走。

ない 時間 〈変化〉 急いで 行く

【理由・カラ】接続の働きをする要素は特になく、「時間がなくなった」と「急いで行く」
とが並べて表されるのみである。前件末尾の“了”は〈変化〉を表し、「時間がないという
ことになった」という意味になる。

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

昨天 头 疼， 比 平时 睡 得 早。

昨日 頭 痛い より 平常 寝る 〈程度導入〉 早い

【理由・ノデ】同じく接続の働きをする要素は見当たらない。動詞に後接する“得”は、
動作の状況や程度を表す「様態補語」を導く。「寝るのが早い」という表現である。

(7)(8)では、前件と後件の入れ替えが容認される。【理由】を述べる複文は前後の入れ替
えの容認度が比較的高いようである。ただし入れ替えた場合、(7)は“因为(なぜならば)”
などの接続詞を排除するのに対し、(8)は、前後の関係が明確になるよう、“因为(なぜなら
ば)”などの接続詞を加え、“昨天比平时睡得早，因为头疼”などとするほうがよい。

(9) あの人は本を買いに行った。

i 那个人 去 买 书 了。

あの人 行く 買う 本 〈実現〉

ii 那个人 买 书 去 了。

あの人 買う 本 行く 〈実現〉

【趨向／移動の目的】これまで見てきた動詞句連続と特に異なるところはない。前後を
入れ替えた i と ii のいずれも可能である。

i と ii の違いは、i が「あの人はどこへ行ったのか」という問いに対する答えであり、
ii は「あの人はいるか」という問いに対する答えである点である。「どこへ」に対しては「本
を買いに」を示し、「いるかないか」に対しては「(どこかへ)行った」を示すところから、
よりフォーカスされる情報をより文末に近い位置に置くことで、情報構造に沿う配列にな
っていると考えられる。

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

他 为了 能 看见 外面, 把 窗户 打开 了。
彼 のため できる 見える 外 を 窓 開く 〈実現〉

【目的・意図】目的を導く前置詞“为了”を使って表す。【目的・意図】を述べる複文も前後の入れ替えの容認度が比較的高いと考えられる。前後を入れ替えた“他把窗户打开了, 为了能看见外面。”も可。

(11) ここでは夏になると, よく雨が降ります。

我们 这里 [一]¹³ 到 夏天 就 常常 下 雨。
私たち ここ [ひとたび] なる 夏 〈接続〉しばしば 降る 雨

【恒常的条件】“一”と“就”の組み合わせが接続の働きを担う。日本語のト・バ・タラ・ナラの使い分けは, 中国人学習者にとっての難点の1つである。

(12) 窓を開けると, 冷たい風が入って来た。

窗户 一 开, 冷 风 就 进 来 了。
窓 ひとたび 開ける 冷たい 風 〈接続〉入る 来る 〈実現〉

【確定条件・生起】(11)【恒常的条件】と同様, “一”と“就”の組み合わせが接続の働きを担う。また文末の“了”は, 前件の結果こうなったという〈変化〉の意味も含む。

(13) 坂を上ると, 海が見えた。

[一] 上 了 坡 就 看见 大海 了。
[ひとたび] 上る 〈完了〉坂 〈接続〉見える 海 〈実現〉

【確定条件・発見】(12)【確定条件・生起】と同様, “一”と“就”の組み合わせが接続の働きを担う。また文末の“了”は, 前件の結果こうなったという〈変化〉の意味も含む。

(14) 明日雨が降ったら, 私はそこに行かない。

[如果] 明天 下 雨, 我 就 不 去 那儿。
[もしも] 明日 降る 雨 私 〈接続〉〈否定〉行く そこ

¹³ アンケート回答文中の[]は, その語句が必須でないことを表す。

【**仮定条件**】中国語の仮定条件文では，“如果，要是”などの接続詞が使われるが，必須ではなく，むしろ，【**継起的動作**】【**恒常的条件**】【**確定条件**】などにも使われる“就”が重要である．前後の入れ替えは，このままでは不可であるが，“我就不去那儿了，如果明天下雨的话。”のように，“了”や“如果～的话”を顕在化させることで容認度が上がる．

(15) もっと早く起きればよかったなあ．

[要是] 再 早 起 一会儿 就 好 了。

[もしも] もっと 早い 起きる しばらく (接続) よい (変化)

【**反実仮想**】文字通りでは「もしももう少し早く起きるとよいことになったのに」という表現である．“[要是]”と“就”で接続される．

(16) あんなところに行かなければよかった．

那种 地方, 早 知道 就 不 去 了。

あのような 場所 早くに 知る (接続) (否定) 行く (変化)

【**反実仮想・前件否定**】文字通りでは「あんなところは，早くに知っていたら行かないことにしたのに」という表現である．やはり“就”が接続の働きをしている．

(17) 1に1を足せば，2になる．

i 1 加 1 等于 2。

加える に等しい

ii 一个 1 再 加上 一个 1 就 等于 2。

1つ さらに 加える 1つ (接続) に等しい

【**一般的真理**】iは，数学の式で「1足す1は2」というような場合，iiは，何かの説明のための喩えとして述べるような場合の表現である．やはり“就”が接続として働いており，条件形式が使われている．

(18) 駅に着いたら電話をしてください．

到 了 车站 就 给 我 打 电话。

着く (完了) 駅 (接続) に 私 かける 電話

【**仮定条件+働きかけのモダリティ**】後件に働きかけのモダリティが現れる文であっても，中国語ではやはり“了”と“就”の組み合わせが使われる．

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

到 了 星期 天，真 想 和 大家 一 起 去 公 园 啊。

なる〈完了〉日曜日 本 当 に し た い と 皆 一 緒 行 く 公 園 〈感嘆〉

【仮定条件+願望】後件に願望のモダリティ要素のある条件文では、これまでと異なり，“就”は現れない。“就”は、前件があれば「すかさず」「もれなく」後件があるという意味を持つため、実現が未確定の願望には使えないものと考えられる。また、「日曜日になったら、みんなで公園に行く」ことを「したい」のであり，“想(したい)”は厳密には文全体にかかるよう、文頭に置かれる筈であるが、ここに示した配列が優勢なようである。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

明天 [要是] 下 雨 就 麻 烦 了。

明日 [もしも] 降る 雨 〈接続〉 面倒 〈変化〉

【心配】一般的な仮定条件文と同じく，“要是”と“就”の組み合わせで接続を示す。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

i 要 来 我 家 [的 时 候]，来 之 前 给 我 打 一 个 电 话。

〈意志〉 来る 私家 [の 時] 来るの前 に私 かける 1つ 電話

ii 要 来 我 家 [的 时 候]，给 我 打 一 个 电 话 再 来。

〈意志〉 来る 私家 [の 時] に私 かける 1つ 電話 それから 来る

【時間的前後関係に則していないナラ条件文】この場合には、中国語では“的时候(の時)”を使うが、必須ではない。iとiiの違いは、iが「無駄足にならないように家で待っているよう、または、もてなしのために前もって準備しておけるように」という含みがあるのに対し、iiは「急に来られては困る」という含みがある。いずれの場合も、前後の入れ替えは難しいが、“?来之前给我打个电话，/?给我打个电话再来，要来我家的时候。”のように“的时候”を顕在化させれば容認度がやや上がるようである。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

铃 响 了 就 告 诉 我。

ベル 鳴る 〈完了〉 〈接続〉 告げる 私

【予想を伴った条件文】“了”と“就”とでつなぐ。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

[要是] 响 铃 了，就 告诉我。

[もしも] 鳴る ベル 〈実現〉〈接続〉告げる 私

【予想を伴わない条件文】前件の“了”は“了2”であるが、(22)【予想を伴った条件文】と同じく“就”とでつなぐ。(22)との違いは、(22)では、特定のベルに、鳴るという事態が発生するということを言うために“铃”が主題として文頭に置かれるのに対し、(23)では、ベルが鳴るという事態全体が発生する可能性があることを言うために“铃”が動詞の後に目的語として置かれる点である。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

不 劳动 者 不 得 食。

〈否定〉働く者 〈否定〉得ない 食べる

【**相関構文**】“不劳动者不得食。”は慣用句として定着しており、他の形式を想起してもらうのは無理であった。“谁先来，谁买票(先に来た者から(先着順に)入場券を買う。小学館『中日辞典』第2版“谁”項)”のような形式は、中国語で広く使われる。

(25) もう少しお金があったらなあ。

i [要是] 再 多 点 钱 就 好 了。

[もしも] さらに 多い 少し 金 〈接続〉よい 〈変化〉

ii 钱 [要是] 再 多 点 就 好 了。

金 [もしも] さらに 多い 少し 〈接続〉よい 〈変化〉

【**言いさし・願望**】中国語は、このような言いさしを実現することはできず¹⁴，“[要是]”と“就”を使って(15)【**反実仮想**】と同じ形式になる。iとiiの違いは、iが「特に目標金額はなく、もっと金持ちなら」という場合に発されるのに対し、iiが「目標金額を意識して、それに足りない」という場合に発される点にある。これも情報構造に沿う配列になっていると考えられる。

¹⁴ “要是再多点钱就……”は、言いかけてやめたことになる。

(26) これも食べたら？

把这个也吃了呗。
 を これ も 食べる〈完了〉〈語気〉

【言いさし・提案】言いさしでも(26)【提案】や(27)【つき放し】の場合は“就好了(～たらいい)”の部分がなく、言いさしと言ってよい表現になっている。この場合、語気助詞と呼ばれる“呗”が重要な働きをしており、「～すればよい」「～してかまわない」「～してもしかたがない」といった気持ちを表す。

(27) やりたいなら(自分の)好きなようにやれば？

[如果] 你想做的话,想怎么做就怎么做呗。
 [もしも] あなた したい やる〈接続〉したい どのように する〈接続〉どのように する〈語気〉

【言いさし・つき放し】“的话”は仮定を表す助詞である。後件がさらに前後に分かれるために、ここでは省略しにくいようである。後件は「どのようにやりたいかによってどのようにやる」という表現である。前後を入れ替えた場合は、“想怎么做就怎么做,如果你想做的话。”のように、“如果”が必須となる。

(28) このコップは落ととしても割れない。

- i 这个杯子掉在地上也不会碎。
 この コップ 落とすに 床 も〈否定〉〈可能性〉 碎ける
- ii 这个杯子,把它摔到地上也摔不碎。
 この コップ を それ ぶつける まで 床 も ぶつける〈否定〉 碎ける

【仮定的な逆接】2つの事態をつなげる働きをしているのは、副詞の“也”である。iとiiの違いは、iが「不注意で起こった場合を想定して述べる」のに対し、iiは「故意に起こすことを想定して述べる」点にある。“摔不碎”は、動作“摔”と結果“碎”の間に“不”を挟んだ、「可能補語」の否定形で、「砕こうと思ってぶつけても砕くことができない」という表現である。

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

这苹果很贵,可是一点也不甜。
 このリンゴとても 高い しかし 少しも〈否定〉 甘い

【アクチュアルな逆接】接続詞“可是”が現れており、かつ省略しにくい。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

我去他家找他了，他没在。

私行く彼家訪ねる彼〈実現〉彼〈否定〉いる

【逆接3】(29)【アクチュアルな逆接】と異なり、接続の働きをする要素が見出せない。「私は彼の家を訪ねた」ということと、「彼はいなかった」ということが、並べられているのみである。(29)のような場合、一般に「値段が高ければ甘い筈だ」との前提があるのに対し、(30)では、「私が訪ねて行けば必ず彼は家にいる筈だ」との前提は一般的には成り立たないため、単に「私が訪ねて行ってみたら、(その時たまたま)彼は家にいなかった」と述べることになることから、両者の違いが生まれるものと考えられる。(28)(29)(30)とも、前後の入れ替えは容認されない。

(31) あの人に来るまで、私はここで待っています。

我在这儿等到那个人来。

私でここ待つまであの人来る

【時間的期限[1]】動詞に後接した“到～”が「～するまで」の意味を表す。

(32) あの人に来るまでに、食事を作っておきますよ。

那个人来之前，把饭菜做好。

あの人来るの前にを食事作る〈完成〉

【時間的期限[2]】動詞に後接した“～之前”が「～するまでに」の意味を表す。

「あの人に来る」時が、最も早い期限である(「あの人」が来るまでは待ち続ける)(31)では、補部を後ろに取る“到～”が使われ、最も遅い期限である(「あの人」が来るずっと前に作り終えてもよい)(32)では、補部を前に取る“～之前”が使われる。

前件後件の入れ替えに関し、(31)の前後を入れ替えたものは、“我”を削除し末尾に〈持続〉を表す“着”を加え、“到那个人来，在这儿等着。”とすれば、(32)の前後を入れ替えた“把饭菜做好，那个人来之前。”とともに、「～，待つように。」「～，食事を作っておくように。」と指示するような場面で容認され得る、とのコメントがあった。

以上見てきたところでは、総じて、できごととできごとがほぼ対等である場合((1)(4)(6)など)を除いて、できごと間の関係を示すマーカ―があってもなくても、前後の入れ替えは困難である。【理由】【目的・意図】を表すもののように、入れ替えが比較的容認されるも

のでも、入れ替えにあたってマーカ―が必須となるものもある((8)(14)(21)(27)など)。統語構造を示す形式的指標に乏しい中国語では、時間軸や論理の展開の方向に沿う順序で述べる傾向が強いことの現れであろう。

参考文献

- 井上優.2003.「文接続の比較対照——日本語と中国語」,『言語』32(3), pp.54-59.
- 王崗.2003.「時を表す複文構造に関する日本語と中国語の対照研究—「たら・とき・てから」と「时候・以后」」,『日中言語対照研究論集』5, pp.137-146.
- 大河内康憲.1997.「主語の支配する文群」,『中国語の諸相』白帝社, pp.107-114.
- 張岩紅.2006.「“V₁着 V₂”と“一边 V₁ 一边 V₂”との関係について」,『日中言語対照研究論集』8, pp.90-107.
- 豊嶋裕子.2008.「“一边 A 一边 B”と「P ながら Q」についての一考察」『日中言語対照研究論集』10, pp.57-73.
- 中川裕志.1997.「複文における因果性と視点」,田窪行則編『視点と言語行動』くろしお出版, pp.77-117.
- 三宅登之.2005.「“一边 V1, 一边 V2”と“V1 着 V2”の関係について」,『大東文化大学語学教育研究所創立 20 周年記念現代中国語文法研究論集』, pp.121-143.
- 李光赫.2011.「ト形式の時間的限定性における日中対照—中国語の“(一)P, 就 Q”との対照を中心に—」『日中言語対照研究論集』13, pp.89-100.

朝鮮語の連用修飾的複文

黒島規史, 孫ミナ

1. はじめに

朝鮮語は日本語と同じく、接続形式(韓国では *yenkyel#emi* (連結語尾), *cepsok#emi* (接続語尾) などと呼ばれる)が発達している。ここでは連結語尾と呼んでおく。例えば, Nam Kisim, Ko Yengkun (2011³: 403-404) では、もちろん全てではないが、次のような朝鮮語の連結語尾を挙げている。日本語訳は引用者による。本稿のアンケートの回答で用いられた形式には下線を引いてある。

一つ以上の事柄を羅列するもの: -ko, -(u)mye

一つ以上の事柄が同時に起こることを表すもの: -(u)myense

二つの事柄がほぼ同時に連続して起こることを表すもの: -ca

互いに相反することを表すもの: -(u)na, -ato/eto/letu, -cimanun, -lato¹, -toy

条件や仮定を表すもの: -(u)myen, -tamyen/lamyen, -ketun, -telato

理由や原因を表すもの: -(u)nikka, -(u)mulo, -ase/ese/lese,

ある事柄の結果や状態の持続を表すもの: -ase/ese/lese

一つの事柄が他の事柄に替わることを表すもの: -taka

他の事柄がさらに加えられたり、段々と程度が高くなっていくことを表すもの:

-(u)lppwuntele, -(u)lswurok

意図を表すもの: -(u)lyeko, -koca

目的を表すもの: -(u)le

どちらでも関係ないことを表すもの: -kena, -tunci

必ずそうしなければならないことを表すもの: -aya/eya/leya

ある事柄の背景を表すもの: -nuntey, -(u)ntey²

ある行為がある程度まで達したことを表すもの: -tolok

2. 朝鮮語の連用修飾的複文

ここから朝鮮語の連用修飾的複文について見ていく。例文の朝鮮語はハングル表記と Yale 式ローマ字転写で提示する。【】内は、本特集のアンケートで与えられた分類である。

¹ -lato は指定詞(コンピュータ)に付く形であり、その前の -ato/eto/letu のヴァリエーションである。

² -nuntey は動詞に付く形であり、-(u)ntey 形容詞、指定詞(コンピュータ)に付く形である。

例文中の連結語尾には CVB (converb) としてグロスを付し、継起や条件など個々の連結語尾の意味は示さないこととする。

【同時動作】

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

그는 항상 신문을 보면서 밥을 먹는다.

ku-nun hangsang sinmun-ul po-myense pap-ul mek-nunta.
彼-TOP いつも 新聞-ACC 見る-CVB ご飯-ACC 食べる-DEC

(1) で用いられている連結語尾 -(u)myense は日本語の「ながら」と似て、従属節と主節の動作が同時に行われることを表す。この場合、従属節と主節の主語は同一でなければならない。-(u)myense 「彼はそのことを知りながら、知らないふりをしていた」のように逆接的な意味を表せる点も共通している。しかし、-(u)myense は異主語になり契機的な意味も表せる点は日本語の「ながら」と異なる。

【継起的動作・物語的連鎖】

(2) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て、寝ました。

어제는 10 시에 집에 와서 잠깐 TV 를 보고 잤습니다.

ecey-nun 10 si-ey cip-ey w-ase camkkan TV-lul po-ko
昨日-TOP 10 時-DAT 家-DAT 来る-CVB 少しの間 テレビ-ACC 見る-CVB
ca-ss-supnita.
寝る-PST-DEC.POL

(2) では「帰って」は -(a/e)se という連結語尾を用いるが、「見て」は -ko という別の連結語尾を用いる。-(a/e)se と -ko について、前者はより主節との結びつきが強く、この例に見るように移動動詞と共に用いられたり、あるいは次の (3) に見るように原因、理由を表したりする。後者はより主節との結びつきが弱いと説明されるが、両者の違いについて、はっきりしないところも多い。

【継起：理由】

(3) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

어제 계단에서 넘어져서 다쳤다.

ecey kyeytan-eyse nemecy-ese tachy-ess-ta.
昨日 階段-LOC 倒れる-CVB 怪我する-PST-DEC

(3) では、(2) の cip-ey w-ase (家に帰って) と同じ連結語尾が用いられている。

【異主語】

(4) 今日も父は会社に行き、兄は大学に行った。

오늘도 아버지께서는 회사에 가시고 형은 대학에 갔다.

onul-to apeci-kkeyse-nun hoysa-ey ka-si-ko hyeng-un tayhak-ey ka-ss-ta.

今日-も 父-HON.NOM-TOP 会社-DAT 行く-HON-CVB 兄-TOP 大学-DAT 行く-PST-DEC

(4) では、(2) の TV-lul po-ko (テレビを見て) で用いられた連結語尾と同様の形式を用いている。このような異主語の場合、(3) で用いられた連結語尾 -(a/e)se は用いられない。

【付帯状況】

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

(그 사람은) 오늘은 모자를 쓰고 걸어가고 있었다.

(ku salam-un) onul-un moca-lul ssu-ko kel-e-ka-ko iss-ess-ta.

あの 人-TOP 今日-TOP 帽子-ACC かぶる-CVB 歩く-CVB-行く-CVB いる-PST-DEC

この (5) においても、(3)、(4) で用いられたのと同様の連結語尾 -ko が用いられている。(2) から (5) を見るとわかる通り、日本語ではテ形で表されるような意味が、朝鮮語では主に連結語尾 -ko、-(a/e)se で表される。この他にも日本語ではテ形で表しうような意味を、朝鮮語では他の形式で表すことがある。この点については3章で後述する。

【並行動作】

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

(나는) 쉬는 날은 항상 책을 읽거나 TV 를 봅니다.

a. (na-nun) swi-nun nal-un hangsang chayk-ul ilk-kena TV-lul po-pnita.

わたし-TOP 休む-ADN 日-TOP いつも 本-ACC 読む-CVB テレビ-ACC 見る-DEC.POL

(나는) 쉬는 날은 항상 책을 읽기도 하고 TV 를 보기도 합니다.

b. (na-nun) swi-nun nal-un hangsang chayk-ul ilk-ki-to ha-ko,

わたし-TOP 休む-ADN 日-TOP いつも 本-ACC 読む-NMLZ-も する-CVB

TV-lul po-ki-to ha-pnita.

テレビ-ACC 見る-NMLZ-も する-DEC.POL

日本語の「たり」と類似した意味を表す連結語尾に -kena があるが、朝鮮語では従属節

以外に主節でも連結語尾を繰り返すとやや不自然な文になる。また、(6b)のように動詞の名詞形と軽動詞 *hata* を用いることにより「～することもするし、…することもする」のように表すことも可能である。

【理由・カラ】

(7) 時間がないから、急いで行こう。

시간이 없으니까 서둘러 가자.

sikan-i eps-unikka setwulle ka-ca

時間-NOM ない-CVB 急ぐ.CVB 行く-COHOR

朝鮮語の理由を表す接続語尾は大きく *-(u)nikka*, *-(a/e)se*, *-(u)muro*, *-nurako* の4つをあげることが出来る。朝鮮語の550万単語規模のコーパスからの出現頻度を調べた調査を見ると、*-(a/e)se* (40485回)の頻度が一番高く、その次に *-(u)nikka* (11503回)、*-(u)muro* (2516回)、*-nurako* (301回)の順に高く現われた。³

日本語のカラとノデは文の丁寧さによって使い分けることが出来るが、朝鮮語の *-(u)nikka* と *-(a/e)se* の意味の違いは丁寧さではない。*-(a/e)se* と *-nurako* は命令文や勧誘文には用いられないという制約があるため、(7)では *-(a/e)se* と *-nurako* を用いることが出来ない。朝鮮語の命令文や勧誘文において理由を表わす際は主に *-(u)nikka* が用いられる。したがって、(7)でも *-(u)nikka* を用いる文が自然である。

【理由・ノデ】

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

어제는 머리가 아파서 평소보다 일찍 잤습니다.

ecey-nun meli-ka aph-ase phyengso-pota ilccik ca-ss-supnita

昨日-TOP 頭-NOM 痛い-CVB いつも-COMP はやく 寝る-PST-DEC.POL

(8)では *-(a/e)se* を用いることがもっとも自然であるが、*-(a/e)se* の代わりに *-(u)nikka* を用いると「頭が痛い」という理由を聞き手がすでに知っているようなニュアンスになる。上に挙げた *-nurako* は先行する述語が動詞であることを前提とする。即ち、形容詞や名詞 + 指定詞(コピュラ)を先行述語とすることが出来ないという制約があるため、(8)では用いることができない。

³ Hwang Hwa-Sang (2008:58) 脚注1 参照.

【趨向／移動の目的】

(9) あの人は本を買いに行った。

그 사람은 책을 사러 갔다.

ku salam-un chayk-ul sa-le ka-ss-ta

あの 人-TOP 本-ACC 買う-CVB 行く-PST-DEC

朝鮮語の移動の目的を表す連結語尾は -(u)re である。連結語尾 -(u)re は従属節と主節の主語が同一でなければならない。従属節の用言は動詞だけが可能であり、その動詞に時制を表す -(a/e)ss- , -keyss- を結合するのは不可能である。-(u)re に後行する動詞は日本語と同様に移動性を含意するものである。ka- (行く), naka- (出かける), nao- (出てくる), nayryeka- (降りて行く, 下る), tani- (通う), tolaka- (帰る), pangmunha- (訪れる), tullu- (立ち寄る), tuleka- (入る, 入って行く), tuleo- (入る, 入って来る) などの動詞が後行することが多い。

【目的・意図】

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

(그는) 바깥이 잘 [보이도록/보이게] 창문을 열었다.

(ku-nun) pakkath-i cal [poi-tolok / poi-key] changmwun-ul yel-ess-ta

彼-TOP 外-NOM よく 見える-CVB / 見える-CVB 窓-ACC 開ける-PST-DEC

朝鮮語の目的や意図を表す連結語尾には -tolok と -key がある。(10) では -tolok と -key 両方を用いることができるが、-key が動詞のみならず形容詞とも頻繁に結合して用いられるのに対し、-tolok は主に動詞と結合する傾向がある。

【恒常的条件】

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

여기는 여름이면 비가 자주 옵니다.

yeki-nun yelum-i-myen pi-ka cacwu o-pnita

ここ-TOP 夏-COP-CVB 雨-NOM よく 来る-DEC.POL

朝鮮語の条件を表す連結語尾は -(u)myen, -ketun, -(a/e)ya がある。条件文や仮定文全般に -(u)myen を用いることができる。それに対し、-ketun は条件文のみで用いられ、後節が必ず命令文や勧誘文であるという制約がある。また、-(u)myen が単純に条件や根拠を表すのに対し、-(a/e)ya は Swuni-ka w-aya ka-l swu iss-ta. (スニが来てはじめて行くことができる) のように必須条件を表す。

条件を表す日本語のナラ・ト・バ・タラはおおむね **-(u)myen** を用いて表すことができる。(11) のように恒常的条件の意味を表す時は **copula + -(u)myen** の形で用いる。toy- (なる) と結合した **toy-myen** (なったら) は恒常の意味はないため、恒常の意味を表すときは **enjeyna**, **hangsang**, **nul** (いつも, 常に), **kkok** (必ず) のような副詞を加えることになる。

【確定条件・生起】

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

창문을 [여니(까)/열었더니] 차가운 바람이 들어왔다.

changmwun-ul [ye-ni(kka) / yel-ess-teni] chakaw-un palam-i

窓-ACC 開ける-CVB / 開ける-PST-CVB 冷たい-ADN 風-NOM

tul-e-w-ass-ta.

入る-CVB-来る-PST-DEC

継起的連続の場合、日本語では条件形式が使えるが朝鮮語では条件形式ではなく、理由形式のひとつである **-(u)nikka**, または **-teni** を用いる。**-teni** はある出来事に続き他の出来事が連続的に起きる際に用いる連結語尾である。**-teni** は1人称主語の場合は用いることができず、1人称主語の場合は過去を表す **-(a/e)ss-** と結合し、(12) のように **-ess-teni** の形で用いられる。

【確定条件・発見】

(13) 坂を上ると、海が見えた。

언덕을 [올라가니(까)/올라갔더니] 바다가 보였다.

entek-ul [olla-ka-ni(kka) / olla-ka-ss-teni] pata-ka poy-ess-ta

丘-ACC 上がる.CVB-行く-CVB / 上がる.CVB-行く-PST-CVB 海-NOM 見える-PST-DEC

(12)と同様である。

【仮定条件】

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

내일 비가 오면 나는 거기에 안 간다.

nayil pi-ka o-myen na-nun keki-ey an ka-nta

明日 雨-NOM 来る-CVB わたし-TOP そこ-DAT NEG 行く-DEC

(11) のように仮定条件の場合も **-(u)myen** を用いる。

【反実仮想】

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

(잠)더 일찍 일어났으면 [좋았을 걸/좋았을 텐데].

(com)te ilccik ilena-ss-umyen [coh-ass-ul kel/

(少し)もっと 早く 起きる-PST-CVB よい-PST-ADN.FUT BN.ACC

coh-ass-ul theyntey.]

よい-PST-ADN.FUT BN.COP.CVB

韓国語の反実仮想では (15) のように過去を表す -(a/e)ss- と結合した -ss-umyen の形を用いる。主に現在の事柄に反する状況を仮定し、過去の出来事に対する後悔を表す。

【反実仮想・前件否定】

(16) あんなところに行かなければよかった。

그런 데 안 [갔으면/갔더라면] [좋았을 걸/좋았을 텐데].

kulen tey an [ka-ss-umyen / ka-ss-telamyen] [coh-ass-ul kel

そうだ-ADN ところ NEG 行く-PST-CVB / 行く-PST-CVB よい-PST-ADN.FUT BN.ACC

/ coh-ass-ul theyntey.]

よい-PST-ADN.FUT BN.COP.CVB

(15) と同様に過去を表す -(a/e)ss- と結合した -ss-umyen の形を用いるか、さらに過去回想を表す -te が加わった -ss-telamyen を用いる。

【一般的真理】

(17) 1 に 1 を足せば、2 になる。

1 에 1 을 더하면 2 가 된다.

1-ey 1-ul teha-myen 2-ka toy-nta.

1-DAT 1-ACC 加える-CVB 2-NOM なる-DEC.

一般的真理の場合も (11) や (14) のように -(u)myen を用いる。

【仮定条件+働きかけのモダリティ】

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

역에 도착하면 전화해 주세요.

yek-ey tochakha-myen cenhwahay cwu-seyyo.

駅-DAT 到着する-CVB 電話する.CVB あげる-IMP.HON

(18) の仮定条件+働きかけのモダリティでも -(u)myen を用いる.

【仮定条件+願望】

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ.

이번 일요일에 다 같이 공원에 가고 싶다.

ipen ilyoil-ey ta kathi kongwen-ey ka-ko siph-ta.
今度 日曜日-DAT みんな 一緒に 公園-DAT 行く-CVB DESI-DEC

朝鮮語では後節が願望である場合、時間を表す副詞と条件形式が結合するとやや不自然であるが、理由ははっきりしない. ここは条件形式を用いずに単に ipen ilyoil-ey (今度の日曜日) とするか、あるいは ilyoil-i o-myen (日曜日-NOM 来る-CVB 日曜日が来たら) のように表す必要がある.

【心配】

(20) 明日雨が降ったら困るなあ.

내일 비 오면 곤란한데.

nayil pi o-myen konlanha-ntey.
明日 雨 来る-CVB 困る-CVB

この (20) もやはり -(u)myen を用いる.

【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください.

집에 올 거면 전화하고 오세요.

cip-ey o-l ke-myen cenhwaha-ko o-seyyo.
家-DAT 来る-ADN.FUT BN-CVB 電話する-CVB 来る-IMP.HON

ここでは「家に来るなら」が聞き手の意志を伴う条件のため、o-myen (来る-CVB) ではなく o-l ke-myen 「来るのであれば、来るなら」としなければならない.

【予想を伴った条件文】

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください.

a. 벨이 울리면, 알려주세요.

peyl-i wulli-myen ally-e cwu-seyyo.
ベル-NOM 鳴る-CVB 知らせる-CVB あげる-IMP.HON

b. 벨이 울리거든, 알려주세요.

peyl-i wulli-ketun ally-e cwu-seyyo.
 ベル-NOM 鳴る-CVB 知らせる-CVB あげる-IMP.HON

(11) ですすでに述べたように -ketun は条件文のみで用いられ、後節が必ず命令文または勧誘文であることを前提とする。(22) は命令文であるため、(22a) のように -(u)myen を用いることも (22b) のように -ketun を用いることもできる。

【予想を伴わない条件文】

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

혹시(만약에) 벨이 울리면 가르쳐 주세요.

hoksi peyl-i wulli-myen ally-e cwu-seyyo.
 もし ベル-NOM 鳴る-CVB 知らせる-CVB あげる-IMP.HON

(23)のように予想を伴わない条件文の場合は主に -(u)myen を用いる。(22) で挙げた -ketun は -(u)myen と比べ予想を伴った条件や比較的实现可能性が高いと考えられる場合用いられることが多いため、予想を伴わない条件文ではやや不自然である。

【相關構文】

(24) 働かざるもの食うべからず。

일하지 않는 자 먹지도 말라.

ilha-ci anh-nun ca mek-ci-to mal-la.
 働く-NMLZ NEG-ADN 者 食べる-NMLZ-も やめる-QUOT.IMP

朝鮮語には基本的に相關構文は存在しないと考えられるが、一部の方言では相關構文が使用されるようである。⁴

次の (25) から (27) はいわゆる言いさし (insubordination) の項目である。朝鮮語においてもこの現象は観察されるが、(26), (27) のような場合、朝鮮語では言いさしで表すことができない。(25) は言いさしと呼べるかもしれないが、日本語のように条件節で終止させることはできないようである。日本語と朝鮮語の言いさしの対照については3章で簡単に見

⁴ B・Rさん(吉林省吉林市出身、20代女性)によれば、吉林省吉林市の朝鮮語では “elma kac-ko siph-umyen elma cwu-ikkey (いくら持つ-CVB DESI-CVB いくらあげる-PRM)” で、「ほしただけあげるよ」のような表現が可能だという。中国語の影響とも考えられるが、詳しい調査が必要である。

ることにする.

【言いさし・願望】

(25) もう少しお金があったらなあ.

돈 좀 있었으면 좋을 텐데.

ton com iss-ess-umyen coh-ul theyntey.

お金 少し ある-PST-CVB よい-ADN.FUT BN.COP.CVB

朝鮮語は条件節で終止すると不自然であり「お金があったらいいはずなのに」のように表さなければならない. -(u)l theyntey は未来連体形の語尾 -(u)l, 形式名詞 the に指定詞 -ita と連結語尾 -(u)ntey から成る -(u)l theintey の縮約形と説明され, -(u)l theyntey の形でよく用いられる. 連結語尾 -(u)ntey が付いた形であるので, これも一種の言いさしと見なすことができるであろう.

【言いさし・提案】

(26) これも食べたら?

이것도 먹을래?

ikes-to mek-ullay?

これ-も 食べる-VOL

(26) は言いさしで表すことはできず, 意志, 意向を表す -(u)llay という形式を用いて「これも食べる (食べたい) ?」のように表す必要がある.

【言いさし・つき放し】

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば?

하고 싶으면 (니) 마음대로 하지 (그래).

ha-ko siph-umyen (ni) maum-taylo ha-ci (kulay).

する-CVB DESI-CVB (おまえ.GEN) 心-まま する-COHOR (そうする.DEC.NPOL)

この例でもやはり朝鮮語では言いさしで表現することはできないが, 終結語尾 -ci を用いて勧誘, 提案のように意味を表すことができる. この場合, kuleta (そうする) をさらに補い -ci kulay という形で用いることも可能である.

【仮定的な逆接】

(28) このコップは落としても割れない.

이 컵은 떨어뜨려도 깨지지 않는다.

i khep-un ttelettuly-eto kkayci-ci anh-nunta.
この コップ-TOP 落とす-CVB 割れる-NMLZ NEG-DEC

日本語の「ても」に近い意味を表す連結語尾には (28) で用いた -(a/e)to の他に, -terato もあるが, 後者はより仮定の意味が強いとされる.

【アクチュアルな逆接】

(29) このリンゴは高かったのに, ちっとも甘くない.

이 사과는 비쌌는데 하나도 달지 않다.

i sakwa-nun pissa-ss-nuntey hana-to tal-ci anh-ta.
この リンゴ-TOP 高い-PST-CVB ひとつも 甘い-NMLZ NEG-DEC

【逆接 3】

(30) 彼の家に行ってみたけれども, 彼はいなかった.

그의 집에 [가 봤는데/가 봤지만] 그는 없었다.

ku-uy cip-ey [ka pwa-ss-nuntey / ka pwa-ss-ciman] ku-nun
彼-GEN 家-DAT 行く.CVB みる-PST-CVB / 行く.CVB みる-PST-CVB 彼-TOP
eps-ess-ta.
いない-PST-DEC

この例では -nuntey も -ciman も共に用いることができるが, 前者は話し言葉的である. また前者は逆接以外の意味も表すが, 後者は逆接専用である.

【時間的期限 [1]】

(31) あの人が来るまで, 私はここで待っています.

그 사람이 올 때까지 나는 여기서 기다리겠습니다.

ku salam-i o-l ttay-kkaci na-nun yekise kitali-keyss-supnita
あの 人-NOM 来る-ADN.FUT 時-まで わたし-TOP ここで 待つ-PROB-DEC.POL

この (31) と次の (32) の例に見るように, 朝鮮語では特に「まで」と「までに」は区別がない.

【時間的期限 [2]】

(32) あの人が来るまでに, 食事を作っておきますよ.

그 사람이 올 때까지 식사 준비를 해 두겠습니다.

ku salam-i o-l ttay-kkaci siksa cwunpi-lul hay twu-keyss-supnita
その人-NOM 来る-ADN.FUT 時-まで 食事 準備-ACC する.CVB 置く-PROB-DEC.POL

3. 日本語と朝鮮語における連用修飾的複文の対照

ここでは、これまでアンケートに答えながら見てきた朝鮮語の例を基に、若干の考察を加える。日本語と朝鮮語の連用修飾的複文を対照したときに特徴的だった点、3.1 日本語のテ形と朝鮮語の連結語尾、3.2 日本語と朝鮮語の言いさしについて述べていく。

3.1. 日本語のテ形と朝鮮語の連結語尾

日本語のテ形に対応する朝鮮語の連結語尾には (2) から (5) の例で見たように -(a/e)se, -ko があるが、その他にも様々な形式がある。

Ocaxhi Tassuci (2007) は対訳資料により日本語のテ形と朝鮮語の連結語尾の対照をしている。Ocaxhi Tassuci (2007: 111) によって主な例を挙げると、テ形の用例 719 例に対し、293 例が -(a/e)se または -a/e (連用形) であり、続いて 132 例が -ko, 34 例が -(u)mye, 24 例が -(u)myense, 11 例が -taka であったという。やはり -(a/e)se, -ko が多いが、テ形と「同時」を表す -mye, -myense との対応関係も興味深い。Ocaxhi Tassuci (2007) では挙げられていないため、筆者が小説の対訳資料を用いて調査した結果、日本語のテ形に対応する -(u)myense の例には次のようなものが見つかった。

ただ、小学校が閉鎖になり、父親が暴漢に襲われて肩から血を流して帰宅するような頃になると… (後略) (伊坂幸太郎, 終末のフール, p.155)

kulena hakkyo-ka phyeysway-toy-ko, apeci-ka koyhan-eykey tanghay
しかし 学校-NOM 閉鎖-PASS-CVB 父-NOM 怪漢-DAT やられる.CVB

ekkay-ey phi-lul hulli-myense cip-ey tolao-l cikyeng-i toy-ca
肩-DAT 血-ACC 流す-CVB 家-DAT 帰ってくる-ADN.FUT ほど-NOM なる-CVB

(Isakha Kothalo, Congmaluy papo, p.181)

3.2. 日本語と朝鮮語の言いさし

日本語と朝鮮語の言いさしについて、(26), (27) の例のところで見たように、日本語では条件節が言いさしとして用いられ、提案の意味を表したりするが朝鮮語では言いさしを用いてそのような意味を表すことは難しいようである。朝鮮語は (25) で見たように条件節のみで終止させると不自然になる。(25) を再引用する。

(25) もう少しお金があったらなあ.

ton com iss-ess-umyen coh-ul theyntey.
 お金 少し ある-PST-CVB よい-ADN.FUT BN.COP.CVB

歴史的には -ketun は制限なく用いられていたが、すでに (11) のところで述べたように現代語では使用範囲が限定されており、条件節としては主に -(u)myen が用いられている。そして -ketun は主節化して「他の事実の根拠」を説明する用法を持つようになっている。

Swuni: way hangsang siksa ttay kimchi-lul mek-e-yo?
 なぜ いつも 食事 時 キムチ-ACC 食べる-DEC-POL
 Yengswu: na-n pap mekul ttay kkok kimchi panchan-i
 わたし-TOP ご飯 食べる-AND.FUT 時 必ず キムチ おかず-NOM
 iss-eya ha-ketun.
 ある-CVB する-ketun

スニ：どうしていつも食事の時、キムチを食べるのですか？

ヨンス：私はご飯を食べる時、必ずキムチのおかずがないと駄目なんだよ。

(韓国・国立国語院. 2012, p.11)

また、(1) の例のところで述べたように「同時」を表す -(u)myense は日本語の「ながら」と同じように逆接的な用法を持つが、次のように言いさしとして用いられる場合は、日本語では「ながら」で表せないだろう。

kille-po-ci-to anh-ass-umyense!
 育てる-みる-NMLZ-も NEG-PST-CVB
 「育てたこともなくせに！」

(黒島規史. 2014, p.309)

日本語と朝鮮語で言いさしには類似した点も多いが、このように異なる点もある。

4. まとめ

本稿のアンケートを通して確認されたことを大きくまとめると次の3点に集約できるだろう。

- ① 日本語のテ形が表すような意味を、朝鮮語では多数の形式によって表している。
- ② 日本語は条件形式が多いのに対し、現代朝鮮語では主に一つの形式しか用いられていない。

- ③ 条件形式が言いさしとして用いられる場合、日本語と朝鮮語ではその機能が大きく異なる。また、朝鮮語の言いさしは日本語と類似した点も多いが、提案やつき放しの意味は表せない。

略号一覧

ACC	accusative	対格	IMP	imperative	命令
ADN	adnominal	連体形	LOC	locative	位格
BN	bound noun	形式名詞	N-	non-	非-
COHOR	cohortative	勧誘	NEG	negative	否定
COMP	comparative	比較格	NMLZ	nominalizer	名詞化
COP	copula	指定詞	NOM	nominative	主格
CVB	converb	副動詞	POL	polite	丁寧
DAT	dative-locative	与位格	PRM	promissive	約束法
DEC	declarative	陳述	PROB	probability	蓋然性
DESI	desiderative	願望	PST	past	過去
FUT	future	未来	QUOT	quotative	引用
GEN	genitive	属格	TOP	topic	主題
HON	honorific	尊敬	VOL	volitive	意志法

参考文献

韓国語で書かれたもの

- Han Song-Hwa. 2007. “ ‘-ule’wa ‘-uleygo’ yengu” [‘-ule’ と ‘-uleygo’ 研究]. *Emunchonglon*, vol.47, 343-372.
- Hwang Hwa-Sang. 2008. “yenkyelemi ‘-ese, -nikka’ uy uymi kinung kwa hwuhyangel” [連結語尾 ‘-ese, -nikka’ の意味機能と後行節]. *Kwukihak*, vol.51, 57-89.
- Kwuklipkwukewen. 2005. *Oykwukinul wihan hankwuke mwunpep2 — Yongpep phyen* [外国人のための韓国語文法 2 — 用法編], Seoul: Khemyunikheyisyenpwuksu (韓国・国立国語院). 2012. 『標準韓国語文法辞典』, 東京: アルク)
- Lee Hee-ja・Lee Jong-hee. 2006. *Hankwuke haksup haksupcayong emi・cosa sacen* [韓国語学習者用 語尾・助詞辞典], Seoul: Hankwukmunhwasu.
- Nam Kisim, Ko Yengkun. 2011³. *Phyocwun kwukemwunpeplon* [標準国語文法論], Seoul: Thapchwulphansa
- Ocaxhi Tassuci. 2007. “Ilpone cepsokcosa ‘-て’wa hankwuke yenkyelemi tayco yenkwu —

- ‘-e(se)’, ‘-ko’ wauy taycolul cwungsimulo ——” [日本語の接続助詞 ‘-て’ と韓国語の連結語尾の対照研究 —— ‘-e(se)’, ‘-ko’ との対照を中心に ——]. *Hankul*, vol. 275, 107-127.
- Park Na-Ree. 2013. “Sasil coken uy ‘-myen’ye tyahan tamhwa hwayongcek yengu” [事実条件の ‘-myen’ の談話話用的研究]. *Kwukehak*, vol. 68, 289-321.
- Yi Eun-gyeong. 2007. “ ‘-ese’ cel kwa ‘-nikka’ cel uy seswule yuhyeng” [‘-ese’ 節と ‘-nikka’ 節の叙述後類型]. *Hankwukehak*, vol.36, 221-248.

日本語で書かれたのもの

- 菅野裕臣. 1982. 「(複・重文の構成) 朝鮮語」, 『講座日本語学 11』, 東京: 明治書院, pp.259-267.
- 風間伸次郎. 2012. 「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」, 『北方言語研究』 2, 北海道大学大学院文学研究科, pp.139-162.
- 黒島規史. 2014 「現代朝鮮語の「言いさし」における節の構造とモダリティの関係について」, 『日本言語学会第 148 回大会 予稿集』, 日本言語学会, pp.308-313.

用例を収集した資料

- 伊坂幸太郎. 2006. 『終末のフール』 東京: 集英社
- Yun Tekcwu 訳. 2006. *Congmaluy papo*, Seoul: Layntemhawusukholia

モンゴル語の(連用修飾的) 複文

山田 洋平

1. はじめに

モンゴル語はモンゴル諸語に属する言語の一つである。モンゴル国の広域に分布するハルハ・モンゴル語と、中華人民共和国内モンゴル地域中央部に分布するチャハル・モンゴル語を中央の方言として、その他におおよそ西部方言と東部方言が認められる。本稿ではハルハ・モンゴル語 [X.] をモンゴル国ウブスハンガイ県ハイルハンドラーン(図中①) 出身1988年生まれの女性に、東部方言に属するバイリン・モンゴル語 [B.] を中華人民共和国内モンゴル自治区赤峰市巴林(図中②) 出身の1975年生まれの女性にそれぞれ調査協力を依頼しデータを収集した。それぞれ日本語を提示し訳していただくという形をとった。



図: 調査協力者出身地

以下にモンゴル語の概要を示す。本稿で扱うものを中心に、名詞形態論・動詞形態論の順で挙げる。従来の記述はハルハ・モンゴル語に関するものが多く、一方でバイリン・モンゴル語に関する記述は少ない。ここでは便宜上ハルハ・モンゴル語の形式を中心に取り上げる。なお、ハルハ・モンゴル語の表記は正書法に基づいたもので、必ずしも実際の音声を反映したものでないことを断っておく。表記上 A のように大文字で記したものは、

語幹母音による母音調和などが起こり a ~ e ~ o ~ ö などといった異形態があることを表している。

・名詞形態論

名詞や名詞類，あるいは動詞の形動詞形には -格接辞(属格 -iin, 対格 -iig, 奪格 -AAs, 具格 -AAr, 与位格 -d ~ -t, 共同格 -tAi) -再帰接辞([X.] -AA, [B.] -AAn) が付されうる。

・動詞形態論

語幹に付すことで相 -čix 「…してしまう」(完了) や態 -lgAA 「…させる」(使役) などの意味を付与する接辞がある。

動詞の語尾は一般に文を終止させる定動詞接辞，連用修飾節を成す副動詞接辞，連体修飾節を成す形動詞接辞に分類される。それぞれよく用いられる接辞を以下に挙げる。

定動詞形: 非過去 -nA 「…する」, 過去 -w, -IAA, -jee 「…した」

意思 -j(AA) 「…しよう」, 命令 -ø, -AAč 「…しなさい」, 依頼 -AArAi 「…してください」

副動詞形: 同時 -j 「…して」, 先行 -AAd 「…してから」, 継続 -sAAr 「…しながら」, 即時 -mAgc 「…するやいなや」, 条件 -bAl 「…したら」, 譲歩 -wč 「…しても」, 限界 -tAl 「…するまで」など

形動詞形: 未来 -x 「…する(ところの)」, 完成 -sAn 「…した(ところの)」, 習慣 -dAg 「(いつも)…している(ところの)」, 進行 -AA 「…している(ところの)」

ただし，以下のデータではグロス上，とくに定動詞・副動詞・形動詞の別をしていない。

2. データ

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

[X.] *ter ürgelĵ sonin unšingaa xool iddeg.*

ter ürgelĵ sonin unš-ngAA xool id-dAg
3SG always newspaper to.read-while meal to.eat-HBT

[B.] *tər xəjəəd nom üj-ĵ#i-AAd badaa idnə.*

tər xəjəəd nom üj-ĵ#i-AAd badaa id-nA
3SG always book to.read-sim#COP-ANT meal to.eat-NPST

(1) [X.] の -ngAA は「している間に」の意の副動詞 (Kullmann and Tserenpil 2008; 171).
ただし (1)[B.] 同様に (1)[X.] でも「先行する動作が終了してから」という意味を表すとされる -AAd (cf. (2))を使用することも可能だという。

(2) 私は昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て（から）、寝ました。

[X.] *öčigdör arwan cagt gertee xariad, jaaxan tjeljewiz üzej baigaad utsan.*

öčigdör araw.n cag-d ger-d-AA xari-AAAd jaaxan tjeljewiz
 yesterday ten time-DAT house-DAT-REF to.go.back-ANT a.little television
 üz-ǰ bai-AAAd unt-sAn
 to.see-SIM COP-ANT to.sleep-PERF

[B.] *öčigdör arwan čagt gərtəən xeraad jaaxan telewiz ijfeed untčee.*

öčigdör araw.n čag-d gər-d-AAAn xarj-AAAd jaaxan telewiz
 yesterday ten time-DAT house-DAT-REF to.go.back-ANT a.little television
 ij-AAAd unt-ǰee
 to.see-ANT to.sleep-PST

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

[X.] *öčigdör šatnaas unaad gemtčixsen.*

öčigdör šat.n-AAs un-AAAd gemt-čix-sAn
 yesterday stairs-ABL to.fall-ANT to.get.hurt-PFV-PERF

[B.] *öčigdör asriin šataas unagaad šarxatčjēe.*

öčigdör asar-iin šat-AAs unag-AAAd šarxat-či-ǰee
 yesterday building-GEN stairs-ABL to.fall-ANT to.get.hurt-PFV-PST

(4) 今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。

[X.] *önöödör č gesen aaw kompani ruugaa jawaad, xarin ax ix surguulj ruugaa jawsan.*

önöödör=č ge-sAn aaw kompani-rUU-AA jaw-AAAd xarin ax
 today=also to.say-PERF father company-DIR-REF to.go-ANT but big.brother
 ix#surguulj-rUU-AA jaw-sAn
 university-DIR-REF to.go-PERF

[B.] *önöödör bas aab ajillxaan jawaad ax surguulidaan jabjēe.*

önöödör bas aab ajill-x-AAAn jaw-AAAd ax surguulj-d-AAAn jab-ǰee
 today also father to.work-FUT-REF to.go-ANT big.brother school-DAT-REF to.go-PST

[X.] の協力者は (2), (3) [X.] については -AAAd -ANT を -ǰ -SIM と交換することができないが、(4) [X.] については交換可能であるとした。「同時」とラベル付けされる -ǰ は先行

する動作の完了を含意する (2)(3) と親和性が低く、必ずしも完了を含意しない (4) でなら使用可能であると判断したものであろうか。

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

[X.] *önöödör ter xün malgaigaa ömssön jawj baisan.*

önöödör ter xün malgai-AA öms-sAn jaw-j bai-sAn
today that man hat-REF to.wear-PERF to.go-SIM COP-PERF

(5) [X.] について表現としては *malgai-tai jaw-j {hat-PROP to.go-SIM}* がよく使われるという。この例では「かぶって」にあたる部分がいわゆる形動詞接辞によって表されている。

[B.] *ter önöödör malag ömsöod jawjjee.*

ter önöödör malag öms-AAAd jaw-j#i-jee
3SG today hat to.wear-ANT to.go-SIM #COP-PST

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

[X.] *amraltiinxaa ödröör dandaa nom unšix č jum uu,tjeljeviz üzdeg.*

amralt-iin-AA ödär-AAr dandaa nom unš-x=č jum=uu tjeljeviz
holiday-GEN-REF day-INS always book to.read-FUT=also MOD=INT television
üz-dAg
to.see-HBT

[B.] *amraltiin ödör xəjəəd nom unšxiimuu televiz üjij baidag.*

amralt-iin ödör xəjəəd nom unš-x=jum=uu televiz üj-j
holiday-GEN day always book to.read-FUT-MOD=INT television to.see-SIM
bai-dAg
COP-HBT

(7) 時間がないから、急いで行こう。

[X.] *cag baixgüi učraas xurdan jawija.*

cag bai-x=güi učir-AAs xurdan jaw-jA
time to.be-FUT=NEG reason-ABL quickly to.go-VOL

[B.] *čaggüi bolxoor xurдан jawii.*

čag=güi bol-x-AAr xurдан jaw-jA
time =NEG to.become-FUT-INS quickly to.go-VOL

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

[X.] *öčigдөр толгой өвдөөд байсан учраас урjдiinxaasaa еrt untsan.*

öčigдөр толгой өвд-AAд bai-sAn učir-AAs urjd-iin-AAs-AA еrt
yesterday head to.get.hurt-ANT COP-PERF reason-ABL usual-GEN-ABL-REF early
unt-sAn
to.sleep-PERF

[B.] *öčigдөр толгее өбдjиisan болxoor әrt unтčее.*

öčigдөр толгее өбд-j bai-sAn бол-x-AAr әrt unт-jee
yesterday head to.get.hurt-SIM COP-PERF to.become-FUT-INS early to.sleep-PST

(7) (8) とともに因果関係を示す「だから」にあたる表現を, [X.] は učir-AAs, [B.] は бол-x-AAr という形式で表している。

(9) あの人は本を買いに行った。

[X.] *ter xiin nom xudaldaj awaxaar jawsan.*

ter xiin nom xudald-j aw-x-AAr jaw-sAn
that man book to.sell-SIM to.get-FUT-INS to.go-PERF

[B.] *tәр nom awaxaar jawjee.*

tәр nom aw-x-AAr jaw-jee
3SG book to.get-FUT-INS to.go-PST

移動の目的は (9) [X.] [B.] いずれも未来形動詞-具格という形式で表現される。

(10) 外が良く見えるように窓を開けた。

[X.] *gadnax baidal saitар xar-gd-xUic-AAr conx-AA ongoilgo-sAn.*

gadnax baidal saitар xar-gd-xUic-AAr conx-AA ongoilgo-sAn
outside situation better to.see-PASS-PSB-INS window-REF to.open-PERF

(10) [X.] -xUic は Kullmann and Tserenpil (2008; 153) で可能性の形動詞とされている。調

査協力者によれば *xar-x-iin tuld* {to.see-FUT-GEN in.order.to} という表現とも置き換え可能だという。

[B.] *gadnax üjämj sain üjəgdəxiin tölöö čonxoon nəəjee.*

gadnax üjämj sain üj-gd-x-iin tölöö čonx-AAAn nəə-jee
outside sight good to.see-PASS-FUT-GEN in.order.to window-REF to.open-PST

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

[X.] *end zun bolonguut boroo ix ordog.*

end zun bol-ngUUt boroo ix or-dog
here summer to.become-IMD rain much to.enter-HBT

[B.] *ənd jun bolsoor boroo orood baidag.*

ənd jun bol-sAAr boroo or-AAAd bai-dAg
here summer to.become-PROG rain to.enter-ANT COP-HBT

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

[X.] *conx ongoilgonguut xüiten salxi orj irsen.*

conx ongoilgo-ngUUt xüiten salxi or-j ir-sAn
window to.open-IMD cold wind to.enter-SIM to.come-PST

[B.] *čonk nəəsən čin xüiten jawar orj irbə.*

čonk nəə-sAn=čín xüitən jawar or-j ir-bA
window to.open-PERF=2SG cold wind to.enter-SIM to.come-PST

(13) 坂を上ると、海が見えた。

[X.] *ögsüür zamaar ögstöl dalai xaragdsan.*

ögsüür zam-AAr ögs-tAl dalai xar-gd-sAn
slope road-INS to.go.up-LIM sea to.see-PASS-PERF

[B.] *dəb dəər garsan čin dalee üjəgdbə.*

dəb dəər gar-sAn=čín dalee üj-gd-bA
slope above to.go.out-PERF=2SG sea to.see-PASS-PST

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

[X.] *margaaš boroo orwol bi tend očixgüi.*

margaaš boroo or-bAl bi tend oč-x=güi
tomorrow rain to.enter-COND 1SG there to.go-FUT=NEG

[B.] *margaaš boroo orwol bii tend očixüi.*

margaaš boroo or-bAl bii tend oč-x=güi
tomorrow rain to.enter-COND 1SG there to.go-FUT=NEG

(11)～(14) の [X.] について、類似の条件表現で置き換え可能か [X.] の調査協力者に聞き取りを行った。次の表は (11)～(14) について、「例文の形式」で調査例文を訳出してもらうことで得られた各データに現れた動詞の形式を示し、それらを -bAl, -xAd という形式に置き換え可能かを○×で示したものである。-bAl は条件副動詞と呼ばれるものである。-xAd は形動詞-x に与位格-d が付されたもので、「～する/したとき」の意で用いられるものである。

表: 条件表現に用いられる動詞形式

例文		[X.]例文の形式[B.]	-bAl	-xAd
(11) 夏になると、雨が降ります。 恒常的条件		-ngUUt	-sAAr	○ ×
(12) 開けると、風が入って来た。 確定条件・生起		-ngUUt	-sAn=čin	× ○
(13) 坂を上ると、海が見えた。 確定条件・発見		-tAl	-sAn=čin	× ○
(14) 雨が降ったら、行かない。 仮定条件		-bAl	-bAl	○ ×

-xAd は条件を表す形式として-bAl と似たような環境で用いられることもあるが、ここでは確定条件において-xAd のみが用いられ、恒常的条件と仮定条件では-bAl のみが用いられるという分布を示した。この他、[X.] -tAl (cf. (31)), [B.] -sAAr (cf. (18) etc.) や [B.] の確定条件に表れた -sAn=čin の用法についても気になるが、詳細の検討は今後の課題とする。内モンゴル地域のモンゴル語では条件の形式として -bAl は比較的格式張っていて、口語としては -sAAr が頻繁に用いられるとする報告もある。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

[X.] *arai ertxen bossonson bol.*

arai ert-xAn bos-sAn=sAn=bol
still early-DIM to.get.up-PERF =MOD=MOD

[B.] *odoo nəg bas ərt bosson bol bolʒee.*

odoo nəg bas ərt bos-sAn=bol bol-ʒee
now one also early to.get.up=COND to.become-PST

(15) [B.] =bol は上述の-bAlに関連した条件形式で名詞や形動詞形の動詞に後続させて用いる。(15) [X.] に見られる =bol もこれに由来する形式であるが [X.] では文末でも用いられる。

(16) あんなどころに行かなければよかった。

[X.] *tiim gazar luu jawaxgüi l baix baisan jum.*

tiim gazar=luu jaw-x=güi=l bai-x bai-sAn=jum
such.that place=rUU to.go-FUT=NEG=EMP COP-FUT COP-PERF=MOD

[B.] *tənd očsongüi bol bolʒee.*

tənd oč-sAn=güi=bol bol-ʒee
there to.go-PERF=NEG=COND to.become-PST

(17) 1に1を足せば, 2になる。

[X.] *neg deer negüig nembel xojoy bolno.*

neg deer neg-iig nem-bAl xojoy bol-nA
one above one-ACC to.add-COND two to.become-NPST

(17) [X.] では -bAl を -xAd に置き換えることはできないという。-ngUUt も用いられない。

[B.] *neg deer neg nembel xojoy.*

neg deer neg nem-bAl xojoy
one above one to.add-COND two

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

[X.] *buudal deer irwel utasdaarai.*

buudal deer ir-bAl utasd-AArAi
station above to.come-COND to.call-REQ

(18) [X.] でも -bAl を -xAd に置き換えることはできないが, -ngUUt 「すぐに」は用いるという。

[B.] *tərgiin örtöönd xiütsəər utas jawuulaa.*

tərg-iin örtöönd xüt-sAAr utas jawuul-ø=AA
 car-GEN station-dat to.reach-PROG telephone to.send-IMP=EMP

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

[X.] *büten sain bolbol bügdeeree cecerlegt xiüreen rüü javax jumsan.*

büten#sain bol-bol bügd-AAr-AA cecerlegt#xiüreen-rUU
 Sunday to.become-COND everyone-INS-REF park-DIR
 jav-x=jum=san
 to.go-FUT=MOD=MOD

[B.] *garjgiin ödör bügdəərəən čičrləg očii gəj bodjiina.*

garjgiin#ödör bügd-AAr-AAAn čičrləg oč-jA gə-j bod-j bai-nA
 Sunday everyone-INS-REF park to.go-VOL to.say-SIM to.think-SIM COP-NPST

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

[X.] *margaaš boroo orwol xeciüüdne.*

margaaš boroo or-bAl xeciüüd-nA
 tomorrow rain to.enter-COND to.have.difficulty-NPST

[B.] *margaaš boroo orwol xəčiüü daa.*

margaaš boroo or-bAl xəčiüü=dAA
 tomorrow rain to.enter-COND difficult=MOD

(20) [B.] の-bAl は -sAAr に置き換え可能であるという(cf. (11) (18) (22) (23) [B.]).

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

[X.] *gert irex bolwol utasdsanii daraa ireerei.*

ger-d ir-x bol-bAl utasd-sAn-ii daraa ir-AArAi
 house-DAT to.come-FUT to.become-COND to.call-PERF-GEN next to.come-REQ

[B.] *gər irwəl utas awaad irə.*

gər ir-bAl utas aw-AAAd ir-ø=AA
 house to.come-COND telephone to.take-ANT to.come-IMP-EMP

(21) [X.] では ir-x bol-bAl を ir-bAl {to.come-COND}や ir-x=yum=bol {to.come-FUT=MOD=COND}には置き換えられないという。ただし (21) [B.] では ir-bAl という形式が用いられている。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

[X.] (*seriüileg tawjsan,*) *duugarwal xeleeeri.*

seriüileg tawj-sAn duugar-bAl xel-AArAi
alarm to.set-PERF to.ring-COND to.tell-REQ

[B.] (*odoo xonx dugalna,*) *dugalsaar xələəd ög.*

odoo xonx dugal-nA dugal-sAAr xəl-AAd ög-ø
now bell to.ring-NPST to.ring-PROG to.tell-ANT to.give-IMP

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

[X.] *xerwee duugarwal xeleeeri.*

xerwee duugar-bAl xel-AArAi
if to.ring-COND to.tell-REQ

[B.] (*xonx duglax magadgüi,*) *dugalsaar xələəd ög.*

xonx dugal-x magad=güi dugal-sAAr xəl-AAd ög-ø
bell to.ring-FUT certain=NEG to.ring-PROG to.tell-ANT to.give-IMP

(24) 働かざるもの食うべからず。 / 働かない者は、食べるべきではない。

[X.] *gar xödlöxgüi bol am xödlöxgüi.*

gar xödl-x=güi=bol am xödl-x=güi
hand to.move-FUT=NEG=COND mouth to.move-FUT=NEG

[B.] *ajillxüi bol idəj bolxüi.*

ajill-x=üi=bol id-ǰ bol-x=güi
to.work-FUT=NEG=COND to.eat-SIM to.become-FUT=NEG

それぞれ (24) [X.] 「手を動かさないなら口も動かない」 (24) [B.] 「働かないなら食べてはいけない」と表現されている。

(25) もう少しお金があったらなあ。

[X.] *daxiad jaaxan möngö baisansan bol.*

daxiad jaaxan möngö bai-sAn=sAn=bol
again a.little money COP-PERF=MOD=MOD

[B.] *odoo nəg jaaxan joos baisan boloo.*

odoo nəg jaaxan joos bai-sAn=bol=AA
now one a.little money COP-PERF=MOD=EMP

(25) [X.] [B.]いずれも条件の =bol と同形式が文末に用いられているが、副動詞接辞 bai-bAl の形式では置き換えできないという。ここでは MOD というグロスをつった。

(26) これも食べたら？

[X.] *eniig ideed üzeeč.*

ene-iig id-AAđ üz-AAč
this-ACC to.eat-ANT to.see-IMP

[B.] *əni bas idčik.*

ənə-ii bas id-čik-ø
this-ACC also to.eat-PFV-IMP

(27) やりたいなら（自分の）好きなようににやれば？

[X.] *juu l xiimeer baina, teriigee xiiwel yaasiin?*

juu=l xii-mAAr bai-nA ter-iig-AA xii-bAl yaa-sAn=jum
what=EMP to.do-PSB COP-NPST self-ACC-REF to.do-COND to.do.what-PERF=MOD

[B.] *xiiḡ gəḡ bodḡ baiwal xii.*

xii-jA gə-ḡ bod-ḡ bai-bAl xii-ø
to.do-VOL to.say-SIM to.think-SIM COP-COND to.do-IMP

(28) このコップは落としても割れない。

[X.] *ene ajaga unagan san č xagaraxgüi.*

ene ajaga unaga-sAn=č xagar-x=güi
this cup to.fall-PERF=also to.break-FUT=NEG

[B.] *ənə čomoo unagaasan č xagaraxüi.*

ənə čomoo unagaa-sAn=č xagar-x=güi
this cup to.fall-PERF=also to.break-FUT=NEG

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

[X.] *ene alim ünetei baisan mörtlöö ogtxon č amtgüi.*

ene alim üne-tAi bai-sAn mörtlöö ogt-xAn=č amt=güi
this apple price-PROP COP-PERF but whole-DIM=also taste =NEG

[B.] *ənə alamrad üntee gəjəə amtgüi.*

ənə alamrad ün-tee gəjəə amt=güi
this apple price-PROP but taste =NEG

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

[X.] *ternii ger lüü očij üzsen č gesen ter baixgüi baisan.*

ter.n-ii ger-rUU oč-j üz-sAn=č ge-sAn ter bai-x=güi bai-sAn
3SG-GEN house-DIR to.go-SIM to.see-PERF to.say-PERF 3SG to.be-FUT=NEG COP-PERF

[B.] *tüünee gərt očij üjjeə gəjəə tər baisangüi.*

tüünee gər-d oč-j üj-jeə gəjəə tər bai-sAn=güi.
3SG.GEN house-DAT to.go-SIM to.see-PST but 3SG to.be-PERF=NEG

(31) あの人が来るまで、私はここで待っています。

[X.] *ter xün xürč irex xürtel bi end xüleej baina.*

ter xün xür-č ir-x xürtel bi end xülee-č bai-nA
that man to.reach-SIM to.come-FUT till 1SG here to.wait-SIM COP-NPST

[B.] *tər irtəl bii xüləəjjaa.*

tər ir-tAl bii xüləə-č bai-jAA
3SG to.come-LIM 1SG to.wait-SIM COP-VOL

[X.] の xürtel 「まで」は xür-tAl {to.reach-LIM} に由来する接続詞的表現であるが、[B.] 同様に ir-tAl も使用可能であるという。

(32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

[X.] *ter xüniig xürč irexees nj ömnö xooliig nj xiigeed tawjčixija.*

ter xün-iig xür-j ir-x-AAs=nj ömnö xool-iig=nj xii-AAAd
 that man-ACC to.reach-SIM to.come-FUT-ABL=3SG before meal-ACC=3SG to.make-ANT
 tawj-čix-jA
 to.put-PFV-VOL

[B.] *tər irtəl bii badaa xiigəəd xüləjja.*

tər ir-tAl bii badaa xii-AAAd xüləə-j bai-jAA
 3SG to.come-LIM 1SG meal to.make-ANT to.wait-SIM COP-VOL

記号一覧

-: suffix boundary 接辞境界	INT: interrogative 疑問
=: clitic boundary 接語境界	LIM: limitative 限界
#: word boundary (複合語の)語境界	MOD: モダリティ標識
1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person	NEG: negative 否定
ABL: ablative 奪格	NPST: non-past 非過去
ACC: accusative 対格	PASS: passive 受身
ANT: anterior 先行	PERF: perfect 完了
COND: conditional 条件	PFV perfective 完了相
COP: copula コピュラ	PL: plural 複数
DAT: dative 与位格	PROG: progressive 進行
DIM: diminutive 指小	PROH: prohibitive 禁止
DIR: directive 方向格	PROP: proprietary 恒常的所有
EMP: emphasis 強調	PST: past 過去
FUT: future 未来	PSB: possibility 可能性
GEN: genitive 属格	REF: reflexive 再帰
HBT: habitual 習慣	REQ: request 依頼
IMD: immediate 即時	SG: singular 単数
IMP: imperative 命令法	SIM: simultaneous 同時
INS: instrumental 造格	VOL: volitional 願望

参考文献

- Janhunen, Juha. 2003. Mongol Dialects. Juha Janhunen (ed.) *The Mongolic Languages*. 177-192
London and New York: Routledge.
- Kullmann, Rita & D. Tserenpil. 2008. *Mongolian Grammar*. Fourth revised edition. Ulaanbaatar:
ADMON Co.,Ltd.
- Sečenbagatur nar. 2005. *Monggul kelen-ü nutug-un ayalgun-u sinjilel-ün uduridqal*. Kökequta;
Öbür Monggul-un arad-un keblel-ün qoriy_a.

ダグール語の(連用修飾的) 複文

山田 洋平

1. はじめに

ダグール語はモンゴル諸語に属する言語で、中国の黒龍江省や内モンゴル自治区フルンボイル市などに分布する。モンゴル諸語の内部の系統関係はあまりよくわかっておらず、ダグール語も他に近い関係のモンゴル諸語の言語が不明であるとされる。中国におけるダグール族の人口はおよそ10万人であるが、そのうちダグール語話者がどれほどの割合であるかも正確なところはわからない。フルンボイル市のハイラルやモリダワ・ダグール自治旗においては若い話者もいるという印象だが、今回の調査を行った黒龍江省チチハル地域ではとくに都市部において話者は高齢者に限られるようであった。

本稿で使用するデータはチチハル地域のダグール語である。調査に協力していただいた何文鈞 (he wenjun) 氏は1936年、黒龍江省チチハル市メイリスダグール族区安子匠村生まれの男性である。調査は2015年3月22日チチハル市の民族中学において、中国語による調査票を訳していただくという形で行った。

以下にダグール語の概要を示す。ダグール語に関する総合的な文法記述といえば恩和巴图編 (1988) が代表的なものであるが、ここでは主にチチハル地域のダグール語についてまとめた烏珠尔 (2003) を参照、抜粋した。ただし表記は恣意で改めたものを用いる。

・音素目録

母音 短母音 /a, ə, i, o, u/ 長母音 /aa, əə, ii, oo, uu, ee/ 二重母音 /ai, ao; əi, əu, ei/

第一音節の /a, o/ は口蓋化子音の前で口蓋化した [æ, œ] として実現する。第一音節より後の位置で短母音は弱化し音素として固有の音価を有さない曖昧母音となる。曖昧母音は実現する聞こえに合わせて短母音音素と同じ母音字で示すが、後続の接辞などによって生じる音の環境により挿入されることも脱落することもある。この他、漢語借用語に用いられる二重母音がある。

子音 破裂音・鼻音 /p, b, m; t, d, n; k, g/ 摩擦音 /s, h[x]/ その他 /r, l, w, j/

それぞれに対応する口蓋化子音があり j を付すことで示す。ただし /t, d, s/ の口蓋化子音はそれぞれ /ç, j, š/ と記す。/b, g/ は /u/ の前で [w~ø] で実現することがある。/n/ は語末や /k, g/ の前で [ŋ] と実現する。漢語借用語は音節末の [n, ŋ] が合流するが、[ŋ] 由来の語の後に母音が続く場合は /ng/ と実現する。/j/ や語中で母音が続く場合 [ŋ] と実現するため、これに合わせて音韻表記 /n'/ と示した。この他に借用語専用の音素に /f/ がある。

・名詞形態論

名詞や名詞類，あるいは動詞の形動詞形には -格接辞-所属接辞 が付されうる．接辞一覧は以下の通り．表記上 AA のように大文字で記したものは，語幹母音による母音調和などにもとづく aa ~ əə ~ oo ~ ee といった異形態があることを表している．

格接辞: 属対格 -ii 奪格 -AAs 具格 -AAr 与位格 -d ~ -t 共同格 -tee

所属接辞: 1SG -min 1PL.EXC -maan 1PL.INC -naan 2SG -šin 2PL -taan 3SG -in 3PL -inaan
REF -AA ~ -mAA

主語やある環境下での直接目的語は格接辞が付されない形式で実現する．属対格はいわゆる属格と対格の二つの機能を有するものだが，人称代名詞単数形においては斜格語幹形が異なり両者は区別される．与位格は語幹末子音が r である場合に異形態 -t が現れる．

所属接辞のうち再帰には -AA と -mAA があるが，後者はおそらく対応するモンゴル語文語が母音終わりである語に後続するものであるようだ．

・動詞形態論

語幹に付すことで相や態的な意味を付与する接辞がある．-jik 「完了」，-lgAA 「使役」等．

動詞の語尾は一般に文を終止させる定動詞接辞，連用修飾句を構成する副動詞接辞，連体修飾句を構成する形動詞接辞に分類される．定動詞接辞は時制と人称によるパラダイムを成す「時制」と，意思や命令を表す「祈使」がある．

定動詞「時制」形 (一例)

		1SG	1PL.EXC	1PL.INC	2SG	2PL	3
非過去	肯定	-bei	-waa	-bdaa	-bš	-btaa	-bei
	否定	-m	-mbaa	-ndaa	-nš	-ntaa	-n
過去	肯定	-səm	-səmbaa	-səndaa	-sənš	-səntaa	-sə(n)
		-liibj	-liibaa	-liidaa	-laaš	-laataa	-laa
	否定	-swəibj	-swəibaa	-swəidaa	-swəiš	-swəitaa	-swəi

非過去否定の形式では，動詞の前に否定を表す語 ul を置く．また形動詞形 -g の後ろに否定を表す語 uwə(i) や udeen を付して否定表現を成すことも可能である．

上の表の人称は接辞の付されない 3 人称の形式にそれぞれ人称接語 =bj, =baa, =(b)daa, =š, =taa, が付され融合したもので，動詞述語以外の主文の述語もこれらの人称接辞によって人称が表示される．以下のグロスでは定動詞接辞に人称接辞が付されたものであるとして分析する．-bei についてはこの方言では 1 人称と 3 人称の区別が出来ない．

過去の形式の接辞頭にあらわれる s は語幹末尾の子音による順行同化が頻繁に起こる。
定動詞「祈使」形

一人称意思 -j(AA), 二人称単数命令 -ø, 二人称複数命令 -t, 三人称命令 -tgai

未来命令: 一人称 -gAAAn, 二人称 -gAAnee, 三人称 -g

副動詞形（一例）

同時 -j, -jee, -jii, 先行 -AA(r), 継続 -sAAr, 即時 -mtər, 条件 -AAs, 譲歩 -jeeš, 限界 -təl
形動詞形

未来 -g (このほか, -sən も形動詞形として用いられる)

2. データ

- (1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。他总是 一边看报纸，一边吃饭。

tən čankəndaa nək pilaa badaa idwei, nək pilaa bitəg ujbei.

tən čankəndaa nək pilaa badaa id-bei nək pilaa bitəg uj-bei

3SG always one side meal to.eat-NPST one side book to.see-NPST

- (2) 私は昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て（から）、寝ました。

我昨天 10 点回到家之后，看了一会儿电视，就睡了。

bii udəš oroikoo harib erinkəd harjsəm, harj̄j̄ baraa nək kuir diənş̄l̄ uj̄j̄ baraa wantəj̄ uksəm.

bii udəš oroikoo harib erinkəd-d harj-sən=bj harj-j̄

1SG yesterday night ten time-DAT to.go.back-PST=1SG to.go.back-SIM

bar-AA nək#kuir diənş̄l̄ uj̄-j̄ bar-AA want-j̄

to.finish-ANT a.little television to.see-SIM to.finish-ANT to.sleep-SIM

uk-sən=bj

to.give-PST=1SG

- (3) （私は）昨日階段で転んで、骨折してしまった。我昨天在台阶上摔倒，骨折了。

bii udəš udur taijiijaar wanəj̄ uksəm. jas čakəlsəm.

bii udəš#udur taijii-AAr wan-j̄ uk-sən=bj jas čakəl-sən=bj

1SG yesterday stairs-INS to.fall-SIM to.give-PST=1SG bone to.break-PST=1SG

- (4) 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行つた。今天，爸爸去了公司，哥哥去了大学

ən udur ačaa-min gons̄j̄-d ič-sən akaa-min šig sorgoolj̄ ič-sən.

ən udur ačaa-min gons̄j̄-d ič-sən akaa-min šig sorgoolj̄ ič-sən

this day father-1SG company-DAT to.go-PST big.brother-1SG big school to.go-PST

(1) ~ (4) では二つの文の繋がりに副動詞形が用いられることを期待したが、調査に用いた漢語の影響か定動詞形が用いられている。ただ音調から判断するにこのような定動詞形で二文を結び付けるといってもまま用いられると言えるかもしれない。本稿ではグロス上、従来の定動詞・副動詞といった分類をせずとくに判断を施さないこととしている。

- (5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。那个人今天戴着帽子走路来着。

tən kuu ən udur magalə umsəj jaojaasə.

tən kuu ən udur magalə ums-ʃ jao-aa-sən
that man this day hat to.wear-SIM to.go-PROG-PST

jao-aa-sən の -aa PROG は -ʃaa -SIM COP 「している」由来のアスペクト形式。

- (6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。
我在放假的时候，经常看书，或者看电视。

bii fanʃiadə ʃɬhou čankəndaa diensɿ uʃbei, bitəg uʃbei.

bii fanʃia-də ʃɬhou čankəndaa diensɿ uʃ-bei bitəg uʃ-bei
1SG holiday-of time always television to.see-NPST book to.see-NPST

- (7) 時間がないから、急いで行こう。没时间了，(我们)快走吧！

ərinkəə uw bolso, badj hordən jaojaa.

ərinkəə uw bol-sən badj hordən jao-jaa.
time no to.become-PST 1SG.INC quickly to.go-VOL

- (8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

我昨天因为头疼，所以比平常睡得早。

udəʃ udur minii həkjmin uwudtəm, təndməə ərəkənčəər wanttəm.

udəʃ#udur minii həkj-min uwud-sən=bj tənd-mAA ərəkən-čAAr
yesterday 1SG.GEN head-1SG to.hurt-PST=1SG there-REF early-DEG
want-sən=bj
to.sleep-PST=1SG

təndəə「そこで」は、因果関係を示す「だから」の意味で接続詞的によく用いられる。-sən は語幹末の子音に同化し、ここでは -tən となっている。

- (9) あの人は本を買いに行った。那个人去买书了。

tər kuu bitəg ao ištə.

tər kuu bitəg ao ič-sən
that man book to.get to.go-PST

ič「行く」が接辞化した -č「～しに行く」が先行研究では認められているが、ここでは ao も ič もそれぞれ独立した語幹を保っている。

- (10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。他为了可以更清楚的看外面，打开了窗户。

in gər bəədii gətəkən ujbei əlj čonkumoo nəəsə.

in gər bəəd-ii gətəkən uj-bei əl-j čonku-mAA nəə-sən
3SG house outside-AG clear to.see-NPST to.say-SIM window-REF to.open-PST

- (11) ここでは夏になると，よく雨が降ります。这里一到夏天就经常下雨。

ən gəjir nəjir bolog aas, čankəndaa huar warbei.

ən gəjir nəjir bol-g aas čankəndaa huar war-bei
this place summer to.become-FUT COND always rain to.enter-NPST

aas はコピュラ aa に条件 -aas が付された形式 aagaas に由来する。

- (12) 窓を開けると，冷たい風が入って来た。一打开窗户，冷风就进来了。

nək čonku nəəsənšin, kuitən həi wəjirjiksə.

nək čonku nəə-sən-šin kuitən həi wəjir-jik-sən
one window to.open-PST-2SG cold wind to.come.into-PFV-PST

-jik PFV という形式は -j uk -SIM to.give と分析される。-j, ik と境界がわかることもある。

- (13) 坂を上ると，海が見えた。爬上斜坡，就能看到海。

ən hungur dəər garj baraa dalii ujii olliišii.

ən hungur dəər gar-j bar-AA dalii uj-ii ol-ii-šii
this slope above to.go.out-SIM to.finish-ANT sea to.see-SIM to.receive-PST-2SG?

-j bar-aa は「～してから」の意味でよく用いられる。当地の漢語ではまたこれとよく似た環境で完了 wánlǎ「終わってから」という表現がよく用いられることと関係がありそうである。また -j は補助動詞的な語の前で落ちることがある（語幹形が用いられているように見える）ほか、この例文中の ujii のように -ii という音形で実現することもある。文末の

-šii は二人称の形式に似ているがなぜここで用いられているかは不明である。

- (14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。明天如果下雨，我就不去那了。

bunj udur huar waraasšin bii tænd ul ičim.

bunj#udur huar war-aas-šin bii tænd ul ič-n=bj
tomorrow rain to.enter-COND-2SG 1SG there NEG to.go-NPST=1SG

- (15) もっと早く起きればよかったなあ。如果再早点起来就好了。

ədəə nakəm ərtkənčeer bostə aasaa saa aasə.

ədəə nakəm ərt-kən-čAAr bos-sən aas-AA saa aa-sən
now a.little early-DIM-DEG to.get.up-PST COND-REF good COP-PST

- (16) あんなところに行かなければよかった。如果没去那个地方就好了。

tən gajir ičsən uw aasaa saa aasə.

tən gajir ič-sə=uw aas-AA saa aa-sən
that place to.go-PST=NEG COND-REF good COP-PST

- (17) 1に1を足せば、2になる。1加1等于2。

nəkii dær bas nək nəmikətin huir bolbei.

nək-ii dær bas nək nəm-jik-AAs-in huir bol-bei
one-AG above also one to.add-PFV-COND-3SG two to.become-NPST

- (18) 駅に着いたら電話をしてください。到了车站，就请打电话。

tšəədžan kurumtər nam dienhua ir.

tšəədžan kur-mtər nam dienhua ir-ø
station to.reach-IMD 1SG.DAT telephone to.come-IMP

- (19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

到了星期日的时候，真想和大家一起去公园呀！

šinčii udur boloosšin unən sanaajaaraa haojaatii nəkən gon'juen naadičibbaadee.

šinčii#udur bol-AAs-šin unən sanaa-AAr-AA haojaa-tii nəkən
Sunday to.become-COND-2SG really thought-INS-REF everyone-COM together
gon'juen naad-ič-bei=bdaa
park to.play-to.go-NPST=1PL.INC

先に挙げた定動詞「時制」形と著しく形の異なる形式 *-bbaadee* が使用されているが、人称代名詞 *badj* の形式が意識されたものか。

- (20) 明日雨が降ったら困るなあ。明天要是下雨可不好办啊。

bunj#udur huar waraasšin ən baitii (kəə) iškəəš ul šada.

bunj#udur huar war-AAs-šin ən bait-ii(-kəə) iškəə-š ul šad-n
tomorrow rain to.enter-COND-2SG this situation-AG-EMP to.deal-SIM NEG can-NPST

-sən が *-sə* という形で実現することが多いことと並行して、ここでも基底に存在する *n* が表層に現れていないと見る。ただしこの例から見て脱落ではなく、曖昧母音化していると考えるのが適当であろう。(28) も同様。

- (21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。如果要是来我家，先打个电话再来。

minii gərtmin irəg boloosoo ordooniin šian dienhua ir.

minii gər-d-min ir-g bol-AAs-AA ordoon-in šian dienhua
1SG.GEN house-DAT-1SG to.come-FUT to.become-COND-REF before-3SG before telephone
ir-ø
to.come-IMP

- (22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

(铃很快就要响了) 铃响了，就告诉我。

(lingii daojin ənčil gačirbei,) lingii daojin gačiraasšin nam jaa.

lin-ii dao-in ənčil gačir-bei ling-ii dao-in gačir-AAs-šin
bell-AG sound-3sg soon to.come.out-NPST bell-AGsound-3sg to.come.out-COND-2SG
nam jaa-ø
1SG.DAT to.tell-IMP

lin は漢語の *lin* (铃) に由来し、音節末は /n/ [n~ŋ] に合流している。しかし *-ii* のような母音始まりの接辞が付されることで漢語の [ŋ] に由来する /n/ は /ng/ で実現する。

- (23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

(因为铃有可能会响) 如果铃响了，就告诉我。

dao gačiraašin nam jaa.

dao gačir-AAs-šin nam jaa-ø
sound to.come.out-COND-2SG 1SG.DAT to.tell-IMP

- (24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。
不劳动者不得食(諺)。/不干活的人，不应该吃饭。/谁不干活，谁（就）不能吃饭。

anii ul wəildəsəə, anii badaa buu idə.

anii ul wəild-AAs-AA anii badaa buu id-ø=AA
who NEG to.work-COND-REF who meal PROH to.eat-IMP=EMP

いわゆる相関構文で、「誰が働かないなら誰が食べ物を食べるな」という形式になっている。ただしこれは調査に用いた漢語「谁不干活，谁就不能吃饭」の構文をそのまま訳出したものにすぎないかもしれない。

- (25) もう少しお金があったらなあ。如果再有点儿钱就好了。

ədəə nakam jigaatii aasaa saa aasə.

ədəə nakam jiga-tii aas-AA saa aa-sən
now a.little money-PROP COND-REF good COP-PST

- (26) これも食べたら？这个也吃点儿试试？

əni bas nakam idjii amsəj uʃ.

ən-ii bas nakam id-jii ams-ʃ uʃ-ø
this-AG also a.little to.eat-SIM to.taste-SIM to.see-IMP

- (27) やりたいなら（自分の）好きなようににやれば？

如果想做的话，就按自己喜欢的方式做嘛！

baitii kiibəi əl aasaa, wəərii sanaajaaraa kii.

bait-ii kii-bəi əl aas-AA wəər-ii sanaa-AAr-AA kii-ø
situation-AG to.do-NPST to.say COND-REF self-AG thought-INS-REF to.do-IMP

- (28) このコップは落としても割れない。这个杯子就算摔了也不破。

ən čaaʃigin wanʃikəsəə bas ul ərdə.

ən čaaʃig-in wan-ʃik-AAs-AA bas ul ərd-n
this cup-3SG to.fall-PFV-COND-REF also NEG to.break-NPST

- (29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。这个苹果那么贵，但是一点儿也不甜。

ən pinguo aidug hatoo, dasnin aidug uw.

ən pinguo aidug hatoo dasən-in aidug uw
 this apple very expensive sweet-3SG very NEG

- (30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。我虽然去了他家，但是他不在。

bii inii gərtin ištəm, in gərtin uw aasə.

bii in-ii gər-t-in ič-sən=bj in gər-t-in uw aa-sən
 1SG 3SG-GEN house-DAT-3SG to.go-PST=1SG 3SG house-DAT-3SG NEG COP-PST

- (31) あの人が来るまで、私はここで待っています。直到那个人来为止,我会一直在这等。(我会一直在这里等直到那个人来为止。)

tən irəg kuujiin irəg ordoonin bii ən gəjiraar ul hudrum.

tən ir-g kuu-in ir-g ordoon-in bii ən gəjir-AAr ul
 3SG to.come-FUT man-3SG to.come-FUT before-3SG 1SG this place-INS NEG
 hudr-n=bj
 to.move-NPST=1SG

- (32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。在那个人来之前，我先做饭。

tən irəg kuujiin irəg ordoonin bii šien badaa šanəjaa.

tən ir-g kuu-in ir-g ordoon-in bii šien badaa šan-jaa
 3SG to.come-FUT man-3SG to.come-FUT before-3SG 1SG before meal to.cook-VOL

記号一覧

-: 接辞境界	IMD: immediate 即時
=: 節語境界	IMP: imperative 命令法
1, 2, 3: 1 st , 2 nd , 3 rd person	INC: inclusive (1人称複数) 包括形
AG: Accusative Genitive 属对格	INS: instrumental case 道具格
ANT: anterior 先行	NEG: negative 否定
Chi.: Chinese 漢語	NPST: non-past 非過去
COM: comitative 共同格	PFV: perfective 完成相
COND: conditional 条件	PL: plural 複数
COP: copula コピュラ	PROG: progressive 進行
DAT: dative 与位格	PROH: prohibitive 禁止
DEG: degree 程度格	PROP: proprietive 「～持ちの」の意の接辞
DIM: diminutive 指小	PST: past 過去
EMP: emphasis 強調	REF: reflexive 再帰
EXC: exclusive (1人称複数) 除外形	SG: singular 単数
FUT: future 未来	SIM: simultaneous 同時
GEN: genitive 属格	VOL: volitional 願望

参考文献

- 恩和巴图等编. 1984. 『达斡尔语词汇』蒙古语族语言方言研究丛书 005 呼和浩特: 内蒙古人民出版社
- _____编. 1988. 『达斡尔语和蒙古语』蒙古语族语言方言研究丛书 004 呼和浩特: 内蒙古人民出版社
- 胡和编. 1988. 『达斡尔语汉语 对照词汇』哈尔滨: 黑龙江省民族研究所 黑龙江省达斡尔族学会
- 乌珠尔, 欧南. 2003. 『达斡尔语概论』哈尔滨: 哈尔滨出版社

ナーナイ語

風間 伸次郎

ナーナイ語はツングース諸語の1つである。ツングース諸語は、典型的にみて日本語にもよく似たタイプの言語で、もっぱら接尾辞による膠着型言語である。語順は **Head-final**, つまり **SOV** で修飾語-被修飾語の順序をとる。以下は基本的に **IPA** をベースにした音素表記によるが、一音素一文字の原則などの理由から、次のような独自の音素表記も用いている: č[te], j[dz], ŋ[n]。ロシア語からの近年の借用語と思われるものは斜字体で示している。

コンサルタントは **Kile, Lidiya Timofeevna** 氏 (1938 年, ナイヒン村生まれ, 女性) である。調査はロシア語を媒介言語にして行った。日本語文の下の[]内に使用したロシア語文を示す。ロシア語の調査例文は, 1973 年ペテルブルグ生まれの話者の方において日本語から作成していただいた。調査はロシア語のアンケート文を郵送して, 訳したものを送り返していただき, それを分析した上で若干の疑問点を電話で確認した。

なおこの言語の文法の概略に関して, より詳しくは風間 (2010) も参照されたい。

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。 [Он всегда ест, читая газету.]

【同時動作】

ñoani	tul	tul	<i>gazeta-wa</i>	xola-mi	sia-rii-ni.
3SG	always		newspaper-ACC	read-SIM	eat-PTCP.IMPF-3SG

同時動作では, 同時副動詞が用いられることがわかる。

(2) (私は)昨日は10時に家に帰って, 少しテレビを見て(から), 寝ました。 [(Я) вчера вернулся домой в 10 часов, немного посмотрел телевизор и (после этого) лег спать.]

【継起的動作・物語的連鎖】

čisəniə	ʃook-či-ji	ʃoan	<i>časa-la</i>	ʃju-xəm-bi,
yesterday	home-DIR-REF.SG	ten	o'clock-LOC	come.REPET-PTCP.PERF-1SG
ňanga	<i>televizor-ba</i>	ičəji-rəə,	apsiŋ-go-xam-bi.	
a.little	television-ACC	watch-SEQ	lie-REPET-PTCP.PERF-1SG	

... ʃju-xəm-bi 「～帰った,」のように文末に用いられるような形動詞形が用いられたのは, 媒介言語であるロシア語の影響によるものと考えられる。ʃju-xəm-bi を ʃju-rəə に代え, 2つ以上の継起副動詞を用いて V-rəə, V-rəə, V- のような構文にしても問題ないということだった。

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。 [(Я) вчера упал с лестницы и получил травму.] 【継起：理由】

čisəniə	tokpon-jja	tuu-xəm-bi,	pujə-wə	baa-xam-bi.
yesterday	stairs-ABL	fall-PTCP.PERF-1SG	hurt-ACC	receive-PTCP.PERF-1SG

ここでもやはり *tuu-xəm-bi* を *tuu-rəə* とし、継起副動詞を用いても問題ないということであった。

(4) 今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。 [Сегодня отец опять пошел на работу, а брат пошел в институт.] 【異主語】

əiniə	amaa	guči	ʃobon-gi-yi	ənə-xə-ni,
today	father	again	work-PURP-REF.SG	go-PTCP.PERF-3SG
agaa=tanii	<i>instituta-či</i>	ənə-xə-ni.		
brother=CONT	university-DIR	go-PTCP.PERF-3SG		

前半部の述語である *ənə-xə-ni* を同時副動詞 *-mi* や継起副動詞 *-raa / -rəə* の形に代えることはできないという。これはおそらく、前半部と後半部で主語が異なっているためであると考えられる。

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。 [(Этот человек) сегодня надел шляпу и гулял.] 【付帯状況】

(əi nai)	əiniə	aapom-bi	tətu-gu-rəə,	pulsi-xə-ni.
this person	today	hat-REF.SG	put.on-REPET-SEQ	go-PTCP.PERF-3SG

ナーナイ語には、付帯状況を示す特別な副動詞はないようだ。telic な動詞に継起副動詞を用いれば、継起（「(かぶっ) てから」を意味した上で、その結果の残存した状態も意味し得ることがわかる。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。 [В выходные дни (я) всегда читаю книги или смотрю телевизор.] 【並行動作】

təin	ini-du	(mii)	tul tul	daŋsa-wa	xola-i,
rest	day-DAT	1SG	always	book-ACC	read-PTCP.PERF

tevizor-ba *ičəjə-i-ji.*
television-ACC watch-PTCP.PERF-1SG

(7) 時間がないから、急いで行こう。 [Времени нет, поэтому пойдём быстрее.] 【理由・カラ】

korpi-wasi, *tui ta-mi turgən ənə-gu-əri.*
in.time-IMPERS.NEG.IMPFRF thus do-SIM quickly go-COHOR-REF.PL

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。 [Вчера болела голова, поэтому уснул раньше, чем обычно.] 【理由・ノデ】

čisəniə jili-ji ənusi-xə-ni, *tui ta-mi ərdə-ləə*
yesterday head-1SG ache-PTCP.PERF-3SG thus do-SIM early-COMP

apsiŋ-go-xam-bi.
lie-REPET-PTCP.PERF-1SG

(7), (8) において理由は接続詞的に機能する *tui tami* 「そうして (*thus do-SIM*)」によって示されているように見えるが、これは媒介言語であるロシア語の *поэтому* を訳そうとして現れたものと考えられる。

(9) あの人は本を買いに行った。 [Этот человек пошел покупать книгу.] 【趨向／移動の目的】

əi nai daŋsa-wa ga-ninda-mi ənə-xə-ni.
this person book-ACC get-DIRINT-SIM go-PTCP.PERF-3SG

移動の目的の表現では、*DIRINT* 「移動の目的」の接辞が用いられるという点がツングース諸語一般において特徴的にみられる表現方法であるといえるだろう。なお、*ga-ninda-mi ənə-xə-ni* から *ənə* 「行く」を取り去り、*ga-ninda-xa-ni* としても問題なく、意味も変わらないという。

(10) (彼は)外が良く見えるように窓を開けた。 [(Он) открыл окно, чтобы лучше видеть улицу.]

【目的・意図】

ñoani paawa(-wa) nixəli-xə-ni, giam-ba uləən ičə-gu-ji.
3SG window-ACC open-PTCP.PERF-3SG street-ACC good see-PERP-REF.SG

主節-従属節の順序になっているのは、もともなったロシア語の文の語順に影響を受けたものである。従属節-主節の順序にしても何も問題はなく、むしろその方が良いという。以下の文例

の (18), (20), (26), (28), (29) においても同様のことがいえる。なお、「外」に gian 「道 (street)」を用いているのは、ロシア語の улица 「道」の影響である (ロシア語では「家の外」を意味するのにこの語を用いる)。

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。 [Когда наступает лето, здесь часто идут дожди.]

【恒常的条件】

jəa-go-i-do-a-ni,	əi-du	ʧaŋkai	tugdə-ʧi-i-ni.
become.summer-REPET-PTCP.IMPV-OBL-3SG	this-DAT	often	rain-PROG-PTCP.PERF-3SG

なおナーナイ語では格と人称の間 (2, 3 人称で, 1 人称では人称接辞の後ろ) に斜格標示 $-(w)a$ / $-(w)ə$ OBL) というものが現れる (ウルチャ語に近い性格を持つ下流の方言では現れない)。ただし格の接辞が $a/ə$ に終わる場合、少なくとも表面上は現れない。これは、同一音であるため削除されると考えることもできよう。

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。 [Когда открыли окно, начал задувать холодный ветер.] 【確定条件・生起】

paawa-wa	nixəli-učiči-ʧi,	xədun	xədu-mi	dəruu-xə-ni.
window-ACC	open-TEMP.COND-3PL	wind	wind-SIM	begin-PTCP.PERF-3SG

次の (13) では用いられていないが、この (12) から、すでに起きた出来事に対する確定条件においても、時間的条件副動詞 $-(w)očia$ / $-(w)učičə$ が用いられることがわかる。

(13) 坂を上ると、海が見えた。 [Когда поднялся по склону, стало видно море.]

【確定条件・発見】

xurəən	antaŋja-la-ni	too-xam-bi,
mountain	top-LOC-3SG	go.up-PTCP.PERF-1SG
namə-wa	ičə-uri	osi-xa-ni.
sea-ACC	see-PTCP.IMPERS.IMPV	become-PTCP.PERF-3SG

前半部の述語 too-xam-bi のところに, too-wočia-i-ja と時間的条件副動詞を用いても問題ないという。

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。 [Если завтра будет дождь, я туда не пойду.]

【仮定条件】

čimana tugdə tugdə-i osini, mii taosi ənə-əsim-bi.
 tomorrow rain rain-PTCP.PERF if 1SG there go-PTCP.NEG.IMP-1SG

(15) もっと早く起きればよかったなあ。 [Лучше бы я проснулся раньше.] 【反実仮想】

mii ərdə sənə-xəm-bi osini, uləən bi-čin.
 1SG early wake.up-PTCP.PERF-1SG if good be-PTCP.PERF

(16) あんなところに行かなければよかった。 [Лучше бы я туда не ходил.]

【反実仮想・前件否定】

mii taosi əčə pulsi-ə osini, uləən bi-čin.
 1SG there NEG.PST go-INF if good be-PTCP.PERF

事実に反する仮定の帰結となる主節には、仮定法 *-mča / -mčə* も用いられる (風間 2010: 242). 話者に確認したところ、(15), (16)ともに、仮定法を用いて、*bi-čin* を *bi-mčə=mə* としても問題なく、意味は同じであるという。

(17) 1に1を足せば、2になる。 [Если прибавить 1 к 1, получится 2.] 【一般的真理】

əmun-či əmum-bə noŋgi-ori osini, juər osi-ɟaraa.
 one-DIR one-ACC add-PTCP.IMPERS.IMP if two become-IND.FUT

(18) 駅に着いたら電話をしてください。 [Позвоните, когда приедете на станцию.]

【仮定条件+働きかけのモダリティ】

zvoni-la-xaar-su, stancija-wa isi-paari.
 call-VBLZ-FUT.IMP-2PL station-ACC arrive-COND.PL

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。 [Когда наступит воскресенье, хотелось бы всем вместе пойти в парк.] 【仮定条件+願望】

təin ini-ni isi-očia-ni, xəmtu-ji-əri parka-či
 rest day-POSS.3SG arrive-TEMP.COND-3SG together-INS-REF.PL park-DIR

ənə-uri osini aja bi-čin.
 go-PTCP.IMPERS.IMP if good be-PTCP.PERF

主節の文末述語が *bi-čin* と完了の形動詞になっている点が少し変に感じられるが、媒介言語のロシア語の形からの影響によるものかもしれない。確認したところ、*bi-čin* なしで、*aja* で文

を終えてもかまわないという。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。 [Плохо, если завтра пойдет дождь.] 【心配】

orkin,	čimana	tugdə-i	osini.
bad	tomorrow	rain-PTCP.IMPF	if

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。 [Если пойдешь (ко мне) домой, сначала позвони и потом приходи.] 【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

mii	ʃook-či-i-wa	ʃiʃu-i	osini,	ʃulə
1SG	home-DIR-1SG-OBL	come.REPET-PTCP.IMPF	if	ahead
zvoni-la-xaari,	tui	ta-pi=mat	ʃook-či-i-wa	ʃi-duu.
call-VBLZ-FUT.IMP	thus	do-COND.SG=EMP	home-DIR-1SG-OBL	come-IMP

条件の諸形式の使い分けに関しては、風間 (2011) も参照されたい。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。 [(Скоро прозвонит звонок) Когда прозвонит, скажите мне.] 【予想を伴った条件文】

(ələə	koŋgokto	koŋgiri-ʃaraa.)	koŋgokto	koŋgiri-očia-ni,
soon	bell	ring-IND.FUT	bell	ring-TEMP.COND-3SG
minči	un-duu.			
1SG.DIR	say-IMP			

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。 [(Может быть, прозвонит звонок) Если прозвонит, скажите мне.] 【予想を伴わない条件文】

(sainaa	koŋgokto	koŋgiri-ʃaraa.)	koŋgiri-i	osini,	minči	un-duu.
probably	bell	ring-IND.FUT	ring-PTCP.IMPF	if	1SG.DIR	say-IMP

ロシア語の表現が異なることから影響を受けた可能性も否定できないが、(22) と (23) の両文が、それぞれ時間的条件副動詞と、分析的な *osini* によって表現し分けられたことは興味深い。

(24) 働かざるもの食うべからず。 / 働かない者は、食べるべきではない。 [Кто не работает –

тот не ест. / Тот, кто не работает, тот не должен есть.] 【**相關構文**】

ui	jobo-asi,	təi	(nai)	sia-rasi.
who	work-PTCP.NEG.IMPF	that	person	eat-PTCP.NEG.IMPF

jobo-asi	nai,	sia-mi	ača-asi.
work-PTCP.NEG.IMPF	person	eat-SIM	fit-PTCP.NEG.IMPF

それぞれロシア語に対応する表現となっており、最初の訳文はいわゆる**相關構文**となっている。ロシア語同様、疑問詞と指示詞の組み合わせとなっている。

(25) もう少しお金があったらなあ。 [Если бы у меня было чуть побольше денег!]

【**言いさし・願望**】

mindu	əgji	jixa	bi-čin	osini!
1SG.DAT	much	money	be-PTCP.PERF	if

ここでもロシア語をなぞっているという可能性は否定できないが、少なくとも言いさしの文が成立しうるということがわかる。

(26) これも食べたなら？ [Не хотите ли попробовать это тоже?] 【**言いさし・提案**】

čixala-asi-so,	əi-wə=dəə	pərgə-uri-wə?
agree-PTCP.NEG.IMPF-2PL	this-ACC=CUM	try-PTCP.IMPERS.IMPF-ACC

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？ [Если хочешь это сделать, почему бы не сделать, как (тебе) нравится?] 【**言いさし・つき放し**】

čawa	tui	ta-iča-i	osini,	xai-mi	ta-asi-si,
that.ACC	thus	do-INT-PTCP.IMPF	if	what-SIM	do-PTCP.NEG.IMPF-2SG

mənə	uləəsi-i=mət	osi-jaa-ni.
oneself	like-PTCP.IMPF=SIMIL	become-IND.FUT-3SG

(28) このコップは落としても割れない。 [Этот стакан не разобьется, даже если его уронить.]

【**仮定的な逆接**】

əi	stakan	boja-rasi,	tugbu-uri	osini.
this	cup	break-PTCP.NEG.IMPF	drop-PTCP.IMPERS	if

累加の形式を逆接の機能で用いて, (28) 'əi stakan tugbu-xən=dəə boja-rasi. のように表現することも可能であるという.

(29) このリンゴは高かったのに, ちっとも甘くない. [Это яблоко совсем не сладкое, хоть и дорогое.] 【アクチュアルな逆接】

əi	amtaka	{	amta	anaa	/	amta-si-asi },
this	berry	taste	nothing	/	taste-VBLZ-PTCP.NEG.IMPF	

xoda-ni	maŋga=da.
price-POSS.3SG	expensive=CUM

逆接はここでは累加の形式 =da によって示されている. なおナーナイのいる地域にはリンゴなど大型の果実は生育しないため, ここでは amtaka “berry” を広い意味で用いている. 実際にこの地域に生殖する野生リンゴや野イチゴのことも amtaka と言う.

(30) 彼の家に行ってみたけれども, 彼はいなかった. [Я заходил к нему домой, но его не было.] 【逆接3】

mii	ñoani	ʃook-či-a-ni	iiwəəči-xəm-bi,
1SG	3SG	home-DIR-OBL-3SG	drop-PTCP.IMPF-1SG
ñoani	abaa	bi-či-ni.	
3SG	nothing	be-PTCP.IMPF-3SG	

ロシア語には明示的な逆接の形式が現れているが, ナーナイ語のほうには対応する形式は特に何も現れていない.

(31) あの人に来るまで, 私はここで待っています. [Я буду ждать здесь, пока этот человек не придет.] 【時間的期限[1]】

təi	nai	ʃju-dələ,	mii	əi-du	xalači-jaam-bi,
that	person	come.REPET-LIMIT	1SG	this-DAT	wait-IND.FUT-1SG

期限を示すのに, 限界副動詞 -dala / -dələ が使われている.

(32) あの人に来るまでに, 食事を作っておきますよ. [До того, как этот человек придет, я приготовлю еду.] 【時間的期限[2]】

təi nai ʃi-dii-ni ʃuliə-lə-ni,
 that person come-PTCP.IMPF-3SG before-LOC-3SG

mii sia-ori-wa { bargi-ʃaam-bi. / puʃəə-ʃəəm-bi. }
 1SG eat-PTCP.IMPERS.IMPF-ACC prepare-IND.FUT-1SG / cook-IND.FUT-1SG

略号・記号

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person
 ABL: ablative 奪格
 ACC: accusative 対格
 COHOR: cohortative mood 勸誘法
 COMP: comparative 比較級
 COND: conditional converb 条件 (副動詞)
 CONT: contrastive 対比
 CUM: cumulative 累加
 CVB: converb 副動詞
 DAT: dative 与格
 DESIG: designative case 指定格
 DIM: diminutive 指小
 DIR: directive 方向格
 DIRINT: directional intentional
 移動の目的
 FUTURE: future 未来
 IMP: imperative mood 命令法
 IMPERS: impersonal participle
 非人称 (形動詞)
 IMPF: imperfect 未完了
 INC: inchoative aspect 始動相
 IND: indicative mood 直説法
 INF: infinitive 不定形
 INS: instrumental case 道具格
 INT: intentional 意志
 INTERR: INTERROGATIVE 疑問

LIMIT: limitative converb 限界 (副動詞)
 LOC: locative 処格
 NEG: negative 否定
 LOC: locative 処格
 OBL: oblique marker 斜格標示
 PERF: perfect 完了
 PL: plural 複数
 POSS: possessive 所有
 PROG: progressive 多回・継続体
 PROL: prolative 沿格
 PROP: proprietive 恒常的所有
 PRS: present 現在
 PST: past 過去
 PTCP: participle 形動詞
 PURP: purposive converb 目的 (副動詞)
 REF: reflexive 再帰
 REPET: repetitive-reversive aspect
 再度・反動アスペクト
 SEQ: sequential converb 継起 (副動詞)
 SG: singular 単数
 SIM: simultaneous converb 同時 (副動詞)
 SIMIL: similitude 比況
 TEMP.COND: temporal-conditional converb
 時間的条件 (副動詞)
 VBLZ: verbalizer 動詞化

参考文献

- 風間伸次郎. 2010. 『ナーナイの民話と伝説 12』ツングース言語文化論集 48. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 風間伸次郎. 2011. 「ナーナイ語の複文について：条件形式の使い分けを中心として」『北方言語研究』 1. 115-138. 北海道大学大学院文学研究科.

ソロン語

風間 伸次郎

ソロン語は中国内蒙古自治区のホロンバイル地方に主に分布する言語で、ソロンの生業は放牧である。中国では鄂温克 (èwēnkè) 語 (エウエンク語) の一方言とされている。1988年のある見積もりによれば、話者数は17,000人とされている。ツングース諸語の中では、言語・文化の両面でモンゴル語の影響を最も強く受けた言語である。コンサルタントは1957年生まれの女性で、2015年3月にハイラル (海拉尔) にて調査を行った。媒介言語には漢語を使用した。漢語の調査例文は1988年黒龍江省生まれの漢語母語話者に日本語から翻訳していただいた。ここに記して御礼申し上げたい。現地では調査に十分な時間を割くことができなかつたため、漢語からの訳をひとつおとり得るのが精一杯であった。いくつかの問題点については、その後電話で確認した。

なお、この言語に見られるモンゴル語からの影響に関しては、風間 (2010) も参照されたい。

また、表記に関して、斜字体は漢語からの借用語であることを示し、その表記はピンインによるものとする。説明中、文法形式に大文字を用いているものは、母音調和による異形態があることを示すものとする。

- (1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

[他总是一边看报纸, 一边吃饭。] 【同時動作】

tari	dattan	sonin	isi-m	bi-čči	xəmə-i	jit-tə-n.
3SG	always	newspaper	see-SIM	be-SEQ	food-INDEF	eat-IND.PRS-3SG

同時動作では、単に同時副動詞によるのではなく、補助動詞 *bi-* 「いる、ある」を用いて、それにさらに継起副動詞を接続した形式で示された。この *bi-čči* なしでは成立しないという。したがって同時副動詞はもはや独立でのタクシ的な機能が弱まっており、他の動詞に接続するのが中心的な機能になっているものと考えられる。

- (2) (私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

[我昨天10点回到家之后, 看了一会儿电视, 就睡了。] 【継起的動作・物語的連鎖】

bii	tiinug,	jaan	saga-dda	juu-ddi-wi	nənu-səə-tixi	amasixi,
1SG	yesterday	ten	clock-DAT	home-DAT-REF	return-PTCP.PERF-ABL	after

amasxun	<i>dianshi</i>	isi-čči,	aasim-č-ŭ.
a.little	television	watch-SEQ	lie.down-PTCP.PERF-1SG

V-səə-tixi amasixi 「～した後で」のような形式が用いられたのは、媒介言語である漢語の影響によるものと考えられる。nənu-səə-tixi amasixi を nənu-čči に代え、2 つ以上の継起副動詞を用いて V-či, V-či, V- のような構文にしても問題ないということだった。

- (3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

[我昨天在台阶上摔倒，受了伤。] 【継起：理由】

bii tiinug šata-tixi tixi-čči, sɪxatta-s-ɔ.
1SG yesterday stairs-ABL fall-SEQ hurt.oneself-PTCP.PERF

理由のような意味合いがあっても、なお継起副動詞が用いられることがわかる。

- (4) 今日も父は会社に行き、兄は大学に行った。

[今天，爸爸去了公司，哥哥去了大学（学校）。] 【異主語】

ər inig baabaa gongsi-di-wi nin-čəə,
this day father office-DAT-REF go-PTCP.PERF

gaagaa { boŋgon solguol-di-wi / daxue-di-wi } nin-čəə.
elder.brother big school-DAT-REF / university-DAT-REF go-PTCP.PERF

副動詞によって接続した文は得られなかったが、やはり前半部を nin-či のように継起副動詞に変えることは不可能であるという。

- (5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

[那个人今天戴着帽子走路来着。] 【付帯状況】

tayyaa bəyə ər inig aawonaawo-laa-taan
that person this day hat hut-VBLZ-ATTEND

tugguu-du ul-ji-səə.
road-DAT go-PROG-PTCP.PERF

付帯状況は、付帯副動詞によって示されることがわかる。

- (6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

[我在放假的时候，经常看书，或者看电视。] 【並行動作】

bii amararta-nii saga-do dattan bitgə-i isi-m=ee,
 1SG rest-GEN time-DAT always book-INDEF see-IND.PRES.1SG=EMP

naan *dianshi* isi-m=ee.
 also television watch-IND.PRES.1SG=EMP

平行動作では日本語において「～たり～たり」という独自の副動詞が観察されるが、ソロン語では直説法の定動詞形によって表現された。

- (7) 時間がないから、急いで行こう。

[没时间了, (我们) 快走吧!] 【理由・カラ】

saga-i aasin oo-soo, mit amakkan ug-gəəree.
 time-INDEF nothing become-PTCP.PERF 1PL.INCL in.a.hurry go-COHOR

- (8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

[我昨天因为头疼, 所以比平常睡得早。] 【理由・ノデ】

tiinug minii dɪlɪ-wal naan ənuun-čəə,
 yesterday 1SG.GEN head-1SG.POSS also ache-PTCP.PERF

yərin aasin saga-ttɪxi noogo-ddo aasin-č-ɔ.
 generally sleep.PTCP.IMPF time-ABL early-DAT sleep-PTCP.PERF-1SG

漢語の影響によるものかもしれないが、(7), (8)のような理由の表現で副動詞は観察されなかった。

- (9) あの人は本を買いに行った。

[那个人去买书了。] 【趨向／移動の目的】

tari bəyə bitgə-i ga-nnaa-saa.
 that person book-INDEF get-DIRINT-PTCP.PERF

移動の目的は、DIRINT「移動の目的」を示す専用の接辞によって、動詞と一体化した形で示されるのがツングース一般に広く見られる特徴であるといえるだろう。

- (10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

[他为了可以更清楚的看外面, 打开了窗户。] 【目的・意図】

tari	tulləə-nii	yəmə-w	nandaaxan-ʃɪ	isi-m	ɡuŋkən
that	outside-GEN	thing-DEF.ACC	clear-INS	see-SIM	QUOT

soŋko-wi	naŋɪ-saa.
window-REF	open-PTCP.PERF

このように意図を示す構文において、QUOT引用の形式が用いられるのは、モンゴルのな特徴であると思われる。

- (11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

[这里一到夏天就经常下雨。] 【恒常的条件】

ədu	ər	bʊɡo-ddo	ʃoɡa	o-kkɪ=l
this.DAT	this	place-DAT	summer	become-COND=EMP

dattan	oɖan	tɔkko-ra-n.
always	rain	fall-IND.PRS-3SG

- (12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

[一打开窗户，冷风就进来了。] 【確定条件・生起】

soŋko-i	naŋɪ-kkɪ=l,	bottaddɪ	əɖin	ii-m	əmə-rə-n.
window-INDEF.ACC	open-COND=EMP	cool	wind	enter-SIM	come-IND.PRS-3SG

- (13) 坂を上ると、海が見えた。

[爬上斜坡，就能看到海。] 【確定条件・発見】

dowon	oroon-do	{ yuu-čči,	/	yuu-kkii, }
hill	top-DAT	come.out-SEQ	/	come.out-COND

dalee	is-uu-rə-n.
sea	see-PASS-IND.PRS-3SG

(12), (13)のように、確定条件でも条件副動詞は用いることができるようだ。ただし文末述語は共に過去形にはなっていない。(12), (13)ともに、他の要素を変えずに、文末のみを *-səə* と過去形にすることはできないという。

過去形にするためには、(12)'soŋko-i naŋɪ-**ɖli**, bottaddɪ əɖin ii-m əmə-**səə**. や、(13)'dowon oroon-do yuu-**ɖli**, dalee is-uu-**səə**. のように、副動詞を変える必要があるという。な

おこの副動詞 *-dIII* については、条件や理由を示す機能を持っている。ただし他の条件形式との違い等については、今後さらに研究を進めていく必要がある。

- (14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

[明天如果下雨，我就不去那了。]【假定条件】

tmaasm	odan	tokko-kkii,	bii	tadu	ə-si-m	nini-r.
tomorrow	rain	fall-COND	1SG	that.DAT	NEG-PTCP.IMPF-1SG	go-INF

- (15) もっと早く起きればよかったなあ。

[如果再早点起来就好了。]【反実仮想】

xərbə	əddə-xən	juu-səə	bi-kki	aya	bi-səə.
if	early-DIM	come.out-PTCP.PERF	be-COND	good	be-PTCP.PERF

- (16) あんなところに行かなければよかった。

[如果没去那个地方就好了。]【反実仮想・前件否定】

tar	būgū-ddu	ə-səə	nini-r	bi-kki	aya	bi-səə.
that	place-DAT	NEG-PTCP.PERF	go-INF	be-COND	good	be-PTCP.PERF

(15), (16)にみられるように、反実仮想は、主節条件節ともに過去の形動詞形を用いて形成される。他のツングース諸語に見られるような反実仮想専用の動詞接辞は観察されない。

- (17) 1に1を足せば、2になる。

[1加1等于2。]【一般的真理】

əmu-nii	oroon-do	əm-bə	noŋu-kki	juur	o-ro-n.
one-GEN	on-DAT	one-DEF.ACC	add-COND	two	become-IND.PRS-3SG

一般的真理に関しても、同様に条件副動詞によって表現可能である。

- (18) 駅に着いたら電話をしてください。

[到了车站，就请打电话。]【假定条件+働きかけのモダリティ】

tuggəə-nii	urtəə-du	isi-naa-kki,	dianhua	mandaa-daa-wi.
car-GEN	station-DAT	arrive-DIRINT-COND	telephone	hit-FUT.IMP-REF

- (19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

[到了星期日的时候，真想和大家一起去公园呀!]【假定条件+願望】

garɣɪ	inig	oo-kkɪ,	baraan-ʝɪ-wɪ	<i>gongyuan-da</i>
sunday	day	become-COND	many-INS-REF	park-DAT

nini-m	(ugii-nə-m)	guɲkən	bodo-ʝɪ-m=ee.
go-SIM	play-DIRINT-SIM	QUOT	think-PROG-1SG=EMP

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

[明天要是下雨可不好办啊。] 【心配】

tumaasɪm	ɔdan	tɔkɔ-kkɪ	əri	yəmə-w	oo-m
tomorrow	rain	fall-COND	this	thing-DEF.ACC	do-SIM

ə-si-m	ətə-r.
NEG-PTCP.IMPF-1SG	can-INF

(18), (19), (20)に観察されるように、ソロン語の条件副動詞において、文末のモダリティによる使用制限は観察されない。条件副動詞は -kkɪ(I) が1種類あるだけなので、使用範囲はおのずと広くならざるを得ないものと考えられる。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

[如果要是来我家，先打个电话再来。] 【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

minii	ʝuu-ddi-wi	əmə-m	guɲkən	bodo-kkɪ,
1SG.GEN	home-DAT-REF	come-SIM	QUOT	think-COND

noogo-ddo	<i>dianhua</i>	mandaa-čči	əmə-xə.
early-DAT	telephone	hit-SEQ	come-IMP

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

[(铃很快就要响了) 铃响了，就告诉我。] 【予想を伴った条件文】

xoŋko	tuurə-kki	mindu	ʝɪɲɪ-m	buu-xə.
bell	ring-COND	1SG.DAT	tell-SIM	give-IMP

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

[(因为铃很有可能会响) 如果铃响了，就告诉我。] 【予想を伴わない条件文】

xərbə,	xoŋko	tuurə-kki	mindu	ʝɪɲɪ-m	buu-xə.
if	bell	ring-COND	1SG.DAT	tell-SIM	give-IMP

英語をはじめとする印欧語に見られるような (22)と(23) の間の違いは、ソロン語には観察されない。漢語の「如果」を訳した結果かもしれないが、(23)のほうでは、*xərbə* 「もし」が用いられた。

- (24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

[不劳动者不得食(諺)。/不干活的人，不应该吃饭。/谁不干活，谁(就)不能吃饭。]

【**相関構文**】

<i>awuu</i>	<i>ajil</i>	<i>ə-sikki</i>	<i>oo-r,</i>
who	work	NEG-COND	do-INF

<i>awuu</i>	<i>xəəmə-i</i>	<i>ji-m</i>	<i>ə-si-n</i>	<i>oo-d=o.</i>
who	food-INDEF.ACC	eat-SIM	NEG-PTCP.IMPF-3SG	become-INF=EMP

相関構文が観察される。媒介言語の漢語と同様、疑問詞を疑問詞で受ける形の構文となっている。

- (25) もう少しお金があったらなあ。

[如果再有点儿钱就好了。] 【**言いさし・願望**】

<i>xərbə</i>	<i>amasxon</i>	<i>mugu-si</i>	<i>bi-səə</i>	<i>bi-kki,</i>
if	a.little	money-PROP	be-PTCP.PERF	be-COND

<i>jiu</i>	<i>oo-dor</i>	<i>bi-səə.</i>
just	become-PTCP.IMPF	be-PTCP.PERF

- (26) これも食べたら？

[这个也吃点儿试试?] 【**言いさし・提案**】

<i>əyyə-w</i>	<i>amasxon</i>	<i>ji-m</i>	<i>isi-xə.</i>
this-DEF.ACC	a.little	eat-SIM	see-IMP

- (27) やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？

[如果想做的话，就按自己喜欢的方式做嘛!] 【**言いさし・つき放し**】

<i>ərə-wə-n</i>	<i>oo-m</i>	<i>gʊŋkən</i>	<i>bodo-kki,</i>
this-DEF.ACC-3SG	do-SIM	QUOT	think-COND

məən-ii	dorlaa-ji-r	yanji-ji-wi	oo-xo.
oneself-GEN	like-PROG-PTCP.IMP	manner-INS-REF	do-IMP

(25), (26), (27)はともに日本語の元のアンケート文は言いさしであり、言いさしの可否について調べようとしたものであったが、そもそも副動詞的な形式を持たない漢語ではどうも言いさしの文が成り立たないようだ。したがって、漢語を媒介言語として得たソロン語の文においても、言いさしの表現を得ることはできなかった。ただし、(25) について訊いたところ、(25)' xərba amasxon mugu-si bi-səə bi-kki! のような言いさしの文も可能であるとのことであった。

(28) このコップは落としても割れない。

[这个杯子就算摔了也不破。] 【仮定的な逆接】

əyyəə	čomoo,	tixi-səə	jaarm	ə-si-n	ədduu-r=ə.
this	cup	fall-PTCP.PERF	although	NEG-PTCP.PERF-3SG	break-INF=EMP

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

[这个苹果那么贵，但是一点儿也不甜。]

【アクチュアルな逆接】

əyyəə	pingguo	tannagan	unə-šee,
this	apple	thus	price-PROP
too-soo		jaarm	amtaa-si əntu.
be.that.way-PTCP.PERF		although	taste-PROP different

(28), (29) の逆接の表現には、V-sAA jaarm 「～だが (大文字 A は母音調和の諸形の代表形である)」 が用いられている。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

[我虽然去了他家，但是他不在。] 【逆接3】

bii	tayyaa-nii	juu-ddu-n	nin-č-u,
1SG	that-GEN	home-DAT-3SG	go-PTCP.PERF-1SG
too-čči	tayyaa	juu-ddi-wi	aasm.
be.that.way-SEQ	that	home-DAT-REF	nothing

継起副動詞による接続詞的な語 too-čči は、逆接的な意味のつながりにおいても用いられるこ

とがわかる。

(31) あの人が来るまで、私はここで待っています。

[直到那个人来为止,我会一直在这等。(我会一直在这里等直到那个人来为止。)]

【時間的期限[1]】

bii	tayyaa	bəi-nii	əmə-čči	ooxnii,
1SG	that	person-GEN	come-SEQ	till

bii	ədu	alaaša-xtee.
1SG	this.DAT	wait-VOLIT

-čči ooxnii 「～するまで」という副動詞的に機能する要素は、これまでにあまりはっきりと確認できていなかった。今後他の資料にも例がないか確認したい。

(32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

[在那个人来之前,我先做饭。] 【時間的期限[2]】

tar	bəyə	əmə-t-tixi	noogo-ddo
that	person	come-PTCP.IMPF-ABL	early-DAT

bii	xəmə-i	oo-xtee.
1SG	food-INDEF.ACC	make-VOLIT

noogo 「前」という名詞により構成された句による表現となっている。

略号・記号

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person

ABL: ablative 奪格

ACC: accusative 対格

ATTEND: ATTENDANT 付帯 (副動詞)

CAUS: causative 使役

COHOR: cohortative 勧誘

COND: conditional 条件

DAT: dative 与格

DEF: definite 定

DIM: diminutive 指小

DIRINT: directional intentional 移動の目的

EMP: emphasis 強調

FUT: future 未来

GEN: genitive 属格

IMP: imperative 命令法

IMPF: imperfect 未完了

INCL: inclusive (1人称複数) 包括形

IND: indicative mood 直説法

INDEF: indefinite accusative 不定対格
INF: infinitive 不定形
INS: instrumental case 道具格
NEG: negative 否定
PASS: passive 受身
PERF: perfect 完了
PL: plural 複数
POSS: possessive 所有
PROG: progressive 進行
PROP: proprietary 恒常的所有

PRS: present 現在
PTCP: participle 形動詞
QUOT: quotation 引用
REF: reflexive 再帰
SG: singular 単数
SEQ: sequential 先行 (副動詞)
SIM: simultaneous 同時 (副動詞)
VBLZ: verbalizer 動詞化
VOLIT: volitional 願望

参考文献

風間伸次郎. 2010. 「ソロン語におけるモンゴル語の影響 ―言語接触の一事例として―」, 寺村政男・福盛貴弘 (編), 『言語の研究 II ―ユーラシア言語からの視座―』 語学教育フォーラム 24: 163-183. 東京: 大東文化大学語学教育研究所.

〈特集「(連用修飾的) 複文」〉

ニヴフ語東サハリン方言の節連結*

蔡 熙鏡

ニヴフ語はロシアのアムール川下流域とサハリン島の一部地域で話されている系統関係の不明な言語であり、基本語順はSV/AOVで、修飾部 - 被修飾部の順序をとる。ニヴフ語東サハリン方言の副動詞接尾辞は、不完全ではあるが主語の人称と数に一致を示すものとそうではないものに大きく分けられる。以下の表1と2に東サハリン方言における主な副動詞接尾辞を示す。

表1. 一致を示す副動詞接尾辞

	2・3人称単数	1人称単数と全人称複数	
		未来	非未来
継起副動詞	- <i>r^h</i>	- <i>n</i>	- <i>t</i>
完了副動詞	- <i>ror^h</i>	- <i>non</i>	- <i>tot</i>
等位副動詞	- <i>ra</i>	- <i>na</i>	- <i>ta</i>

表2. 一致を示さない副動詞接尾辞

- <i>ŋa</i> ~ - <i>ŋə</i>	時を表す副動詞
- <i>vul</i> ~ - <i>vəl</i>	
- <i>ba</i> ~ - <i>bə</i>	
- <i>ivo</i>	
- <i>fke</i>	
- <i>toχ</i> ~ - <i>roχ</i> ~ - <i>doχ</i>	目的
- <i>qaj</i> ~ - <i>gaj</i> ~ - <i>kaĵ</i>	条件
- <i>vaĵnapə</i> / - <i>kisk</i> ~ - <i>gisk</i>	譲歩
- <i>lax</i>	理由
その他 (省略)	...

以下に示すニヴフ語東サハリン方言の例文は、筆者が2015年3月20日にサハリン島ノグリキ地方で行った調査資料に基づいている。コンサルタントは、Аранова Таисия Васильевна氏(1942年生まれ、チャイヴォ出身、女性)である。調査の際には、アンケートの日本語をロシア語に訳したものをコンサルタントに提示し、それをニヴフ語に訳してもらうという手法をとっている(使用したロシア語の例文を[]の中に示す)。なお、一部の例文においては、元のロシア語の例文に対応するニヴフ語の表現がない、若しくは思い出せないという理由から、表現を若干変えたところがあることに注意されたい。

* 本稿のデータは、文部科学省科学技術研究費補助金(特別研究員奨励費; 24・10830)の助成を受けて行われた調査に基づいている。

- (1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

[Он всегда ест, читая книгу.]

jaŋ pajnr^hak i-n-ŋa piŋŋ j-uru-d.
s/he always 3SG-eat-CVB book 3SG-read-IND

- (2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見てから、寝ました。

[(Я) вчера вернулся домой в 10 часов, немного посмотрел телевизор и после этого лег спать.]

(ji) namr^h taf-toŋ mŋoqr^h c^has-ux p^hr^hə-t
I yesterday house-DAT 10 time-LOC come-CVB.1SG
ŋoŋuq t^hilivizar r^hə-tot poz-t q^ho-d.
little television look-CVB.1SG lie-CVB.1SG sleep-IND

- (3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

[(Я) вчера упал с лестницы и получил травму.]

(ji) namr^h lestnic-ux kuc-t tamk soŋo-d.
I yesterday stair-LOC fall-CVB.1SG hand break-IND

例文 (3) に見るように、継起副動詞は例文 (2) のような続けて起きる出来事を表す機能以外にも上位節の出来事の理由や原因を表すこともできる。

- (4) 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行つた。

[Сегодня отец опять пошел на работу, а брат пошел в институт.]

nawŋ ətk andaj orbot-f-toŋ vi-ra
today father again work-NMLZ-DAT go-CVB.3SG
aki institut-roŋ vi-ra (ha-d.)
elder.brother university-DAT go-CVB.3SG be.so-IND

文末の *ha-*「そうである」は、省略されることが多い。Mattissen (2008: 120) はこの副動詞を等位 - 従属 (cosubordinate) と見做している。

- (5) (あの人は) 今日は帽子をかぶつて歩いていた。

[(Этот человек) сегодня надел шляпу и гулял.]

(hu ŋiŋŋ) nawŋ ɰaq je-r^h amam-d.
that human today hat wear-CVB.3SG walk-IND

- (6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています.

[В выходные дни (я) всегда читаю книги или смотрю телевизор.]

sarko-ŋ muɣf (ni) pajnr^hak piɣŋ juru-ta t^hilivizar r^hə-ta (ha-d.)
rest-PTCP day I always book read-CVB.1SG television look-CVB.1SG be.so-IND

- (7) 時間がないから, 急いで行こう.

[Времени нет, поэтому пойдем быстрее.]

amt^hrer-d-ra. mumjo-t vi-da.
late-IND-FOC hurry-CVB.1PL go-HOR

- (8) 昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました.

[Вчера болела голова, поэтому уснул раньше, чем обычно.]

a. *namr^h coŋr^h qo-fke ni eqor^h poz-t q^ho-d.*
yesterday head sore-CVB I quickly lie-CVB.1SG sleep-IND

今回のコンサルタントは *-fke* を用いているが, 継起副動詞 *-t* や理由を表す副動詞接尾辞 *-lax* を用いて言うこともできる. 以下の例文は同方言話者の別のコンサルタントから 2012 年 9 月の調査で得られたものである.

- b. (昨日なぜ仕事に来なかったのかという質問に対して)

qo-lax p^hr^hə-gavr-d.
sore-CVB come-NEG-IND
「痛くて来なかった」

- (9) あの人は本を買いに行った.

[Этот человек пошел покупать книгу.]

hu niɣvŋ piɣŋ ye-inə-r^h vi-d.
that human book take-INT-CVB.3SG go-IND

- (10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた.

[(Он) открыл окно, чтобы лучше видеть улицу.]

kutli r^hə-inə-r^h jaŋ p^hax r^həly-d.
out.side look-INT-CVB.3SG s/he window open-IND

(11) ここでは夏になると, よく雨が降ります.

[Когда наступает лето, здесь часто идут дожди.]

toľaj-ŋə *tunx* *paŋr^hak* *lax* *kə-d*.
become.summer-CVB here always rain fall-IND

(12) 窓を開けると, 冷たい風が入って来た.

[Когда открыли окно, начал задувать холодный ветер.]

p^hax *r^həly-bə* *tuz* *la* *tev-d*.
window open-CVB cold wind blow-IND

(13) 坂を上ると, 海が見えた.

[Когда поднялся по склону, стало видно море.]

pal-doχ *mar-val* *ker^hqŋ* *poj-d*.
mountain-DAT go.up-CVB sea appear-IND

(14) 明日雨が降ったら, 私はそこに行かない.

[Если завтра будет дождь, я туда не пойду.]

pat *lax* *kə-vaŋ* *ŋi* *hus-toχ* *vi-gavr-i-d*.
tomorrow rain fall-CVB I there-DAT go-NEG-FUT-IND

(15) もっと早く起きればよかったなあ.

[Лучше бы я проснулся раньше.]

nawχ *ŋi* *t^hatŋəfk* *oz-d-er^hq* *ur-d*.
today I early.morning get.up-NMLZ-side good-IND

(16) あんなところに行かなければよかった.

[Лучше бы я туда не ходил.]

ŋi *hus-toχ* *vi-gavr-d-er^hq* *ur-d*.
I there-DAT go-NEG-NMLZ-side good-FUT-IND

(17) 1に1を足せば, 2になる.

[Если прибавить 1 к 1, получится 2.]

ŋaqr^h *caŋ* *ŋaqr^h* *meqr^h*
1 again 1 2

- (18) 駅に着いたら電話をしてください。

[Позвоните, когда приедете на станцию.]

stanc-roχ p^hrə-val j-az-ja.
 station-DAT come-CVB 1SG-call-IMP.2SG

- (19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

[Когда наступит воскресенье, хотелось бы всем вместе пойти в парк.]

sargo-ŋ muχf-ux sikm uyruṭ park-roχ vi-jn-avani-d.
 rest-PTCP day-LOC every.one together park-DAT go-INT-want-IND

- (20) 明日雨が降ったら困るなあ。

[Плохо, если завтра пойдет дождь.]

pat lax kə-vaṭ əki-d-ra.
 tomorrow rain fall-CVB bad-IND-FOC

- (21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

[Если пойдешь (ко мне) домой, сначала позвони и потом приходи.]

j-raf-toχ p^hr^hə-jnə-vaṭ j-erχ it-ror^h haror^h p^hr^hə-ja.
 1SG-house-DAT come-INT-CVB 1SG-side say-CVB.2SG then come-IMP.2SG

- (22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

[(Скоро прозвонит звонок) Когда прозвонит, скажите мне.]

revju-vaṭ j-erχ it-ja.
 sound-CVB 1SG-side say-IMP.2SG

- (23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

[(Может быть, прозвонит звонок) Если прозвонит, скажите мне.]

revju-vaṭ j-erχ it-ja.
 sound-CVB 1SG-side say-IMP.2SG

- (24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

[Кто не работает – тот не ест. / Тот, кто не работает, тот не должен есть.]

orbot-qavr-k jn-gavr-i-jnə-k.
 work-NEG-NMLZ eat-NEG-EP-INT-NMLZ

(25) もう少しお金があったらなあ。

[Если бы у меня было чуть побольше денег!]

n-ux c^hʁa taiko-vaʃ!
1SG-LOC money much-CVB

(26) これも食べたら？

[Не хотите ли попробовать это тоже?]

c^hi hud-zij amra-j-d-la?
you that-also taste-FUT-IND-Q

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

[Если хочешь это сделать, почему бы не сделать, как (тебе) нравится?]

c^hi hud nə-jn-avani-vaʃ ha-vaʃ həmdjir^h nə-j-ja.
you that do-INT-want-CVB be.so-CVB in.that.way do-EP-IMP

(28) このコップは落としても割れない。

[Этот стакан не разобьется, даже если его уронить.]

tu ɲirɲ kuci-vaʃnaɾə cosq-gavr-i-d-ra.
this plate drop-CVB break-NEG-FUT-IND-FOC

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

[Это яблоко совсем не сладкое, хоть и дорогое.]

tu jablak maŋbla-vaʃnaɾə nr^haksk ɲeni-qavr-d.
this apple strong-CVB completely sweet-NEG-IND

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

[Я заходил к нему домой, но его не было.]

ɲi j-raf-toχ juʃ-ɲə jaŋ ujyi-d.
I 3SG-house-DAT go.in-CVB s/he not.exist-IND

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

[Я буду ждать здесь, пока этот человек не придет.]

hu ɲiʃvɲ p^hr^ə-f-toʃo ɲi tus-ux p^hiʃ-i-d.
that man come-NMLZ-TERM I here-LOC wait-FUT-IND

(32) あの人が来るまでに, 食事を作っておきますよ.

[До того, как этот человек придет, я приготовлю еду.]

hu niyvŋ napə pʰrʰə-gavr-doyo ni iŋk he-j-d
 that man yet come-NEG-TERM I food boil-FUT-IND

略号一覧

1/2/3	1 st /2 nd /3 rd person	HOR	hortative	NMLZ	nominalization
CVB	converb	IMP	imperative	PL	plural
DAT	dative	IND	indicative	PTCP	participle
EP	epenthetic vowel	INT	intentional	Q	question marker
FOC	focus	LOC	locative	SG	singular
FUT	future	NEG	negative	TERM	terminative

参考文献

Mattissen (2008) Converbs in Nivkh. In Karen H. Ebert, Johanna Mattissen, Rafael Suter, *From Siberia to Ethiopia : converbs from a cross-linguistic perspective*. Zürich : Universität Zürich.

カム・チベット語ティンドウ方言

ツェジワンモ

- (1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

khazōLF=gū nāmumōHF sandzūHF taHF juLF sawā LF saHF riε?LR
 3.SG=ERG いつも 新聞 見る ながら ご飯.ABS 食べる COP

- (2) (私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て(から)、寝ました。

khazōLF tchušheHH teuHF tēHF=ni tchuHF nōLF=lu thēHF tshōHF
 昨日 時間 十 上=ABL 家 中=DAT 来る てしまう
duLF jējēHF jawatshai LF taHF=a jīLF=jolejēLF
 時 テレビ.ABS 少し 見る=CONJ 寝る=AUX

- (3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

khazōLF dzhithēLF tēHF=ni lhuLF=a maHF siLF=juthiHF
 昨日 階段 上=ABL 転ぶ=CONJ ケガ する=AUX

- (4) 今日父は会社に行き、兄は大学に行った。

tīruLR goLR abaHF lihōLF=lu shūHF=a agoHF lhoqāHF=lu
 今日 も 父 会社=DAT 行く.PF=CONJ 兄 学校=DAT
shūHF=thiLF
 行く.PF=AUX

- (5) (あの人は) 今日帽子をかぶって歩いてきた。

tīruLR changōLF ngēLF=a nqōHF=duchunguLF
 今日 帽子.ABS かぶる=CONJ 行く.IMPF=AUX

- (6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

mēsūLF jēLF duLF nōmēmōHH jugēLF taHF jējēHF taHF=a
 休み COP 時 いつも 本.ABS 見る テレビ.ABS 見る=CONJ
dieLR=lejēLF
 座る=AUX

(7) 時間がないから、急いで行こう。

tutshēLF woleHH-maiLR=a lawoHF nqoHF
時間 ある-NEG=CONJ 急ぐ 行く.IMPF

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

khazōLF ngoHF zīHF=shōLF=a ṽhashēHF jūLF jōʔLR=lejēLF
昨日 頭 痛い=AUX=CONJ 早く 寝る 置く=AUX

(9) あの人は本を買いに行った。

pondīHF jūLF theLF jugēLF juoHF=ji shūīHF=thīLF
あの 人 DEF 本.ABS 買う=DAT 行く.PF=AUX

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

shuHF=lu jōwoma HF reʔLR goHF bu tehethu HF kakuīHF shīHF=thīLF
外=DAT 良く 見える 要る の ため 窓.ABS 開ける=AUX

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

nderōHH=lu jakaHF rieʔLR duLF tēhapaHF thōwoHF paiLR=duʔLR
この地域=DAT 夏 COP 時 雨 よく 降る=AUX

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

kakuīHF shīHF jōʔLR duLF lūHF nōLF=lu buHH=shōLF
窓.ABS 開ける 置く 時 風 中=DAT 吹く=AUX

(13) 坂を上ると、海が見えた。

gōHF jōHF nāōHF duLF mtshoHF reʔLR rieʔLR
坂 上 上る 時 海 見える COP

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

nunjaLR nāHF baiLR=shōLF=nū ṽaLF tshulaHF wōLF=le-mēLF.
明日 雨 降る=AUX=CONJ 1.SG そっち 来る=AUX-NEG

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

ṽhashēHF lōLF goHF=zeiLR=rhu
早く 起きる 要る =AUX=SFP

- (16) あんなところに行かなければよかった。

*thu*laHH=*lu* *nqo*HF *ne*LF=*ma*=*zei*LR
 あんな=DAT 行く.IMPF 出来る- NEG=AUX

- (17) 1に1を足せば、2になる。

*tcai*HH *kha*HF=*lu* *tcai*HH *jo*ʔLR *du*LF *ne*LF *rie*ʔLR
 1 上=DAT 1 置く 時 2 COP

- (18) 駅に着いたら電話をしてください。

*baisa*LF *the*HF *tsho*HF *du*LF *khob*oHF *dcai*LR *chu*?
 駅 来る てしまう 時 電話 打つ ください

- (19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

*zaju*waHF *rie*ʔLR *du*LF, *ruge*LR *tchalu*HF *rawa*HF=*lu* *nqo*HF *sa*HF
 日曜日 COP 時 皆 一緒に 公園=DAT 行く.IMPF 思う

- (21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

*tchu*HF *no*LF=*lu* *wo*LF=*lej*eLF=*nu* *khob*oHF *dcai*LR *chu*?
 家 中=DAT 来る=AUX=CONJ 電話 打つ なさい

- (22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

*kha*HF *ʔ*ʔLR *lema*LF *du*LF *ŋa*LF *nbu*LF *chu*?
 音 鳴る すぐ 時 1.SG 呼ぶ なさい

- (23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

*kha*HF *ʔ*ʔLR=*sho*LF=*nu* *ŋa*LF *nbu*LF *chu*?
 音 鳴る=AUX=CONJ 1.SG 呼ぶ なさい

- (24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

*ŋu*LF *go*HF *li*HF *gali*HF *ma-ŋo*LF=*nu* *gie*LR *go*HF *li*HF *sawa*LF
 泣く 必要 の 苦労 NEG-経験=CONJ 笑う 要る の ご飯.ABS
*ro*ʔLR *mai*LR
 もらう COP.NEG

(25) もう少しお金があつたらなあ。

thaLF ηēHF jawatshaiLF woLR=nuu
もう お金 少し ある=CONDJ

(26) これも食べたら？

udeHF goLR suLF choHF=chuu
これ も 食べる.PF 来る=SFP

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

sieLR sāHF=nuu teuHF gaHF siLF
する 思う=CONJ どんな 好き する

(28) このコップは落としても割れない。

udeHF puruuHF theLF lhūLF shūHF=nōLR tchōHF nqōHF=le-mai
この コップ DEF 落とす 行く.PF=CONJ 壊れる 行く.IMP=aux-NEG

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

udeHF chīthuHF theLF gūHF tcheHF=duʔLF=nōLR mazaLF chūHF=mu-ʔLF
この リンゴ DEF 値段 高い=AUX=CONJ ちっとも 美味しい=NEG-AUX

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

khutsuLF tehūHF nōLF=lu shūHF=lejēLF=a khuruHF mū-nguHF
3.SG.宅 家 中=DAT 行く.PF=AUX=CONJ 3.SG NEG-いる

(31) あの人が来るまで、私はここで待っています。

pondīHF juuLF ma-wōLF bōLR ŋiHF uniLF guʔLR=duwo
あの 人 NEG-来るまで 1.SG.ERG ここで 待つ=AUX

(32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

pondīHF juuLF thewōHF rōbōHF=lu ŋiHF sawāLF līLF jōʔLR
あの 人 来るまで=DAT 1.SG.ERG ご飯.ABS 作る 置く

グロス一覧

- 接辞境界/=接語境界/ 1(first person)一人称/2(second person)二人称/ABL(ablative)奪格/ABS(absolutive)絶対格/AUX(auxiliary)助動詞/COND(conditional)条件/CONJ(conjunctive particle)接続助詞/COP(copula) コピュラ/DAT(dative)与格/DEF(definite)定/ERG(ergative)能格/F(feminine)女性形/GEN(genitive)属格/IDF(indefinite)不定/NEG(negative)否定/NMLZ(nominalizer)名詞化接辞/IMPF(imperfective)非完了形/PF(perfective)完了形/ SG(singular)単数/SFP(sentence final particle)文末助詞

ラワン語ダル方言

大西 秀幸

1. はじめに

ラワン語ダル方言(以下ダル方言)には、連用修飾的複文を作るときに、動詞の形が変化して副詞的に機能する形式(副動詞)を使う場合と、叙述法動詞形(終止形)+接続助詞の組み合わせを使う場合がある。

副動詞形で連用節を作るか、接続助詞で連用節を作るかの違いは、ラワン語という言語の本質を知るうえで重要な問題であろう。即ち、述語を中心とした文の成り立ちの仕組みと同時に、話者の「世界認識のパターン」に深く関連していると考えられるからである。

類型論的立場から見ると、ラワン語は日本語をはじめとするいわゆるアルタイ型の言語と同様、連用的な接続形式が発達している一方で、定形の動詞(*finite verb*)を接続詞で繋ぐことが多い印欧語の特徴も見せる点で興味深い。本稿では特に、意味的によく似た事象が、連用的接続形式(副動詞)と、接続助詞のどちらで繋がれるのかを決める要因は何かということに注目して考察をしていきたい。

1.1. 本稿の目的及び取り扱う範囲

本稿は、アンケート項目に答える形でダル方言の連用修飾的複文に関して基礎的な記述を行うことを目的とする。今回は調査時間の都合上、「言いさし文」を調査するに至らなかったため、本稿で取り扱うのは、アンケート項目のうち連用節+主節から成る複文に関する箇所にとどまる。

1.2. ラワン語概略

ラワン語(*Rawang*)は、ミャンマー連邦共和国・カチン州(*Kachin state*)の北部でラワン人によって話されている言語である。ラワン語は、チベット・ビルマ語派(*Tibeto-Burman*)のうちヌン語群(*Nungish*)¹に属する言語である。ラワン語には100以上の方言があると

¹ ヌン諸語の系統的な位置づけについては諸説ある。シナ=チベット/チベット=ビルマ諸語におけるヌン諸語の系統関係について初めて指摘したのは、*Shafer (1955)*、*Benedict (1972)*であり、*ロロ=ビルマ諸語との関連を指摘している*。これらの研究に対し*Matisoff (2003)*は語彙の対応をもとに、ジンポー諸語やルイ諸語と合わせて*Jingpho-Nung-Luish (JNL)*というグループを提唱している。*Bradley (2002)*はアッサム州で話される*Mishmi*語などとともに中央チベット=ビルマ語グループをなすと指摘した。*Thurgood (2003)*は、人称接辞システムの存在に着目し中国四川省などで話される*rGyarong*語などとともに‘*Rung group*’を成すと指摘している。

いう指摘がある。筆者はすべての方言を確認したわけではない。ただし、筆者の経験によれば、方言話者同士が相互に意思疎通することが難しい場合もある。本稿で記述の対象とするのはダル方言である。筆者によるこれまでの調査でダル方言は次のような文法特徴を持つことがわかっている。

- 基本語順：SV, APV
- 語類：名詞類（名詞（普通名詞，指示詞，代名詞），数詞），動詞類（自/他動詞），副詞類（副詞），小辞類（助動詞，後置詞，類別詞など）
- 句構造（(...) で示したのは任意の要素）
- 名詞句構造：[(指示詞) +名詞 (+数詞) (=類別詞)] (=後置詞)
- 動詞句構造 (...) で示したのは任意の要素である。：[(否定辞-) (使役化-) 動詞語根 (=助動詞) (-TAM) -人称・数=副動詞形成接語 / =終止形形成接語]

1.3. 本稿で用いる音韻表記並びに略号

ダル方言の音韻転写には筆者の音韻解釈に基づいた表記を用いる。概略は以下の通りである。

- 子音

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖／破擦	p, b	t, d, ts, dz	tc, dz	k, g	?
摩擦	(ɸ, β)	s	ɕ		h
鼻音	m	n		ŋ	
その他	w	r, l	j		
- 母音

単母音	i, i, u, e, ə, o, a
弱化母音	ə
- 声調

高調	Á
中調	Ā
低調	à

※ (..) の子音は外来語にしか現れない音

※弱化音節の音節，及び末子音が閉鎖音の音節では声調の対立がなくなる。したがってこの種の音節には声調の記号を表記しない。なおダル方言本来語は常に中調になる。

また本稿で用いた略号は以下の通りである。

1		話し手人称	DUR	durative	継続
2		聞き手人称	EXHO	exhotative	非直接要求
3		第三者人称	F	feminine	女性
-		接辞境界	IMP	imperative	命令
+		同一名詞句内	LOC	locative	処格
		の語境界 (特に	M	muscline	男性
		示す必要のある場合のみ)	N1	non-1st person subject	非話し手が主語
=		接語境界	NEG	negative	否定
A	agentive	動作主	NPT	non-past	非過去
ACC	accusative	対格	OBLG	obligatory	義務
ALL	allative	向格	P	patient	被動者
AMB	ambitransitive verb	自他両用動詞	PFV	perfective	完結相
		語根	PUR	purposive	目的
CL	classifier	類別詞	R/M	reflexive/middle	再帰／中動
CLC	collective	集合	RES	resultative	順接
CNMLZ	clausal-nominalizer	名詞節化標識	SEQ	sequence	継起
COM	comitative	共格	SG	singular	単数
COND	conditional	条件	TOP	topicalization	話題化
COP	copula	コピュラ	V	verb	動詞語幹
CTRD	contradictory	逆接	VI	intransitive verb	自動詞語根
DIR	directive	方向	VT	transitive verb	他動詞語根

2. 連用節

従属節は主節とともに複文を形成する。従属節はその機能から、名詞節、連体節、連用節に分けられる²。

連用節を形成する手法は、動詞の副動詞形で示すものと、動詞の終止形と接続助詞の組み合わせで示すパターンの2つに大別される。

2.1. 副動詞による連用節

ダル方言ではその機能によって以下の2タイプの動詞形が想定できる。

² このうち、名詞節は統語的に名詞(句)と同等のふるまいをする。連体節は、名詞(句)を拡張する機能をもち、いずれも名詞化接辞によって形成される。

- ① 終止形：文の述語となり，文を終止する機能を持つ形．基本的に文末に位置し，（動詞文では）1文に1つある．
- ② 副動詞形：副詞と同様に他の動詞を修飾する形．主に従属節の述語となって主文にかかる．また，複合的な形式で動詞のアスペクトを表すこともある．
終止形と副動詞形の活用をまとめて以下に示す．

表 1：動詞の活用			グロス	
終止形	叙述	過去	無標	NPT
		非過去	V=ē	
	要求	直接要求	V=∅	IMP
		非直接要求	lā-V=∅	
	疑問	命題疑問	V=má	Q
		内容疑問	V=lé	
副動詞形	順接		V=dēr	RES
	逆接		V=dērgēr	CTRD
	継起		V=mēpāŋ	SEQ
	目的・意図		V=lóm	PUR
	移動の目的		V=nàŋ	[移動の目的]
	条件		V=dērnēr	COND
	その他（省略）			

終止形動詞は動詞語幹=終止形形成接語（文標識）によって形成される．副動詞形は，副動詞形成接辞が終止形形成接語と同じスロットを占めることで形成される．

2.2. 接続助詞による連用節

接続助詞による連用節は叙述文標識に接続助詞を後接させることで作られる．本稿で扱う接続助詞は以下に示す3つである．

順接，確定条件 =rəgap
理由 =təkáŋ
期間（～まで） =teáŋ

3. 調査方法

本稿では，コンサルタントにアンケート項目に回答してもらった形でダル方言のデータを

収集し考察を行う。また適宜、筆者が作成したコーパスからの例文を使っても考察を行う。コンサルタントのデータは以下の通りである。

性別： 男性
 生年： 1957
 出身： ミャンマー，カチン州，Putao 出身（父母がダル方言話者）
 学習経験のある言語： 日本語

コンサルタントは日本語が堪能であるため、調査は全編日本語を媒介にして行った。また本稿では、さらに筆者のコーパスデータからの用例も挙げている。コーパスはコンサルタントの語りを録音し、書き起こしてテキストデータ化したものである。

本稿で番号をふっている例文はアンケート番号と対応する。筆者のコーパスからの例文にはアルファベットをふっている。用例の文法性及び転写についてはコンサルタントとして協力していただいた Phong Dakhum 氏のチェックを受けているが、本稿に引用された例文（及びその説明）に対する責任の一切は筆者にある。

4. データ

4.1. 【同時動作】

- (1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

àŋ=í	kàrəgáp	lègā	eūn-ù=ē=rəgáp	ám-pà	ám-ù=ē.
3SG=A	いつも	読み物	読む.VT-3P=NPT=～とき	食べ物	食べる.AMB-3P=NPT

同時動作の場合、接続助詞=rəgáp を用いて「A するとき、B する」という表現を用いる。

4.2. 【継起的動作・物語的連鎖】

- (2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

sānī	tíʔsəl=nāri	teúm=kaʔ	lō=dēr
昨日	10=～時	家=ALL	帰る.VI=RES
tíʔhānṅān	tīβī	tsà-ù=dēr	jip.
少し	テレビ	見る.VT-3P=RES	寝る.VI

出来事が物語的に連鎖する場合、=dēr 連用節を用いる。

4.3. 【継起, 理由】

(3) (私は) 昨日階段で転んで, ケガをしてしまった.

sānī nāŋdūŋ=ta? əŋā-ŋ=dēr zàcì-ŋ.
昨日 階段=LOC 転ぶ.VI-1SG=RES 怪我をする.VI-1SG

2つの動作が継起的に起こるとき, 且つ前件が後件の順当な原因・理由になっているもの, あるいはいくつかの動作が物語的に連鎖していく場合は=dēr 連用節を用いる. =dēr 連用節が使えるのは同主語の複文に限られるようで, 異主語の複文では接続助詞を用いる (a) .

a) nā=í ŋà=səŋ è-gō=təkán ŋà dī-ŋ=ē.
2SG=A 1SG=ACC N1-呼ぶ.VT=RES 1SG 行く.VI-1SG=NPT
あなたが私を呼んだので, 私は(そこに)行く.

=təkán は前件が後件の原因・理由にあたるような場合に用いられる接続助詞である. a) において前件を=dēr 連用節で言い換えることはできない.

4.4. 異主語

(4) 今日も父は会社に行って, 兄は大学に行った.

dèní=gèr kāmzèr=ka? dī. nòməlat tə?kəsū dī.
今日=～も 会社=ALL 行く.VI 兄 大学 行く.VI

異主語, 且つ2つの動作に継起的あるいは原因結果的な関係が認められない場合には, 連用節を用いることができず, 2文で表現するしかない. コーパスには b) のような例がある.

b) rəwāŋ-mè-rā ənāsī sī-cì=ē.
ラワン-F-CLC 女性用耳飾り 着る.VT-R/M=NPT
rəwāŋ-pè-rā nōmpù gí-cì=ē.
ラワン-M-CLC 男性用耳飾り 着る.VT-R/M=NPT
ラワン人女性は筒状の耳飾りを, ラワン男性はイヤリングをつけている.

4.5. 【付帯状況】

(5) (あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた.

dèní əmó sī-cì=dēr əgūncì=dērəl.
昨日 帽子 帽子をかぶる.VT-R/M=RES 歩き回る.VI=DUR

結果状態の残った状況で主節の動作行為が行われる場合にも、=dēr 連用節を使うことができる。

4.6. 【並行動作】

- (6) 本を読んだり、テレビを見たりしています。

lègā	cūn-ù	tīβī	tsà-ù=ē
読み物	読む.VT-3P	テレビ	観る.VT-3P=NPT

「A たり～B たりする」に対応する、動作を列挙して述べる場合、ダル方言では動詞句を列挙して表現する。(6)において、前件の「新聞を読む」は非過去なので、文を終止させるには叙述文標識=ēを用いなければならないが、=ēは後件の「テレビを見る」にしかなかった。つまり、(6)は2つの動詞句を列挙させた1文と考えられる。このような構文で表現できるのは、列挙する動作が同一主語の場合に限られる。異主語の動作を列挙する場合は、2文で表現することになる(4.4を参照されたい)。

4.7. 【理由・カラ】

- (7) 時間がないから、急いで行こう。

ràtér	mə-ál=ē.	sànsàn	lā-è-dì=∅
暇	NEG-存在する.VI=NPT	急いで	EXHO-N1-行く=IMP

後件に要求文が続く場合、必ず2文で現れる。この傾向は、コーパスで確認しても一貫している。例えば、以下のように、意味的に対応する接続表現での言い換えはできない。c) 'は接続助詞による表現、c) ''は=dēr 連用節による表現である。いずれも非文となる。

- | | | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------|----------------|-----------------------|
| c) | jà=mē | zənàn | mənām | sóm=ē | dètē-ù=∅ |
| | この=CL | プレスレット | あまりにも | 小さい.VI=NPT | CAUS.N1.大きい.VI-3P=IMP |
| | このプレスレットは小さすぎる。大きくして。 | | | | |
| c) ' | *jà=mē | zənàn | mənām | sóm=ē=təkáj | dètē-ù=∅ |
| | この=CL | プレスレット | あまりにも | 小さい.VI=NPT=RES | CAUS.N1.大きい.VI-3P=IMP |
| | (このプレスレットは小さすぎるから大きくして)。 | | | | |
| c) '' | *jà=mē | zənàn | mənām | sóm=dēr | dètē-ù=∅ |
| | この=CL | プレスレット | あまりにも | 小さい.VI=RES | CAUS.N1.大きい.VI-3P=IMP |
| | (このプレスレットは小さすぎるから大きくして)。 | | | | |

4.8. 【趨向／移動の目的】

- (9) あの人は本を買いに行った。

àŋ lègā dī=dēr wàn-ù.
3SG 読み物 行く.VI-RES 買う.VT-3P

「～しに行く」といった移動の目的を示す場合、=dēr 連用節を使って「行って～する」という表現をする。

移動の目的は=nàŋ 連用節を使っても表現できる。つまり「～するために行く」という言い方もできる。

- d) ŋà ein=nàŋ dī-ŋ=ē.
1SG 言う.VI= [移動の目的] 行く.VI-1SG=NPT
私は言いに行った。

- e) nəmbā sār gər wà=nàŋ səmā-rā eŋbè dī-ám.
耕地 新しく 耕す= [移動の目的] 女性-CLC すべて 行く-PFV
すべての女性は新たな耕地をきれいにするために、出払ってしまった。

-nàŋ 連用節は他の一般の目的節としては用いられないという特徴がある。つまり、=nàŋ は「移動の目的」を表す専用の形式である。

4.9. 【目的・意図】

- (10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

təjŋəŋe=lóm sərĩmsàŋ pú-ù.
よく見える.VI-PUR 窓 開く.VT-3P

前件が後件の意図や目的になっている場合、前件は=lóm 従属節で表現される。コーパスからは以下のような例が得られた (g)。

- f) əmiədám=kèní tənèədám=ta? əl=lóm ətsĩl-jàŋ-ù.
PN=ABL 俗世=LOC 存在する.VI-PUR 動く.VI-RPST-3P
アメウダムの国 (神の国) から人間世界で住むために移った。

【理由・ノデ】

- (8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

sānī əgókē=təkáŋ mægà jíp.
昨日 頭痛がする.VI=RES 早く 寝る

原因・理由、且つ後件に要求文以外の文が続く環境では、前件の従属節は接続助詞=təkánjで示される。コーパスからの用例も合わせて示しておく。

- g) dàməà mə-í-ŋ-ù=təkánj mə-gíp mə-rəl-ù.
 シャーマン NEG-COP.VI-1SG-3P=RES NEG-覆う.VT NEG-思い出す.VT-3P
 私はシャーマンではない（頭がよくないので）ので、思い出せません。

4.10. 【恒常的条件】

- (11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

jàmà=nēr nòmłĩmɛəlà gəzā sèrwà=ē
 ここ TOP 夏 非常に 雨が降る.VI=NPT

ラワン語では季節や曜日に関する表現は副詞として用いられるため、夏を名詞項として表現する「夏になる」に対応する表現はできない。恒常的条件は接続助詞=rəgapによって示される。コーパスからは次のような恒常的条件に関する文が得られた (h)。

- h) nòmàŋjéŋ=ē=rəgap nəm gəzā gèŋ=ē.
 一日のうち最も暑い時間帯になる.VI=NPT=～とき 太陽 非常に 日差しが強い.VI=NPT
 一日のうち最も暑い時間帯になると、日差しはととも強くなる。

条件は=děrnērによっても示されるが (4.14 参照)，=děrnēr 節に比べ，=rəgap 節の方が条件の頻度が高い傾向にある。

4.11. 【確定条件・生起】

- (12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

səŋĩsàŋ pú-ù=ē=rəgap nəmbīŋ+kit dī-làn
 窓 開ける.VT-3P=NPT=～とき 窓+冷たい 行く.VI-DIR

(12) は前件、後件ともに成立済の事象であり、条件は=rəgapで示される。

4.12. 【確定条件・発見】

- (13) 坂を上ると、海が見えた。

ŋà əŋəŋlàn=ē=rəgap bəŋlāy ətān.
 1SG 坂をのぼる.VI=NPT=～とき 海 見える.VI

後件が発見であっても、前件が既に成立した事象であれば=rəgapで示される。

4.13. 【仮定条件】

- (14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

napní sèrwà=dērnēr ɲà mə-dì.
明日 雨が降る.VI=COND 1SG NEG-行く.VI

前件が未成立の事柄であれば、=dērnēr 連用節で示される。

4.14. 【反実仮想】

- (15) もっと早く起きればよかったなあ。

tè mɔgà kòŋ-èi=dērnēr tè ɛɔlā=ē.
もっと 早く 起きる.VT-R/M=COND もっと よい.VI=NPT

反実仮想であっても、前件が不成立であることには変わらないため=dērnēr 連用節で示すことができる。これは前件否定でも同様である（(16)）。

4.15. 【反実仮想・前件否定】

- (16) あんなどころに行かなければよかった。

kùmà=ta? mə-dì=dērnēr tè ɛɔlā=ē.
そこ=ALL NEG-行く=COND もっと よい.VI=NPT

反実仮想の場合、後件に tèɛɔlā=ē 「よりいい」という表現が用いられる。以下はコーパスから得られた例である。

- i) kandök kàmzèr=ta? ũŋ ɛ̀n=dērnēr tè ɛɔlā=ē.
役人=ACC 最初に 言う.VI=COND もっと よい.VI=NPT
最初に役人に言えばよかったのに（役人は中国に行ってしまった）。

4.16. 【一般的真理】

- (17) 1に1を足せば、2になる。

tí?=nàŋ tí? zat-ù=dērnēr ɛ̀nī í=ē.
一=COM 一 足す.VT-3P=COND 二 COP.VI=NPT

4.17. 【仮定条件+働きかけのモダリティ】

- (18) 駅に着いたら電話をしてください。

būdā=ta? həl=dērnēr ɸón lā-è-wà=Ø.
駅=ALL 着く.VI=COND 電話 EXHO-N1-作る/する.AMB=IMP

後件のモダリティにかかわらず、前件が未成立であれば=dērnēr 条件節を用いることができることがわかる。

4.18. 【仮定条件+願望】

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

lobànní eəŋbè=nàŋ nàmpān= ta? di-məjì-ŋ=ē=á.

日曜日 すべて=COM 公園=ALL go.VI- [願望] -1SG=NPT= [詠嘆]

願望のモダリティはモダリティの接辞 məjìによって示される。前件は副詞としてしか表現できない（(10)を参照）。コーパスからはj)の例が得られた。

j) məjèná tu?ŋ=ē=rəgəp ərá-məjì-ŋ=ē.

ミッチーナ 着く.VI-1SG=NPT=〜とき 仲良くなる.VI- [願望] -1SG=NPT

ミッチーナについたら（彼と）仲良くなりたい。

4.19. 【心配】

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

napní sérwá=dērnēr rəzà=ē=só

明日 雨.VI=COND 困る.VI=NPT= [詠嘆]

前件の事象の成立を心配しているような文脈では、前件は=dērnēr 連用節で示される。

4.20. 【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

teúm=ta? è-dì-làŋ=dērnēr fón

家=ALL N1-行く.VI-DIR=COND 電話

è-wà-mēpāŋ è-dì-làŋ=Ø.

N1-作る/する〜のあと N1-行く.VI-DIR=IMP

時間的前後関係が逆転していても、前件は=dērnēr 連用節で示すことができる。コーパスからはk)の例が見つかった。

k) nūŋŋā zì-rà=dērnēr ūŋká ŋàdāŋ dəsà-rà=ē.

Cattle give.VT-OBLG=COND 最初 十字架 植える.AMB-OBLG=NPT

家畜を（生贄として）差し出さなくてはならなくなったら、最初に犠牲の十字架を地面に立てなければならない。

4.21. 【予想を伴った条件文】

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

dūm=dēmēr è-cìn=∅
ベルが鳴る.VI=COND N1-言う.VI=IMP

予想を伴っているとはいえ、前件の事象は未成立であるため、この場合=dēmēr 連用節で示される。予想を伴うか伴わないかにかかわらず、前件の事象が未成立であれば、=dēmēr 連用節が用いられる。(23)と対照されたい。

4.22. 【予想を伴わない条件文】

前件が予想を伴うか伴わないかにかかわらず、=dēmēr 連用節が用いられる。(22)と(23)は全く同じ文で表現できる。

(23) もしベルが鳴ったら、教えてください。

dūm=dēmēr è-cìn=∅
ベルが鳴る.VI=COND N1-言う.VI=IMP

4.23. 【アクチュアルな逆接】

逆接は=dērgēr 連用節によって表現される。

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

jà=lòŋ mǎgosí=nēr əpī=dērgēr mǎ-zù=ē.
これ=CL りんご=TOP 高い.VI-CTRD NEG-甘い.VI=NPT

4.24. 【逆接3】

異主語の場合、後件の文では主語が明示される。主語が明示されなければ（あるいは文脈から明らかかな場合は）同主語として解釈されるようである³。

(30) ŋà=í àŋ=sàŋ zì-ŋ-ù=dērgēr àŋ mǎ-tap-ù=ē.
1SG=A 3SG=ACC 与える.VT-3P=CTRD 3SG NEG-受け取る.VT-3P=NPT
私は彼にそれを渡そうとしても、彼は受け取らなかった。

³ 厳密にいうと、動詞の人称一致で主語を同定できる場合もあるが、動詞の一致だけでは情報量が少ないと感じるのか、従属節と主節で異主語の場合、普通の発話では主節で主語名詞句を明示する。

4.25. 【時間的制限 1】

「～まで」という期間を表現する場合は接続助詞の=tcáŋ を用いる。

- (31) 彼が来るまで、これを持っています。

àŋ lō=ē=tcáŋ gál-ù=ē.
3SG 帰る.VI=NPT=～までに 持つ-3P=NPT

4.26. 【時間的制限 2】

- (32) あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。

àŋ həl mǎ-ēī=rəgap ŋà=í kit-ù-nà í=ē.
3SG 着く.VI NEG-終わる.VI=～とき 1SG=A 料理する.VT-3P-CNMLZ COP.VI=NPT

「～までに」という期限を表現する場合は V+ mǎ-ēī=rəgap という複合的な表現を用いる。mǎ-ēī=rəgap は動詞との複合形式でも現れ、それ自体が項をとることもできる (1)。

- l:) cəlǎbəlì mǎ-ēī=rəgap àŋ-niŋ wà-dàŋ-nà í=ē.
月 NEG-終わる.VI=～とき 3SG-PL 作る/する.AMB-PFV-CNMLZ COP.VI=NPT
月が終わるまでに、彼らは仕事を終えなければならない。

参考文献

- Benedict Paul K. 1972. *SinoTibetan: a conspectus*. New York: Cambridge University Press.
Bradley, David. 2002. “The Subgrouping of Tibeto-Burman”. in Beckwith, Chris; Blezer, Henk, *Medieval Tibeto-Burman languages*, BRILL: pp. 73–112.
Thurgood, Graham. 2003. “A subgrouping of the SinoTibetan languages”. in Thurgood, Graham & LaPolla, Randy J., *Sino-Tibetan Languages*. London. Routledge: 3-21.
Matisoff, James A. 2003. *Handbook of Proto-Tibeto-Burman*. Berkeley. Los Angeles and London: University of California Press.
Shafer, Robert. 1955. “Classification of the Sino-Tibetan languages”. *Word (Journal of the Linguistic Circle of New York)* 11 (1): pp. 94–111.

マレーシア語の連用修飾的複文

野元 裕樹, アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー

1. はじめに

本稿で扱う「連用修飾的複文」とは、文の中核となる節である主節と、主節の項でなく主節の述語を修飾するような従属節から成る複文をいうものとする。この定義は意味に基づく。修飾関係の形態統語的実現方法としてはいくつかのパターンがあり得る。表1はそれをまとめたものである。α, βは何らかの形態統語的標示がなされることを表す。この形態統語的標示は、具体的には、接続詞であったり、小辞であったり、述語(動詞など)の形態変化であったりする。また、標示というよりは、倒置/前置のような統語操作である場合もある。なお、本稿では対象としないものの、2文の連続の際のパターンも表に入れておく。多くの場合、2文の連続と1文の複文を並行的に捉えることができるためである。

表1 連用修飾の形態統語的実現パターン

		1文(複文)		2文		
(i)	無標示型	節1,	節2.	文1.	文2.	
(ii)	主節標示型	節1,	β+ 節2.	文1.	β+ 文2.	
(iii)	主従両標示型	α+ 節1,	β+ 節2.	α+ 節1.	β+ 節2.	
(iv)	従属節標示型	(a)	α+ 節1,	節2.	α+ 節1.	節2.
		(b)	節2	α+ 節1.	節2.	α+ 節1.

正保(2000)が指摘するように、(ii)主節標示型と(iii)主従両標示型では2節の順序が固定している。これは(i)無標示型についても当てはまると考えられる。それに対し、(iv)従属節標示型では、主節と従属節の順序は入れ替えが可能である。ただし、日本語では主節の述語が文の末尾に生起せねばならず、従属節を後置すると付け足しになってしまう。

以下、各パターンを日本語または英語の例に基づき、順に見ていく。まず、無標示型は、2節を並置する純粋なパラタクシス構文がここに入る。日本語ではこの型は生産的でない。しかし、この型に基づいて発達したのではと思われる副詞は存在する。たとえば、「いけません」である。

(1) 無標示型

- a. いかんせん、値段が高すぎる。
- b. *値段が高すぎる、いかんせん。

主節標示型は日本語には存在しないようである。英語では、(2a)のような *so* の用法が主節標示の例である。(3)のような *so* の用法も主節標示の例と考えられるかもしれない。(3b)では *so* の生起に加え、倒置(動詞の前置)も起こっている。

(2) 主節標示型

- a. The dog was hungry (and) *so* we fed it.
「ひもじそうにしていたので、食べ物を与えた。」

(『リーダーズ英和辞典』)

- b. **So* we fed it, the dog was hungry.

(3) a. He couldn't speak, he was *so* angry.

「ものも言えなかった、そんなに怒っていたのだ。」

- b. My father was a Tory, and *so* am I.

「父は保守党员でしたがわたしもそうです。」

(『リーダーズ英和辞典』)

主従両標示型には、相関構文と呼ばれる構文が含まれる。日本語では「～たり…たり」構文が主従両標示型に近いのかもしれない。英語では、やはり *so* が関与し、*as ... so* という形式で生起する。*if ... then* ~構文も主従両標示の例である。

(4) 主従両標示型

- a. Just *as* the lion is the king of beasts, *so* the eagle is the king of birds.

「ちょうどライオンが百獣の王であるのと同様にワシはすべての鳥の王である。」

(『リーダーズ英和辞典』)

- b. **So* the eagle is the king of birds, just *as* the lion is the king of beasts.

従属節標示型は、日本語や英語の連用修飾の複文で最も一般的なパターンである。日本語では、従属節で動詞の語形が連用形になったり、接続助詞が用いられる。英語では、従属接続詞(以下、単に「接続詞」と呼ぶ)が用いられるほか、動詞が分詞形で現れる、分詞構文もここに含めることができる。(5d)のように、倒置(助動詞の前置)が起こる場合もある。本稿では、正保(2000)に従い、分詞構文や倒置構文もパラタクシスの一種とみなす。

接続詞の生起なしに接続詞使用相当の意味が観察されるからである。

(5) 従属節標示型

- a. 昨日は 10 時に家に帰り、少しテレビを見て (から)、寝ました。
- b. Yesterday, I got home at ten and I went to bed *after* I watched TV.
- c. Not knowing what to do, he remained silent.

「どうしていいのかわからなかったので、彼は黙っていた。」

(『ジーニアス英和大辞典』)

- d. *Should you* have any problems, please don't hesitate to call.

「もしご質問があれば、遠慮なくお電話をください。」

(『ジーニアス英和大辞典』)

マレーシア語における連用修飾的複文は、主節標示型と従属節標示型が中心であるが、無標示型や主従両標示型も存在する。標示としては、接続詞や小辞などの語を用い、迂言的である。もっぱら連用修飾に用いられるような特別な動詞の形態はほとんど存在しない。この点で、日本語をはじめとするアルタイ型の諸言語とは異なる。むしろ、印欧語に類似する。2つの節が並置されているだけのように見える、いわゆるパラタクシス構文も口語体で広く使用される。パラタクシス構文は、何の標示もなく2節が並置されている、無標示型である場合もあるが、実は主節あるいは従属節、またはその両方に小辞など、何らかの節間関係を表す要素を含む場合も多い。

本稿では、特集アンケートの日本語文に相当するマレーシア語文を提示するほか、マレーシア語のパラタクシスに関する先行研究である正保(2000)の内容も折に触れ、紹介する¹。本稿で示すデータは、マレーシア国内の地域方言の差を超えて使われる、マレーシア語の標準方言のものである。標準方言においては、書き言葉と話し言葉があり、2つの変種の間には大きく、ダイグロシヤ状況を生んでいる。本稿のデータは基本的に書き言葉のものである。特に、話し言葉のみにおいて容認可能であるような文については、その旨を示す。例文はアズヌール・アイシャが特集アンケートの日本語文に基づいて作ったものが中心である。これに加え、正保(2000)で引用されている例文も用いる。特集アンケートの例文番号は【 】に入れて示す。正保論文からの例文の引用は、同論文中の例文番号を【正保(1)】のように示す。例文の詳細な出典は正保論文を参照されたい。なお、正保論文では例文に日本語訳がないため、野元が新たに訳文を付した。

以下、特集アンケート項目を手がかりに、節間の関係ごとに具体的な例を見ていく。節

¹ マレーシア語のパラタクシス構文については他に、Koh(1990: 第6章)やUzawa(2013)も論じている。

間の関係は、時間関係（第2節）、因果関係（第3節）、条件関係（第4節）、逆接関係（第5節）のように分類した。

2. 時間関係

ある出来事と時間的に並行して起こる付帯的事態を表す表現は、(6a)のように、接続詞 *sambil* 「～しながら」により導入される。動詞 *membaca* 「読む」の主語は主節の主語と同一であるため、明示されていない。*sambil* 句内の動詞は能動態標識 *meN*⁻²を伴っている。一般に、接続詞が動詞を直後に取りする場合、形態統語的に *meN*の生起が許される環境であれば、*meN*が生起する傾向にある。(6b)のようなパラタクシス構文は、動詞の形態に関わらず、容認されない。

- (6) a. *Dia selalu makan sambil *(mem-)baca surat khabar.*³ 【(1)】
 3SG always eat while ACT-read newspaper
 b. **Dia selalu makan ___ (mem-)baca surat khabar.*
 3SG always eat ACT-read newspaper
 「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。」

付帯状況を表すには、接続詞 *sambil* 「～しながら」(7a)や *dengan* 「～した状態で」(7b)を用いる。両者の間には、補部の選択において意味的違いがある。*sambil*を用いた(7a)は、日本語の訳文と同様、(mem-)[p]akai が身に付ける動作（英：to put on）の意味と身に付けた状態（英：to wear, have on）の意味の双方で解釈できる。一方、*dengan*を用いた(7b)は、後者、つまり状態の読みしかない。なお、くだけた口語体であれば、(7c)のように、接続詞を用いずに動詞句を並置することも可能である。くだけた文体であるためか、能動態標識 *meN*は生起しない。*pakai* は動作と状態の双方に解釈できる。

- (7) a. *Hari ini dia berjalan-jalan sambil (mem-)pakai topi.* 【(5)】
 day this 3SG walk while ACT-wear hat
 b. *Hari ini dia berjalan-jalan dengan (mem-)pakai topi.*
 day this 3SG walk with ACT-wear hat

² 能動態標識 *meN*の *N* は鼻音要素を表し、語幹の最初の音に応じて変化する。なお、語幹が *p*, *t*, *s*, *k* で始まる場合、これらの音はたいてい脱落する。本稿では、これらの脱落する無声阻害音を [] に入れて表記することにする。

³ Leipzig Glossing Rules にない略号：ACT: active; PART: particle.

- c. Hari ini dia berjalan-jalan ____ (*mem-)[p]akai topi.
 day this 3SG walk ACT-wear hat
 「(あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。」

複数の出来事の時間の経過に沿った継起は、(8a)のように、*dan* 「と」による等位接続で表される。くだけた口語体においては、(8b)のように、*dan* を用いずに動詞句を並置することも可能である。

- (8) a. Semalam, saya pulang ke rumah pada pukul 10, menonton TV 【(2)】
 yesterday 1SG return to home at o'clock 10 watch TV
dan kemudian tidur.
 and then sleep
- b. Semalam, saya pulang ke rumah pada pukul 10, tengok TV,
 yesterday 1SG return to home at o'clock 10 watch TV
 ____ kemudian tidur.
 then sleep
- 「(私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。」

時間的に先行する出来事がそれに継起する出来事の原因になる場合、(9a)のように接続詞 *lalu* 「そして、それから」が用いられる。(9b)のように接続詞を用いずに動詞句を並置する文は、くだけた口語体であっても容認されない。

- (9) a. Semalam, saya terjatuh di tangga *lalu* terluka. 【(3)】
 yesterday 1SG fall at stairs and.then injured
- b. *Semalam, saya terjatuh di tangga, ____ terluka.
 yesterday 1SG fall at stairs injured
- 「(私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。」

ある出来事が別の出来事の後にはすぐさま継起することを表すには、(10a)のように、接続詞 *sebaik* 「～するやいなや」を用いることができる。また、(10b)のように、動詞に接頭辞 *se-*を付加しても同様の意味を表すことができる。接頭辞 *se-*の付加は、マレーシア語において連用修飾が動詞の形態により示される、数少ない例である。ただ、正保(2000)が指摘するように、この用法の *se-*が付加できる動詞は、到着を表す動詞などごく少数に限られる。主語は *se-*が付加された動詞の後に生起する。また、いずれの例にも小辞 *sahaja/saja* 「だけ」がよく共起する。(10c)のように、*sebaik* や *se-*なしに、*sahaja* だけでも同様の意味を表

すことができる. *sahaja* は動詞の後に生起する. (10d)のように, 主語を動詞の前に置くことはできない.

- (10) a. *Sebaik sahaja* kami nampak burung, kami lastik. 【正保(150)】
 as.soon.as only 1PL see bird 1PL hit.with.a.catapult
 「鳥が見えるやいなや, 僕達はパチンコで撃った。」
- b. *Se-tiba* saya di lapangan terbang Brakas, saya bergegas masuk 【正保(39)】
 SE-arrive 1SG at airport Brakas 1SG rush enter
 ke balai berlepas.⁴
 to hall depart
 「ブラカス空港に着くや, 私は出発ロビーに駆け込んだ。」
- c. Nampak *sahaja* burung, kami lastik. 【正保(142)】
 see only bird 1PL hit.with.a.catapult
 「鳥が見えるやいなや, 僕達はパチンコで撃った。」
- d. **Kami* nampak *sahaja* burung, kami lastik. 【正保(146)】
 1PL see only bird 1PL hit.with.a.catapult

sebaik と同じく, *sahaja/saja* とともに用いられる時間を表す表現として, 副詞 *baru* 「～したばかり, ようやく～」がある. (11b)のように, *baru saja* は通常, 副詞が生起する位置にも生起し得るので, (11a)はこれが前置したものと考えられる. つまり, 従属節が前置という統語操作により連用修飾の機能を得た, 従属節標示型である. (10c)についても, 同様に分析できる.

- (11) a. *Baru saja* dia memegang topi itu, bulu roma-nya naik. 【正保(9)】
 just only 3SG hold hat that fine.hair-3SG rise
 「その帽子を手を取った瞬間, 身の毛がよだった。」
- b. *Dia baru saja* balik dari luar negeri. 【正保(17)】
 3SG just only return from outside state
 「彼は外国から戻ったばかりだ。」

sahaja/saja は用いられていないものの, 次の(12a)でも, 否定辞+形容詞の *belum sempat* が前置している. (12b)は, *belum sempat* の通常の述語位置での生起を示す.

⁴ 正保論文の例文中では *balai berlepas* でなく *dewan perpisahan* [hall separation]が用いられている. しかし, 「出発ロビー」の意味では前者が普通なので, 元の例文を改変した.

- (12) a. *Belum sempat* dia bercerita, orang kampung tetap mengatakan, 【正保(7)】
 not.yet have.chance 3SG tell.story person village still say
 “Pak Sahak memang gagah!”
 Mr. Sahak indeed sturdy
 「彼が話す隙もなく、村人たちは『サハクさんはそりゃあ逞しいよ！』と言うのであった。」
- b. *Dia belum sempat* menelepon-nya. 【正保(16)】
 3SG not.yet have.chance telephone-3SG
 「彼はまだ彼女に電話できていない。」

時間を表す表現の方には何の標示もなく、主節に標示が起こる場合もある。(13a)では、焦点小辞-lah が動詞 *dapat* が前置を受けていることを裏付けている。(13b)では、主節に継起を表す小辞 *pun* が生起している。Asmah (2009)はこのような用法を「時の *pun*」と呼んでいる。

- (13) a. *Dari pagi sampai petang* dia minta-minta *dapat-lah* oleh-nya 【正保(83)】
 from morning until afternoon 3SG ask get-PART by-3SG
 30 sen.
 30 sen
 「朝から晩まで頼み込み、ようやく彼は30セン手に入れた。」
- b. *Beberapa jam berjalan*, Bujang *pun* sampai di satu kawasan 【正保(31)】
 several hour walk Bujang PUN arrive at one area
 yang selalu di-datangi-nya untuk memotong kayu api.
 REL always PASS-come-3SG to cut lumber fire
 「何時間か歩き、ブジャンはいつも薪を刈りにやって来る辺りに辿り着いた。」

時間的期限を表すときには、接続詞 *sehingga/sampai* 「～するまで」(14a)や *sebelum* 「～する前に」(15a)が用いられる。前者は主節が時間的幅を持つ事態（ここでは「待つ」）のときに、後者は主節が時間的幅を持たない事態（ここでは「料理し終える」）のときに用いられる。(14b)および(15b)に示したように、法助動詞 *akan* 「～だろう、つもりだ」(英: *will*) は従属節中に生起できない。これは英語の時を表す従属節の場合と同じである。

- (14) a. *Saya akan tunggu* di sini *sehingga/sampai* orang itu datang. 【(31)】
 1SG will wait at here until person that come

- b. *Saya akan tunggu di sini *sehingga/sampai* orang itu akan datang.
 1SG will wait at here until person that will come
 「あの人が来るまで、私はここで待っています。」

(15) a. Saya akan siap masak *sebelum* orang itu datang. 【(32)】

1SG will finished cook before person that come

- b. *Saya akan siap masak *sebelum* orang itu akan datang.

1SG will finished cook before person that will come

「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。」

3. 因果関係

ある行為が別の行為の理由になっていることは、(16a)や(17a)のように、結果を表す節の側に接続詞 *jadi* 「そこで、だから」を用いるか、(16b)や(17b)のように、理由を表す節を接続詞 *sebab/kerana* 「～だから」で導入する。 *kerana* は書き言葉、 *sebab* は話し言葉を中心に用いられる。(16c)や(17c)のように、いずれの接続詞も用いず、2つの節を並置することも可能であり、コンマでつなげて書かれることもよくあるが、このような例は2文と考えた方がよいだろう。後半が勧誘文でない、(17)の例がその根拠を提供する。マレーシア語は *pro* 脱落を許すものの、主語は普通、脱落しない。しかし、特に口語体で、複文の主節主語がしばしば生起しないことがある。(17c)のような文が2文でなく、1つの複文であるならば、(17a-b)と同様に、主節主語の脱落を許すはずである。しかし、それは可能ではない。よって、(17c)のような構造は、2文とみなした方がよいだろう。(16c)は後半が勧誘文で、そもそも主語が随意的なので分かりにくい、同様の議論が成り立つはずである。

(16) a. Masa sudah tidak ada, *jadi* mari pergi cepat. 【(7)】

time already not be so let's go quick

- b. *Sebab/kerana* masa sudah tidak ada, mari pergi cepat.

because time already not be let's go quick

- c. Masa sudah tiada, mari pergi cepat.

time already not.be let's go quick

「時間がないから、急いで行こう。」

(17) a. Semalam, saya sakit kepala, *jadi* (saya) tidur awal daripada biasa. 【(8)】

yesterday 1SG ache head so 1SG sleep early from usual

- b. Semalam, *sebab/kerana* saya sakit kepala, (saya) tidur awal daripada biasa.
yesterday because 1SG ache head 1SG sleep early from usual
- c. Semalam, saya sakit kepala, *(saya) tidur awal daripada biasa.
yesterday 1SG ache head 1SG sleep early from usual
- 「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。」

目的を表す節は、(18a)のように、接続詞 *untuk* 「～するために」や動詞 *hendak* 「～しようとする、したい」やその口語形 *nak* を用いて表すことができる。このような *hendak/nak* の用法は、無標示型に分類することにする。しかし、*hendak/nak* が動詞の語彙的な意味を失い、完全な文法形式になっていると分析するならば、従属節標示型に分類することも可能である。「～しに行く」のように移動の目的を表す場合には、(18b)のように、動詞句を接続詞なしで続けることができる。これは、英語で *go buy a book* のように *to* 不定詞でなく、原形不定詞を用いる場合に相当する。

- (18) a. Orang itu pergi ke KL *untuk/hendak/nak* (mem-)beli buku.
person that go to KL to/want/want ACT-buy book
- b. Orang itu pergi ke KL (mem-)beli buku.
person that go to KL ACT-buy book
- 「あの人は本を買いに KL (クアラルンプール) に行った。」

(19a)のように、移動の目的地が明示的に示されない場合には、目的地が意味的に定まっているときにのみ容認される。例えば、「なぜあの人はその店に行ったのですか？」という質問に対する返答としてである。そうでなければ、(19a)は不自然である。日本語の「あの人は本を買いに行った」にはそのような制限はない。また、*hendak/nak* は口語体のみで容認される。

- (19) a. (?)Orang itu pergi *untuk/hendak/nak* (mem-)beli buku. 【(9)】
person that go to/want/want ACT-buy book
- b. Orang itu pergi (mem-)beli buku.
person that go ACT-buy book
- 「あの人は本を買いに行った。」

理由や目的の表現は、しばしば能動態標識 *meN*-が付加された動詞句によるパラタクシス構文を取る。上の(18b), (19b)がその例である。他には次のような例が挙げられる。

- (20) a. Dahi-nya berkerut *men-[t]ahan* sakit luka di kepala, di 【正保(117)】
forehead-3SG wrinkle ACT-endure pain wound at head at
bahu dan kaki.
shoulder and leg
「頭, 肩, 脚の傷を堪え, 彼の額はゆがんだ。」
- b. Ibu sudah menelefon *me-minta* dia balik ke Kuala Lumpur. 【正保(118)】
mother already telephone ACT-ask 3SG return to Kuala Lumpur
「お母さんはもう彼にクアラルンプールに戻るように頼むために電話しました。」

パラタクシス構文の動詞句は, (21a)のように前置したり, (21b)のように法助動詞を加えることができる。しかし, 正保(2000)によれば, 相の助動詞は加えることができない。そのことを示す例は(21c)である。

- (21) a. *Men-dengarkan* kata-kata Bujang itu, Gadik merasa puas. 【正保(114)】
ACT-listen words Bujang that Gadik feel satisfied
「そのブジャンの言葉をよく聞いてみて, ガデッは納得した。」
- b. Aku bangga *dapat belajar* di sini. 【正保(120)】
1SG proud can study at here
「僕はここで勉強できて誇らしく思います。」
- c. *Aku bangga *telah berjaya* mengalahkan pasukan Pahang. 【正保(125)】
1SG proud PERF succeed beat team Pahang
（「僕はパハンチームに勝利することができて誇らしく思います。」）

意図を表すには, (22a)のように, 接続詞 *supaya/agar* 「～ように」を用いる。従属節中の主語は, 主節と同一であれば省略可能なので, 生起していない。 *supaya* と *agar* は似ているが, (22b)のように, 動詞が *nampak* 「見える」の場合には, *supaya* しか用いることができない。 *agar* の使用には *(me-)lihat* 「見る」に伴うような, 主体の積極的働きかけが必要なようである。

- (22) a. Dia membuka tingkap *supaya/agar* dapat (me-)lihat luar dengan 【(10)】
3SG open window so.that can ACT-look outside with
lebih baik.
more well

- b. Dia membuka tingkap supaya/*agar dapat nampak luar dengan lebih
 3SG open window so.that can see outside with more
 baik.⁵
 well
 「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。」

4. 条件関係

マレーシア語で条件や仮定を表す接続詞としては、(23a)の *kalau, jika, sekiranya* が一般的である。各接続詞の使い分けについては、研究がないわけではないものの、筆者の知る限り、日本語のト・バ・タラ・ナラに関するものほどは詳細には成されていない。マレーシア語学における今後の課題の一つである。(23b)のようなパラタクシス構文は非文法的である。1つの複文でなく、2つの独立した文がコンマで結ばれているということならば、容認される。この場合、最初の節は条件・仮定としてでなく、「明日雨が降る」という未来の出来事の叙述として解釈される。

- (23) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* esok hujan turun, saya tidak akan pergi ke sana. 【(14)】
 if tomorrow rain fall 1SG not will go
 to there
- b. *___ Esok hujan turun, saya tidak akan pergi ke sana.
 tomorrow rain fall 1SG not will go to there
 「明日雨が降ったら、私はそこに行かない。」

(24)も同様だが、(24b)のようなパラタクシス構文が可能である。ただし、*nanti*「後で」がないと不自然かつぞんざいに響く。

- (24) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* hendak datang ke rumah saya nanti, sila telefon dahulu sebelum datang. 【(21)】
 if want come to house 1SG later please
 telephone in.advance before come

⁵ *nampak* に能動態標識 *meN-*が付加した *menampak* という形式も存在するが、頻度はそれほど高くない。これは、*nampak* が歴史的には、語根 *tampak* に *meN-*が付加し、*menampak* (= *men-[t]ampak*)となった後に、再分析により *me* が落ちて語根化したものであることと関係がある。

- b. ___ Hendak datang ke rumah saya nanti, sila telefon dahulu sebelum
 want come to house 1SG later please telephone in.advance before
 datang.
 come
 「家に来るなら、電話をしてから来てください。」

正保 (2000) は, *hendak* で始まり, 仮定の意味を表すパラタクシス構文として, 次の例を挙げている. 主節は法を表す形容詞 *tentu* 「きっと, 決まった」で始まっている.

- (25) ___ Hendak di-berikan sahaja kepada Kembang Kintan tentu 【正保(79)】
 want PASS-give only to flower torch.ginger certain
 Kembang Teratai merajuk.
 flower lotus sulk
 「トーチジンジャーの方だけにあげようものなら, 蓮の花はきっとすねてしまう。」

下の(26)は(24)と似ている. (26b-d)のようなパラタクシス構文が可能である. しかし, (26a)の接続詞を用いた文とは意味が異なる. まず, *nanti* 「後で」のない(26b)は, 雨が降ることが確定していて, 「明日雨が降って, 困るなあ」という意味である. ちなみに, パラタクシス構文が不可能な(24)を同じように日本語訳すると, 非文法的になる: 「*明日雨が降って, 私はそこに行かない」. どちらも最初の節が理由を表すのだが, 容認度に違いが出る. このことは, マレーシア語のパラタクシス構文も日本語のテ形も, 主節が重要な成立要因となっていることを示す. 次に, *nanti* のある(26c, d)を見てみよう. この2文は, 未定の事柄についてであるが, 話者自身の心配の気持ちを表すのではなく, 聞き手に対する助言や警告となる. 日本語ならば, 「明日雨が降ったら, 困るよ/ぞ」である. *nanti* については, 下でさらに論じる.

- (26) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* esok hujan turun, susah-lah. 【(20)】
 if tomorrow rain fall difficult-PART
 b. #___ Esok hujan turun, susah-lah.
 tomorrow rain fall difficult-PART
 c. #___ Hujan turun esok *nanti*, susah-lah.
 rain fall tomorrow later difficult-PART
 d. #___ *Nanti* hujan turun esok, susah-lah.
 later rain fall tomorrow difficult-PART
 「明日雨が降ったら困るなあ。」

条件の接続詞は、(27a)のように、一般的真理の一部として存在する条件にも用いることができる。(27b)のようなパラタクシス構文も可能である。

- (27) a. *Kalau* tambah satu dengan satu, jadi dua. 【(17)】
 if add one with one become two
 b. ___ Tambah satu dengan satu, jadi dua.
 add one with one become two
 「1に1を足せば、2になる。」

次に、条件節の表す内容が現実世界の事実とは異なる、反実仮定の表現を見る。印欧語などでは、反実仮定を表すには接続法（仮定法）を用い、直説法とは異なる動詞の形態が用いられる。マレーシア語にはそのような動詞の形態変化は存在しない。また、マレーシア語は時制（＝時間的位置を表す文法形式）も持たない。反実仮定の文では、(28a)や(29)のように、事実を述べるときや現在のことを述べるときと同じ動詞形（ここではともに接辞なしの語根形）が用いられる。(28b)、(29)はいずれも条件・仮定の *jika/kalau* 節のみから成り、対応する帰結節を欠く。このような脱従属化／言いさし (*in-subordination*) がマレーシア語において可能であることは、野元 (2011) でも報告した。ただ、(28b)は容認不可能であるので、脱従属化には何らかの認可条件が存在するということになる。それが何かは、今のところ不明であり、今後の課題である。

- (28) a. *Alangkah* bagus-nya, *jika* bangun lebih awal. 【(15)】
 what good-NMLZ if get.up more early
 b. **Kalau(-lah)* saya bangun lebih awal.
 if-PART 1SG get.up more early
 「もっと早く起きればよかったなあ。」

- (29) *Kalau(-lah)* saya tidak pergi ke tempat yang sebegitu. 【(16)】
 if-PART 1SG not go to place REL such
 「あんなところに行かなければよかった。」

ここで、特集アンケート中の言いさしの項目を取り上げておく。言いさしに条件の接続詞を用いることができるのは、願望を表す場合だけである。さらに、(30a)に示したように、条件の接続詞としては、*kalau* または *jikalau* (文語調) のみが可能で、*jika* や *sekiranya* は使えない。また、(30b)のように、小辞 *-lah* を伴わないと普通、文が不完全となり、非文法的

になる。

- (30) a. *Kalau-lah/Jikalau-lah/*Jika-lah/*Sekiranya-lah* ada duit lebih sedikit. 【(25)】
if-PART be money more a.little
b. **Kalau* ada duit lebih sedikit.
if be money more a.little
「もう少しお金があったらなあ。」

(31)のような提案や(32)のようなつき放しには、言いさし形式は用いられない。これらの意味は(31b)や(32b)のように、通常の命令文で表す。小辞-lah が命令文に生起するときには、有無を言わせぬような指示的命令ではなく、相手に選択の余地を与えるやわらかい命令となる。

- (31) a. **Kalau(-lah)* makan ini juga? 【(26)】
if-PART eat this too
b. *Makan-lah* ini juga?
eat-PART this too
「これも食べたら？」

- (32) a. **Jika* hendak lakukan-nya juga, *kalau(-lah)* buat ikut suka hati 【(27)】
if want do-it too if-PART do follow like heart
kamu.
2SG
b. *Jika* hendak lakukan-nya juga, *buat-lah* ikut suka hati kamu.
if want do-it too do-PART follow like heart 2SG
「やりたいなら（自分の）好きなようににやれば？」

条件表現に話を戻す。後件に働きかけのモダリティが現れる文では、日本語ではトやバは基本的に用いられない（「*駅に着くと／着けば、電話をしてください」）。しかし、(33a)に示したように、マレーシア語の3つの条件・仮定の接続詞には、そのような使い分けはない。(33b)のように、時の接続詞 *apabila* を用いることも可能である。(33c, d)は、パラタクシス構文である。パラタクシス構文は、接続詞を用いる通常の複文に比べ、丁寧さや使用場面に違いがある。(33c)は、ぞんざいな命令である。(33d)は、ガイドブックやマニュアルの指示文によく用いられる。(33d)では、(26)で見た *nanti* 「後で」も生起可能である。

- (33) a. *Kalau/Jika/Sekiranya* sudah tiba di stesen, sila telefon. 【(18)】
 if already arrive at station please telephone
 b. *Apabila* sudah tiba di stesen, sila telefon.
 when already arrive at station please telephone
 c. ___ Sudah tiba di stesen, sila telefon.
 already arrive at station please telephone
 d. ___ Tiba di stesen (*nanti*), sila telefon.
 arrive at station later please telephone
 「駅に着いたら電話をしてください。」

これまでの例では、接続詞 *kalau*, *jika*, *sekiranya* の3つの基本の条件・仮定接続詞の分布に差はほとんど見られなかった。興味深いことに、(34a)では、*jika* のみが可能である。ただ「日曜日になる」と言った場合、7日に一度、周期的に日曜日がやって来る、という事実であると解釈され得るためかもしれない。(34b)のように、*nanti*「後で」を加え、そのような可能性を排除すると、3つの接続詞すべてを用いることができるようになる。(34c-e)のようなパラタクシス構文でも同様の *nanti* の効果が見られる。*nanti* を含まない(34c)は容認不可能で、*nanti* を含む(34d, e)は容認可能である。*nanti* は付加詞であるので、(34e)のように、節の始めに生起することもできる。このような語順は口語体に特有である。

- (34) a. *Jika/*Kalau/*Sekiranya* tiba hari Ahad, hendak pergi ke taman 【(19)】
 if arrive day Sunday want go to park
 bersama semua.
 together all
 b. *Jika/Kalau/Sekiranya* tiba hari Ahad *nanti*, hendak pergi ke taman
 if arrive day Sunday later want go to park
 bersama semua.
 together all
 c. *___ Tiba hari Ahad, hendak pergi ke taman bersama semua.
 arrive day Sunday want go to park together all
 d. ___ Tiba hari Ahad *nanti*, hendak pergi ke taman bersama semua.
 arrive day Sunday later want go to park together all
 e. ___ *Nanti* tiba hari Ahad, hendak pergi ke taman bersama semua.
 later arrive day Sunday want go to park together all
 「日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。」

正保 (2000) は, (35)のように, *nanti* が主節の側に出てくるような構文を指摘している。ともに前半部分は, 命令・助言であり, *nanti* は『『でない』, 『さもない』』という意味の否定的内容の条件節相当の機能を果たす」と述べている。正保は, この構文をパラタクシス構文でなく, 独立した2文がコンマで区切られて書かれているものとみなしている。

(35) a. *Pergi-lah segera pulang, nanti ketinggalan bus pula.* 【正保(65)】

go-PART quickly return later left.behind bus PULA⁶

「すぐに帰りなさい。さもないと, バスに置いて行かれてしまいますよ。」

b. *Baik engkau dengar nasihat-ku, nanti engkau menyesal.* 【正保(66)】

good 2SG listen advice-1SG later 2SG regret

「あんたはあたしの助言を聞いておいた方がいい。じゃないと, 後悔するよ。」

nanti と同じく, 命令・助言に続き, 「～するかもしれないから」と, そのように命令・助言をする理由を付け加える語として *entah* 「知らない」がある。

(36) *Baik awak berhati-hati, entah ia datang semula.* 【正保(112)】

good 2SG be.careful not.know 3SG come again

「注意した方がいいよ。そいつはまたやって来るかもしれないから。」

予想を伴う条件文(37)と予想を伴わない条件文(38)の間に違いはない⁷。(37a)や(38a)のように条件・仮定の接続詞が用いられるほか, (37b)や(38b)のように, 時の接続詞 *apabila* (英: *when*) を用いることもできる。ただし, 時の接続詞でも *ketika* や *semasa* を用いた場合, *loceng berdering* 「ベルが鳴る」が時間的幅を持った事象として解釈され, 「ベルが鳴ったそのとき」でなく「ベルが鳴っているとき」の意味になる。つまり, ベルが鳴っている間ずっと教え続ける, という解釈である。(37c)や(38c)のようなパラタクシス構文は非文法的である。

(37) a. *Sila maklumkan saya kalau/jika/sekiranya loceng berdering.* 【(22)】

please inform 1SG if bell ring

b. *Sila maklumkan saya apabila/#ketika/#semasa loceng berdering.*

please inform 1SG when bell ring

⁶ 談話標識の *pula* は, 期待や予測に反することを表す。

⁷ 予想の有無をはっきりと表したければ, (37)には *sudah* 「もう」, (38)には *nanti* 「後で」を付け加えることができるだろう。

- c. *___ Loceng berdering, sila maklumkan saya.
bell ring please inform 1SG

「[もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。」

- (38) a. Sila maklumkan saya *kalau/jika/sekiranya* loceng berdering. 【(23)】
please inform 1SG if bell ring

- b. Sila maklumkan saya *apabila/#ketika/#semasa* loceng berdering.
please inform 1SG when bell ring

- c. *___ Loceng berdering, sila maklumkan saya.
bell ring please inform 1SG

「[もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] 鳴ったら、教えてください。」

(39)のように、恒常的条件を表す節でも条件・仮定の接続詞と時の接続詞の両方を用いることができる。

- (39) a. Di sini, *kalau/jika/sekiranya* tiba musim panas, hujan selalu turun. 【(11)】
at here if arrive season hot rain always fall

- b. Di sini, *apabila/ketika/semasa* tiba musim panas, hujan selalu turun.
at here when arrive season hot rain always fall

「ここでは夏になると、よく雨が降ります。」

対照的に、確定条件を表す節の場合には、(40a, c)や(41a)のように、時の接続詞は可能であるが、しかし(40b)や(41b)のように、条件・仮定の接続詞は用いられない。(40a)と(40c)では、従属節中の態が異なる。(40a)は受動態、(40c)は能動態である。能動態の場合には、主節に小辞 *pun* がないと不自然である。小辞 *pun* にはさまざまな用法があるが、ここでは継起を表す用法である。(40d)と(40e)はそれぞれ(40a)と(40c)に対応するパラタクシス構文である。ここでも、受動態と能動態に違いが出る。受動態のみが(簡潔な表現法として)容認され、能動態は *pun* の有無に関わらず容認されない。

- (40) a. *Setelah/Selepas* tingkap di-buka, angin sejuk masuk ke dalam. 【(12)】
after window PASS-open wind cold enter to inside

- b. **Kalau/Jika/Sekiranya* tingkap di-buka, angin sejuk masuk ke dalam.
if window PASS-open wind cold enter to inside

- c. *Setelah/Selepas* mem-buka tingkap, angin sejuk *(*pun*) masuk ke dalam.
after ACT-open window wind cold PUN ener to inside

- d. ___ Tingkap di-buka, angin sejuk masuk ke dalam.
 window PASS-open wind cold enter to inside
- e. *___ Mem-buka tingkap, angin sejuk (pun) masuk ke dalam.
 ACT-open window wind cold PUN enter to inside
 「窓を開けると、冷たい風が入って来た。」

- (41) a. *Setelah/Selepas* mendaki cerun itu, laut kelihatan. 【(13)】
 after climb slope that sea seen
- b. **Kalau/Jika/Sekiranya* mendaki cerun itu, laut kelihatan.
 if climb slope that sea seen
 「坂を上ると、海が見えた。」

受動態では主節に *pun* がなくとも容認可能であるのは、受動態が事象そのものに注意を向けさせるのに対し、能動態にはそのような機能はないとする主張 (Hopper 1983; Nomoto 予定) との関係で理解できる⁸。能動態では、注意が事象自体に向かないため、参加者のうち行為者に向く傾向にある。(40c)のように、従属節が能動態の場合、従属節中で参加者(ここでは明示的に表現されていない)に向いていた注意のパラメタを、継起を表す *pun* のような語により事象へと移してやる必要があるのだろう。継起というのは、事象と事象の時間的關係であり、参加者と事象の關係ではない。パラタクシス構文の(40d)と(40e)に見られる違いについても、「注意を向けさせる」機能の違いが理由であるとしてすることができるかもしれない。だが、(40e)の場合には、単にこの環境では *pro* 脱落が許されないから非文になるという説明も考えられる。

5. 逆接関係

逆接を表す接続詞としては、*walaupun* がある。接続詞 *walaupun* を省いたパラタクシス構文である(42b)は非文となる。仮定の部分を前置し、その後以小辞 *pun* を続ける(42c)のよ

⁸ Hopper と Nomoto の考えは似ているものの、対象としている言語変種、そして態と「注意を向けさせる」機能の關係の捉え方が異なる。Hopper は『アブドゥッラー物語 (Hikayat Abdullah)』に代表される 19 世紀のマレー語を対象とし、Nomoto は現代マレー語を対象としている。「注意を向けさせる」機能については、機能主義に立つ Hopper はそれを前景化 (foregrounding) と呼び、文法の (ほぼ) 原始的な構成要素と考え、受動態 (Hopper の用語では「能格 (ergative)」) をその機能を担う構文として定義する。形式主義に立つ Nomoto は、同じ機能を低い所与性 (givenness) / 新情報であるとし、その機能は受動態標識 *di-* に固有の意味の一部であるとする。形式主義では、「注意を向けさせる」というような機能は、構文 (を構成する要素) から生じるのであり、構文を定義はしない。

うな構文でも、逆接を表すことができる。この *pun* は「自然な流れに反し、それでも」というような意味で、義務的である。

- (42) a. Gelas ini tidak pecah *walaupun* terjatuh. 【(28)】
 glass this not break although fall
 b. *Gelas ini tidak pecah ____ terjatuh.
 glass this not break fall
 c. Terjatuh *(*pun*) gelas ini tidak pecah.
 fall even glass this not break
 「このコップは落としても／落ちてしまっても割れない。」

前件部分が既に起こった事実である、アクチュアルな逆接の場合も、(43a)や(44a)のように従属接続詞 *walaupun* を用いる。(44a)のように、従属節だけでなく、主節にも標示を持つ、主従両標示型の *walaupun ... tetapi* ~構文も可能である。*walaupun* を省いた(43b)や(44b)は、逆接の意味を伴うパラタクシス構文にはならず、独立した2文のように解釈される。(44c)のように、等位接続詞 *tetapi* 「しかし」でつなげば、逆接の意味を持つ文として用いることができる。前件部分の後に小辞 *pun* を置く形式は、(44d)では可能であるものの、(43c)では容認されない。これは、(43c)では、前件（リンゴの値段が高い）と後件（リンゴが甘い）の間に必ずしも自然な因果関係が成立しないためであると考えられる。(44d)は、話者が彼と連絡を取るために、電話をしたり、職場を探したりしても彼が見つからなかったため、それならば家にならばいるはずだと考え、最終手段として自宅を訪問したことを暗に含意する。

- (43) a. *Walaupun* epal ini mahal, sikit *pun* tidak sedap. 【(29)】
 although apple this expensive a.little even not delicious
 b. #____ Epal ini mahal, sikit *pun* tidak sedap.
 apple this expensive a.little even not delicious
 c. *Epal ini mahal *pun*, sikit *pun* tidak sedap.
 apple this expensive even a.little even not delicious
 「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。」

- (44) a. *Walaupun* sudah pergi ke rumah dia, (*tetapi*) dia tiada. 【(30)】
 although already go to house 3SG but 3SG not.be
 b. #Sudah pergi ke rumah dia, dia tiada.
 already go to house 3SG 3SG not.be

c. Sudah pergi ke rumah dia, *tetapi* dia tiada.
already go to house 3SG but 3SG not.be

d. Sudah pergi ke rumah dia *pun*, dia tiada.
already go to house 3SG even 3SG not.be
「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」

逆接関係は、従属節でなく主節の方に *pun* を用いることによっても表すことができる。

(45) ...,tak sampai dua tahun dia terbang domestik, dia sudah *pun* 【正保(12)】
not reach two year 3SG fly domestic 3SG already PUN
di-beri kepercayaan terbang antarabangsa.
PASS-give trust fly international
「…, 国内線を飛び始めて2年にもならないのに、彼はもう国際線を任せられた。」

また、生起する小辞としては、対比や期待・予測に反することを表す *pula* も可能である。

(46) Baru habis satu, kerja lain *pula* datang.
just finish one work other PULA come
「1つ終わったばかりだというのに、他の仕事に来るんです。」

(ファリダ, 近藤 2005 : 46)

最後に、いずれの節にも標示がなされない、無標示型の純粋なパラタクシス構文でも逆接関係を表すことができる。

(47) Matahari belum terbit lagi, saya sudah bangun.
sun not.yet rise yet 1SG already wake.up
「日がまだ昇っていないのに、私はもう起きてしまいました。」

(ファリダ, 近藤 2005 : 46)

6. まとめ

これまでの議論では、表1の主従両標示型がほとんど登場しなかった。マレーシア語にはこのタイプも存在する。まず、条件関係を表す *kalau/jika/sekiranya ... maka* ~構文である。

- (48) *Kalau/Jika/Sekiranya* malas, *maka* tidak akan berjaya.
 if lazy then not will success
 「怠けていたら、成功しません。」

さらに、マレーシア語には「～である誰、彼（女）は…」という形式の相関構文が存在する。よく耳にする表現に、*siapa (yang) cepat, dia (yang) dapat* [who REL fast 3SG REL get] 「早い者、彼（女）は手に入れる（＝早い者勝ち）」がある。文の後半には、*dia* 「彼（女）」の他に、(49b)のように、*orang itu* 「その人」を用いることも可能である。(49c)のように、*siapa* 「誰」を2度を用いた「誰が～、誰が…」のような構文は非文法的である。

- (49) a. *Siapa (yang) tidak bekerja, dia tidak patut makan.* 【(24)】
 who REL not work 3SG not should eat
 b. *Siapa (yang) tidak bekerja, orang itu tidak patut makan.*
 who REL not work person that not should eat
 c. **Siapa (yang) tidak bekerja, siapa (yang) tidak patut makan.*
 who REL not work who REL not should eat
 「働かざるもの食うべからず。」

次に、特集アンケート項目のうち、上で取り上げていない2項目について記述する。異なる主体の行為を対照して述べるときには、(50a)のように接続詞 *manakala* 「一方」が用いられる。*dan* 「と」を用いることも可能である。マレーシア語では、対照的な行為を表すときには小辞 *pula* が頻繁に用いられる。くだけた口語体であれば、(50b)のように、接続詞を用いずに動詞句を並置することも可能である。なお、2つ目の節には動詞が生起していないが、動詞 *pergi* 「行く」が1つ目の節での使用のために生起しない、省略 (ellipsis) 構文であるとしておく。このように分析するのは、等位接続が普通、統語的に等価な要素を結びつけるものであるためである。

- (50) a. *Hari ini pun ayah pergi ke syarikat, manakala/dan abang* 【(4)】
 day this too father go to company whereas/and elder.brother
pula ke universiti.
 on.the.other.hand to university

- b. Hari ini pun ayah pergi ke syarikat, ___ abang pula ke
 day this too father go to company elder.brother on.the.other.hand to
 universiti.
 university

「今日も父は会社に行つて、兄は大学に行った。」

日本語の列挙する構文「～たり、…たり」にぴったり相当する特別な構文はマレーシア語にはないようである。そのような意味を表すには、(51a)のように、等位接続詞 *dan* 「と」や *atau* 「または」を用いる。口語体では、(51b)の *A la B la* 構文「A とか B とか」が近い意味を表す。この構文は、煩わしさのニュアンスを持つ。例えば、(51b)は質問に対するいい加減な返答としては可能であるが、しかし文脈なしの叙述文として発せられたときには不自然である。この構文がよく用いられるのは、例えば「あの人ときたら、A とか B とか言つて、全然仕事をしようしない」というように、言い訳を連ねる人物を非難する場面においてである。

- (51) a. Biasanya, pada hari cuti, saya baca buku *dan/atau* tengok TV. 【(6)】
 usually at day holiday 1SG read book and/or watch TV
 b. Biasanya, pada hari cuti, saya baca buku *la* tengok TV *la*.
 usually at day holiday 1SG read book LA watch TV LA

「(私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」

最後に、表 2 として、本稿で取り上げた連用修飾の表現を表 1 のパターンごとにまとめておく。

表 2 本稿で取り上げた連用修飾表現

形態統語的実現のパターン		例
(i)	無標示型	(7c), (8b), (18a, b), (19a, b), (20a, b), (21a, b), (25), (26b), (27b), (33c, d), (40d), (47)
(ii)	主節標示型	dan (8a), (50a); jadi (16a), (17a); lalu (9a); manakala (50a); pula (46), (50a, b); pun (13b), (45); tetapi (44c); 前置 (13a), (17a)
(iii)	主従両標示型	kalau/jika/sekiranya ..., maka ~ (48); siapa ..., dia ~ (49a); siapa ..., orang itu ~ (49b); walaupun ..., tetapi ~ (44a)
(iv)	従属節標示型	agar (22a); apabila (33b), (37b), (38b), (39b); dengan (7b); jika (23a), (24a), (26a), (28a), (32b), (33a), (34a, b), (37a), (38a), (39a); jikalau-lah (30); kalau (23a), (24a), (26a), (27a), (29), (33a), (34b), (37a), (38a), (39a); kalau-lah (29), (30); kerana (16b), (17b); ketika (37b), (38b), (39b); nanti (24b), (26c, d), (33d), (34d, e); pun (42c), (44d); sahaja/saja (10c), (14c); sambil (6a), (7a); sampai (14a); se- (10b); sebab (16b), (17b); sebaik (10a); sebelum (15a); sehingga (14a); sekiranya (23a), (24a), (26a), (33a), (34b), (37a), (38a), (39a); selepas (40a, c), (41a); semasa (37b), (38b), (39b); setelah (40a, c), (41a); supaya (22a, b); untuk (18a), (19a); walaupun (42a), (43a), (44a); 前置(10b), (11a), (12a), (14c), (15)

参考文献

- Asmah Haji Omar. 2009. *Nahu Melayu Mutakhir (Edisi Kelima)*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.
- Hopper, Paul J. 1983. Ergative, passive, and active in Malay narrative. In Folora Klein-Andrea (ed.) *Discourse Perspectives on Syntax*, 67–88. New York: Academic Press.
- Koh, Ann Sweesun. 1990. *Topics in Colloquial Malay*.メルボルン大学博士論文.
- 野元裕樹. 2011. 「マレーシア語のモダリティの概要」『語学研究所論集 16』, 158–178. 東京外国語大学.
- Nomoto, Hiroki. 予定. Person restriction on passive agents in Malay and givenness. *Proceedings of the Second International Workshop on Information Structure of Austronesian Languages*. Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies.

正保勇. 2000. 「マレー語に於けるパラタクシスと連辞省略」東京外国語大学インドネシア研究室・マレーシア研究室（編）『佐々木重次教授退官記念論輯』, 46–61. 東京外国語大学.

Uzawa, Hiroshi. 2013. Perangkaian kata kerja dalam bahasa Melayu. In Hiroki Nomoto, Zaharani Ahmad and Anwar Ridhwan (eds.) *Isamu Shoho: Tinta Kenangan. Kumpulan Esei Bahasa dan Linguistik*, 92–117. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

例文の出典

小西友七, 南出康世（編集主幹）. 2001. 『ジーニアス英和大辞典』大修館書店.

ファリダ・モハメッド, 近藤由美. 2005. 『CD エクスプレス マレー語』白水社.

松田徳一郎（編集代表）. 1999. 『リーダーズ英和辞典（第二版）』研究社.

ウルドゥー語, ヒンディー語の複文

萬宮 健策

1. ウルドゥー語とヒンディー語

ウルドゥー語は、現代(新期)インド・アリア諸語の1つに数えられる屈折語である。使用者人口は、南アジアを中心に約4億人を数える。一方ヒンディー語は同地域で約8億人が理解する。表記する文字は異なるものの、両言語には口語レベルでは同一言語と考えると差し支えない程度の差異しかない。どちらの言語も多言語社会である南アジアにおける接続言語としての役割を果たしており、母語話者でなくとも日常生活で用いる人が非常に多い。そのため、地域偏差や話者の社会階層偏差が大きい点が特徴である。

本稿では、ウルドゥー語の連用修飾的複文を扱う。本稿でウルドゥー語と呼ぶ場合、特に断らない限り、文構造という観点からヒンディー語も含むこととするが、ヒンディー語とウルドゥー語の差異については本稿では詳細には触れないこととする。今回の例文で示すウルドゥー語とヒンディー語では、語彙レベルでの差異が見られる場合はあるが、文構造という観点からは差異はないと考えたためである。

たとえば、例文(1)で新聞という語彙は *axbār* という語彙を用いているが、ヒンディー語では *ak^hbār* と発音される。また、(4)の例文では、父親という語彙に *wālid sāhab* が用いられているが、ヒンディー語では通常 *pitā jī* という語彙に代わる。しかし文構造は同一である。

2. 先行研究

ウルドゥー語の文構造は、さまざまな面から研究がなされてきた。ペルシア語やアラビア語からの借用が多く多義語が多いウルドゥー語では、特に文体論の観点からの研究が進んでいると指摘できる。

3. ウルドゥー語の文構造

ウルドゥー語では、文は原則として SOV 構造をとる。しかし、複文では接続詞 *ke* (英語の *that* に相当) を用いて従属節をつくる。

ウルドゥー語では、文主語が主格、与格、能格を取り得る。与格構文となるのは、喜怒哀楽や義務・強制を示す場合、能格構文となるのは、他動詞完了分詞を用いる単純過去や完了形の場合である。以下の例文のいくつかが該当するとおり、複文において主語が取る格が異なる場合、原則として省略が許されず、主語は明記する。また、同一の格の場合でも、ことなる人やモノが主語となる場合も、それぞれを明記する。

日本語のような連用修飾の多用は見られないが、一部の文では、日本語からのほぼ直訳

が可能な形式を取ることができる (例文(1)など.)。

3.1. 例文の分析

では、今回の例文を個別に分析する。必要に応じてコメントを付した。

- (1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

vo hamešā axbār par^hte hue
 彼 NOM. いつも ADV. 新聞 NOM.M.SG. 読む PRS.PTCP.OBL.

hī k^hānā k^hātā hai
 強調 食事 NOM.M.SG. 食べる PRS.M.SG.

動作の同時進行を示す場合、その動作が2つであれば、動詞の未完了分詞斜格形が用いられる。

- (2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

kal main das baje g^har wāpas āyā aur t^hoī der tak
 昨日 私 NOM. 10 時 家 OBL.M.SG. 帰る PST.M.SG. そして 少し ADV.
 TV dek^h kar so gayā
 テレビ NOM.M.SG. 見る STEM. する STEM. 寝る PST.M.SG.

動作が連続して行われる場合、2つなら「動詞語幹+kar (～して)」で示すが、上記の例のように3つの動作が次々に行われる場合は、文の構造上「○○して、××して、△△した」という文も作れるが、例文のとおり、いったん文を切り接続詞でつなぐ方が自然である。

- (3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

kal (main) sī^hiyon se gir kar
 昨日 (私 NOM.) 階段 OBL.F.PL. から INS. 落ちる STEM. する STEM.
 zaxmī ho gayā
 けが人 NOM.M.SG. なる PST.M.SG.

この文のように、転んだ結果ケガをしたという場合でも「動詞語幹+kar (～して)」の表現が用いられる。なお、ウルドゥー語では、主語は省略されることはあまりない。

- (4) 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。

āj b^hī wālid sāhab daftar gae aur
 今日 も 父 NOM.M.SG. 会社 OBL.M.SG. 行く PST.M.PL. そして
 bare b^hāī university gae
 兄 NOM.M.PL. 大学 OBL.F.SG. 行く PST.M.PL.

文の主語が異なる場合, 接続詞で文がつけられる。「動詞語幹+kar (～して)」形は用いられない。なお, 父親という語彙が2語からなり, 動詞語尾も複数形になっているのは, 身内であっても目上の人に対しては敬称や複数形を用いて尊敬の念を表すためである。兄も同様の扱いである。

- (5) (あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた。

āj (vo) ṭopī pahne hue
 今日 彼 NOM.M.SG 帽子 OBL.F.SG 着る PST.PTCP.OBL
 caltā thā
 歩く HABIT.PST.M.SG

「帽子をかぶって」という付帯状況は, 完了分詞斜格形を用いて表現される。方言によっては, 目的語の性・数に一致して完了分詞の語尾が変化することがある。

- (6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています。

main c^huṭṭiyon men kitāben paṛ^htā hūn,
 私 NOM. 休日 OBL.F.PL. に INS. 本 NOM.F.PL. 読む PST.M.1.sg.
 yā TV dek^htā hūn
 接続詞 テレビ NOM.M.SG 見る PST.M.1.sg.
 並行する動作は, 接続詞を用いて文を並列して表現する。

- (7) 時間がないから, 急いで行こう。

waqt kam hai, is liye jaldī
 時間 NOM.M.SG 少ない ADJ. COP.PRS.SG だから 早く ADV.
 calnā cāhiye
 歩く INF. PTCP.SG

動詞不定詞+不変化詞 cāhiye は, 義務や強制を表す。上記(7)では, 「行くべきだ」という意志が明示されている。相手に同意を求める場合は, calen という接続法の形が用いられる。

- (8) 昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました。

kal sar men dard t^hā, is liye
 昨日 頭 OBL.M.SG LOC. 痛み NOM.M.SG COP.PST.M.SG だから
 main jaldī so gayā
 私 NOM. 早く ADV. 寝る PST.M.SG

(8)の構文では, 前半と後半とで, 文法上の主語が異なるため, 後半部分でも主語を表

示すべきである。すなわち前半部分は、「(私の) 頭の中に痛みがあった」という表現を用いるので、文法上の主語が異なる。

- (9) あの人は本を買いに行った。

vo	kitābeṅ	xarīdne	gayā
彼 NOM.	本 NOM.F.PL.	買う INFOBL	行く PST.M.SG

「～しに行く」は、--ne jānā という表現が用いられる。--ne の部分は、動詞不定詞の斜格形である。

- (10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

us	ne	k ^h īrkī	k ^h olī	tāke
彼 OBL.SG	ERG	窓 NOM.F.SG	開ける PST.F.SG	接続詞
bāhar	kā	manzar	acc ^h ī tarah	dek ^h
外 OBL.M.SG	の GEN.	景色 NOM.M.SG	良く ADV.	見る STEM.
sake				
可能 SBJV.SG				

「～ように」という表現は、接続詞 tāke --- 動詞語幹+可能の助動詞接続法で表す。

- (11) ここでは夏になると、良く雨が降ります。

yahān	garmiyon	kā	mausam	āe gā,	to
ここ	夏 OBL.F.PL.	の GEN.	季節 NOM.M.SG	来る FUT.M.SG	接続詞
bār bār	bāriš	ho gī			
何度も ADV.	雨 NOM.F.SG	なる FUT.F.SG			

従属節が単純未来形を用いているので、主節も時制の一致をさせる。

- (12) 窓を開けると、冷たい風が入ってきた。

jab	(maiṅ ne)	k ^h īrkī	k ^h olī,	to
時 ADV.	私 OBL. ERG	窓 NOM.F.SG	開ける PST.F.SG	接続詞
t ^h andī	hawā	āī		
冷たい ADJ.F.	風 NOM.F.SG	来る PST.F.SG		

(11)と同様に、ウルドゥー語では、主節と従属節の時制は原則として一致する。

- (13) 坂を上ると、海が見えた。

jab	(maiṅ)	sīr ^h ī	par	car ^h ā,	to
時 ADV.	私 NOM.	階段 OBL.F.SG	LOC.	登る PST.M.SG	接続詞

samandar nazar āyā
 海 NOM.M.SG 見える PST.M.SG
 文の構造は, (12)と同様である.

(14) 明日雨が降ったら, 私はそこに行かない.

agar kal bāriš ho gī to main wahān
 もし 明日 雨 NOM.F.SG なる FUT.F.SG 接続詞 私 NOM. そこ
 nahī jāūn gā
 否定辞 行く FUT.M.SG

(15) もっと早く起きればよかったなあ.

kāš main aur jaldī uḥtā
 間投詞 私 NOM. もっと ADV. 早く ADV. 起きる OPT.M.SG
 コピュラ動詞をともなわない未完了分詞は, 反実仮想を表す. 文頭に間投詞 kāš を置くことで, その意味がより明確となる.

(16) あんなところに行かなければよかった.

muj^he aisī jagah nahīn jānā
 私 DAT. そのような ADJ.F. 場所 NOM.F.SG 否定辞 行く INF.
 cāhiye t^hā
 PST.PTCP.M.SG
 動詞不定詞+cāhiye t^hā (不変化) が, 前件否定の反実仮想に用いられる.

(17) 1に1を足せば, 2になる.

ek meṇ ek milāne se do bantā hai
 1 中 LOC. 1 合わせる INF.OBL. INS. 2 なる PRS.M.SG
 算数における 1 + 1 = 2 という表現とは異なり, 日本語例文を忠実に訳した文である.

(18) 駅に着いたら電話をしてください.

jab āp ištešan pahuṇceṇ to
 時 ADV. あなた NOM. 駅 NOM.M.SG 着く SBJV.PL. 接続詞
 muj^he fon kar lijiye
 私 DAT. 電話 NOM.M.SG する IMP.PL.

(18)で, 従属節は, 「いつ着くかはわからないが, 着いたら」というニュアンスを含む.

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

itwār	ko	ham	ikatt ^h e	pār
日曜 OBL.M.	DAT.	私たち NOM.	一緒に ADV.	公園 NOM.M.SG.
jānā	cāhte	haiṅ		
行く INF.	欲する PRS.M.PL.			

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

agar	kal	bāriṣ	huī	to	afsos
もし 明日	雨 NOM.F.SG.	なる PST.F.SG.	接続詞	残念 NOM.M.SG.	
ho	gā				
である COP.PRS.SG.					

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

agar	āp	ko	mere	g ^h ar	ānā
もし あなた OBL.	DAT.	私の GEN.OBL.	家 OBL.M.SG.	来る INF.	
ho,	to	fon	kar	ke	
COP.SBJV.SG.	接続詞	電話 NOM.M.SG.	する STEM.	する STEM.	
āiye					
来る IMP.PL.					

主節で形の異なる「する」の語幹がならんでいるが、最初の動詞が「する」である場合に限り、2つめの「～して」を表す kar が ke に変化することが多い。kar kar と2回繰り返す表現も可能である。例文(2)のを参照されたい。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

(t ^h oṛī	der	meṅ	g ^h aṅṭī	baje	gī,	is	liye)	jab
(少し ADV.	ベル NOM.F.SG.	鳴る FUT.F.SG.	鳴る FUT.F.SG.	だから)	時 ADV.			
g ^h aṅṭī	baje	to	muḷ ^h e	batāiye				
ベル NOM.F.SG.	鳴る FUT.SG.	接続詞	私 DAT.	言う IMP.PL.				

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

(ho	saktā	hai	ke	g ^h aṅṭī	baje,	is	liye)
(かも知れない PRS.SG.	接続詞	ベル NOM.F.SG.	鳴る FUT.SG.	鳴る FUT.SG.	だから)		
agar	g ^h aṅṭī	baje	to	muḷ ^h e	batāiye		
もし ベル NOM.F.SG.	鳴る	接続詞	私 DAT.	言う IMP.PL.			

- (22)ベルが必ず鳴る場合は時を表す関係副詞を用い, 従属節は単純未来形となるが,
 (23)ベルが鳴るかどうかがわからない場合, 従属節は不確定未来形となる.

- (24)働かざる者食うべからず/働かない者は, 食べるべきではない.

jo	kām	nahīṅ	kartā,	us	
関代 NOM.	仕事 NOM.M.SG	否定辞	する PRS.M.SG	彼 DAT.SG	
ko	k ^h ānā	b ^h ī	nahīṅ	k ^h ānā	cāhiye
DAT.	食事 NOM.M.SG	も	否定辞	食べる INF.	PTCP

- (25)もう少しお金があったらなあ.

agar (mere	pās)	aur kuc ^h	paise
もし (私 OBL.	近くに ADV.)	より多く ADJ.	お金 NOM.M.PL.
hote			
ある PRS.M.PL.			

反実仮想表現なので, (15)と同様に, コピュラ動詞をともなわない未完了分詞を用いる.

- (26)これも食べたら?

ye	b ^h ī	k ^h āen
これ NOM.	も	食べる SBJV.PL.
言いさし, 提案は不確定未来形を用いる.		

- (27)やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば?

agar (āp	ye kām)	karnā	
もし (あなた NOM.PL.	この仕事 NOM.M.SG.)	する INF.	
cāhen,	to (apnī)	marzī	se
したい SBJV.PL	接続詞 (自分 GEN.F.)	意志 OBL.SG	INS.
kareṅ			
する SBJV.PL			

- (28)このコップは落としても割れない.

ye	gilās	girāne	se	b ^h ī	nahīṅ
この	グラス NOM.M.SG	落とす INF.OBL.	INS.	も	否定辞
tūte gā					
壊れる FUT.M.SG					

この文は文法的に非文ではないが、「落としても」の部分は、「落ちても(girme)」という自動詞を使う方が自然であると、インフォーマントが指摘している。

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

ye	seb	mahingā	t ^h ā,	lekin	bilkul
この	リンゴ	NOM.M.SG	高い	ADJ.M.SG	COPPST.M.SG
				しかし	全く
				ADV.	
mī ^h ā	nahīn				
甘い	ADJ.M.SG	否定辞			

ちっとも甘くない、という強調は、否定辞を文末に持って来ることによって表現される。通常は、形容詞や動詞の直前に置く。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

maiṅ	us	ke	g ^h ar		
私	NOM.	彼	OBL.SG	の	GEN.OBL.
				家	OBL.M.SG
gayā,	lekin	vo	g ^h ar	par	nahīn
行く	PST.M.SG	しかし	彼	NOM.SG	家
				OBL.M.SG	に
				LOC.	否定辞
t ^h ā					
いる	PST.M.SG				

家に行ったという表現では、「に」に相当する後置詞が省略されていると考え、家という語彙が斜格形になっている。

(31) あの人が来るまで、私はここで待っています。

jab	tak	vo	na	āe,	tab
時	ADV.	まで	彼	NOM.SG	否定辞
				来る	PERF.M.SG
					その時
tak	maiṅ	us	kā	intizār	
まで	私	NOM.	彼	OBL.SG	GEN.
				待つこと	NOM.M.SG
kartā	hūn				
する	PRS.M.SG				

(32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

us	ke	āne	tak	maiṅ	k ^h ānā
彼	OBL.SG	GEN.OBL.	来る	INF.OBL.	まで
				私	NOM.
					食事
					NOM.M.SG
tayyār		kar	dūn	gā	
準備された	ADJ.	する	FUT.1.M.SG		

4. 略号一覧

本稿で用いた略号は以下のとおり.

ABL	奪格 (後置詞)	M	男性名詞
ADJ	形容詞	NOM	主格
ADV	副詞	OBL	後置格
COP	コピュラ動詞	OPT	希求法
DAT	与格 (後置詞)	PST	過去
ERG	能格 (後置詞)	PERF	完了
F	女性名詞	PL	複数
FUT	未来形	PRS	未完了
GEN	属格 (後置詞)	PTCP	分詞
HABIT	習慣	SBJV	接続法
INF	不定詞	SG	単数
INS	具格 (後置詞)	STEM	語幹
LOC	位置格 (後置詞)		

謝辞

本稿執筆に当たり, 例文チェックおよび貴重なコメントをいただいた, スハイル・アッバース・ハーン先生 (本学客員教授, 1966年パキスタンのファイサラーバード生まれ. 母語はパンジャービー語だが, 第一言語はウルドゥー語) に心から御礼申し上げます. 本稿で事実誤認等があるとすれば, すべて本稿執筆者に責任があります.

参考文献

- Agnihotri, Rama Kant. 2007. Hindi: An essential grammar. London: Routledge
McGregor, R.S. 1999. Outline of Hindi Grammar. New Delhi: Oxford University Press.
Schmidt, Ruth Laila. 1999. Urdu: An essential grammar. London: Routledge.

口語タミル語における「連用修飾的複文」

小幡 千陽

1. はじめに

1.1. タミル語について

タミル語は、ドラヴィダ語族の南部ドラヴィダ語派に属する言語である。インド共和国の公用語の1つとしてタミル・ナードゥ州で話されている他、スリランカ北東部、マレーシア、シンガポール、インドネシア、マダガスカル、モーリシャス、フィジー、中・南部アフリカでも用いられている¹。本稿で調査の対象とするのは、インド国内、タミル・ナードゥ州の中央部の、非ブラーミン(非バラモン)カーストの口語タミル語である。

タミル語には地理的な方言とカーストに基づく社会的な方言が存在する上に、話者はスタイルの異なる2つのバリエーションを使い分ける。2つのバリエーションは、大まかにいうと文語と口語の区別に相当する。フォーマルなバリエーションはほとんどの書き言葉やラジオやテレビのニュース、政治的なスピーチや講義などに使われる一方、インフォーマルなバリエーションは日常のコミュニケーション(会話、気軽なメール)や映画のセリフなどに使用される²。「文語」は書き言葉だけに、「口語」は話し言葉だけに限られないため、「文語」「口語」と呼ぶのは必ずしも適切ではないが、ここでは便宜上「文語」「口語」と呼ぶことにする。「文語」には標準的なものが存在する一方、標準的な「口語」の中でも、タミル・ナードゥ州の地理的な中央部であるマドライ、タンジャーヴール、ティルチラパッリ周辺の、非ブラーミンの人たちが話す言葉に最も近いと言われている(Zvelebil 1963, Schiffmann 1999, Steever 1987 など)。

1.2. 調査概要

本稿では、マドライ出身非ブラーミンカーストの、教養のあるタミル語話者数名を対象に調査を行った。更にタンジャーヴール地区(Kumbakonam)出身のタミル語教師にも調査内容の確認を行ったが、その際のデータは補助的に使用することとする。インフォーマント情報の詳細は以下の通りである。尚、詳細なカーストを聞くほど立ち入った質問はできなかったため、方言差が顕著であるブラーミン/非ブラーミンの区別以上にはカーストの特定はしていない。

¹ 家本・徳永(1989: 668)を参考にした。

² Steever(1987: 730)を参考にした。

表 1: インフォーマント情報とデータ種別

インフォーマント	A	B	C	D	E
出身地	マドライ	マドライ	マドライ	マドライ	タンジャー ヴール地区
学歴	修士卒	大学卒	大学卒	大学卒	修士卒
カースト	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)
年齢	27	24	27	29	54
性別	F	M	M	M	F
データ種別	データ X			データ Y	データ Z

データの収集は、3 回に分けて行った。インフォーマントは日本語が分からないため、筆者が例文を英語に訳したものを基に調査を行った。データ X は 2015 年 3 月 7 日から 8 日にかけて、ある家族に対して行った調査に基づく。A と B は兄弟で、A と C は夫婦である。例文 (1) から (9) までは A が、(10) から (32) までは B が、適宜他の 2 人と相談しながら筆者のノートに書き込み、読み上げた。データ Y は 2015 年 2 月 28 日に行った調査によるもので、D が口頭で答えるのを、筆者が D に確認を取りながら書き取った。データ Z には、タミル語教師である E にデータ X と Y を見せて確認して別の言い方を提案してもらったものと、筆者が作成したものを確認してもらったものが含まれる。E への確認は、2015 年 3 月 9 日に行った。

以下に示す各例文の後ろには、どこで収集したデータかが明確になるように、データ種別を [] で囲んで提示する。

2. タミル語の連用修飾複文

調査で得られた例文に現れる限りでは、タミル語には、連用修飾複文の従属節を形成する手段が大きく分けて 2 つ存在する。1 つは定動詞を使う方法、もう 1 つは不定動詞を使う方法である。ここで「定動詞 (finite verb)」とは時制・人称・数を表わす屈折接辞の全てが動詞語幹に後接している動詞、「不定動詞 (infinite verb)」とは時制・人称・数のいずれも標示できないか、もしくは時制接辞のみを標示できる動詞の形³を指す。助動詞も動詞

³ 不定動詞としては「接続分詞 (conjunctive/verbal participle)」「関係分詞 (relative/adjectival participle)」「不定詞 (infinitive)」「命令形 (imperative)」の 4 つが挙げられる。本稿に関係があるのは前の 3 つである。本稿では、ここでいう関係分詞のことを「連体分詞」と呼んでいる。

と同じ活用をするため、以下まとめて便宜的に「動詞」と呼ぶ。

2.1. 定動詞を使う方法

定動詞を使う方法には、定動詞で終わる節をそのまま並置する方法と、前節の定動詞に引用マーカ-*n* を付加する方法がある。

2.1.1. 定動詞のみ

定動詞で終わる節をそのまま並置できるのは等位接続の場合に限られると思われる。今回のデータで現れたのは (例 4) の 1 例のみであった。

- (4) *innekk-um appaa aaffiis-kku poo-yi-t-t-aaru, appuram*
 今日-ADD 父 オフィス-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3.H.HON 後
aṅṅan-um yunivaasiṭi-kku poo-yi-t-t-aan-ga [X]
 兄-ADD 大学-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3M-PL

〔lit.〕 日も父は会社に行った、そして兄は大学に行った〕

ここで前節の動詞 *poo-yi-t-t-aaru* にも後節の動詞 *poo-yi-t-t-aan-ga* にも定動詞が使われているが、後者のイントネーションが下降調になっているのに対し、前者はわずかに上昇している。インフォーマントはいずれも「会社に行って、」の後で文が切れているとは認識しておらず、全体で 1 つの文であることを強調していた。この上昇イントネーションは、定動詞を使ってはいけるが発話の切れ目ではないことを表わしていると考えられる。

2.1.2. 定動詞+引用マーカ-

定動詞に引用マーカ-*n*⁴を付けるか、*-n* に続けて更に接続辞を付けると、従属節を形成することができる。*-n* の後には理由節を作る具格の *-aale*、条件節を作る *-aal* などが接続できる。全ての活用形を持つ通常の動詞であれば、理由節や条件節を作るのに「定動詞+*-n*+*-aale/-aal*」を使うことも、不定動詞に *-aale/-aal* を付加した形を使うこともできる (理由節は 2.2.4、条件節は 2.2.5 を参照)。いくつかの活用形を欠く例外的な動詞の場合は、引用マーカ-を使う方法でしか従属節化することができない。

- (10b) *veliye nall-aa paak-k-a-ṅum-nu jannal kadav-e tira-nt-aan-Ø [Y]*
 外 良い-ADVR 見る-SE-INF-NSS-QUOT 窓 扉-ACC 開く-PST-3M-SG
 〔lit.〕 外を良く見たい/見なければいけないと、窓の扉を開けた〕

- (14a) *naa[ekku maze pee-nc-utu-nn-aa naan anke poo-k-a*
 明日 雨 振る-PST-3.N-QUOT-COND 1.SG.NOM あそこ 行く-SE-INF

⁴ *-n* は文語の「～と言う」を意味する動詞 *|eNR|* (文語は || で囲んで示す。脚注 6 を参照) の接続分詞に由来し、現在でも一部動詞としての用法を残している。

maat[-een] [X]

NEG.FUT-1.SG

「明日雨が降ったら、私はそこに行かない」

2.2. 不定動詞を使う方法

不定動詞を使う場合には、以下の5つの手段によって連用修飾複文の従属節が形成される。すなわち、①接続分詞、②不定詞、③動名詞+接続辞、④連体分詞+接続辞、⑤過去語幹+接続辞の5つである。

2.2.1. ①接続分詞

接続分詞 (動詞語幹⁵+接続分詞形成接尾辞) は、同時や継起を表わす従属節を形成する(例 1, 2, 5)。

(1b) avan-Ø e-ppa-vum-ee peepar paqic-cu-**tt-ee** saappidu-v-aan-Ø [Z]

あの人-SG INT-TIME-ADD-EMP 新聞 読む-CONJ-SIM-EMP 食べる-FUT-3M-SG

「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる」

(2b) neettu naitu pattu mani-kku vii[-tu-kku va-**ndu-ttu**, [iivii] **paat-tu-ttu**

昨日 夜 十 時-DAT 家-OBL-DAT 来る-CONJ-SEQ テレビ 見る-CONJ-SEQ

appuram-aa paquk-ka poo-n-**een** [Y]

後-ADVR 横になる-INF 行く-PST-1.SG

「(私は) 昨日 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から) 寝ました」

同時も継起も、文脈によっては動詞の接続分詞のみで表すことも可能であるが、どちらもその後ろに-*tt* という接辞が付くことが多い。ただしややこしいことに、同時の場合に付く-*tt* と継起の場合に付く-*tt* は歴史的に違う起源を持ち、話者は未だに2つを別のものであると認識しているのだ。継起の場合の-*tt* は口語ではこの形しか持たないのに対し、同時の場合の-*tt* は異形として-*kitt* という形を持ち、ゆっくり発音された場合には長い方の-*kitt* という形がよく現れる。これらのことから、本稿では、異形態を持たず同時の場合に使われるものと、-*kitt* と交替し得る継起の場合に使われるものを、別形態素であると分析する。継起ではなく同時であるということを明確に示すために、(1b)のように-*tt*~-*kitt* の後ろに強調の接辞-*ee* を付加することが多い。

2.2.2. ②不定詞

不定詞 (動詞語幹 (+語幹拡張辞)+不定詞形成接尾辞) は、目的を表わす従属節を形成す

⁵ 本稿では、屈折接辞が後接する基になる部分、すなわち動詞語根+派生接辞、もしくは派生接辞が付かない場合は動詞語根のみを「動詞語幹」と呼ぶ。

る (例 9). 2.2.3 で述べるように動名詞+接続辞も目的を表わすのに使われるが、今回の調査ではいずれのインフォーマントも (例 9) には不定詞, (例 10) には動名詞+接続辞を使って回答した. 調査票のラベルでは (例 9) は「移動の目的」, (例 10) は「目的・意図」とされている.

- (9) anda aa[u bukks **vaang-a** poo-yiruk-k-aaru [X][Y]
 あの 男 本 買う-INF 行く-RES-PRS-3.H.HON
 「あの人は本を買いに行った」

2.2.3. ③動名詞+接続辞

動名詞 (動詞語幹+時制接尾辞+連体化接尾辞+人称接尾辞) に付く接続辞は, 格助詞など通常名詞に接続するものである. 動名詞+接続辞の従属節は, 理由や目的を表わす場合に使われる (例 3, 8, 10).

- (8a) neettu tale **valic-c-a-d-aale** siikkiram tuung-a poo-yi-t-t-een [X]
 昨日 頭 痛む-PST-ADN-NR.N-CSL はやく 寝る-INF 行く-CONJ-CMPL-PST-1.SG
 「昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました」

- (10a) avan-Ø ve[ɟiye nall-aa **paak-kur-a-du-kk-aaka** jannal
 あの 人-SG 外 良い-ADVR 見る-PRS-ADN-NR.N-DAT-PURP 窓
 tira-nd-aan-Ø [X]
 開く-PST-3.M-SG

「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた」

理由を表わす時には具格の-aale が, 目的を表わす場合には与格の-kk が, 動名詞の後に接続する. 目的を表わすことをはっきりさせるために, 与格の-kk の後に-aaka が付くことが多い.

過去の動名詞に付加を表わす-um が接続すると, 前節の事態の直後に後接の事態が起こったことを表わす.

- (12b) kadav-e tira-nd-a-d-um jillu-nnu kaattu u[ɟe va-ndu-ccu [Y]
 扉-ACC 開く-PST-ADN-NR.N-ADD ヒヤリ-QUOT 風 中 来る-PST-PST.3N
 「扉を開くと (すぐに), ヒヤリと風が中に入って来た」

2.2.4. ④連体分詞+接続辞

連体分詞 (動詞語幹+時制接尾辞+連体化接尾辞) に付く接続辞の多くは, 歴史的には名詞に由来するものである. 連体分詞+接尾辞は, 時間に関する従属節を形成する. まず「連体分詞+poodu/poo/pa (‘~する/した時’)」は同時や恒常条件, 確定条件などを表わす (例 1, 11,

12, 13). *poodu/poo/pa* は文語で使われる「時」を意味する名詞 *|pozutu|*⁶ に由来し, *|pozutu|* > *poodu* > *poo* > *pa* のように形が短くなり従属節を形成する接続辞になったと考えられる⁷. 尚, *poodu/poo/pa* はいずれも日常的な会話において使用され得るが, 形が短くなるにつれより口語らしい表現だと見做される⁸.

(11) *i-nge veyil kaalam aak-um-Ø-boodu ađikkadı maze peyy-um [X]*
 ここ 陽光 時期 なる-FUT-ADN-TEMP しばしば 雨 降る-FUT.3.N
 「ここでは夏になると, よく雨が降ります」

(12a) *naan-Ø kadav-e tera-nt-a-ppoo jillu-nnu u||e kaattu va-ndu-ccu [X]*
 I.NOM-SG 扉-ACC 開く-PST-ADN-TEMP ヒヤリ-QUOT 中 風 来る-PST-PST.3.N
 「扉を開けると, 冷たい風が入って来た」

「連体分詞+*vare* ((+kk)+*um*)

(‘~まで’) は, 出来事の終了期限を表わす (例 31). *vare* は文語で使われる「限界」を意味する名詞 *|varai|* に由来する. *vare* の後ろには付加を表わす *-um*, あるいは与格の *-kk* と付加の *-um* が付くことができる.

(31b) *anda aa|u var-r-a-vare-kk-um weit paṅṅu-r-een [Y]*
 あの 男 来る-PRS-ADN-LMT-DAT-ADD 待つこと する-PRS-1.SG
 「あの人が来るまで, 私はここで待っています」

「連体分詞+*uđan* (-*ee*)

(‘~直後に’) は, 前節の事態の直後に後接の事態が起こったことを表わす. *uđan* は「直後」の意味を持ち, 主に副詞として使われる. 従属節を形成する時もしない時も, 後ろに強調の *-ee* を伴うことが多い. 2.2.3 で述べた「動名詞過去+ *-um*」と同様の文脈で使用され, 相互に言い換えが可能である.

(18a) *tayavu se-nju steefan-kku poo-n-a uđan-ee kool paṅṅ-i*
 親切 する-CONJ 駅-DAT 行く-PST-ADN 直後-EMP 電話 する-CONJ
collu-Ø [X]
 言う-IMP
 「駅に着いたら ((lit.) 行った直後に) 電話をしてください」

⁶ 文語でのみ使われる形は || で囲んで示し, 表記は正書法を転写したものとする. 転写は以下の通りとする. *ǂ=a*, *ǂ=aa*, *ǂ=i*, *ǂ=ii*, *ǂ=u*, *ǂ=uu*, *ǂ=e*, *ǂ=ee*, *ǂ=ai*, *ǂ=0*, *ǂ=00*, *ǂ=au*, *ǂ=k*, *ǂ=ŋ*, *ǂ=c*, *ǂ=ŋ*, *ǂ=ŋ*, *ǂ=t*, *ǂ=n*, *ǂ=p*, *ǂ=m*, *ǂ=y*, *ǂ=r*, *ǂ=l*, *ǂ=v*, *ǂ=z*, *ǂ=*, *ǂ=R[r~t]*, *ǂ=N[n]*

⁷ *poodu* は口語だけでなく文語でも使われるが, *poo/pa* は口語のみで使われる形である.

⁸ 連体節では時制の対立が過去・非過去の2つしかないのだが, 非過去の場合 *poodu* の前では未来接辞, *poo/pa* の前では現在接辞が選択される. 他の連体節でも, 非過去なら文語では未来接辞, 口語では現在接辞が主に使われる.

2.2.5. ⑤過去語幹+接続辞

過去語幹（動詞語幹+過去接辞）には、理由を表わす *-aal* が接続する。過去語幹+ *-aal* は、仮定条件、逆接、反実仮想を表わすのに使われる（14~21, 28, 29, 30）。過程条件の従属節は「過去語幹+ *-aal*」, 逆接の従属節は「過去語幹+ *-aal* + *-um*（‘付加’）/*kuuḍa*（‘～さえ’）」という形になる。反実仮想は、条件部分には「結果アスペクトを表わす助動詞 *iru* の過去語幹+ *-aal*」を、帰結部分には「結果の助動詞 *iru* の未来形」を、それぞれ動詞の接続分詞形に付加することによって表す。

(14b) *naa[ekku mazaḥ pee-nc-aa anke poo-k-a maat[een [Y]*
 明日 雨 降る-PST-COND あそこ 行く-SE-INF NEG.FUT-1.SG
 「明日雨が降ったら、私はそこに行かない」

(28b) *kiizeḥ pooḥ-ḥ-aal-um inḍa kapp uḍe-yaadu [Y]*
 下 落とす-PST-COND-ADD この コップ 壊れる-NEG.FUT.3.N
 「このコップは落としても割れない」

(16) *anda maadiri iḍat-tu-kku poo-k-aama iru-nd-iru-nd-aa*
 あの 様 場所-OBL-DAT 行く-SE-CONJ.NEG いる-CONJ-RES-PST-COND
nall-aa iru-nd-iruk-k-um-nu ninek-kir-een [X]
 良い-ADVR ある-CONJ-RES-SE-FUT-QUOT 思う-PRS-1.SG
 「あんなところに行かなければよかった」

3. データ

(1) 【同時動作】彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. *a-van-Ø eppa-vum-ee peepar paḍik-kir-a-ppa saappiḍu-v-aan-Ø [X]*
 あの 人-SG いつ-ADD-EMP 新聞 読む-PRS-ADN-TEMP 食べる-FUT-3.M-SG
 「(lit.) あの人はいつも新聞を読むとき食べる」

b. *avan-Ø e-ppa-vum-ee peepar paḍic-cu-ḥ-ee saappiḍu-v-aan-Ø [Z]*
 あの 人-SG INT-TIME-ADD-EMP 新聞 読む-CONJ-SIM-EMP 食べる-FUT-3M-SG

(2) 【継起的動作・物語的連鎖】(私は) 昨日 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から) 寝ました。

a. *neettu raattiri pattu maṇi-kku viiḥ-ḥ-tu-kku va-ndu, konca neeram*
 昨日 夜 十 時-DAT 家-OBL-DAT 来る-CONJ 少し 時間
ḥiivii paat-tu-ḥ-tu appuram paḍuk-ka poo-n-eeṇ [X]
 テレビ 見る-CONJ-SEQ 後 横になる-INF 行く-PST-1.SG

b. neettu naiṭu pattu maṅi-kku viiṭ-tu-kku va-ndu-ṭṭu, ṭiivii paat-tu-ṭṭu
 昨日 夜 十 時-DAT 家-OBL-DAT 来る-CONJ-SEQ テレビ 見る-CONJ-SEQ
 appuram-aa paḍuk-ka poo-n-een [Y]
 後-ADVR 横になる-INF 行く-PST-1.SG

(3) 【継起: 理由】 (私は) 昨日階段で転んで、怪我をってしまった。

a. neettu paḍikkattṭu-le taḍumaar-i vizu-nd-a-d-aale kaayam
 昨日 階段-LOC.NH よろめく-CONJ 落ちる-PST-ADN-NR.N-INST 怪我
 aa-yi-ḍu-ccu [X]
 なる-CONJ-CMPL-PST.3.N

b. neettu ena-Ø-kku paḍikkattṭu-le vizu-ndu kaayam aayi-ḍ-uccu [Y]
 昨日 1.OBL-SG-DAT 階段-LOC.NH 落ちる-CONJ 怪我 なる-CMPL-PST.3.N

(4) 【異主語】 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行つた。

innekk-um appaa aafiis-kku poo-yi-t-t-aaru, appuram
 今日-ADD 父 オフィス-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3.H.HON 後
 aṅṅan-um yunivaasiṭi-kku poo-yi-t-t-aan-ga [X]
 兄-ADD 大学-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3M-PL

(5) 【付帯状況】 (あの人は) 今日は帽子をかぶつて歩いていた。

innekku anda aaḷu toppi poot-ṭu naḍa-ntu poo-n-aaru [X]
 今日 あの 男 帽子 身に着ける-CONJ 歩く-CONJ 行く-PST-3.H.HON

(6) 【並行動作】 (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

naan-Ø eppa-vum liivu-nn-aa annekku bukk paḍik-kir-a-du,
 1.NOM-SG いつ-ADD 休み-QUOTE-COND その日 本 読む-PRS-ADN-NR.N
 ṭivi paak-kir-a-du idu maadiri paṅṅ-i-ṭṭurup-p-een [Z]
 テレビ 見る-PRS-ADN-NR.N これ 様 する-CONJ-PROG-FUT-1.SG

(7) 【理由・カラ】 時間がないから、急いで行こう。

neeram ille, siikkiram-aa kiḷambu-v-oom [X]
 時間 NEG はやく-ADVR 出発する-FUT-1.PL

(8) 【理由・ノデ】 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. neettu tale valic-c-a-d-aale siikkiram tuung-a poo-yi-t-t-eeen [X]
 昨日 頭 痛む-PST-ADN-NR.N-CSL はやく 寝る-INF 行く-CONJ-CMPL-PST-1.SG

b. neettu siikkiram tuung-a poo-yi-t-t-aan een-n-aa ena-kku
 昨日 はやく 寝る-INF 行く-CONJ-CMPL-PST-1.SG なぜ-QUOT-COND 1.SG.OBL-DAT
 tale valic-c-udu [X]
 頭 痛む-PST-3.N

(9) 【趨向/移動の目的】 あの人は本を買いに行った。

anda aa[u bukks vaang-a poo-yiruk-k-aaru [X][Y]
 あの 男 本 買う-INF 行く-RES-PRS-3.H.HON

(10) 【目的・意図】 (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

a. avan-Ø veliye nall-aa paak-kur-a-du-kk-aaka jannal
 あの 人-SG 外 良い-ADVR 見る-PRS-ADN-NR.N-DAT-PURP 窓
 tira-nd-aan-Ø [X]
 開く-PST-3.M-SG

b. veliye nall-aa paak-k-a-ṇum-nu jannal kadav-e tira-nt-aan-Ø [Y]
 外 良い-ADVR 見る-SE-INF-NSS-QUOT 窓 扉-ACC 開く-PST-3M-SG
 「(lit.) 外を良く見たい見なければいけないと、窓の扉を開けた」

(11) 【恒常的条件】 ここでは夏になると、よく雨が降ります。

inge veyil kaalam aak-um-Ø-boodu aḍikkaḍi mazaḍ peyy-um [X]
 ここ 陽光 時期 なる-FUT-ADN-TEMP しばしば 雨 降る-FUT.3.N

(12) 【確定条件・生起】 扉⁹を開けると、冷たい風が入って来た。

a. naan-Ø kadav-e tera-nt-a-ppoo jillu-nnu u[le kaattu va-ndu-ccu [X]
 1.NOM-SG 扉-ACC 開く-PST-ADN-TEMP ヒヤリ-QUOT 中 風 来る-PST-PST.3.N

⁹ 調査用例文では「窓」となっていたが、筆者が英語に訳す際に間違って「扉」としてしまったため、そのまま得られた文を掲載する。

b. kadav-e tira-nd-a-d-um jillu-nnu kaattu u||e va-ndu-ccu [Y]
 扉-ACC 開く-PST-ADN-NR.N-ADD ヒヤリ-QUOT 風 中 来る-PST-PST.3N
 「扉を開いてすぐに、ヒヤリと風が中に入って来た」

(13) 【確定条件・発見】坂を上ると、海が見えた。

naan-Ø sarukal meelee poo-k-um-Ø-boodu kaḍal paat-t-eeen [X]
 1.NOM-SG 坂 上 行く-SE-FUT-ADN-TEMP 海 見る-PST-1.SG

(14) 【仮定条件】明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

a. naa|ekku maze pee-nc-utu-nn-aa naan anke poo-k-a
 明日 雨 振る-PST-3.N-QUOT-COND 1.SG.NOM あそこ 行く-SE-INF
 maatf-eeen [X]
 NEG.FUT-1.SG

b. naa|ekku maze pee-nc-aa anke poo-k-a maatf-eeen [Y]
 明日 雨 降る-PSTCOND あそこ 行く-SE-INF NEG.FUT-1.SG

(15) 【反実仮想】もっと早く起きればよかったなあ。

naan-Ø siikkiram ezu-nd-iru-nd-aa nall-aa
 1.NOM-SG はやく 起きる-CONJ-RES-PST-COND 良い-ADVR
 iru-nd-iruk-k-um-nu ninek-kir-eeen [X]
 ある-CONJ-RES-SE-FUT.3.N-QUOT 思う-PRS-1.SG

(16) 【反実仮想・前件否定】あんなところに行かなければよかった。

anda maadiri iḍat-tu-kku poo-k-aama iru-nd-iru-nd-aa
 あそこ 様 場所-OBL-DAT 行く-SE-CONJ.NEG いる-CONJ-RES-PST-COND
 nall-aa iru-nd-iruk-k-um-nu ninek-kir-eeen [X]
 良い-ADVR ある-CONJ-RES-SE-FUT-QUOT 思う-PRS-1.SG

(17) 【一般的心理】1に1を足せば、2になる。

a. nii onn-ooḍa onn-e kuuff-in-aa adu reṇḍ-aa aak-um [X]
 2SG 一-SOC/GEN 一-ACC 集める-PST-COND それ 二-ADVR なる-FUT.3.N

b. onnu-kuuḍa onnnu seet-t-aa reṇḍ aa-yi-r-um [Y]
 一-SOC 一 合わせる-PST-COND 二 なる-CONJ-CMPL-FUT.3.N

(18) 【仮定条件+働きかけのモダリティ】 駅に着いたら電話をしてください。

- a. tayavu se-nju steeʃan-kku poo-n-a uʒan-ee kool paṇṇ-i
 親切 する-CONJ 駅-DAT 行く-PST-ADN 直後-EMP 電話 する-CONJ
 collu-Ø [X]
 言う-IMP
 「(lit.) 駅に行った直後に電話をしてください」

- b. steeʃan poo-n-a-t-um kool paṇṇu-Ø [Y]
 駅 行く-PST-ADN-NR.N-ADD 電話 する-IMP
 「(lit.) 駅に行つてすぐに電話をしてください」

- c. steeʃan poo-yi-ttu kuuppiḍu-Ø [Y]
 駅 行く-CONJ-SEQ 呼ぶ-IMP

(19) 【過程条件+願望】 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

- sandeyi aa-ccu-nn-aa elloo-r-ooḍe-yum paaku-kku poo-k-a
 日曜日 なる-FUT.3.N-QUOTCOND 全て-H.HON-SOC/GEN-ADD 公園-DAT 行く-SE-INF
 virumpu-v-eeen [X]
 望む-FUT-1.SG

(20) 【心配】 明日雨が降ったら困るなあ。

- a. naalekku maze pee-nj-udu-n-aa, piraccane aa-yi-ḍ-um [X]
 明日 雨 降る-PST-FUT.3N-QUOT-COND 問題 なる-CONJ-CMPL-ADD
- b. naalekku maze pee-nj-aa konjam siramam [Y]
 明日 雨 降る-PST-COND 少し 困難

(21) 【時間的前後関係に即していないナラ条件文】 家に来るなら、電話をしてから来てください。

- a. tayavu se-nju nii-Ø viiṭ-tu-kku va-r-a-du-n-aa foon
 親切 する-CONJ 2-SG 家-OBL-DAT 来る-PRS-ADN-NR.N-QUOT-COND 電話
 paṇṇ-i-ttu vaa-Ø [X]
 する-CONJ-SEQ 来る-IMP

- b. viit-[tu-kku var-r-ii-Ø-nn-aa foon paŋŋ-i-[tu vaa-Ø [Z]
 家-OBL-DAT 来る-PRS-2-SG-QUOT-COND 電話 する-COND-SEQ 来る-IMP

(22) 【予想を伴った条件文】(もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら, 教えて下さい.

- a. maŋi aɟik-k-um-Ø-boodu tayavu se-nju sollu-Ø [X]
 鐘 鳴る-SE-FUT-ADN-TEMP 親切 する-CONJ 言う-IMP

- b. bel aɟic-c-a-d-um konjam sollu-Ø [Y]
 ベル 鳴る-PST-ADN-NR.N-ADD 少し 言う-IMP
 「(lit.) ベルが鳴ってすぐに, ちょっと言ってください」

(23) 【予想を伴わない条件文】(もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら, 教えてください.

- maŋi aɟic-c-aa, tayavu se-nju sollu-Ø [X]
 鐘 鳴る-PST-COND 親切 する-CONJ 言う-IMP

(24) 【相関構文】働かない者は, 食べるべきではない.

- a. jaar ellaam veele paak-k-a-le-yoo saappiq-a-kuuɟaadu [X]
 誰 全て 仕事 見る-SE-INF-NEG-DUB 食べる-INF-PROH

- b. jaar ellaam veele paak-k-a-le-yoo avan-ga saappiq-a-kuuɟaadu [Z]
 誰 全て 仕事 見る-SE-INF-NEG-DUB その人-PL 食べる-INF-PROH

- c. veele sey-y-aad-a-van-ga jaar-um saappiq-a-kuuɟaadu [Y]
 仕事 する-NEG-FUT-AND-NR.M-PL 誰-ADD 食べる-INF-PROH

(25) 【言いさし・願望】もう少しお金があったらなあ.

- en-Ø-kitte nireya kaasu iru-nd-iru-nd-aa nall-aa
 1.OBL-SG-LOC.H 沢山 お金 ある-CONJ-RES-PST-COND 良い-ADV
 iruk-k-um-nu ninek-kir-een [X]
 ある-SE-FUT.3.N-QUOT 思う-PRS-1.SG

(26) 【言いさし・提案】これも食べたら?

- id-e-yum saappiq-Ø [Y]
 これ-ACC-ADD 食べる-IMP

(27) 【言いさし・つき放し】 やりたいなら自分の好きなようにやれば?

ad-e paṇṇa-a-ṇum-n-aa piḍic-c-a maadiri paṇṇu-Ø [Y]
 それ-ACC する-INF-NSS-QUOTE-COND 好く-PST-ADN 様 する-IMP

(28) 【仮定的な逆接】 このコップは落としても割れない.

a. inda kapp-e nii-Ø kiize poot-t-aa kuuḍa adu
 この コップ-ACC 2-SG 下 落とす-PST-COND さえ それ
 uḍe-yaadu [X]
 壊れる-NEG.FUT.3N

b. kiize poot-t-aal-um inda kapp uḍe-yaadu[Y]
 下 落とす-PST-COND-ADD この コップ 壊れる-NEG.FUT.3.N

(29) 【アクチュアルな逆接】 このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない.

inda appul romba kaas-aa iru-nd-aal-um konjam kuuḍa
 この りんご ととも お金-ADV ある-PST-COND-ADD 少し さえ
 inik-k-a maatt-udu [X]
 甘い-SE-INF NEG.FUT-3.N

(30) 【逆接 3】 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった.

a. naan-Ø avan-ga viit-tu-kku poo-n-aa kuuḍa avan-Ø
 1.NOM-SG あの 人-PL 家-OBL-DAT 行く-PST-COND さえ あの 人-SG
 viit-tu-le iruk-kur-a-du ille [X]
 家-OBL-LOC.NH いる-PRS-ADN-NR.N NEG

b. viit-tu-kku poo-n-a-ppoo-vum avan-Ø ange ille [Y]
 家-OBL-DAT 行く-PST-ADN-TEMP-ADD あの 人-SG あそこ NEG

(31) 【時間的期限 1】 あの人が来るまで、私はここで待っています.

a. naan-Ø anda aa[u var-r-a-vare-yum inge weit
 1.NOM-SG あの 男 来る-PRS-ADN-LMT-ADD ここ 待つこと
 paṇṇu-r-eeen [X]
 する-PRS-1.SG

b. anda aa[u var-r-a-vare-kk-um weit paṇṇu-r-eeṅ [Y]
 あの 男 来る-PRS-ADN-LMT-DAT-ADD 待つこと する-PRS-1.SG

(32) 【時間的期限 2】 あの人があるまでに，食事を作っておきますよ。

naan-Ø anda aa[u var-r-a-du-kk u||e samaic-cu
 1.NOM-SG あの 男 来る-PRS-ADN-NR.N-DAT 中 料理する-CONJ
 muḍic-cu-ḍu-v-eeṅ [X]
 終える-CONJ-CMPL-FUT-1.SG

略号一覧

1: 1 st person 一人称	GEN: genitive 属格	PL: plural 複数
2: 2 nd person 二人称	H: human 人間	PROG: progressive 進行
3: 3 rd person 三人称	HON: honorific 尊敬	PROH: prohibitive 禁止
ACC: accusative 対格	IMP: imperative 命令	PRS: present 現在
ADD: additive 追加	INF: infinitive 不定詞	PURP: purposive 目的
ADVR: adverbializer 副詞 化辞	INST: instrumental 具格	PST: past 過去
AND: adnominalizer	INT: interrogative 疑問	RES: resultative 結果
CMPL: completive 完了	LMT: limitative 限定	SE: stem extender 語幹拵 張辞
COND: conditional 条件	LOC: locative 所格	SEQ: sequential 継起
CONJ: conjunctive 接続	M: masculine 男性	SG: singular 単数
CSL: causal 理由	N: neuter 中性	SIM: simultaneous 同時
DAT: dative 与格	NEG: negative 否定	SOC: sociative 社格
DUB: dubitative 疑念	NH: non-human 非人間	TEMP: temporal 時間
EMP: emphasizer 強調	NOM: nominative 主格	QUOT: quotative 引用
F: feminine 女性	NR: nominalizer 名詞化	
FUT: future 未来	NSS: necessity 必要	
	OBL: oblique 斜格	

参照文献

- 家本太郎・徳永宗雄 (1989) 「タミル語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 世界言語編 (中)』第2巻. 668-672. 東京: 三省堂.
- Schiffmann, H. F. (1999) *A Reference Grammar of Spoken Tamil*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Steever, Stanford B. (1987) Tamil and the Dravidian Languages. In: Bernard Comrie (ed.) *The World's Major Languages*, 725-746. London: Routledge.
- Zvelebil, K. (1963) A Few Notes on Colloquial Tamil. *Tamil Culture* 10(3): 37-47.

アラビア語¹

松尾 愛

(1) 「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。」

yaʔkulu t-tʿaʕaam-a wa-huwa yaqraʔu l-ǧariidat-a.

eat: IPFV.3.M.SG DEF-meal-ACC and-he read: IPFV.3.M.SG DEF-newspaper-ACC

【同時動作】接続詞 wa-に独立人称代名詞を伴うことで同一人物の同時動作を示す。

(2) 「(私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て(から)、寝ました。」

radʕaʕtu ʔila l-bait-i wa-ʕaahadtu t-tilfaaz-a

return: PFV.1.SG to DEF-house-GEN and-watch: PFV.1.SG DEF-television-ACC

qaliil-an ʔumma nimtu.

little-ACC then sleep: PFV.1.SG

【継起的動作・物語的連鎖】接続詞 wa-よりも ʔummaの方が時間的経過がより長いことをしめす。日本語の「それから」に近い。

(3) 「(私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。」

saqaʕtu min ʕala d-daraǧ-i ʔams-i ʕa-ʔusʕibtu radʕl-ii.

fall: PFV.1.SG from on DEF-stairs-GEN yesterday-GEN then-hurt: PASS.PFV.1.SG foot-I.gen

「(私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。(lit.) 昨日私は階段から落ちて、それで、私の足は怪我させられた。」

【継起: 理由】結果を示す接続詞としてはいくつか種類があるが, ʕa-は順接, 理由を示す接続詞として使える。

(4) 「今日も父は会社に行き、兄は大学に行った。」

ʕahaba waalid-ii ʔila f-farokat-i wa-ʕahaba ʔax-ii ʔila l-ǧaamiʕat-i

go: PFV.3.M.SG father-my to DEF-company-GEN and-go: PFV.3.M.SG brother-my to DEF-university-GEN

l-yaum-a ʔaidʕan.

DEF-day-ACC also

【異主語】異主語の複文でも接続詞 wa-で何ら問題なく表現できる。

¹ 本稿の執筆にあたり、2014年度まで東京外国語大学特任外国人教員をしておられたエジプト出身のイハブ・アハマド・エベード氏に甚大なご協力を頂いた。記して感謝申し上げます。なお、本稿におけるいかなる誤りも筆者に帰するものである。

(5 a) 「(あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。」

majfaa *r-radḡul-u* *fii f-faariṣ-i* wa-*kaana* *yartadii* *l-qubbaṣat-a*.
walk: PFV.3.M.SG DEF-man-NOM in DEF-street-GEN and-COP.PFV.3.M.SG wear: IPFV.3.M.SG DEF-hat-ACC

【付帯状況】付帯状況を示すのに *wa-* を用いて表すことがある。

(5 b) 「(あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。」

majfaa *r-radḡul-u* *fii f-faariṣ-i* murtadaa *l-qubbaṣat-i*.
walk: PFV.3.M.SG DEF-man-NOM in DEF-street-GEN wearing .APT.ACC DEF-hat-GEN

【付帯状況】(5b)のように、能動分詞を用いて、様態を表すこともできる。アラビア語学では一般的にこの能動分詞-対格の形であらわす副詞句を *ḥāl* と呼ぶ。様態のほか、方法も表せる。

(6) 「(私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」

(*ʔanaa*) *ʔaqrāʔu* *kitaab-an* ʔaw *ʔufaahidu* *t-tilfaaz-a*
(I) read: IPFV.1.SG book-ACC or watch: IPFV.1.SG DEF-television-ACC
fii yaum-i *ʕutʕlat-in*.
in day-GEN holiday-GEN

【並行動作】英語の *or* にあたるような *ʔaw* という接続詞を用いて表す。

(7a) 「時間がないから、急いで行こう。」

haiyaa *bi-naa* *naḏhab* *bi-surṣat-in*
INTERJ.let's go! with-us go: JUSS.1.PL with-haste-GEN
li-ʔanna-naa *laisa* *ladai-naa* *waqt-un*.
for-that-we.ACC not to exist: PFV.3.M.SG at-we.GEN time-NOM

【理由・カラ】理由を表すにはいくつか方法があるが、前置詞 *li-* “for” に *ʔanna* + 非分離形人称代名詞を後続させることで表すことがある。

(7b) 「時間がないから、急いで行こう。」

haiyaa *bi-naa* *naḏhab* *bi-surṣat-in*
INTERJ.let's go! with-us go: JUSS.1.PL with-haste-GEN
fa-*laisa* *ladai-naa* *waqt-un*.
because-not to exist: PFV.3.M.SG at-we.GEN time-NOM

【理由・カラ】(3) で用いた *fa-* が理由を表すために用いられている例である。

(8a) 「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。」

nimtu *mubakkir-an* *ʔams-i* *ʕani* *l-muṣtaad-i*
sleep: PFV.1.SG early-ACC yesterday-GEN from the-usual-GEN

li-ʔann-i kaana ʕind-ii sʕudaaʕ-un.
for- that-L.ACC COP.PFV.3.M.SG at-I.GEN headache-NOM

(8b) 「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。」

ʔams-i kaana ʕind-ii sʕudaaʕ-un **ʔa-**nimtu mubakkir-an
yesterday-GEN COP.PFV.3.M.SG at-I.GEN headache-NOM because-sleep: PFV.1.SG early-ACC
ʕani l-muʕtaad-i.
from the-usual-GEN

【理由・ノデ】(7a)(7b)と全く同じ構文で表されている。

(9) 「あの人は本を買いに行った。」

ðahaba r-radʕul-u **li-yaʕfarī** kitaab-an.
go: PFV.3.M.SG DEF-man-NOM for-buy: SBIV.3.M.SG book-ACC

【趨向／移動の目的】「～しに行く」による移動の目的を示す文としてアラビア語には特別な形式はない。行く+li- “for” に接続法の動詞を後続させることでしか表しようがない。

(10) 「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。」

fataha r-radʕul-u naafiðat-a **li-yaraa** maa bi-l-xaaridʕ-i.
open: PFV.3.M.SG DEF-man-NOM window-ACC for-see: SBIV.3.M.SG what by-DEF-outer-GEN

【目的・意図】(9)と同様に li- “for” に接続法の動詞を後続させることで目的、意図を示す。

(11) 「ここでは夏になると、よく雨が降ります。」

ʕindamaa yahullu sʕ-sʕayf-u tamʕru kaθiir-an humaa.
when begin: IPFV.3.M.SG DEF-summer-NOM rain: PFV.3.M.SG much-ACC here

【恒常的条件】仮定条件の意味を含まない「Aすると、Bする」の場合は ʕindamaa “～時” という接続詞を用いて、未完了形の動詞を後続させる。なお、ʕindamaa は ʕinda “at” という前置詞に関係代名詞 what に相当する maa が後続した形であり、形態素境界を挿入して ʕinda-maa のように分析することも可能であるが、語彙化した接続詞として本稿では ʕindamaa を1つの語、接続詞として分析することとする。

(12) 「窓を開けると、冷たい風が入って来た。」

ʕindamaa fatahtu n-nnafiðat-a tadaxxalat riyaaʕ-un baaridat-un.
when open: PFV.1.SG DEF-window-ACC enter: PFV.3.F.SG wind-NOM cold-NOM

【確定条件・生起】仮定条件形式は使わない。(11)のように ʕindamaa “～時” という接続詞を用いる。後続する動詞は完了形となる。

(13) 「坂を上ると、海が見えた。」

raʔaitu l-baħar-a ʃindamaa tasallaqtu l-murtaqaa.
see: PFV.1.SG DEF-sea-ACC when ascend: PFV.1.SG DEF-ascent.ACC

【確定条件・発見】(12)と同様の構文である。

(14a) 「明日雨が降ったら、私はそこに行かない。」

ʔiðaa kaana yad-an matʕar-an lan ʔaðhaba ʔila hunaaka.
if COP:PFV.3.M.SG tomorrow-ACC rain-ACC FUT.NEG go: SBJV.3.M.SG to there

(14b) 「明日彼が彼女を訪ねるなら、私は彼と一緒にいく。」

ʔiðaa zaara-haa yad-an sa-ʔaðhabu maʕa-hu.
if visit: PFV.3.M.SG tomorrow-ACC FUT-go: IPFV.1.SG with-he.GEN

【仮定条件】未来に関する仮定条件文は、*ʔiðaa* “if” という接続詞に完了形の動詞が後続する。応答節では未来を表す *sa-* のような接頭辞や、未来の否定を表す小辞 *lan* が現れる。

(15) 「もっと早く起きればよかったなあ。」

laita-nii staiqazʕu mubakkir-an.
if only-I.ACC wake up: PFV.1.SG early-ACC

【反実仮想】*laita* は反実仮想「～だったらなあ」を表す小辞で、対格の非分離形人称代名詞を伴う。後続する動詞は必ず完了形になる。

(16) 「あんなところに行かなければよかった。」

laita-nii lam ʔaðhab ʔila hunaaka.
if only-I.ACC NEG JUSS.1.SG to there

【反実仮想・前件否定】(15)同様の形だが、過去の否定を表す小辞 *lam* + 短形の動詞が *laita* の後に現れる。

(17a) 「2 足す 2 は 4。」

ħaasʕil-u dʒamʕ-i θnain-i wa-θnain-i ʔarbaʕat-un.
total-NOM addition 2-GEN and-2-GEN 4-NOM

「2 足す 2 は 4. (lit.) 2 と 2 の和の合計は 4 です。」

(17b) 「1に1を足せば, 2になる。」

waahid-un zaaʔid-un waahid-in yusaawii ʔnaini.
 1-NOM plus-NOM 1-GEN equal: IPFV.3.M.SG 2-ACC

「1に1を足せば, 2になる. (lit.) 「1に1増えるというのは2に等しい。」

【一般的真理】 仮定条件形式は使えない. (17a)は名詞文「合計は～です。」という形の構文で, (17b)は *saawaa* 「～に等しい」という動詞を未完了形の形で用いている文である.

(18) 「駅に着いたら電話をしてください。」

ittasʕil bi-ii ʕindamaa tasʕilu ʔila l-mahatʕat-i.
 inform: IMP.2.M.SG with-I.GEN when arrive: IPFV.2.M.SG to DEF-station-GEN

【仮定条件+働きかけのモダリティ】 日本語でもつばらタラが用いられる後件に働きかけのモダリティが現れる文では, 仮定条件形式は使わない. *ʕindamaa* “～時” + 未完了形を用いて表す.

(19a) 「日曜日になったら, みんなで公園に行きたいなあ。」

ʔuriidu ʔan naʔhaba ʔila l-hadiiwat-i ʕindamaa yaʔtii l-ʔahad-a.
 want: IPFV.1.SG that go: SBJV.1.SG to DEF-park-GEN when come: IPFV.3.M.SG DEF-Sunday-ACC

(19b) 「日曜日になったら, みんなで公園に行きたいなあ。」

ʔawaddu ʔan ʔaʔhaba ʔila l-hadiiwat-i ʕindamaa yaʔtii l-ʔahad-a.
 wish: IPFV.1.SG that go: SBJV.1.SG to DEF-park-GEN when come: IPFV.3.M.SG DEF-Sunday-ACC

【仮定条件+願望】 願望のモダリティのある条件文では, (19b)のように *wadda* “wish” を用いて表すこともあるが, 日本語のタラに当たる部分は, アラビア語では *ʕindamaa* “～時” + 未完了形で表される.

(20) 「明日雨が降ったら困るなあ。」

ʔaxʕaa ʔan tamtʕura yad-an.
 fear: IPFV.1.SG that rain: SBJV.3.F.SG tomorrow-ACC

【心配】 基本的に, *ʔan* の後は接続法の動詞が後続する. 特別な「心配法」のようなものはない.

(21a) 「家に来るなら, 電話をしてから来てください。」

ittasʕil bi-ii iʔaa kunta sa-tazuuru-nii.
 inform: IMP.2.M.SG with-I.GEN if COP.PFV.2.M.SG FUT-visit: PFV.2.M.SG-I.ACC

(21b) 「家に来る前に、電話をしてから来てください。」

ittas'il *bi-ii* **qabla** *ʔan* *taʔtiya* *ʔila* *bait-ii*.
inform: IMP2.M.SG with-I.GEN before that come: SBJV.2.M.SG to house-I.GEN

【時間的前後関係に則していないナラ条件文】(21a)は一般的な仮定条件の形「*ʔiðaa* “if”という接続詞に完了形の動詞が後続する形」で表されている。(21b)は時間的前後関係がある場合の文で、*qabla* “before” *ʔan* を用いた文である。

(22) 「[もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。」

ʔaxbir-nii **ʕindamaa** *yaduqqu* *l-ʕaras-u*.
inform: IMP2.M.SG-I.ACC when ring: IPFV.3.M.SG DEF-bell-NOM

【予想を伴った条件文】英語で **when** が用いられるタイプの条件文であるが、アラビア語でも同様の形式をとる。

(23) 「[もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。」

ʔaxbir-nii **ʔiðaa** *daqqa* *l-ʕaras-u*.
inform: IMP2.M.SG-I.ACC if ring: PFV.3.M.SG DEF-bell-NOM

【予想を伴わない条件文】仮定条件を表す *ʔiðaa* + 完了形の動詞で表す。

(24) 「働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。」

man *laa* *yaʕmal* *laa* *yastahiqqu* *ʔan* *yaʕkula* (/ *yaʕiifa*).
who NEG work: IPFV.3.M.SG NEG be entitled: IPFV.3.M.SG that eat: SBJV.3.M.SG (/ live: SBJV.3.M.SG)

「働かざるもの食うべからず。(lit.) 働かないものは食べる(生きる)のに値しない。」

【**相関構文**】日本語の「働かざるもの食うべからず。」のように、関係代名詞 *man* を用いて「働かない人」という主語に「～する権利がない」という動詞を用いて表す。諺にはよくある形であるといえよう。

(25a) 「もう少しお金があったらなあ。」

laita-*nii* *kaana* *ʕind-ii* *maal-un* *ʔakθar-u*.
if only-I.ACC COP.PFV.3.M.SG at-I.GEN money-NOM more-NOM

(25b) 「金持ちだったらなあ。」

laita-*nii* *kuntu* *yaniiy-an*.
if only-I.ACC COP.PFV.1.SG rich-ACC

【**言いさし・願望**】(15)(16)と同様の構文で表す。

(26) 「これも食べたら？」

hal-lā ʔakalta haaḏihi ʔaid^ʕ-an.

Q-NEG eat: IPFV.2.M.SG this also-ACC

「これも食べたら？ (lit.) これも貴方は食べないの？」

【言いさし・提案】疑問の小辞に否定の小辞を後続させて *hal-lā* 「～しないの？」の形で誘いや提案を表す。

(27) 「やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？」

ifʕal maa turiidu.

do: IMP.2.M.SG what want: IPFV.2.M.SG

「やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？ (lit.) あなたのしたいことをしろ。」

【言いさし・つき放し】特別に突き放すような言いさし分の形があるわけではない。

(28) 「このコップは落としても割れない。」

*lan yankasira haaḏa l-kuub-u ḥattaa lau ʔasqat^ʕtu-hu.*FUT.NEG get broken: IPFV.3.M.SG this DEF-glass-NOM even if fall: PFV.1.SG-it.ACC

「このコップは落としても割れない。 (lit.) このコップはたとえ落としたとしても割れない。」

【仮定的な逆接】仮定的な逆接は *ḥattaa lau* に完了形の動詞を後続させることで表せる。

(29) 「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。」

haaḏa t-tuffaah-u mukallaf-un walaakinna-hu laisa laḏiḏ-an.

this DEF-apple-NOM expensive-NOM but-it.ACC not to be: PFV.3.M.SG delicious-ACC

【アクチュアルな逆接】主節従属節共に、すでに実現した事柄についての逆接表現は *walaakinna* “but” に対格の非分離形人称代名詞を伴う形で表せる。この文の場合、*walaakinna-hu* の *hu* はリンゴを指している。

(30) 「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」

ḏahabtu ʔila bait-hi walaakinna-hu lam yakun humaaka (/mauḏzuud-an).

go: PFV.1.SG to house-he.GEN but-he.ACC NEG COP.JUSS.3.M.SG there (/exsiting.APT-ACC)

【逆接3】異主語による逆接の表現であっても、*walaakinna* “but” に対格の非分離形人称代名詞を伴う形で表せる。

(31) 「あの人が来るまで、私はここで待っています。」

sa-ʔantazʕiru-hu hunaa ḥatta yaʔtiya.

FUT-wait: IPFV.1.SG-he.ACC here until come: SBIV.3.M.SG

【時間的期限[1]】 *hatta* 「～まで」に接続法の動詞を後続させる形で表すことができる。

(32) 「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。」

sa-ʔuʕiddu l-ʔakl-a qabla ʔan yaʔtiya.

FUT-prepare: IPFV.1.SG DEF-meal-ACC before that come: SBJV.3.M.SG

【時間的期限[2]】 (21b)のような構文で、*qabla* “before” *ʔan* に接続法の動詞を後続させて表す。

略号一覧

1, 2, 3: 1st,2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称	FUT: future 未来	NEG: negative 否定
ACC: accusative 対格	GEN: genitive 属格	NOM: nominative 主格
APT: active participle 能動分詞	IMP: imperative 命令形	PFV: perfective 完了形
DEF: definite 定	IPFV: imperfective 未完了形	Q: questionmarker 疑問標識
F: feminine 女性形	JUSS: jussive 短形	SBJV: 接続形
	M: masculine 男性形	SG: singular 単数形
		- 形態素境界

転写法

字母	أ	ب	ت	ث	ج	ح	خ	د	ذ	ر	ز	س	ش	ص	ض	ط	ظ	ع	غ	ق	ف
転写	ʔ	b	t	θ	dʒ	h	x	d	ð	r	z	s	ʃ	sʕ	dʕ	tʕ	ðʕ	ʕ	ɣ	f	q
字母	ك	ل	م	ن	و	ي															
転写	k	l	m	n	h	w	y														

母音については、短母音は a, i, u と表記し、長母音の表記については、aa, ii, uu を、二重母音は ai, au を用いることとする。

ペルシア語

吉枝 聡子

1. はじめに

ペルシア語では複文は接続詞を用いて表すのが一般的であり、それぞれの目的に応じて並列接続詞 *va/o* (同時的動作, 継起的動作, 並行的動作), 従属接続詞 *ke* (目的, 条件, 理由等), *tā* (目的, 結果), *čon* (理由, 原因), *agar* (条件) 等の接続詞, またより具体的な意味合いを表す複合接続詞が用いられる。例外として, 継起的動作については過去分詞を用いて表すことが可能であるが, 継起的動作が複数ある場合には表すことが困難など, その使用には制限も認められる。

2. 例文¹

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

u	hamiše	dar hālike	ruznāme	mixānad,	qazā	mixorad.
3SG	いつも	CONJ	新聞	読む PRES.3SG	食事をする	PRES.3SG

*同時動作の表現には複合接続詞 *dar hālike* 「～しながら」が多く用いられる。これ以外にも *vaqtike* 「～の時」などを用いた以下のような表現も可。

u	vaqtike	qazā	mixorad	hamiše	ruznāme	mixānad,
3SG	CONJ	食事をする	PRES.3SG	いつも	新聞	読む PRES.3SG

「彼は食事をする時, いつも新聞を読んでいる」

(2) (私は) 昨夜は10時に家に帰って, 少しテレビを見て(から), 寝ました。

(man)	dišab	sā'at-e dah	be	xāne	bargaštam,	kami
1SG	昨夜	10時(に)	PREP	家	帰る PAST.1SG	少し
televiziyon	didam	(va)	ba'ad (az ān)	xābidam.		
テレビ	見る PAST.1.SG	(CONJ)	(その)後	眠る PAST.1SG		

* (2)(3) 継起的動作は, 並列接続詞 *va/o*² 「そして」を用いた連結か, 接続詞を省略した動詞連結によって表されるのが一般的。なお継起的動作については, 下のように過去分詞を用いた言

¹ 本稿の作成にあたり, Kāve Maqsudi 氏 (本学大学院博士後期課程在学) に協力をいただいた。記して感謝したい。

² *va/o* は, 文の連結のように区切りが大きいと感じられる場合には *va*, 語(句)の連結には前節的な *o* が用いられる。ただし文同士の連結でも継起的動作を表す場合などには *o* が使用されることも多く, これらは明確に使い分けられているわけではない。

い換えも可能である（やや文語的となる）。ただし、過去分詞で表される継起的動作は1つのみで、複数の動作が連続する場合は接続詞 *va* または直接連結で表す。

(man) dišab qazā xorde xābidam.
 (1SG) 昨夜 食事をする PAST.PTCPL 眠る PAST.1SG
 「(私は) 昨夜は食事をしてから寝ました」

(3) (私は) 昨日階段から落ちてケガをした。

(man) diruz az pelle oftādam va zaxmi šodam
 1SG 昨日 PREP 階段 落ちる PAST.1SG CONJ 怪我をする PAST.1SG

(4) 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。

emruz ham, pedaram be šerkat raft
 今日 ADV 父-PRON.SUF.3SG PREP 会社 行く PAST.3SG
 va barādaram (ham) be dānešgāh (raft).
 CONJ 兄-PRON.SUF.3SG (ADV) PREP 大学 (行く PAST.3SG)

(5) 彼女は今日は帽子をかぶって歩いていた。

a. u emruz dar hālike kolāh be sar karde / gozāšte bud
 3SG 今日 CONJ 帽子 被る PAST.PFT.3SG

rāh miraft / qadam mizad.

歩く IMPF.PAST.3SG

b. u emruz kolāh be sar karde / gozāšte (va)
 3SG 今日 帽子 被る PAST.PTCPL CONJ

rāh miraft / qadam mizad.

歩く IMPF.PAST.3SG

*上記(2)と同様に、過去分詞および接続詞（または直接連結）が可能。分詞を用いた **b.**は付帯状況および時間差を伴う継起的動作（「帽子を被り、そして」）の両方に使用可、また付帯状況を示す接続詞を用いた **a.**は同時進行（「帽子を被った状態で」）のニュアンスが強い。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

(man) ruzhā-ye ta'til hamiše ketāb mixānam va
 1SG 休日 PL いつも 本 読む PRES.1SG CONJ
 televiziyon mibinam.
 テレビ 見る PRES. 1SG

*並行的動作も(2)等と同様に並列接続詞 *va* で連結される。

(7)時間がないから、急いで行こう。

a. *čon vaqt nadārim, bā 'ajale beravim.*
 CONJ 時間 持つ NEG.PRES.1PL 急いで 行く SUBJ.PRES.1PL

b. *vaqt nadārim, bāyad 'ajale konim.*
 時間 持つ NEG.PRES.1PL ~すべき 急ぐ SUBJ.PRES.1PL

*理由・原因を表す従属接続詞 *čon* を用いた a. はやや文語的。接続詞を伴わない直接連結の b. は口語文で用いられる。日本語の「カラ」「ノデ」のような、文末のモダリティによる使い分けは認められない [(8)を参照]。

(8)昨夜は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. *dišab čon sar-am dard mikard,*
 昨夜 CONJ 頭-PRON.SUF.1SG 痛む IMPF.PAST.3SG

zudtar az hamiše xābidam.
 いつもより早く 眠る PAST.1SG

b. *dišab sar-am dard mikard-o*
 昨夜 頭-PRON.SUF.1PL 痛む IMPF.PAST.3SG-CONJ

zudtar az hamiše xābidam.
 いつもより早く 眠る PAST.1SG

(9)あの人は本を買いに行った。

u raft ke ketāb bexarad.
 3SG 行く PAST.3SG CONJ 本 買う SUBJ.PRES.3SG

*目的を表す場合は、従属接続詞 *ke* または *tā* 等が使用される。いずれの場合も、従属節内では接続法を用いる。(10)も同様だが、a. ではより具体的な意味を表す複合接続詞が用いられている。

(10) (彼は) 外が良く見えるように (その) 窓を開けた。

a. (u) towrike/barāye inke birun be xubi
 3SG CONJ 外 よく

dide (be)šavad, panjare rā bāz kard.
 見る PASS.SUBJ.PRES.3SG 窓 POSTP 開ける PAST.3SG

b. (u) panjare rā bāz kard tā birun
 3SG 窓 POSTP 開ける PAST.3SG CONJ 外
 be xubi dide šavad.
 よく 見る PASS.SUBJ.PRES.3SG

*目的を表す場合、従属節 tā は文頭に立つことはできない。ただし、時を表す場合は文頭に置くことは可能である [13]c.を参照]

(11)ここでは夏になると、よく雨が降ります。

injā tābestān ke mišavad bārān ziyād mibārad.
 ここ 夏 CONJ なる PRES.3SG 雨 多く 降る PRES.3SG

*接続詞 ke は時を表す従属節を導くが、ke は文頭に来ることはできず、最初の主要要素の次の位置に立つことが多い。同様の意味をもつ複合接続詞 vaqti(ke)「～の時」は文頭に置くことが可能 [(12),(13)を参照].

(12) (その) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

vaqti panjare rā bāz kardam, bād-e xonak-i
 CONJ 窓 POSTP 開ける PAST.1SG 風-EZ 涼しい-SUF
 vāred šod / be dāxel āmad.
 入る PAST.3SG

(13) (私たちが) 坂を上ると、海が見えた。

a. az tappe ke bālā raftim, daryā dide šod.
 PREP 丘 CONJ 上る PAST.1PL 海 見る PASS.PAST.3SG

b. vaqti az tappe bālā raftim, daryā dide šod.
 CONJ PREP 丘 上る PAST.1PL 海 見る PASS.PAST.3SG

c. tā az tappe bālā raftim, daryā be
 CONJ PREP 丘 上る PAST.1PL 海 PREP
 čašm-emān āmad.
 目-PRON. SUF.1PL 来る PAST.3SG

(14)明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

agar	fardā	bāran	biyāyad,	(man)	be	ānjā
CONJ	明日	雨	来る SUBJ.PRES.3SG	1SG	PREP	そこ

nemiravam.
行く NEG.PRES.1SG

*仮定条件を表す条件節には、従属接続詞 agar 「もし～」を用い、条件節内には接続法を用いるのが最も一般的な条件の表し方である。

*確定的条件、仮定条件、反実仮想的な前提条件の区別は条件節内の動詞によって表される [(16),(17),(20)等を参照].

(15)もっと早く起きればよかったなあ。

kāš	zud-tar	bidār mišodam / šode budam.
ADV	早い COMP	起きる IMPF 1SG / PAST.PERF.1SG

agar	zud-tar	bidār mišodam	behtar	bud / mišod.
CONJ	早い COMP	起きる IMPF	よい COMP	COP.PAST.3SG / IMPF.3SG

*反実仮想を含む文では、条件節、帰結節共に未完了過去形を用いる。反実仮想の祈願文では副詞 kāš が共起することが多い。この kāš は省略できるが、1人称（話者自身）については述べる場合には省略できない。

*過去に関連する反実仮想には未完了過去形の他に過去完了形が用いられることもある。未完了過去形・過去完了形で著しいニュアンスの差異は認められないようである。また、反実仮想を表す場合、コピュラには例外的に直説法過去形を用いる。

(16)あんなところに行かなければよかった。

kāš	be	hamčēnān	jāyi	nemiraftam.
ADV	PREP	あのような	場所-SUF	行く IMPF.1SG

agar	be	hamčēnān	jāyi	nemiraftam,
CONJ	PREP	あのような	場所-SUF	行く IMPF.1SG
beh-tar		mišod.		
良い COMP		～になる IMPF.3SG		

*名詞節を導く ke を用いた以下のような例も可能。

beh-tar bud (ke) be hamčēnān jāyi
 良い COMP COP.PAST.1SG CONJ PREP あのような 場所-SUF
 nemiraftam.
 行く IMPF.1SG

(17) 1に1を足せば, 2になる.

yek be 'alāve-ye yek mišavad do.
 1 ~に加えて-EZ 1 ~になる PRES.3SG 2

agar be yek, yek rā ezāfe konim,
 COMJ PREP 1 1 POSTP 加える SUBJ.PRES.1PL
 do mišavad.
 2 ~になる PRES.3SG

(18) 駅に着いたら電話をしてね.

vaqti be istgāh residi, telefon bezan / zang bezan
 CONJ PREP 駅 着く PAST.2SG. 電話する IMPR

*条件節は通常は接続法を用いるのが一般的であるが, 確実性が高い場合には直説法過去形を用いることがある.

(19) 日曜日になったら, みんなで公園に行きたいなあ.

yešanbe ke šod hame bā ham
 日曜日 CONJ ~になる PAST.3SG 皆 一緒に
 beravim pārk.
 行く SUBJ.PRES.1PL 公園

*確実性の強い前提条件では agar でなく ke を用いることも多い.

(20) 明日雨が降ったら困るなあ.

agar fardā bārān bebārad / biyāyad be
 CONJ 明日 雨 降る/来る SUBJ.PRES.3SG PREP
 dard-e sar miyoftam
 困難 陥る PRES.1SG

(21) 家に来るなら、その前に電話をしてきてね。

agar be xāne(-ye man) miyāyi, qabl-aš
 CONJ PREP 家(-EZ 1SG) 来る PRES.2SG 前-PRON.SUF.3SG
 zang bezan.
 電話する IMPR

* agar 節で直説法現在形が用いられる場合は前提条件を示す。この文では、「家に来ること」は既に話者間で確定事項として認識されている。相手が「家に来るかどうか不明」である場合には、条件節内では接続法が用いられる。(22),(23)も同様。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、私に知らせてね。

[(čon) zang be zudi be sedā dar miyāyad,]
 CONJ ベル もうすぐ PREP 音 現れる PRES.3SG.
 har vaqt be sedā dar āmad, (be man) xabar bede
 CONJ PREP 音 現れる PRES.3SG. (私に) 知らせる IMPR
 * har vaqt 「～の時はいつでも」

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、私に知らせてね。

[šāyad zang be sedā dar āyad,]
 [恐らく ベル PREP 音 現れる SUBJ.PRES.3SG.]
 agar be sedā dar āmad, (be man) xabar bede.
 CONJ PREP 音 現れる SUBJ.PRES.3SG (私に) 知らせる IMPR

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

kasi ke kar nakonad/nemikonad, qazā
 人-SUF REF 働く NEG.SUBJ/IND.PRES.3SG 食事
 ham nabāyad bexorad.
 ～も (または強調) ～すべき NEG 食べる SUBJ.3SG

(25) もう少しお金があつたらなあ。

kāš kami biš-tar pul dāštam.
 ADV 少し 多い-COMP 金 持つ IND.PAST.1SG

* 15)と同様の反実仮想文であるが、dāštan「持つ」は例外的に未完了過去形の代わりに直説法過去形を用いる。

(26)これも食べたら？

nemixāyi ino (ham) boxori?
～したい NEG.PRES.2SG これを ～も 食べる SUBJ.PRES.2SG

ino ham boxor dige?
これを ～も 食べる IMPR ADV

*dige は特に会話文中で念押しに近い意味で文末に付加される副詞。

(27)やりたいなら（自分の）好きなようにやれば？

a. agar mixāyi (in kār rā) anjām bedi,
CONJ ～したい PRES.2SG (この仕事を) 行う SUBJ.PRES.2SG
čērā hamun towri ke dust dāri anjām nemidi?
なぜ そのように CONJ 好む PRES.2SG 行う NEG.PRES.2SG

b. agar mixāyi (in kār rā) anjām bedi,
CONJ ～したい PRES.2SG (この仕事を) 行う SUBJ.PRES.2SG
hamuntowri ke dust dāri anjām bede.
そのように CONJ 好む PRES.2SG 成す IMPR

*a.b.は後半のみ異なるが、a.の方が「言いさし、つき放し」のニュアンスを含む。

(28)このコップは落としても割れない。

in livān hattā agar be zamin biyoftad ham
この コップ CONJ 落ちる SUBJ.PRES.3SG ADV (強意)
nemišekanad.
壊れる NEG.PRES.3SG

*「たとえ～でも」（仮定的な逆接）には hattā agar, agar če 等を用いる。条件節では強意のために副詞 ham が付加されることがある。

(29)このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

in sib bā inke gerān (ham) bud,
このリンゴ CONJ 高い (ADV・強調) COP.PAST.3SG

aslan širin nist.
 全く 甘い COP.NEG.PRES.3SG
 *bā inke 「～にも拘わらず」

(30)彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

be xāne-aš raftam, vali nabud.
 PREP 家-PRON.SUF.3SG 行く PAST.1SG CONJ COP.NEG.PAST.3SG

■略語

ADV	副詞
COMP	比較級
CONJ	接続詞
COP	コピュラ
EZ	エザーフェ
IMPF	未完了 (過去形のみ)
IMPR	命令
NEG	否定
PASS	受動態
PAST	過去
PERF	完了
PL	複数
POSTP	後置詞
PREP	前置詞
PRES	現在
PRON.SUF	接尾辞形人称代名詞
PTCPL	分詞
REL	関係詞
SG	単数
SUBJ	接続法
SUF	接尾辞

〈特集「(連用修飾的) 複文」〉

トルコ語¹の(連用修飾的) 複文²

奥 真裕

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

(1a) O her zaman gazete oku-yarak yemek yi-yor.
 彼 いつも 新聞 読む-CONV ご飯 食べる-PRES

(1b) O her zaman yemek ye-r-ken gazete oku-yor.
 彼 いつも 食事 食べる-AOR-CONJ 新聞 読む-PRES

-(y)ArAk³は「～ながら」という同時性を表す副動詞。-(y)ken は時を表す節をつくり, ken という独立した形も持つ。最初の文が訳にはより忠実ではあるが, 2 目目の文の方がトルコ語としてはより自然に使用される。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って, 少しテレビを見て (から), 寝ました。

(2a) Dün saat on-da ev-e dön-üp biraz televizyon
 昨日 10 時-LOC 家-DAT 戻る-CONV 少し テレビ
 izle-dik-ten sonra yat-tı-m.
 鑑賞する-PART-ABL 後 寝る-PAST-ISG

-İp は「～て」という基本的には同時, 並行でない場合に用いられる副動詞である。-DİkAn sonra はこの形で「～した後で」という意味で用いられる。

¹ トルコ語は主にトルコ共和国で話されている言語であり, スタンブル方言を基礎とした共通語をもつ。チュルク諸語の南西語群(オグズ語群とも呼ばれる)に分類され, アゼルバイジャン語やトルクメン語と近い関係にあるとされる。言語類型論的にはいわゆるアルタイ型であり, SOV の語順をとる言語である。本稿における表記は正書法を採用している。

² 本稿の作成にあたり, Melih Yılmaz さん(Kütahya 県出身, 26 歳, 男性)のご協力を得た。また, 指導教官である菅原睦先生からは多くのご指摘をいただいた。この場を借りて感謝を述べたい。なお, 誤りはすべて執筆者の責任である。調査にあたっては, 筆者の作例を修正してもらった。また, 実際の使用の場面をそれぞれ想定しながら自然な使用が可能な文を採用した。

Göksel-Kerslake(2005)を参考にすると, トルコ語の複文には名詞節, 関係節, 副詞節, 条件節, 接続詞とその類をもちいるものがあげられる。finite と non-finite の両方の形が従属節として扱われている。

³ 以下, 大文字は子音の同化や母音調和による交替をしめす。(A=e/a; I=i/i/ü/u; D=d/t; K=k/ğ)

(2b) Dün saat on-da ev-e dön-dü-m ve biraz
 昨日 10時-LOC 家-DAT 戻る-PAST-1SG そして 少し
 televizyon izle-yip yat-tı-m.
 テレビ 鑑賞する-CONV 寝る-PAST-1SG

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

Dün merdiven-den düş-üp yaralan-dı-m.
 昨日 階段-ABL 落ちる-CONV けがをする-PAST-1SG

トルコ語で「落ちる」と「転ぶ」は düş- であらわされるため、「階段から落ちて」と「階段で転んで」との言分けができない。

(4) 今日父は会社に行って、兄は大学に行った。

(4a) Bugün de baba-m iş-e, ağabey-im
 今日 も 父-POSS.1SG 仕事-DAT 兄-POSS.1SG
 üniversite-ye git-ti.
 大学-DAT 行く-PAST

* (4b) Bugün de baba-m iş-e gid-ip
 今日 も 父-POSS.1SG 仕事-DAT 行く-CONV
 ağabey-im üniversite-ye git-ti.
 兄-POSS.1SG 大学-DAT 行く-PAST

Göksel-Kerlake(2005)でも指摘されているが、-Ip 節と主節は異なる主語をとることができないため、文として成り立たない。

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

(5a) O adam, bugün şapkalı yürü-yor⁴-du.
 あの 人 今日 帽子つきの 歩く-PRES-PAST.COP

-II は名詞類から名詞類を派生させる接尾辞である。ここでは副詞的に使用されている。

(5b) O adam, bugün şapka tak-mış hal-de
 あの 人 今日 帽子 かぶる-PART 状態-LOC
 yürü-üyor-du.
 歩く-PRES-PAST.COP

⁴ ここでの -yor は未完了を表しているが、本稿のグロスでは便宜上 PRES を用いる。

-mİş halde は「～（の状態）で」という意味で用いられる。şapka takmış halde 「帽子をかぶった状態で」

(5c) O adam, bugün şapka-yı tak-arak
あの 人 今日 帽子-ACC かぶる-CONV
yür-üyor-du.
歩く-PRES-PAST.COP

帽子をかぶる動作をしながら歩き始める場合に使われる。日本語の意味とあわない。副動詞に関しては(1a)を参照。

(5d) O adam, bugün şapka-yla gez-iyor-du.
あの 人 今日 帽子-INST 散歩する-PRES-PAST.COP

-(y)IA はここでは随伴を表している。つまり、帽子をかぶっているかもしれないが、携帯しているだけの可能性もある。かぶっていることを強調する場合には baş-ı-nda (頭-3SG-LOC) şapka-yla geziyordu としてもよい。

(5e)⁵ O adam, bugün şapka-yı tak-ıp
あの 人 今日 帽子-ACC かぶる-CONV
yürü-yor-du.
歩く-PRES-PAST.COP

副動詞-İp を用いて表した場合、「帽子をかぶっていない状態から帽子をかぶり、その後歩き出す」という意味になり、日本語の文にあわなくなる。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

Tatil	gün-ler-i-nde	her zaman	ya	kitap
休暇	日-PL-POSS.3SG-LOC	いつも	または	本
oku-r-um	ya da	televizyon	izle-r-im.	
読む-AOR-1SG	または も	テレビ	鑑賞する-AOR-1SG	

ya...ya...は「～または～」という意味で用いられる。(2)などで現れた副動詞-İp を用いて表すことはできない。「本も読んで、テレビも見る」ように2つの動作を両方とも実現する場合には使用できる。

⁵ 母語話者によっては(5)の意味で使うことができるという人もいる。

(7) 時間がないから、急いで行こう.

(7a) Vakt-imiz yok. Çabuk gid-elim.
時間-POSS.1PL ない 早く 行く-IMP.1PL

自然な形にするためには接続詞を用いず、2文であらわされる.

(7b) Vakt-im yok. Çabuk gid-eyim.
時間-POSS.1SG ない 早く 行く-IMP.1SG

独り言や自分に言い聞かせるような場合は一人称単数でも表すことができる.

(7c) Vakt-imiz ol-ma-dığ-ı için çabuk
時間-POSS.1PL ある-NEG- PART-POSS.3SG ために 早く
git-meli-yiz.
行く-OBL-1PL

「私たちの時間がないので、早くいかなければなりません。」

(7d) Vakt-imiz ol-ma-dığ-ı için çabuk
時間-POSS.1PL ある-NEG-PART-POSS.3SG ために 早く
git-se-k iyi ol-ur.
行く-COND-3PL よい なる-AOR

「私たちの時間がないので、早く行った方がいいです。」

あえて複文の形式を使うとすれば、gidelim (願望形) をつかうことができない.

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました.

(8a) Dün öyle baş-ım ağır-ıyor-du
昨日 そんなに 頭-POSS.1SG 痛い-PRES-PAST.COP
ki erken yat-tı-m.
CONJ 早く 寝る-PAST-1SG

最も自然な表現であるが、この場合の ki は程度を表す副詞 (öyle 「そんなに」 や o kadar 「それほど」) と相関的に用いられる、構文として用いられる. Göksel and Kerslake(2005: 464)では結果の用法であるとされている.

(8b) Dün baş-ım ağır-ıyor-du. O yüzden
昨日 頭が-POSS.1SG 痛い-PRES-PAST.COP そのため
erken yat-tı-m.
早く 寝る-PAST-1SG

- (8c) Dün baş-ım ağır-diğ-i için erken
 昨日 頭が-POSS.1SG 痛い-PART-POSS.3SG POSTP 早く
 yat-tı-m.
 寝る-PAST-1SG

形動詞-DIK, 人称接尾辞と後置詞 için 「～のために」を用いて, -DIĞI için という形で原因や理由を表す.

- (8d) Dün baş-ım ağır-diğ-i-ndan erken
 昨日 頭が-POSS.1SG 痛い-PART-POSS.3SG-ABL 早く
 yat-tı-m.
 寝る-PAST-1SG

過去の形動詞-DIK, 人称接尾辞, 奪格接尾辞を用いて-DIĞIndAn という形でも原因や理由を表す.

(9) あの人は本を買いに行った.

- O adam, kitap al-ma-ya git-ti.
 あの 人 本 買う-VN-DAT 行く-PAST

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた.

- (10a) Dışarı-sı daha iyi görün-sün diye pencere-yi
 外-POSS.3SG より よく 見える-IMP.3SG CONJ 窓-ACC
 aç-tı.
 開ける-PAST

-sIn は 3 人称の命令形と呼ばれており, 「～するようにしろ」と言う意味. ここでは直訳すると「外がよりよく見えさせる(見させる)ように窓を開けた」ということ. diye は Göksel-Kerslake(2005:462-463)でも説明されているように副詞節を導き目的の意味を表す⁶.

- (10b) O, dışarı-sı iyi görün-ecek şekil-de pencere-yi
 彼 外-POSS.3SG よく 見える-PART 形-LOC 窓-ACC
 aç-tı.
 開ける-PAST

⁶ Göksel-Kerslake(2005:462)では optative の-A と共に用いられるとしているが, (10b)のように 3 人称命令形と共に用いられることはよく見られる.

前者の文では、相手に外がよりよく見えるように窓を開けたというニュアンス。後者は結果的によりよく見えたというニュアンス。前者に比べ後者はより目的性は低い、表現としてはより自然。

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

(11a) Bura-da yaz gel-ince sık sık yağmur yağ-ar.
 ここ-LOC 夏 来る-CONV よく 雨 降る-AOR
 -(y)IncA は「～すれば、すると」という直前の動作や条件、原因を表す副動詞。

(11b) Bura-ya yazın sık sık yağmur yağ-ar.
 ここ-DAT 夏に よく 雨 降る-AOR

実際は「夏になると」よりも「夏に」と副詞を用いて表される。こちらの方がより自然である。

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

Pencere-yi aç-inca, içeri serin rüzgar gir-di.
 窓-ACC 開ける-CONV 中に 涼しい 風 入る-PAST

ここでは主語が省略されているため、窓を開けた行為者ははっきりしていない。(13)においても同様である。

(13) 坂を上ると、海が見えた。

Yokuş-u çık-inca deniz görün-dü.
 坂-ACC 登る-CONV 海 見える-PAST

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

Yarın yağmur yağ-ar-sa ora-ya git-mem.
 明日 雨 降る-AOR-COND.COP⁷ そこ-DAT 行く-NEGAOR.1SG

条件の付属語-sA は中立形に続いて、「～するならば」という条件を表す。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

Keşke daha erken uyan-sa-ydı-m.
⁸ もっと 早く 起きる-COND-PAST.COP-1SG

⁷ 動詞語幹に直接付加される-sA は接尾辞、独立形式の ise にとってかわることができる-(y)sA はコピュラと分析する。詳しくは Göksel-Kerslake(2005:487)を参照。

過去における願望や現実に反する仮定の表現は条件の接尾辞-sA と過去のコンピュータ-(y)DI を用いて-sAydI 「～すれば（よかったのに）」と表される。多くの場合願望を表す語 keşke とともに用いられる。

(16) あんなところに行かなければよかった。

Keşke ora-ya git-me-se-ydi-m.
あそこ-DAT 行く-NEG-COND-PAST.COP-1SG

動詞の後に否定接尾辞の-mA を加え、-mAsAydI 「～しなければよかったのに」とあらわされる。

(17) 1に1を足せば、2になる。

(17a) Bir artı bir, iki.
1 足す 1 2
「1+1=2」

計算式としては、(17a)のようになる。

(17b) Elli altı-yla seksen beş-i topla-r-sa-m
56-INST 85-ACC 集める-AOR-COND.COP-1SG
141
yüz kırk bir ed-er.
する-AOR

条件を用いて表す場合は説明的になってしまうため、「56に85を足せば141になる。」のように、数字がある程度大きい場合には自然な発話となる。

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

(18a) İstasyon-a var-dığ-ımız-da ara-yın
駅-DAT 着く-PAST.PART-2PL-LOC 電話する-IMP.2PL
lütfen.
お願いします

-diğımızdaのように、過去の形動詞-DIK, 人称接尾辞, 位格接尾辞を用いて「～したとき」という意味の従属節を作る。

⁸ グロスをつけることはできないが、sAydI とともに用いられる。(16), (25)も同様。

(18b) İstasyon-a var-ınca ara-yın lütfen.
 駅-DAT 着く-CONV 電話する-IMP.2PL お願いします

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

(19a) Pazar gün-ü hep beraber park-a gid-elim
 日曜日-POSS.3SG みんなで 公園-DAT 行く-IMP.1PL
 yaa...
 MOD

(19b) Pazar gün-ü gel-ince beraber park-a
 日曜日-POSS.3SG 来る-CONV 一緒に 公園-DAT
 gid-elim.
 行く-IMP.1PL

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

Yarın yağmur yağ-ar-sa kötü ol-ur.
 明日 雨 降る-AOR-COND.COP 悪く なる-AOR
 「明日雨が降ったらいやだなあ。」

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

(21a) Ev-e gel-ecek ol-ur-sa-nız önce
 家-DAT 来る-PART なる-AOR-COND.COP-2PL 前
 ara-yın lütfen.
 電話する-IMP.2PL お願いします

(21b) Eğer ev-e gel-ir-se-niz ara-yın
 もし 家-DAT 来る-AOR-COND.COP-2PL 電話する-IMP.2PL
 lütfen.
 お願いします。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

(22a) Zil çal-ınca bana haber ver-in.
 ベル 鳴る-CONV 私に 知らせ 与える-IMP.2PL

- (22b) Zil çal-dığ-ı-nda bana haber
 ベル 鳴る-PART-POSS.3SG-LOC わたしに 知らせ
 ver-in.
 与える-IMP.2PL

発話者にベルがなる前提がある場合は副動詞-IncA, または形動詞+位格（英語の when 節にあたる）で表される.

- (23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら, 教えてください.

Eğer zil çal-ar-sa haber ver-in.
 もし ベル 鳴る-AOR-COND.COP 知らせ 与える-IMP.2PL

発話者にベルがなる前提がない場合は条件の-sA を用いて表される.

- (24) 働かざるもの食うべからず. / 働かない者は, 食べるべきではない.

Çalış-ma-yan-a ekmek yok.
 働く-NEG-PART-DAT パン ない
 「働かない者にはパンがない」

- (25) もう少しお金があったらなあ.

Keşke biraz daha para-m ol-sa-ydı.
 すこし より お金-POSS.1SG ある-COND-PAST.COP

事実に反する仮定は-sA と過去のコピュラ-DI で表される.

- (26) これも食べたら?

(26a) Bu-ndan da al-maz mı-sın?
 これ-ABL も 取る-NEGAOR Q-2SG

2人称の中立形の疑問⁹は依頼や勧めを表す.

- (27b) Bu-nu da ye-se-niz-e.
 これ-ACC も 食べる-COND-2PL-MOD

2人称の条件形にモーダルな接辞-A を用いて-sAnIzA 「したらいかがですか」という形で願望を表す. (丁寧でない形は2人称単数を用いて-sAnA 「～しろ」)

⁹ ここでは否定形だが, 肯定形でも同じように依頼や勧めを表す.

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば?

(27a) İlla yap-mak isti-yor-sa-n,
どうしても する-VN 欲しい-PRES-COND.COP-2SG
iste-diğ-in gibi yap.
欲しい-PART-2SG ように する-IMP2SG

(27b) Madem yap-mak ist-iyor-sa-n,
それでも する-VN 欲しい-PRES-COND.COP-2SG
iste-diğ-in gibi yap.
欲しい-PART-2SG ように する-IMP2SG

(28) このコップは落としても割れない.

(28a) Bu bardağ-ı düşür-se-n de
この コップ-ACC 落とす-COND-2SG も
kırıl-maz.
壊れる-NEGAOR.3SG

動詞語幹に直接-sA が付加された場合、仮定「～すれば」を表す.

(28a) Bu bardak düş-se de kırıl-maz.
この コップ 落ちる-COND も 壊れる-NEGAOR.3SG
「このコップは落ちてても割れない」

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない.

(29a) Bu elma pahalı ol-ma-sı-na rağmen
この りんご 高い である-VN-POSS.3SG-DAT かかわらず
hiç tatlı değil.
全然 甘い でない

動名詞+与格接尾辞と rağmen という語を用いて、「～にもかかわらず」という逆接をあらわす.

(29b) Bu elma pahalı ol-duğ-u hal-de
この りんご 高い である-PART-POSS.3SG 状態-LOC
hiç tatlı değil.
全然 甘い でない

また、-DiğI halde (過去の形動詞+人称接尾辞と halde) も「～にもかかわらず」という逆接を表す.

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

Onun ev-i-ne gid-ip bak-tı-m ama o
彼の 家-POSS.3SG-DAT 行く-CONV 見る-PAST-1SG しかし 彼
yok-tu.
いない-PAST

(31) あの人が来るまで、私はここで待っています。

(31a) O adam gel-ince-ye kadar bura-da
あの 人 来る-CONV-DAT POSTP ここ-LOC
bekli-iyor-um.
待つ-PRES-1SG

-IncAyA kadar「～するまで」は副動詞-IncA+与格と限度を表す後置詞kadarを用いて表される。

(31b) O adam gel-en-e kadar bura-da
あの 人 来る-PART-DAT POSTP ここ-LOC
bekli-iyor-um.
待つ-PRES-1SG

また、形動詞-An+与格と限度を表す後置詞kadarを用いて-AnA kadar「～するまで」というかたちでも表される。

(32) あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。

(32a) O adam gel-ince-ye kadar yemek hazırla-yayım.
あの 人 来る-CONV-DAT まで 食事 準備する-IMP1SG

(32a) O adam gel-en-e kadar yemek hazırla-yayım.
あの 人 来る-PART-DAT まで 食事 準備する-IMP1SG

トルコ語では「～まで」と「～までに」は区別できない。

略号一覧

ABL	奪格	PART	形動詞
ACC	対格	PAST	過去
AOR	アオリスト（中立形）	PL	複数
COND	条件	POSS	所有接尾辞

CONJ	接続詞	POSTP	後置詞
CONV	副動詞	PRES	現在
COP	コピュラ	PSB	可能
DAT	与格	Q	疑問
FUT	未来	SG	単数
IMP	命令・願望	VN	動名詞
INST	具格	1	1人称
LOC	位格	2	2人称
MOD	モーダル	3	3人称
OBL	義務		

参考文献

- Göksel, Aslı and Kerslake, Celia (2005) *Turkish. A Comprehensive Grammar*, Routledge, London
 東京外国語大学トルコ語専攻(2011)『トルコ語文法 初級・中級』東京外国語大学生協同組合
 出版部：東京

トルクメン語¹の(連用修飾的)複文²

奥 真裕

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる.

(1a) Ol hemişe gazet oka-p otyr-ka nahar iy-ýär.
 彼 いつも 新聞 読む-CONV AUX-CONJ ご飯 食べる-PRES
 「彼はいつも新聞を読んでいるとき、ご飯を食べる。」

(1b) Ol hemişe gazet oka-ýär-ka nahar iy-ýär.
 彼 いつも 新聞 読む-PRES-CONJ ご飯 食べる-PRES
 「彼はいつも新聞を読むとき、ご飯を食べる。」

Clark(1998:483)によると、-kA³は動詞の定形やその他いくつかの品詞に付加され、行動が同時に行われていることを示す。グロスでは接続詞として示しているが、トルクメン語における他の接続詞とは違い人称⁴をとる。

(2) (私は) 昨日は 10時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました.

(2a) (Men) düýn sagat on-da öý-e gaýd-yp, biraz telewizor gör-üp,
 (私) 昨日 10時-LOC 家-DAT 帰る-CONV 少し テレビ 見る-CONV

¹トルクメン語はトルクメニスタン、イラン、アフガニスタンなどで話されている言語である。チュルク諸語の南西語群（オグズ語群とも呼ばれる）に分類され、トルコ語やアゼルバイジャン語と近い関係にあるとされる。部族ごとの方言が色濃く残っていること、チュルク語祖語の母音の長短の区別を保っていることが特徴として挙げられる。言語類型論的にはいわゆるアルタイ型であり、SOVの語順をとる言語である。本稿における表記は正書法を採用している。

²本稿の作成にあたり、トルクメン人のRさん（Mary州出身、22歳、男性）のご協力を得た。また、指導教官である菅原睦先生からは多くのご指摘をいただいた。この場を借りて感謝を述べたい。なお、誤りはすべて執筆者の責任である。調査にあたっては、筆者の作例を修正してもらった形でいった。また、実際の使用の場面をそれぞれ想定しながら自然な使用が可能な文を採用した。

トルクメン語の複文としての研究はNartyýew et.al.(2002)のように伝統的なロシア語学の研究の影響を強く受けており、finite verbのみを扱っている。しかし、トルクメン語やチュルク諸語ではnon-finite verbで現れる複文も多くみられるため、それらの複文としての分析がなされてこなかった。

³以下、大文字は子音の同化や母音調和による交替をしめす。(A=a/ä; E=e/a; I=i/y/ü/u)

⁴基本的には所有人称接尾辞を取るが、3人称複数だけは、代名詞由来の接辞を取る。

(soňra) ýat-dy-m.

(後で) 寝る-PAST-1SG

-Ip は日本語のテ形にあたる副動詞で、トルクメン語においては一文の中で 2 度使用しても不自然ではない。

(2b) (Men) düýn sagat on-da öý-e gaýd-yp, biraz telewizor

(私) 昨日 10時-LOC 家-DAT 帰る-CONV 少し テレビ

gör-dü-m de ýat-dy-m.

見る-PAST-1SG CONJ 寝る-PAST-1SG

-Ip の重複を避けるため、接続詞 de 「そして」を用いて表現することもできる。

(2c) (Men) düýn sagat 10-da öý-e gaýd-yp, biraz telewizor

(私) 昨日 10時-LOC 家-DAT 帰る-CONV 少し テレビ

gör-en-im-den soň, ýat-dy-m.

見る-PART-POSS.1SG-ABL 後で 寝る-PAST-1SG

「～した後で」(形動詞+人称接尾辞+奪格と soň(soňra)) を用いた表現。

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

(Men) düýn basgançak-dan büdrä-p⁵, ýaralan-dy-m.

(私は) 昨日 階段-ABL 転ぶ-CONV 怪我をする-PAST-1SG

(4) 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行った。

(4a) Şu gün hem kaka-m kärhan-a git-di, dogan-ym bol-sa

今日 も 父-POSS.1SG 会社-DAT 行く-PAST 兄-POSS.1SG なる-COND

uniwersitet-e git-di.

大学-DAT 行く-PAST

(4b) Şu gün hem kaka-m(-a) kärhan-a, dogan-ym bol-sa

今日 も 父-POSS.1SG(-MOD) 会社-DAT 兄-POSS.1SG なる-COND

uniwersitet-e git-di.

大学-DAT 行く-PAST

⁵ -Ip は母音の後につくとき、I が落ちる。

kaka-m(-a)の-A⁶と bolsa 「～はといえば」は主題を強調するマーカー。

- (4c) Şu gün hem kaka-m kärhan-a gid-ip, dogan-ym
 今日 も 父-POSS.1SG 会社-DAT 行く-CONV 兄-POSS.1SG
 uniwersitet-e git-di.
 大学-DAT 行く-PAST

トルクメン語においては異なる主語においても副動詞-Ip を使用することができる。
 近い言語といわれているトルコ語では不可。

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

- (5a) Ol adam şu gün telpekli ýörä-p bar-ýar-dy.
 あの 人 今日 帽子つきで 歩く-CONV 行く-PRES-PAST.COP

terpekli の-II は名詞類から名詞類を派生させる接尾辞である。ここでは terpekli が副詞的に使われている。ýörä-p のかわりに, aýlan-yp (まわる) gez-ip (散歩する) もよく用いられる。

- (5b) Ol adam şu gün telpeg-i-ni geý-ip ýöre-p
 あの 人 今日 帽子-POSS.3SG-ACC 着る-CONV 歩く-CONV
 bar-ýar-dy.
 行く-PRES-PAST.COP

(2)と同様に副動詞-Ip をもちいて表す。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています。

- (6a) Men dynç gün-ler-i hemişe kitap oka-p, telewizor
 私 休み 日-PL-POSS.3SG いつも 本 読む-CONV テレビ
 gör-ýär-in.
 見る-PRES-1SG

- (6b) Men dynç gün-ler-i-nde hemişe hem(ýa) kitap
 私 休み 日-PL-POSS.3SG-LOC いつも も (または) 本
 oka-ýar-yn, hem(ýa) telewizor gör-ýär-in.
 読む-PRES-1SG も (または) テレビ 見る-PRES-1SG

⁶ Clark(1998)は-A を appeal particle と呼んでいる。

hem... hem...は「～も～もする」という意味．必ずしも休みの日に両方の行為をしていなくともこの表現が使える．ya... ya...は「～または～をする」を用いた場合はどちらかの行為のみを行っていることを強調している．

(7) 時間がないから，急いで行こう．

(7a) Wagt-ymyz ýok. Çalt-rak gaýd-aly.
時間-POSS.1PL 無い 早く-COMP 行く-IMP.1DUAL

(7b) Wagt ýok, şonuň üçin howlug-aly.
時間 無い CONJ 急ぐ-IMP.1DUAL

(7c) Wagt ýoklug-y sebäpli howlug-aly.
時間 無さ-POSS.3SG CONJ 急ぐ-IMP.1DUAL

(7a)のように二つの単文で表現する方がより自然であるが，あえて複文で表すとすれば，(7b)や(7c)のように接続詞をもちいることもできる．(7b)の şonuň üçin 「そのため」は代名詞 şol 「それ」の属格形 şonuň と üçin 「ために」という語に分析できる．また，(7c)の sebäpli は sebäp 「理由」に-II という名詞類から名詞類を派生させる接尾辞が付いたものの，副詞的な使用である．(5a)を参照してもらいたい．

(8) 昨日は頭が痛かったので，いつもより早く寝ました．

(8a) Düýn kellä-m agyr-dy. Şonuň üçin önkü-nden ir-räk
昨日 頭-POSS.1SG 痛む-PAST CONJ 前-ABL 早い-COMP
ýat-dy-m.
寝る-PAST-POSS.1SG

(8b) Düýn kellä-m agyr-an-lyg-y üçin , hemişeki-m-den
昨日 頭-POSS.1SG 痛い-PART-III⁷-POSS.3SG POSTP いつも-POSS.1SG-ABL
ir ýat-dy-m.
早く 寝る-PAST-1SG

形動詞と後置詞 üçin を用いて原因，理由を表す従属節をつくる．üçin のかわりに sebäpli/ zerarly も用いられる．

⁷ Clark(1998: 480-482)によると，-III (ここでは母音が続いているため-lyg と有声化している)は述語について，その節が名詞的な特徴を持つことを強調する小辞である．派生接辞の-III とは異なり，屈折的要素である．節を作る必須要素ではなく，特に口語においては省略されることが多い．

(9) あの人は本を買いに行った。

Ol adam kitap satyn al-mag-a git-di.
あの 人 本 買う-VN-DAT 行く-PAST

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

Ol daşar-y gowy görn-er ýaly⁸ aýna-ny aç-dy.
彼は 外-POSS.3SG よく 見える-INDEF.FUT ように 窓-ACC 開ける-PAST

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

(11a) Bu ýer-de tomus gel-en-de ýagyş köp
この 場所-LOC 夏 来る-PAST.PART-LOC 雨 たくさん
ýag-ýar.
降る-PRES

「～すると」という条件は形動詞と位格で表される。

(11b) Tomus-da (/toms-u-na) bu ýer-e ýagyş köp ýag-ýar.
夏-LOC (夏-POSS.3SG-DAT) この 場所-DAT 雨 たくさん 降る-PRES
「夏にここには雨がたくさん降ります。」

動詞を用いない、二つ目の文の方が自然である。

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

Aýna-ny aç-an-ym-da salkyn şemal gir-di.
窓-ACC 開ける-PAST.PART-POSS.1SG-LOC 涼しい 風 入る-PAST

(13) 坂を上ると、海が見えた。

Ýapgyd-a çyk-an-ym-da deňiz görün-di.
坂-DAT 出る-PAST.PART-POSS.1SG-LOC 海 見える-PAST

⁸ 不確定未来形の-Er と共に様態をあらわす ýaly 「みたい、ようだ」を用いると「～するために」という目的を表す表現になる。ちなみに、確定未来形をもちいた-jEk ýaly は「～するようだ」という推定をあらわす。

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

Ertir ýagyş ýag-sa, men ol ýer-e git-mer-in.
明日 雨 降る-COND 私 その 場所-DAT 行く-NEG.INDEF.FUT-1SG

いわゆる仮定条件は動詞語幹+-sE で表される。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

Has ir-räk tur-an bol-sa-m
もっと 早い-COMP 起きる-PAST.PART である-COND-1SG
gowy bol-ar-dy.
よく なる-INDEF.FUT-PAST.COP

反実仮想は形動詞過去と bolsa で表される。

(16) あんなところに行かなければよかった。

Olar ýaly ýer-e git-medik⁹ bol-sa-m gowy
あれら のような 場所-DAT 行く-NEG.PAST.PART である-COND-1SG よく
bol-ar-dy.
なる-INDEF.FUT-PAST.COP

(17) 1に1を足せば、2になる。

Bir-i bir-e goş-sa-ň, iki bol-ýar.
1-ACC 1-DAT 足す-COND-2SG 2 なる-PRES

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

Wokzal-a ýet-se-ňiz (ýet-en-iňiz-de) jaň ed-äý-iň.
駅-DAT 着く-COND-2PL 着く-PART-POSS.2PL-LOC 電話 する-PS-IMP.2PL

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

Bazar gün-i hemmeleşip park-a gid-äýli.
日曜 日-POSS.3SG みんなで 公園-DAT 行く-IMP.1PL

⁹ 過去の形動詞の否定-medik/madyk は一見否定の-mE と -dIk という分析可能なように見えるが、肯定形は-En であり、トルクメン語において動詞語幹に直接付く -dIk という形は現代語において自由に使うことができないため、一つの要素として分析している。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

Eger ertir ýagyş ýag-(aý¹⁰)-sa kösen-er-in.
もし 明日 雨 降る-(PS)-COND 困る-INDEF.FUT-1SG

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

Öý-e gel-jek bol-sa-ň, jaň ed-ip gel-äý-iň.
家-DAT 来る-DEF.FUT である-COND-2SG 電話 する-CONV 来る-PS-IMP.2PL

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

Jaň kakyl-an-da maňa aýd-aý.
ベル 鳴る-PAST.PART-LOC 私に 言う-PS

発話者にベルがなる前提がある場合は形動詞過去+位格「～たとき」で表される。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

Eger jaň kakyl-sa aýd-aý.
もし ベル 鳴る-COND 言う-PS

発話者にベルがなる前提がない場合は条件の-sE を用いて表される。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

Işle-medik dişle-mez. (ことわざ)
働く-NEG.PAST.PART 噛む-NEG.INDEF.FUT
「働かない者は噛まない。」

(25) もう少しお金があったらなあ。

Ýene biraz pul-ym bol-aý-sa-dy.
また 少し お金-POSS.1SG ある-PS-COND-PAST.COP

トルクメン語において条件形と過去のコピュラを用いて現実には反する願望を表す。

¹⁰ Clark(1999:297)でムードの章で suffix of permission として取り上げられている。動詞語幹について用いられ、命令形や条件形、義務形などムードを表す接辞と共に用いられて許可、提案、主張、警告などを表すと説明されている。この接辞についての記述は十分であるとは言えない。(22), (23), (25)で使われている物も同様である。

(26) これも食べたら？

Mun-am iý-se-ň nätyä? (これも食べたらどう?)
これ-も 食べる-COND-2SG どう

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

Et-jek bol-sa-ň halaýyş-yň ýaly et.
する-DEF.FUT である-COND-2SG 好み-POSS.2SG ように する(IMP.2SG)

(28) このコップは落としても割れない。

Bu stakan-y gaçyr-sa-ň-am döwül-enok.
この コップ-ACC 落とす-COND-2SG-も 壊れる-NEG.PRES.3SG

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

Bu alma gymmat bol-sa-da, birem süýji дәл eken.
この リンゴ 高い である-COND-も ちっとも あまい でない MOD

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

Onuň¹¹ öý-ü-ne bar-yp gör-se-m, öý-ü-nde дәл
かれの 家-POSS.3SG-DAT 行く-CONV 見る-COND-1SG 家-3SG-LOC でない
(ýok) eken.
ない MOD

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

Ol adam gel-ýänçä (/gel-inçä) men şu taý-da garaş-yp
あの人 来る-CONV 来る-CONV 私 この 場所-LOC 待つ-CONV
dur-aý-yn.
いる-PS-IMP.1SG

-ýAnçA は「～まで (に)」を表す時間節をつくる。現在の形動詞-ýAn と接尾辞-çA からなる。トルクメン語では「～まで」と「～までに」を区別しない。-InçA も同じ意味である。

¹¹ onuň は 3 人称単数人称接尾辞の属格形であるが、主格が ol であり形態的に分析不可である。

(32) あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。

Ol adam gel-ýänçä (/gel-inçä) men nahar bişir-ip
 あの 人 来る-CONV 来る-CONV 私 食事 作る-CONV
 goý-ar-yn.
 置く-INDEF.FUT-1SG

略号一覧

ABL	奪格	NEG	否定
ACC	対格	PART	形動詞
COMP	比較	PAST	過去
COND	条件	PL	複数
CONJ	接続詞	POSS	所有接尾辞
CONT	進行	POSTP	後置詞
CONV	副動詞	PRES	現在
COP	コピュラ	PS	許可
DAT	与格	Q	疑問
DEF.FUT	定未来	SG	単数
DUAL	双数	VN	動名詞
IMP	命令・願望	1	1人称
INDEF.FUT	不定未来	2	2人称
LOC	位格	3	3人称
MOD	モーダル		

参考文献

- Clark Larry(1998) *Turkmen Reference Grammar*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
 Nartyýew, N., Penjiýew, M., Myradow, A. (2002) *Häzirki zaman Türkmen Dili Sintaksis. Aşgabat: Ylym*
 Söyegow, M., Borjakow, A., Sarhanow, M., Hojaýew, B., Ärnazarow, S.(eds.)(19.99) *Türkmen Diliniň Grammatikasy*. Aşgabat: Ruh

《執筆者一覧》

早津恵美子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
風間伸次郎	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
箕浦信勝	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
成田 節	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
秋廣尚恵	東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師
西澤 藍	東京外国語大学大学院博士前期課程
高垣敏博	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
坂田晴奈	フェリス女学院大学非常勤講師
大島 一	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究機関研究員, 本学非常勤講師
宮内拓也	東京外国語大学大学院博士前期課程
佐山豪太	東京外国語大学大学院博士後期課程
加藤晴子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
黒島規史	東京外国語大学大学院博士後期課程
孫 ミナ	東京外国語大学大学院博士後期課程
山田洋平	東京外国語大学大学院博士後期課程
蔡 熙鏡	東京外国語大学大学院博士後期課程
ツェジワンモ	東京外国語大学大学院博士前期課程
大西秀幸	東京外国語大学大学院博士後期課程
野元裕樹	東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師
アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー	マレーシア国民大学社会科学人文学部語学教師
萬宮健策	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
小幡千陽	東京外国語大学大学院博士前期課程
松尾 愛	東京外国語大学大学院博士前期課程
吉枝聡子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授
奥 真裕	東京外国語大学大学院博士前期課程

(掲載順)

Journal of the Institute of Language Research

No. 20

2015

Articles

A Study on Complex Causative Sentences in Japanese: On the relationship between the type of causal events expressed in the subordinate clause and that of resultative events expressed in the main clause.

..... Emiko Hayatsu 1

Special Issue : “Clause combining”

Foreword Shinjiro Kazama 15

Research Notes

On Malagasy Multi-clausal Constructions Nobukatsu Minoura 43

Data

German Takashi Narita 63

French Hisae Akihiro 77

Italian Ai Nishizawa 91

Spanish Toshihiro Takagaki 103

Finnish Haruna Sakata 111

Hungarian Hajime Oshima 133

Russian Takuya Miyauchi, Gouta Sayama 143

Chinese Haruko Kato 153

Korean Norifumi Kuroshima, Mina Son 165

Mongolian Yohei Yamada 181

Dagur Yohei Yamada 195

Nanay Shinjiro Kazama 205

Solon Shinjiro Kazama 215

Nivkh Heekyung Chae 225

Kham Tibetan Tsejiwannmo 233

Rawang Hideyuki Onishi 239

Malay Hiroki Nomoto, Aznur Aisyah Abdullah 253

Urdu and Hindi	Kensaku Mamiya	277
Tamil	Chiharu Obata	287
Arabic	Ai Matsuo	303
Persian	Satoko Yoshie	311
Turkish	Masahiro Oku	321
Turkmen	Masahiro Oku	333
Research Activities		343

Journal
of
the Institute of Language Research

20

2015

The Institute of Language Research
Tokyo University of Foreign Studies